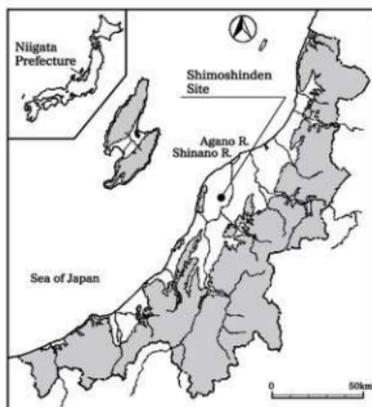


しも しん でん 下新田遺跡 第6・8・9次調査

— 県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書 —



2015

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市西蒲区道上下下新田 5244 地で実施した下新田遺跡の第 6・8・9 次発掘調査記録である。
- 2 調査は県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道土地区造成に伴い、新潟県から新潟市が受託した。調査主体は新潟市教育委員会（以下、市教委という）であるが、平成 24・25 年度は新潟市文化観光・スポーツ部文化財センターが、平成 26 年 4 月より新潟市文化スポーツ部文化財センター（以下、市文化財センターという）が補助執行した。
- 3 平成 24・25 年度に発掘調査と整理作業、平成 26 年度に整理作業、平成 27 年度に報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第 III 章に記した。
- 4 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管・管理している。
- 5 本書の作成・編集は龍田優子（市文化財センター主査）が行った。
- 6 執筆（第 VI 章を除く）は、第 IV 章第 3 節（1・4・5 区）を龍田・長澤展生（株式会社シン技術コンサル）が、第 VII 章第 2 節 B を相澤央（帝京大学）が、これ以外を龍田が行った。
- 7 第 VI 章自然科学分析については、早田勉（株式会社火山灰考古学研究所（第 1A・2・4・5 節））、千葉博俊・金井慎司・斉藤崇人・馬場健司（パリオ・サーヴェイ株式会社（第 1B・C・6 節））、黒沼保子・佐々木由香・バンドリ・スタルジャン・森将志・米田恭子（株式会社パレオ・ラボ（第 3・5・7 節））に分析・執筆を委託し、龍田が編集した。
- 8 本書で用いた写真は、本発掘調査遺構写真は龍田・潮田恵幸（市文化財センター主査）・牧野耕作（同専門臨時職員）・長澤が撮影した。確認調査写真は、澁山えりか（市歴史文化課主査）が撮影した。遺物写真は本製品（保存処理未処理分）を佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に、土器棺復原および土製品の一部を前山精明（市文化財センター副主幹）、これ以外を株式会社ハイングラフに委託し松永由佳氏が撮影した。ただし写真図版 1 は米軍（国土地理院発行）が、空中写真は株式会社イビソクが撮影したものを使用した。
- 9 遺構図のトレースは株式会社イビソク・有限会社不二出版に、遺物出土状況微細図等の測量・各種図版作成の一部は株式会社オリスに、各種図版作成の一部・編集に関しては有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 今回の調査成果については、これまでに現地説明会および平成 24 年度新潟市遺跡発掘調査速報会〔潮田 2013〕、平成 25 年度新潟市遺跡発掘調査速報会〔龍田 2014〕で公表されている。本報告書と齟齬がある場合は、本書の記載内容をもって正とする。
- 11 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。

（所属・敬称略、五十音順）

春日真実・笹澤正史・鈴木俊成・三ツ井朋子・山本 肇

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育庁文化行政課・新潟県新潟地域振興局農産振興部・西蒲原土地改良区

凡 例

- 1 本書は本文と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用した場合は、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載したが、第VI章に伴うものについては分けて明記した。
- 5 遺構番号は発掘調査現場で付したものを用了。番号は遺構の種別毎に付さず、地区ごとに通し番号とした。
- 6 土層の土色および遺物の色調観察は『新版 標準土色帖』（小山・竹原1967）を用い、色調名と番号を示した。
- 7 遺物実測図の縮尺は1/3を基本とし、これと異なる場合は各図面に明記した。
- 8 土器実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。トーンについては以下のとおりである。
土 器 …… 黒色処理  赤 彩  墨 痕  炭化物・スス  (275・276・294のみ ) 漆 
石製品 …… 磨耗部分  付着物  被熱  節理面 
- 9 土器実測図に示す「-」「一」はケズリ方向（移動した砂粒の終点を短線で区切っている）を示し、両側矢印（↔）はミガキ方向を示す。
- 10 石製品実測図に示す矢印は、断面表示箇所が磨耗範囲、遺物内表示箇所が研磨・磨耗方向を示す。
- 11 本文の事実記載（第IV・V章）や図面・写真（図版）の掲載順序は、調査地区の北側から1区→4区→5区→2区→3区→第6次調査区とした。また、遺構に関わるものについては、地区ごとに上層・中層・下層を分け上層→中層（上面・下面）→下層を基本とした。
- 12 掲載した遺物の番号は種別関係なく通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は全て同一番号とした。なお、土器と木製品の一部については、写真図版にのみ掲載した資料がある。
- 13 遺構・遺物観察表中における（ ）付きの値は、推定値を意味する。
- 14 遺物の注記は、下新田遺跡の略記号「下新田」とし出土地点や層位を続けて記した。平成24年度出土遺物は、略記号の前に「12」を、平成25年度出土遺物は略記号の前に「13」を付した。また、出土地点計測を行った遺物は、取り上げNo.と小グリッドを併記した。

目 次

第I章 序 章

第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1

第II章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	3
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3

第III章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査	7
第2節 本発掘調査	7
A 調査方法	7
B 調査経過	9
C 調査体制	10
第3節 整理作業	11
A 整理方法	11
B 整理経過	11
C 整理体制	11

第IV章 遺 跡

第1節 概 要	12
第2節 層 序	12
第3節 遺 構	14
A 遺構の概要	14
B 遺構各説	14

第V章 遺 物

第1節 概 要	35
第2節 土 器	35
A 実測図の表現と観察項目	35
B 土器の分類	36
C 遺構出土の土器	42
D 遺構外出土の土器	46
E 確認調査・工事立会出土の土器	50
第3節 土 製 品	53
第4節 鍛冶関連遺物	54
第5節 石 製 品	54

第6節 木製品	55
第7節 その他	56

第VI章 自然科学分析

第1節 下新田遺跡の土層と古植生	57
A サンプル採取地点の土層層序	57
B 分析試料	58
C 分析方法	58
D 分析結果	59
第2節 水田跡（稲作跡）の検討	62
A 分析試料	62
B 分析方法	62
C 分析結果	62
第3節 畠跡の検討1（栽培植物）	65
A 分析試料	65
B 分析方法	65
C 分析結果	65
D まとめ	69
第4節 畠跡の検討2（放射性炭素年代測定）	71
A 測定試料と測定方法	71
B 測定値の見かた	71
C 測定結果	73
第5節 樹種同定	73
A 同定試料	73
B 同定方法	73
C 同定結果	73
第6節 出土骨片の同定	75
A 試料	75
B 分析方法	75
C 結果および考察	75
第7節 レプリカ法による土器圧痕の同定	76
A はじめに	76
B 資料と方法	76
C 結果	76
D 考察	78

第VII章 総括

第1節 遺構	81
A 上層の畠跡と水田跡の年代について	81
B 土器棺墓について	81
第2節 遺物	82
A 土器の編年の位置づけ	82
B 墨書土器	86

引用・参考文献	90
別表	92
報告書抄録・奥付	巻末

挿図目次

第1図 下新田遺跡周辺地形分類図 (1/150,000)	4	第17図 畠跡の植物珪酸体分析結果	67
第2図 下新田遺跡周辺の遺跡分布図 (飛鳥・奈良・平安時代) (1/100,000)	5	第18図 花粉・胞子顕微鏡写真	70
第3図 確認調査トレンチ配置図と本発掘調査範囲	8	第19図 植物珪酸体顕微鏡写真	70
第4図 確認調査土層柱状図	8	第20図 大型植物遺体顕微鏡写真	71
第5図 奈良・平安時代の須恵器器種分類	37	第21図 放射性炭素年代測定結果	72
第6図 奈良・平安時代の土師器・黒色土器器種分類	39	第22図 樹種同定図	74
第7図 奈良・平安時代の土師器器種分類	40	第23図 出土骨	75
第8図 確認調査および工事立会出土土器の主な地点	51	第24図 圧痕レプリカ走査型電子顕微鏡写真 (1)	79
第9図 各地点の土層柱状図	57	第25図 圧痕レプリカ走査型電子顕微鏡写真 (2)・ 実体顕微鏡写真	80
第10図 主要花粉ダイアグラム	60	第26図 エリア別土器構成比率	83
第11図 花粉顕微鏡写真	60	第27図 重量による出土層位別種別比率	83
第12図 植物珪酸体の検出量	61	第28図 下新田遺跡出土土器の変遷案 (食膳具)	84
第13図 植物珪酸体顕微鏡写真	61	第29図 下新田遺跡出土土器の変遷案 (煮炊具)	85
第14図 各地点の植物珪酸体分析結果	63	第30図 下新田遺跡出土墨書土器	87
第15図 植物珪酸体顕微鏡写真	64	第31図 八幡林遺跡出土23号木簡の「日置」	87
第16図 畠跡の花粉ダイアグラム	67	第32図 下新田遺跡内の変遷案	89

表目次

第1表 下新田遺跡調査履歴	2	第10表 放射性炭素年代測定の試料と方法	72
第2表 下新田遺跡周辺の古代遺跡	6	第11表 放射性炭素年代測定	72
第3表 検出花粉一覧	59	第12表 同定樹木一覧	74
第4表 植物珪酸体一覧と含量	61	第13表 検出分類群の一覧	75
第5表 水田跡の植物珪酸体一覧	63	第14表 骨同定結果	75
第6表 分析試料一覧	65	第15表 下新田遺跡出土土器種実圧痕の同定結果	76
第7表 検出花粉一覧	66	第16表 下新田遺跡出土土器圧痕の同定結果一覧	77
第8表 試料1g当りのプラント・オパール個数	67	第17表 下新田遺跡の編年的位置づけ	83
第9表 畠跡から検出した大型植物遺体	70	第18表 下新田遺跡出土墨書土器一覧	87

別表目次

別表1 遺構計測表	92	別表4 鍛冶関連遺物観察表	108
別表2 土器観察表	98	別表5 木製品観察表	108
別表3 土製品・石製品観察表	108		

図版目次

- 図版 1 周辺の旧地形図 (1/50,000)
- 図版 2 下新田遺跡周辺の旧土地利用図 (1/7,000)
- 図版 3 下新田遺跡と周辺の遺跡 (1/20,000)
- 図版 4 道土地区は場整備事業などに伴う試掘・確認調査位置図 (1/10,000)
- 図版 5 下新田遺跡グリッド設定図 (1/3,000)
- 図版 6 1区 遺構全体図 (1/300)
- 図版 7 1・4・5区 小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/500)
- 図版 8 基本層序
- 図版 9 1区 上層遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 10 1区 上層遺構実測図 (1/50)
- 図版 11 1区 上層遺構実測図 (1/40) (1/50)
- 図版 12 1区 上層遺構実測図 (1/40)
- 図版 13 1区 中層上面遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 14 1区 中層上面遺構実測図 (1/40)
- 図版 15 1区 中層上面遺構実測図 (1/40)
- 図版 16 1区 中層上面遺構実測図 (1/40)
- 図版 17 1区 中層上面遺構実測図 (1/40)
- 図版 18 1区 中層下面遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 19 1区 中層下面遺構実測図 (1/40)
- 図版 20 1区 中層下面遺構実測図 (1/40)
- 図版 21 1区 中層下面遺構実測図 (1/40)
- 図版 22 1区 中層下面遺構実測図 (1/40) (1/50)
- 図版 23 4区 遺構全体図 (1/100)
- 図版 24 4区 遺構実測図 (1/40)
- 図版 25 5区 遺構全体図 (1/100)・遺構実測図 (1/40) (1/50)
- 図版 26 2・3区 遺構全体図 (1/300)
- 図版 27 2・3区 小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/500)
- 図版 28 2区 上層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 29 2区 中層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 30 2区 中層遺構実測図 (1/40)
- 図版 31 2区 中層遺構実測図 (1/40)
- 図版 32 2区 下層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 33 3区 上層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 34 3区 上層遺構実測図 (1/40)
- 図版 35 3区 中層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 36 3区 中層遺構実測図 (1/40)
- 図版 37 3区 下層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 38 第6次調査区 遺構全体図 (1/300)
- 図版 39 第6次調査区 小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/500)
- 図版 40 第6次調査区 上層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 41 第6次調査区 中層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 42 第6次調査区 下層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 43 第10次調査区 遺構全体図 (1/100)・遺構実測図 (1/20)・微細図 (1/10)・土器棺復原図 (1/8)
- 図版 44 1区 遺構出土土器 1
- 図版 45 1区 遺構出土土器 2
- 図版 46 1区 遺構出土土器 3
- 図版 47 4区 遺構出土土器
- 図版 48 2区 遺構出土土器 1
- 図版 49 2区 遺構出土土器 2
- 図版 50 3区 遺構出土土器
- 図版 51 第6次調査区 遺構出土土器 1
- 図版 52 第6次調査区 遺構出土土器 2
- 図版 53 1区 包含層出土土器 1
- 図版 54 1区 包含層出土土器 2
- 図版 55 1区 包含層出土土器 3
- 4区 包含層出土土器
- 5区 包含層出土土器
- 図版 56 2区 包含層出土土器 1
- 図版 57 2区 包含層出土土器 2
- 3区 包含層出土土器
- 図版 58 第6次調査区 包含層出土土器 1
- 図版 59 第6次調査区 包含層出土土器 2
- 図版 60 確認調査・工事立会時出土土器 1
- 図版 61 確認調査・工事立会時出土土器 (包含層 1) 2
- 図版 62 確認調査・工事立会時出土土器 (包含層 2) 3
- 図版 63 確認調査・工事立会時出土土器 (包含層 3) 4・
巖治岡地遺物
- 図版 64 土製品
- 図版 65 石製品 1
- 図版 66 石製品 2
- 図版 67 木製品 1
- 図版 68 木製品 2

写真図版目次

<p>写真図版 1 下新田遺跡周辺空中写真 1</p> <p>写真図版 2 下新田遺跡周辺空中写真 2 調査前風景 全景 1区 調査前風景 2・3区 調査前風景 第6次調査区 調査前風景</p> <p>写真図版 3 完掘状況</p> <p>写真図版 4 1区 中層上面 完掘状況 1区 中層下面 完掘状況</p> <p>写真図版 5 1区 SN118・SD56 土層断面・完掘 1区 SN119 土層断面 1区 SN120 土層断面 1区 SN120 周辺土層断面・完掘 1区 SN (畠跡) 土層断面 1区 SN (畠跡) ① (B-10H-6E12 ~ 20) 土層断面 1区 SN (畠跡) ② (B-10H-4B23 ~ 5C6) 土層断面 1区 SN (畠跡) ③ (B-10H-5C13 ~ 5D21) 土層断面</p> <p>写真図版 6 1区 SN (畠跡) ④ (B-10H-6D4 ~ 6E6) 土層断面 1区 SD1 土層断面 1区 SD1 土層断面・完掘 1区 SD2 土層断面・完掘 1区 SD6 土層断面・完掘 1区 SD54 土層断面・完掘 1区 SD55 土層断面 1区 SD55 完掘</p> <p>写真図版 7 1区 SK19 土層断面・完掘 1区 SK59 土層断面・完掘 1区 SK48 土層断面 A-A'・完掘 1区 SK48 土層断面 B-B' 1区 SK20・81・93 土層断面 1区 SK60・SD40 土層断面 1区 SK58 土層断面・完掘 1区 SK52・53 土層断面・完掘</p> <p>写真図版 8 1区 SK79 土層断面 1区 SK103 土層断面 1区 SD11 遺物出土状況 1区 SD11・82 土層断面・完掘 1区 SD3・4 土層断面・完掘 1区 SD10 土層断面・完掘 1区 SD9・8・7 土層断面・完掘 1区 SD21 土層断面・完掘</p> <p>写真図版 9 1区 SD16・40 土層断面 A-A'・完掘 1区 SD16 土層断面 B-B'</p>	<p>1区 SD16 完掘 1区 SD40 土層断面 B-B' 1区 SD38 土層断面・完掘 1区 SD39・110 遺物出土状況 1区 SD39・110 完掘 1区 SD42 土層断面・完掘</p> <p>写真図版 10 1区 SD43 土層断面・完掘 1区 SD63・75 土層断面・完掘 1区 SE57 土層断面 1区 SE57 完掘 1区 SE57 完掘 1区 SK49 土層断面 1区 SK49 完掘 1区 SK50 土層断面・完掘</p> <p>写真図版 11 1区 SD18 土層断面 A-A' 1区 SD18 土層断面 B-B' 1区 SD18 完掘 1区 SD15 土層断面・完掘 1区 SD24 土層断面 A-A' 1区 SD24・31 土層断面 B-B' 1区 SD28 土層断面 1区 SD28 完掘</p> <p>写真図版 12 1区 SD29 土層断面 A-A' 1区 SD29・31 土層断面 B-B' 1区 SD31・29・SK32 土層断面 C-C' 1区 SD29・33 土層断面 D-D' 1区 SD30・SK51 土層断面・完掘 1区 SD31 完掘 1区 SD33 土層断面・完掘、SK32 完掘 1区 SD35 土層断面 A-A'</p> <p>写真図版 13 1区 SD35 土層断面 B-B' 1区 SD24・29・35 完掘 1区 SD75 土層断面・完掘 1区 SD66・44 土層断面 B-B' 1区 SD66・SX65 土層断面 C-C' 1区 SX45・SD66 土層断面 D-D' 1区 SD66 土層断面 E-E' 1区 SX45・65・SD44・66 完掘</p> <p>写真図版 14 4区 中層下面 完掘状況 4区 SN35・SD5・8・9・10・SP28・29 土層断面 4区 SK4 土層断面 4区 SK4 遺物出土状況 4区 SK4 完掘 4区 SK24 土層断面・完掘 4区 SK30・SD26・SX6・SP31 土層断面・完掘</p>
---	---

	4区 SD1・2・3・5・7 土層断面		2区 SP41 土層断面・完掘
写真図版 15	4区 SD1・2・3・7 完掘		2区 SD9・28 土層断面・完掘
	4区 SD5・7・8・9 完掘		2区 SD15 土層断面・完掘
	4区 SD10 完掘		2区 SD4・15・16 完掘
	4区 下層完掘状況		2区 SP52 土層断面
	5区 完掘状況		2区 SP53 土層断面
	5区 SX1 土層断面 A-A'	写真図版 22	3区 中層完掘状況
	5区 SX1 土層断面 B-B'		3区 下層完掘状況
	5区 SX1 完掘	写真図版 23	3区 中層 (D-4J-5E21 ~ 7F2) 完掘
写真図版 16	2区 完掘状況		3区 下層 (D-4J-5E21 ~ 7F2) 完掘
	2区 (D-3I-9H18 ~ 8G13) 完掘		3区 基本層序 A
	2区 (D-3I-7F12 ~ 8F4) 完掘		3区 基本層序 B
	2区 (D-3I-6E6 ~ 7F6) 完掘		3区 基本層序 C
	2区 (D-3I-4B4 ~ 5C4) 完掘		3区 基本層序 D
写真図版 17	2区 (東側) 完掘		3区 SN45・SD46・47 土層断面
	2区 (西側) 完掘		3区 SN45・SD53・SP52 土層断面
	2区 基本層序 A	写真図版 24	3区 SN48 土層断面
	2区 基本層序 B、SP51 土層断面		3区 SP10 土層断面・完掘
	2区 SN (品跡) ① (D-3I-6D10 ~ 6E23) 土層断面		3区 SK5 遺物出土状況
	2区 SN (品跡) (D-3I-5D16) 土層断面		3区 SK5 土層断面・完掘
	2区 SD45 土層断面		3区 SK24 土層断面
	2区 SD39 土層断面		3区 SK24 完掘
写真図版 18	2区 SE25 土層断面・完掘		3区 SD7 土層断面
	2区 SK13・SP50 土層断面	写真図版 25	3区 SD7 完掘
	2区 SD1 土層断面		3区 SD15 土層断面
	2区 SD1 完掘		3区 SD15・SP13 完掘
	2区 SD3 土層断面		3区 SD18 土層断面
	2区 SD3 完掘		3区 SD18 完掘
	2区 SD4 土層断面・完掘		3区 SD21 土層断面 A-A'
	2区 SD10 土層断面・完掘		3区 SD21 土層断面 B-B'
写真図版 19	2区 SD7 土層断面		3区 SD21 完掘
	2区 SD7 完掘	写真図版 26	3区 SD33・SP44 土層断面
	2区 SD11 土層断面・完掘		3区 SP34 土層断面・完掘、SD33・SP44 完掘
	2区 SD16 土層断面・完掘		3区 SD35 土層断面・完掘
	2区 SD26 土層断面		3区 SD40 土層断面
	2区 SD26 完掘		3区 SD40 完掘
	2区 SD29 土層断面		3区 SD41 土層断面・完掘、SP13 完掘
	2区 SX2・37 土層断面		3区 SX30 土層断面
写真図版 20	2区 SX42 遺物出土状況		3区 SX30 完掘
	2区 SX42 土層断面・完掘		3区 SX39 土層断面
	2区 SX44・SP43 土層断面・完掘	写真図版 27	3区 SX39 完掘
	2区 SP18 土層断面		3区 SP55 土層断面
	2区 SP18 完掘		3区 SP56 土層断面
	2区 SP20 土層断面・完掘		3区 SP57 土層断面
	2区 SP36 土層断面		3区 SP58 土層断面
	2区 SP36 完掘		3区 SP59 土層断面
写真図版 21	2区 SP38 土層断面		3区 SK38・SP60 土層断面
	2区 SP38 完掘		3区 SP61 土層断面

写真図版 28	第 6 次調査区 完掘状況	第 6 次調査区 SD13 土層断面・完掘
	第 6 次調査区 (D-3I-9F6 ~ 10G17) 完掘	第 6 次調査区 SD14・17 土層断面・完掘
	第 6 次調査区 (D-3I-8D3 ~ 9E3) 完掘	写真図版 32 出土遺物 1 集合写真 1
	第 6 次調査区 (D-3I-7C3 ~ 8D3) 完掘	写真図版 33 出土遺物 2 集合写真 2
	第 6 次調査区 (D-3I-6B9 ~ 6C21) 完掘	写真図版 34 出土遺物 3 古代土器 1
	第 6 次調査区 (D-3I-5B22 ~ 6B15) 完掘	写真図版 35 出土遺物 4 古代土器 2
	第 6 次調査区 (D-3I-4J2 ~ 5A8) 完掘	写真図版 36 出土遺物 5 古代土器 3
	第 6 次調査区 基本層序 A	写真図版 37 出土遺物 6 古代土器 4
写真図版 29	第 6 次調査区 基本層序 B	写真図版 38 出土遺物 7 古代土器 5
	第 6 次調査区 SN (品群) ① (D-3I-6B14 ~ 6B2) 土層断面	写真図版 39 出土遺物 8 古代土器 6
	第 6 次調査区 SN (品群) ① (D-3I-6B2 ~ 6B14) 土層断面	写真図版 40 出土遺物 9 古代土器 7 土製品 1
	第 6 次調査区 SN (品群) ② (D-3I-5A8 ~ 6B2) 土層断面	写真図版 41 出土遺物 10 古代土器 8 墨書・墨痕のある土器
	第 6 次調査区 SD1 土層断面	写真図版 42 出土遺物 11 古代土器 9 刻書土器・土師器底部 1
	第 6 次調査区 SD1 完掘	写真図版 43 出土遺物 12 古代土器 10 土師器底部 2
	第 6 次調査区 SD7 土層断面	写真図版 44 出土遺物 13 古代土器 11 土師器底部 3 ほか
	第 6 次調査区 SD7 完掘	写真図版 45 出土遺物 14 古代土器 12
写真図版 30	第 6 次調査区 SD8 土層断面	写真図版 46 出土遺物 15 古代土器 13
	第 6 次調査区 SD8 完掘	写真図版 47 出土遺物 16 古代土器 14
	第 6 次調査区 SD3 土層断面	写真図版 48 出土遺物 17 古代土器 15
	第 6 次調査区 SD2 完掘	写真図版 49 出土遺物 18 古代土器 16
	第 6 次調査区 SD3 完掘	写真図版 50 出土遺物 19 古代土器 17
	第 6 次調査区 SD15・18・19・SX11 完掘	写真図版 51 出土遺物 20 古代土器 18
	第 6 次調査区 SK5 土層断面	写真図版 52 出土遺物 21 古代土器 19
	第 6 次調査区 SK5 完掘	写真図版 53 出土遺物 22 古代土器 20
写真図版 31	第 6 次調査区 SD4 土層断面	写真図版 54 出土遺物 23 古代土器 21
	第 6 次調査区 SD4 完掘	写真図版 55 出土遺物 24 鍛冶関連遺物 古代土器 22 土製品 2 石製品 1
	第 6 次調査区 SD6 土層断面	写真図版 56 出土遺物 25 石製品 2
	第 6 次調査区 SD6 遺物出土状況	写真図版 57 出土遺物 26 木製品 1
	第 6 次調査区 SD6 完掘	写真図版 58 出土遺物 27 木製品 2
	第 6 次調査区 SD9 土層断面・完掘	

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観

下新田遺跡は、新潟市西蒲区道上字下新田 5191 ほかに所在する。旧中之口村教育委員会(以後、旧村教委という)が実施した県営ほ場整備事業に伴う分布調査により平成 16 (2004) 年 3 月に発見された。遺跡は、中ノ口川左岸の河川や潟の自然堤防上の微高地に立地し、地表面の標高は 1.7 ~ 2.5m で現集落の北側がやや高く、北東に向かってわずかに傾斜して下る。分布調査で採集された土器は、8 世紀代と 9 世紀半ば~後半の 2 時期が認められ、奈良・平安時代の遺跡として登録された〔追跡中之口村誌編さん委員会 2006〕。その後、新潟市歴史文化課(市教育長)によって平成 20 年に上記事業予定地内全域を対象に確認調査が行われ、奈良・平安時代の遺物包含層と遺構検出面がそれぞれあることや、北西から南東方向に細長く広がる遺跡であることが確認された。さらに、同事業や工場売買などに伴う追加の確認調査により、上記の遺跡内容を追認するとともに遺跡範囲も徐々に拡大した。

遺跡の広がりには東西 300m、南北 1,200m あまりに及び、現況は、水田・畑・農道・宅地などである。本書で主に扱う第 6・8・9 次調査地は、遺跡の南東端に位置する。最初の本発掘調査であるこの一連の調査によって、上・中・下層に分かれている状況や、厚い洪水堆積土によって覆われた遺跡の良好な遺存状況、また市内でも数少ない奈良時代の集落跡であることが確認された。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

平成 15 年度、旧中之口村(現新潟市西蒲区)内の道上地区で 140ha (第三工区 90ha・第四工区 50ha) に及ぶ県営ほ場整備事業(経営体育成基盤整備型)の計画が旧村教委に知らされた。事業開始は平成 18 年度で、予定地内に周知の遺跡はほとんどなかったが、地下の様子が全く分からない地域であり、未発見の遺跡の存在を想定しなければならなかった。すでに旧中之口村内の 3 地区(羽黒、河間・三ツ門、小吉)では、同事業が平成 17 年度から計画されており、合計 598ha という事業面積を考えても時間的な猶予はなかった。

旧村教委は、急遽、新潟県巻農地事務所(現新潟県新潟地域振興局巻農業振興部、以下、新潟地域振興局という)や中之口土地改良区(平成 25 年に統合、現西蒲原土地改良区)および地元住民と、事業の円滑化を目的に協議を重ね、平成 16 年 3 月に道上地区 140ha の分布調査を実施した。その結果、両工区内の水田畦畔・田面を中心に奈良・平安時代の土器が大量に採集された。採集場所は、それぞれ小字名から第三工区が「仲少切遺跡」、第四工区が「下新田遺跡」として、中教委第 114 号で新潟県教育委員会教育長(以下、県教育長という)に通知し(平成 16 年 4 月 13 日付)周知化された(平成 16 年 5 月 7 日付、教文第 155 号)。当時、事業予定地全域では荒田遺跡(平成 19 年に新潟市との合併により名称を道上荒田遺跡に変更)が存在するだけであった。しかし、この分布調査で採集した 2 遺跡の土器の良好な残存状況や、旧村役場の車庫棟に保管されていた第三工区の南側に隣接する万坊江遺跡から出土したとされる古代・中世の土器などから、地表面下の浅い地点における遺跡の広がりも予想された。

その後、事業計画の見直しにより道上地区は第 1 期地区(第四工区)と第 2 期地区(第三工区)として、第 1 期地区が平成 20 年度から、第 2 期地区が平成 21 年度からの事業開始と変更された。平成 20 年度に入り、事業の進捗状況に合わせて新潟地域振興局から平成 20 年 9 月 18 日付け新振巻農第 336 号で、新潟市教育委員会教育長(以下、市教育長という)宛てに道上地区第四工区の埋蔵文化財の事前調査依頼書が提出された。そして、下新田遺跡の広がりや未知の遺跡を確認するため第四工区全域を対象として、同年 10 月から歴史文化課(市教育

長)は、確認調査を行った(第1次)。その結果、遺跡は北西から南東方向に細長く広がる事が確認されたため遺跡範囲を拡大した。

その後、新潟地域振興局と歴史文化課(以下、歴史課という)との間で事業内容や進捗状況も含めた協議が重ねられた。そして、新潟地域振興局より県教育長へ平成24年3月12日付け新振巻農第881号の2で文化財保護法第94条第1項の通知と、市教育長宛て同日付け新振巻農第880号で発掘調査依頼書が提出された。これを受けて県教育長より平成24年3月30日付け教文第1456号の2で本発掘調査指示の通知があった。歴史課(市教育長)は、平成24年度着工で新規の用水管敷設工事が計画されている部分について、遺跡の広がりや深さなどを確認するため、本発掘調査に先立ち追加の確認調査を実施した(第4次)。調査結果を受けて、歴史課(市教育長)は、県教育長へ平成24年11月2日付け新歴F第1号の8で、文化財保護法99条の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を提出し、11月5日から本発掘調査を実施した(第6次調査)。

ほぼ同時期に平成25年度着工部分について、新潟地域振興局より埋蔵文化財の事前調査依頼書が提出された(市教育長宛て、平成24年11月19日付け新振巻農第558号)。歴史課(市教育長)は、農道および用排水管敷設工事が計画されている工事予定地内を対象に、遺跡の広がりや深さなどを確認するため追加の調査を実施した(第7次)。翌2月25日付けで新潟地域振興局より県教委へ新振巻農第825号の2で文化財保護法第94条第12項の通知と、3月5日付けで市教育長へ発掘調査依頼書が提出され、県教委から平成25年3月25日付け教文第1408号で本発掘調査指示の通知があった。歴史課(市教育長)は平成25年7月30日付け新歴F第39号で県教育長宛てに文化財保護法99条の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を提出し、8月6日から本発掘調査を実施した(第8次、1~3区)。

その後、調査中に1区隣接地で平成26年度着工の同事業に伴う用排水管敷設および農道建設工事が明らかとなった。新潟地域振興局と歴史課および文化財センターとで協議し、施工規模と調査の状況などから一連の本発掘調査として実施することが望ましいという結論に達した。そこで、新潟地域振興局より県教育長へ平成25年10月8日付け新振巻農第481号の2で文化財保護法第94条第1項の通知と、市教育長宛てに新振巻農第679号で発掘調査依頼書が提出された。歴史課(市教育長)は、平成25年11月11日付け新歴B第143号で県教育長宛てに文化財保護法99条の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を提出し、本発掘調査を実施した(第9次、4・5区)。さらに、本発掘調査終了後の工事立会中に完形の土師器長巻2個体が、合わせ口の土師棺状態で土坑から検出され、その広がりなどを確認するため急遽約40m²の確認調査を実施した(第10次)。

第1表 下新田遺跡調査履歴

通関 調査 回数	発掘調査 実施年度	調査年次	調査種別	調査原因	調査 主体	担当	調査面積 (㎡)は 対象面積	文献	備考
		H16年(2004) 3.17~3.26	分布調査	道上新地区 ほ場整備事業	中之口村	中之口村教育委員会 金子 徹子	(140ha)	『沼津中之口村誌 編さん委員会 2006』	下新田遺跡を新登録
1	1	H20年(2008) 10.1~11.4	確認調査	道上新地区 ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 今月さやか	357㎡		遺跡範囲拡大
2		H22年(2010) 12.14~12.20	試掘調査	工場南側	新潟市	新潟市教育委員会 立木 正明	330㎡		
3		H24年(2012) 6.20	確認調査	個人住宅建設	新潟市	新潟市教育委員会	4㎡		
4	2	H24年(2012) 6.26	確認調査	道上新地区 ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊ますみ	25.2㎡		
5		H24年(2012) 8.10	確認調査	個人住宅建設	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊ますみ	4.6㎡		
6	3	H24年(2012) 11.5~12.14	本発掘調査	道上新地区 ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 瀬田直幸	348㎡	[本書]	上層から黒漆が確認され、下層からは残存 状態の良い奈良奈良時代の土器が多数出土した。
7	4	H24年(2012) 11.20~11.22	確認調査	道上新地区 ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊ますみ	47.6㎡		
8	5	H25年(2013) 8.6~12.18	本発掘調査	道上新地区 ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 堀田優子	1,875㎡	[本書]	1・2・3区 上層から水田跡・黒漆が確認され、中・下 層からは奈良・平安時代の土器が多数出土した。
9	6	H25年(2013) 11.11~12.11	本発掘調査	道上新地区 ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 堀田優子	120㎡	[本書]	4・5区 浅い土坑から土師器無自輪が検出されたよう な状態で出土した。
10	7	H26年(2014) 2.27~3.8	確認調査	道上新地区 ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 鎌山えりか	40㎡		完形の土師器長巻2個体が合わせ口の土師 棺状態で土坑から出土した。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境 (第1図、図版2)

新潟市の地形は、南東側に新津丘陵、南西側には弥彦・角田山塊に分かれる。そして、市域の大半が信濃川と阿賀野川をはじめとする諸河川から供給された土砂の堆積により形成された広大な越後平野の主要部を占める。この越後平野は、大規模な海岸砂丘と砂丘間低地、氾濫原と自然堤防で構成される。海岸地帯の砂丘列は沖積世以降に形成されたものであり、形成された時代から内陸より新砂丘Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに大別され、さらにそれぞれ4列・4列・2列に細分されている[新潟古砂丘グループ1974]。また、砂丘列と自然堤防に囲まれるように後背湿地が広く分布している。後背湿地は、水はげが悪く湿地や潟湖の状態であったと考えられ、砂丘列の内陸部に広がる低湿地帯には多くの潟湖が形成されたが、現在では干拓や河川の整備により消滅したものも多い。

下新田遺跡の所在する新潟市西蒲区道上地区は、越後平野のほぼ中央部に位置し、遺跡は信濃川の支流である中ノ口川左岸の自然堤防上に立地している。遺跡周辺の景観は、昭和30年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものである。現在は一帯が水田として利用されているが、耕地整理以前の地図を見ると、かつては現集落東側に広範囲に広がる微高地があり、畑として利用されていたことが分かる。また、微高地周辺は水田として、それら水田の中にわずかな畑が点在している状況も窺える(図版2)。今回調査を行った下新田遺跡は、現在の道上集落の北側に隣接し、東へ約3kmには中ノ口川があり本流である信濃川はそのさらに東へ約5kmにある。また、北西約3kmには潟湖である鏡潟がかつて存在した(1960年代の干拓工事により現在は消滅)。標高は約1.7～2.5mを測り、現集落の北側が高く北東に向かってわずかに傾斜しながら下っている。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境 (第2図)

新潟市で周知化されている遺跡の数は724か所である(平成26年3月現在)。そのうち、下新田遺跡の所在する西蒲区の古代(飛鳥～平安時代)に限定すると88か所になる。越後平野の遺跡立地は、沖積地に形成された自然堤防上が最も多く下新田遺跡もここに含まれる。これ以外では角田山東麓の丘陵上・砂丘で確認できる。遺跡立地の変遷は、旧石器・縄文・弥生時代は角田・弥彦山麓に集中し、古墳時代にはその縁辺部や平野部微高地、奈良・平安時代になると多くが平野部微高地上に認められるようになる。古代の遺跡数は、平安時代に盛んに行われた沖積地の水田開発によって激増するものの、現集落とは一致せず現在の水田部分に点在している。越後平野の地盤沈降による旧地表面の沈下が原因と考えられ、水田の地中深くから発見される遺跡も多い。そのひとつである下新田遺跡は、発見当時から奈良・平安時代を主体とする古代の遺跡として周知されている。

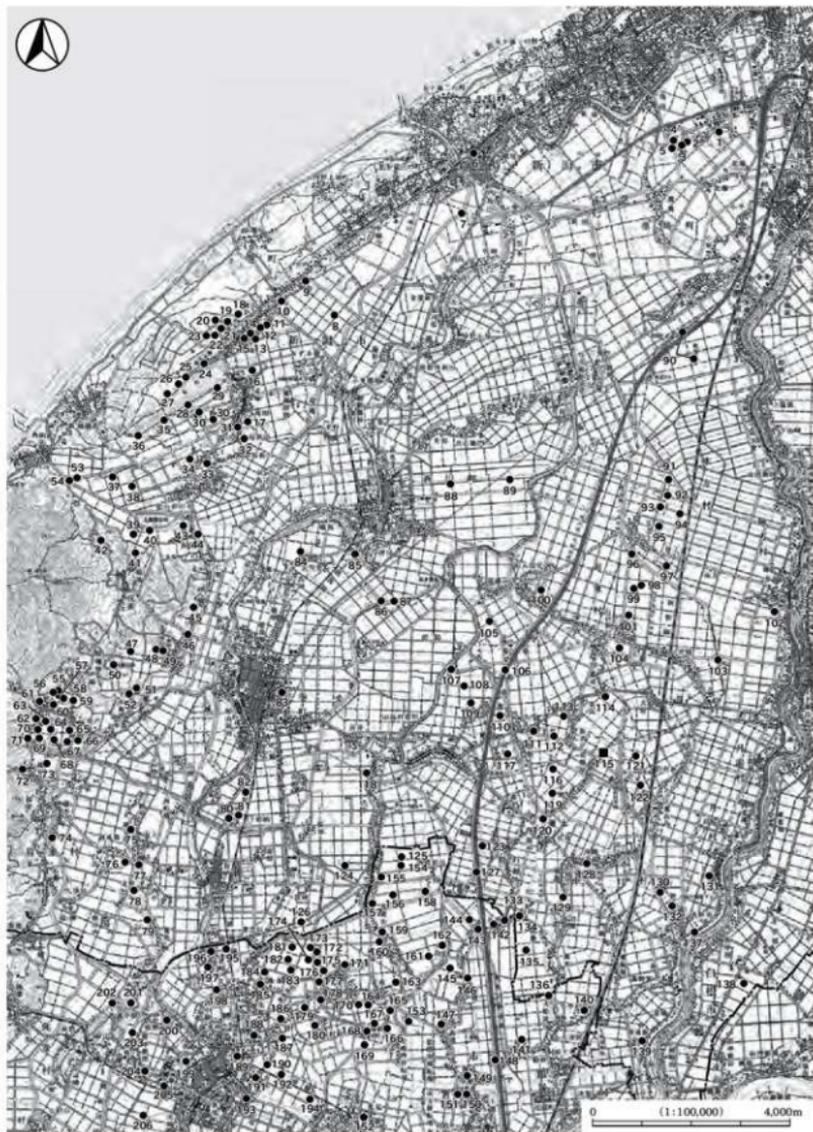
下新田遺跡のある西蒲区は、古代の行政区分としては蒲原郡に属していた。その郡域は概ね三条市以北で阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝時代に蒲原郡の郡域が旧沼垂部を含む領域に拡大するまでは大幅な変更はないと思われる。また、7世紀段階には旧越中国の淳足櫛に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したと見られる。10世紀に成立した『和名類聚抄』によれば、蒲原郡内には「日置・櫻井・勇礼・青海・小伏」の5郷が存在している。これらの所在については諸説あり、今回の調査で出土した「日置」の墨書土器が、郷名を記しているとするればこの地域が「日置郷」であった可能性も考えられる(第Ⅶ章参照)ものの、下新田遺跡がどの郷に含まれていたか明瞭でない。

ここでは、第2図に示した周辺の古代遺跡をもとに縄文時代からの遺跡分布について古代を中心に概観する。



第1図 下新田遺跡周辺地形分類図

旧石器・縄文・弥生時代は、図示していないが角田・弥彦山麓を中心に砂丘列に沿って分布する。確認例が極端に少ない沖積地が集落として大規模に利用されたとは考え難い状況である。また、中ノ口川左岸沿いの味方排水機場遺跡は、排水機場建設工事の際に縄文土器が地下約19m地点から出土したとされ〔味方村誌編集委員会2000〕、越後平野の地盤沈降を示している。



第2図 下新田遺跡周辺の遺跡分布図（飛鳥・奈良・平安時代）

第2表 下新田遺跡周辺の古代遺跡

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	竹田	27	百	54	五石	79	藤原	105	西ノ野	131	日輪山	157	河内A	183	石
2	結立C	28	北流跡A	54	定門	80	古井神社跡	106	窪下	132	滝田	158	西風	184	西ノ塚
3	結立A	29	北流跡B	55	カサガサ	81	おおやきま原跡	107	沼原	133	瓦舟大塚	159	御野原跡	185	御野原大塚
4	結立B跡跡跡	30	南流跡	56	坂本	82	ハヤシバ	108	湯山土田	134	沼田高	160	新田	186	新田
5	結立跡	31	大塚	57	大塚跡	83	新道	109	池邊跡	135	徳島	161	河上	187	河上
6	藤原	32	山田跡	58	ヤチ	84	草上	110	草野	136	草野田	162	草野田	188	草野田
7	六石山	33	下野	59	神岡土田	85	神岡	111	林付	137	水ノ下	163	徳富	189	下野
8	四ノ石	34	代官跡	60	善徳西	86	女ノきき堀	112	沼田	138	御野原跡	164	小瀬原跡	190	御野原
9	夜夜跡	35	跡跡	61	舟山神社跡	87	大島跡	113	湯A	139	湯原跡	165	山田	191	山田
10	本山	36	湯水土	62	御野原A	88	草子	114	山田	140	湯田	166	湯田	192	神守
11	ヤノ平山	37	イノ平山	63	草野土田	89	草野	115	下野田	141	湯田之本	167	湯田山田	193	御野原
12	茶院	38	野跡	64	塚跡	90	新道跡	116	湯上土田	142	湯田	168	湯田	194	湯田
13	前田	39	上流跡A	65	下野	91	五ノ上曾根土	117	堀	143	沼田	169	湯田	195	本町カサガサ
14	飛鳥遺跡	40	上流跡B	66	草野上田	92	権方曾根下	118	高瀬	144	湯田川東	170	高立	196	山田
15	塚跡	41	赤石	67	クワケ跡	93	ブギヤ	119	神守空	145	上野	171	上野	197	赤石跡跡跡A
16	大塚	42	大塚	68	塚跡	94	赤石土門	120	沼田	146	湯田	172	沼田	198	草野田
17	塚田	43	タテ	69	平田	95	上野	121	高瀬	147	高瀬	173	赤石大塚	199	御野原
18	ツル子C	44	カサガサ	70	七石山	96	神岡	122	六石田	148	ヤノ原跡	174	山田	200	平野
19	ツル子B	45	前平野須恵器跡跡	71	新田	97	沼田	123	高六	149	舟山跡跡	175	沼田	201	沼田
20	敷瓦地	46	下田	72	藤田今山	98	上野	124	地蔵跡	150	沼田	176	沼田	202	塚跡
21	ツル子A	47	塚跡	73	塚跡	99	八ノ平下	125	高立	151	神岡	177	沼田	203	塚跡跡
22	赤石跡跡跡	48	藤土	74	塚跡	100	二向原跡	126	高瀬山田	152	高立	178	赤石大塚	204	カサガサ
23	瓦舟跡	49	高瀬塚古墳跡跡	75	古井遺跡	101	塚田	127	新田	153	沼田	179	新田	205	塚跡
24	飛鳥山	50	神岡山	76	瓦舟大塚	102	権方本跡	128	瓦舟寺	154	高瀬	180	新田	206	塚跡
25	上野内B	51	上野C	77	新田	103	千田	129	上野	155	湯田	181	七嶋	207	沼田
26	上野内A	52	新田須恵器跡跡跡跡	78	大塚	104	沼田	130	沼田	156	沼田	182	沼田	208	沼田

古墳時代も遺跡分布は弥生時代を踏襲したあり方を示す。角田山麓に位置する御野原B遺跡では古墳時代後期で集落が途絶える状況が推測されている（前山・相田 2004）が、沖積地における6世紀の遺跡が確認されていないため状況は不明瞭である。しかし、大島橋遺跡（87）・秋葉区の大沢谷内遺跡（細野・伊比 2012）・田上町行風崎遺跡（田畑 2015）などで7世紀の遺物が定量出土しており、この時期に集落が沖積地にも出現し始めた状況が窺える。

飛鳥～平安時代は、丘陵裾部には製鉄遺跡や須恵器窯跡などの生産遺跡が集中するようになり、角田山東麓には前平野須恵器窯跡（45）・重輪須恵器窯跡（52）がある。遺跡で立地分けると、集落遺跡の多くは平野部に分布するようになるが、平成25年度に調査された峰岡上町遺跡（59）のように丘陵上にも集落跡が存在している。また、周辺の内陸砂丘地にも前時代を踏襲するように立地する。下稲場遺跡（33）は、未調査ではあるが膨大な量の遺物が採集されており（花積・平沢 1984、山口 1994）拠点的な集落遺跡と考える。同じ砂丘上に立地するの場遺跡（1）・結立C遺跡（2）は官衙関連遺跡とされ、四石遺跡（8）のように埋没した砂丘上に立地する遺跡もある。いずれも内水面を利用した古代の様子が窺える遺跡である。

信濃川以西の沖積地では大島橋遺跡（87）が最も古く、鎧冨干拓に伴う飛落川の付け替え工事の際に、地表下約0.6m（包蔵地カードより）で須恵器・土師器が、その下約1.3mで土師器だけが出土したとされ（山口 1984）、7世紀の飛鳥時代の集落遺跡と考えられる。奈良時代になると沖積地の遺跡は増加し、その初め頃に下新田遺跡のほか、茶院A遺跡（127）（平成20年に「茶院遺跡」から名称を変更）・浦田遺跡（85）・燕市三角田遺跡（153）が出現し、早い段階からの低地利用が窺える。次いで仲歩切遺跡（119）・古辻遺跡（125）（遺跡範囲がまたがる燕市では助次郎遺跡として周知化されている）、さらに平安時代になると沖積地の遺跡数は急増し、釈迦堂遺跡（90）・五ノ上曾根上遺跡（91）・味方曾根下遺跡（92）・林付遺跡（111）などが存在する。

北約9kmの釈迦堂遺跡では火葬が行われた痕跡が確認され、出土遺物などからも有力者の存在が推測されている（江口 2000）。県内における古代の数少ない埋葬事例である。また、北西約1.5kmに位置する林付遺跡では、「川合（川井）」や「館」と記された墨書土器や2面甕をもつ大形の掘立柱建物も確認され、石帯や権杖錘などから荘所関連施設の可能性が指摘されている（相田 2012）。北約5.7kmの五ノ上曾根上遺跡（91）は、概ね9世紀代に比定される土師器・須恵器を主体に灰釉陶器、奈良時代の土師器や円筒形土製品などが採集されており、未調査ではあるが拠点的な集落と推定されている（関 2000）。また、周辺にある同時期の樋切遺跡（96）・土手内遺跡（95）も含め、中心的な集落の可能性や、その地下にはさらに古い時代の遺物が存在する可能性も指摘された（関 前掲）。このように本遺跡を含む周辺地域は、発掘調査があまり行われておらず不明瞭な部分も多い。しかし、前述したように越後平野の地盤沈降で、未発見の遺跡が地中深くに存在する可能性は高いと考える。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査

道上地区ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査は、平成20年度に事業全区域(140ha)を対象に行っている(図版4)。その後、事業の実施設計に合わせて平成24年度に2か所、平成25年度にも追加の確認調査を実施した。平成20年度に357m²、平成24年度に72.8m²、平成25年度に40m²の現状で469.8m²を行っている。調査はバックホウで表土から徐々に掘削した後、人力により精査を行い、遺構・遺物の有無と土層堆積状況を記録した。トレンチの大きさは、概ね1.5～2.0×2.0～3.0mである。

今回の本発掘調査地点は、平成20・24年度に確認調査を実施している。平成24年度本調査地区(第6次調査区)の現況は水田である。事前の追加調査(第2次)によって現地表面(GL)から0.6～1.2mで黒褐色粘土層の奈良時代遺物包含層が確認され、6Tからは土器片が45点出土している。1・3区の現況は農道および水田、2区の現況は水田である。前年の追加調査(第4次)によって現地表面(GL)から1区では0.7～1.3m、2区では0.8～1.0m、3区では1.2～1.3mで黒褐色粘土層の遺物包含層0.1～0.3mが、さらに連続して暗灰色粘質土層の遺物包含層0.04～0.4mが確認されている。この上下の遺物包含層は全てのトレンチで確認され(第4図)、2時期の生活層の可能性が指摘された。1区では全てのトレンチで遺構が検出され、2区6Tでは土製支脚、8Tでは手づくね土器2点を含む143点の土器片が出土し、現集落側に向かって遺構・遺物の密度が高い状況であった(第3図)。以上の結果から、遺跡範囲内で保護層が確保されない部分について記録保存のための本発掘調査を実施し、それ以外の部分については工事立会をすることとなった。なお、本発掘調査対象外であるが、平成20年度調査の116Tでは現地表面(GL)から約0.42mで土坑が検出され、9世紀後半の土器がまとも出土している(図版6)。

第2節 本発掘調査

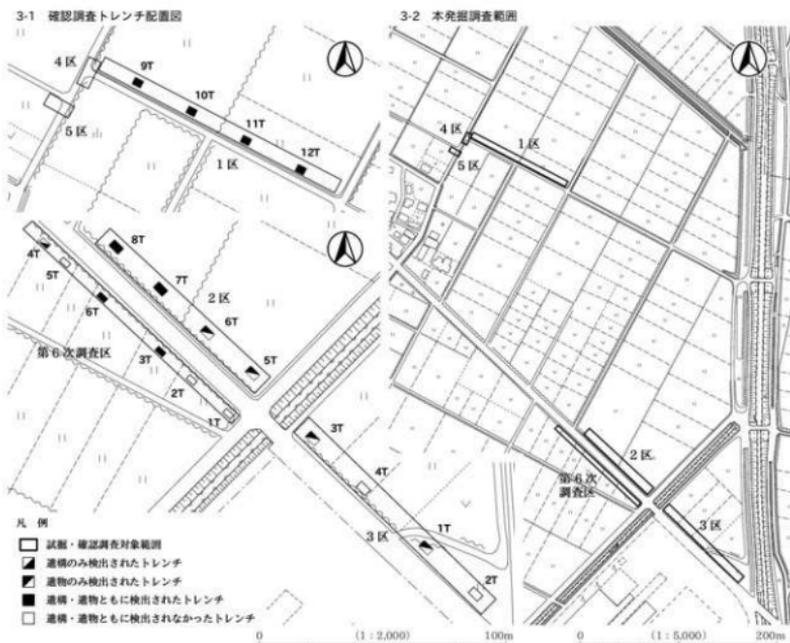
A 調査方法

1) グリッドの設定(図版5)

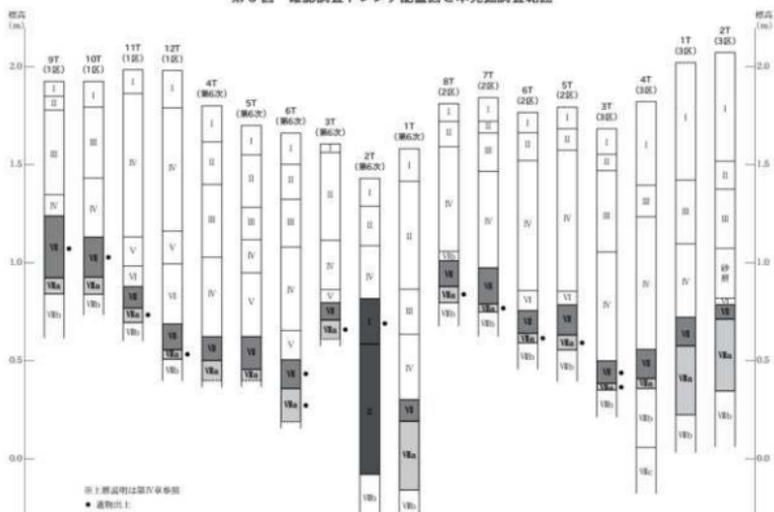
グリッドは、平成24年度の第6次調査の際に設定したが、翌年の本発掘調査地点が原点よりも北側に及ぶことから、調査成果の整合性が保たれるよう、道上地区ほ場整備事業用地内を網羅するように原点を移動した。この際、第6次調査で使用したグリッドとの重複を避けるため、1000m方眼をA・B・C…区として各区ごとに100m方眼の大大グリッドおよび10m方眼の大グリッドを組んだ。新しい原点はX座標194900.000m・Y座標39500.000m(世界測地系2011, 平面直角座標系第Ⅶ系)、緯度37°45'20"04626・経度138°56'53"80738とした。大グリッドの名称は、北西隅(原点)を「1A・1A」杭として南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表した。大大グリッドは大グリッドの前に表記し、大グリッドをさらに2m方眼で区切つて25分割する小グリッドを設定し「D-31-8D15」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。本書で扱う本発掘調査区全体のほぼ中央D-21-5C1杭(X座標193760.000m、Y座標41320.000m)で、南北方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度17分13秒東偏し、磁北は真北に対して7度51分西偏する。

なお、発掘調査区6点北西隅の座標は次のとおりである。

第6次調査区 D3H311 (X座標193680.000m・Y座標41280.000m、緯度37°44'40"1903
経度138°58'06"2792)



第3図 確認調査トレンチ配置図と本発掘調査範囲



第4図 確認調査土層柱状図

- 1区 B10H4A1 (X座標 193970.000m・Y座標 41200.000m、緯度 37° 44' 49" 6100
経度 138° 58' 03" 0705)
- 2区 D3I5D19 (X座標 193654.000m・Y座標 41336.000m、緯度 37° 44' 39" 3378
経度 138° 58' 08" 5614)
- 3区 D4J2A1 (X座標 193590.000m・Y座標 41400.000m、緯度 37° 44' 37" 2514
経度 138° 58' 11" 1626)
- 4区 B10G4J2 (X座標 193970.000m・Y座標 41192.000m、緯度 37° 44' 49" 6113
経度 138° 58' 02" 7437)
- 5区 B10G5H10 (X座標 193958.000m・Y座標 41178.000m、緯度 37° 44' 49" 2243
経度 138° 58' 02" 1693)

2) 調査方法

① 表土剥ぎ 確認調査結果から遺物包含層(Ⅷ層)までの深さが平均して1mを超えていたため、安全のため壁面に勾配や段を付け、遺物の出土に注意しながら重機(バックホウ)により除去した。また、Ⅷ層からの遺物出土は少ないと予想されたため、場所によっては下の包含層(Ⅷa層)上面まで重機による掘削を数cmの厚さに切り替え掘り下げていった。工事の掘削幅が約3mと狭く旧地表面まで安全勾配の傾斜をつけると、旧地表面の上面でも幅が1mに満たない部分が多くあった。また、洪水防止のために表土剥ぎと並行して調査区の周囲および調査区内に土側溝を掘り、2時のポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅20cm、深さ20cm程度の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるため緩く傾斜をつけたV字の溝である。土側溝による遺構の破壊が考えられたが、洪水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘 重機で掘削後、人力で行った。包含層は連続した2層(Ⅷ・Ⅷa層)であるが、場所によって厚さが大きく異なり平面的には非常に区別がつきにくい状況であった。遺構の発掘は、半裁して覆土の観察・記録後に完掘を行ったが、細長い調査区を分断する溝状遺構や壁面にかかる遺構が多く、覆土の観察・記録と完掘とが同時になる場合も多かった。なお、排土は人力で調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真 調査に係る実測・測量は全て測量業者に委託した。断面実測は手取りと写真測量を併用し、平面実測はトータルステーションを用いて作成した。遺構断面・平面の写真撮影は、デジタル・35mm版・6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを調査員が適宜選択しながら行った。遺構の全体(俯瞰)写真撮影は、測量業者がラジコンヘリコプターにより行った。

④ 遺物取り上げ 包含層出土遺物は、小グリッド単位あるいはトータルステーションによる地点測量で取り上げた。遺構出土遺物については、分かる範囲で層位・小グリッド単位で取り上げた。

⑤ 自然科学分析 古環境復元や栽培植物の解明のために植物珪酸体・プラントオパール・花粉・樹種・種実の各分析を行い、遺跡の下限や遺構の年代推定の参考とするために放射性炭素年代測定を実施した。分析は専門業者に委託した。

B 調査経過

1) 第6次調査の経過

平成24年11月5日から諸準備を開始した。調査区の幅が3mと狭く旧地表面までが深いことに加え、地域の主要道路である県道脇であることから、全長約120mを5分割して調査を実施した。表土剥ぎおよび埋め戻しもその都度行った。13日から最初の区画である東端約20mについて重機による表土掘削を開始した。それと並行して土側溝掘削、法面仕上げを行った。雨が降るとたちまち調査区が水没してしまう状況にあり、排水作業をしながらの包含層掘削・遺構精査・掘削であった。県道側の壁面には合板敷かずつを当て単管を打ち込みながら調査を進めた。19日から次の区画、26日からは3区画目の調査に移行した。遺物包含層が2面確認され

たが、平面では上層（後に、これより上層で畠跡が確認され中層へ変更になる）の遺構確認面が不明瞭であり、基本的に下層の遺構確認面（Ⅱb層）まで下げて遺構精査を行った。また、並行して行っていた壁面の記録中に畠の畝の高まりが20条以上確認された。これまで上層と捉えていた層よりも上の層位であり、遺物の出土もなかったため遺構の時期は不明とせざるを得なかった。12月3日から4区画目、4日からは最後の区画の調査に移行した。12月5日には全ての壁面の層序記録を行い調査が終了し、6日に機材等を撤収した。

2) 第8次調査（1・2・3区）の経過

平成25年7月29日から諸準備を開始し、調査員2名体制で8月6日から1区の調査に入る。重機による表土掘削と並行して土割溝掘削、法面仕上げを行った。8日から測量業者による杭打ちが行われ、22日に表土掘削を終了すると、26日からは1区と3区に分かれて調査を行った。1区は包含層掘削・遺構精査、3区は重機による表土掘削を開始した。さらに9月24日からは調査員3名体制で2区の表土掘削を開始し、3地区同時に調査を実施した。徐々に人員を増やしながら調査を進めたが、調査区は幅が狭く湧水による足場も悪いため、多くの人員を投入する事が出来ず、調査は思うように進まなかった。壁面の層序記録中、第6次調査に続き1・2区で畠の畝状遺構が、また1・3区では水田の大畦畔が壁面で確認された。また、1区中層の遺構密度は高く、上・下面で遺構が検出されるという状況が確認できた。3区の表土掘削中に、北西から約25m部分で砂層に溜まった地下水が噴き出し、遺構確認面や壁面を崩落させた。急遽、広い範囲の土留めを行い崩落を止め調査を続けた。10月2日には旧農道・水路で後世の擾乱が予想された3区南東端約18m分について、重機による表土掘削を開始した。予想通り地表面下約1.2mまで削られて盛土されていたため、崩れやすく重機による掘削はより慎重に行った。しかし、壁面の崩落が著しく、安全のために十分な記録を取ることができないまま埋戻すことにした。

3区は、中層調査終了の8日、下層調査終了の11月6日に高所作業車による撮影を行った。1区は、中層上面の遺構調査がほぼ終了した10月19日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。その後、1区中層下面、2区中層の遺構調査がほぼ終了した11月1日にはラジコンヘリコプターによる2回目の空中写真撮影を行った。23日には地元住民への現地説明会を行い40名の参加があった。その後2区下層調査を12月18日に終了し、27日までに機材等を撤収した。

3) 第9次調査（4・5区）の経過

9月17日に追加調査の必要性が生じたため、1区調査終了後の11月11日から4区の調査を開始する。表土掘削と並行して土割溝掘削、法面仕上げを行い、隣接する1区から延びる水田の大畦畔を上層で確認した。続いて包含層掘削・遺構精査を行ったが、悪天候のため調査区が度々水没した。また、遺構・遺物の密度も高く、調査は遅々として進まなかった。そこで、調査期間短縮のために21日からは5区の表土掘削を開始し、4区と並行して調査を行った。4区に比べて5区は上層の遺構も不明瞭で中・下層遺構も希薄、出土遺物も少なかった。4区が10日に、5区が11日に調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、第6次調査区上端面積：348.00m²、下端面積：151.00m²、1区上端面積：559.26m²、下端面積：153.60m²、2区上端面積：354.31m²、下端面積：121.92m²、3区上端面積：377.80m²、下端面積：98.63m²、4区上端面積：70.20m²、下端面積：23.94m²、5区上端面積：50.17m²、下端面積：12.02m²である。合計面積は上端面積：1,759.74m²、下端面積：561.11m²である。ただし、各調査区で中・下層と随時遺構確認面を掘り下げながら調査を行ったため、抄録に記載した発掘調査面積とは異なる。

C 調査体制

【平成24年度：第6次調査】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山憲幸 主任 渡邊朋和）
調査担当	潮田憲幸（新潟市文化財センター 主査）

【平成25年度：第8・9次調査】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）		
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 中野俊一	所長補佐 丸山憲幸	主任 遠藤恭雄）
調査担当	龍田優子（新潟市文化財センター 主査）		
調査員	牧野耕作（新潟市文化財センター 嘱託）	長澤展生（株式会社シン技術コンサル）	

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

第6次調査でコンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）8箱、第8・9次調査で93箱の遺物が出土している。土器が中心であり、他に土製品・石製品・鍛冶関連遺物・木製品などが出土している。

遺物の整理作業は、①洗浄→②注記→③グリッド別、種別の重量計測→④接合→⑤報告書掲載遺物の抽出→⑥実測図・観察表作成→⑦トレース図作成→⑧仮割付作成→⑨写真撮影→⑩版下作成の順を基本とし作業を行った。このうち⑦と⑩は業者に委託してデジタル編集を行い、⑨も業者に委託した。

2) 遺構

現場の測量図はすべて測量業者作成のものであり、トータルステーションで測量した遺構平面図および壁面図は1/20で出力したものを校正した。手取りの断面図についてはデジタル化して出力したものを校正した。また、平面図・断面図の整合については、それぞれ確認した図面等を用いて作業を行い、原図と校正図データを残した。現場で撮影した記録写真は、フィルム写真はフィルムの現像・ベタ焼き（ネガフィルムのみ）を行いアルバムに収め、デジタル写真は撮影日ごとに整理した。フィルム写真は画像ごとに露出が適正なコマをデジタル化した。

B 整理経過

出土物の洗浄・注記・計測作業は発掘調査と並行して行い、現場でほぼ終了した。その後の作業は、平成25年度の調査終了後に行ったが、現地説明会等のために現場で接合までの作業を行ったものもある。また、測量業者に委託した遺構実測図等の測量図は、平面図・断面図の整合の後に掲載遺物の抽出を行い、図面図版・写真図版のレイアウトを行った。平成26年度に全体編集等を行い、平成27年度に報告書を刊行した。

C 整理体制

【平成25年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）		
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 中野俊一	所長補佐 丸山憲幸	主任 遠藤恭雄）
整理担当	龍田優子（新潟市文化財センター 主査）		
調査員	牧野耕作（新潟市文化財センター 嘱託）	長澤展生（株式会社シン技術コンサル）	

【平成26年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）		
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 中野俊一	所長補佐 福地康郎	主任 遠藤恭雄）
整理担当	龍田優子（新潟市文化財センター 主査）		

第四章 遺 跡

第1節 概 要

下新田遺跡は中ノ口川左岸の自然堤防上の微高地に立地する。今回の調査地は、北西から南東方向に細長くのびる遺跡の中央部～南東側に当たる。現地表面の標高は1.7～2.5mで現集落北端部分がやや高く、北東に向かって緩やかに下っていく。現地表面から遺構確認面(中・下層)までの深さは、北西側が浅く南東側では深くなり遺構確認面(下層)の標高は、0.3～1.4mを測り、北西から南東に向かい下っている。本発掘調査地は用排水管敷設および農道建設に伴う路線調査であり調査地区が複数に分かれていたため、平成25年度調査(第8・9次調査)分については便宜上1～5区と呼称し、平成24年度調査区は本遺跡の通算発掘調査回数から第6次調査区とした。

遺物包含層は連続した上下の2層であり、遺構はそれぞれの下面と上層包含層の上面で検出される。上層の遺構は水田跡(畦状遺構)や畝跡(畝状遺構)などであり、主に壁面の土層堆積で確認した。また、中・下層では井戸・土坑・溝状遺構・小土坑・性格不明遺構などが確認された。出土遺物などの状況から古代に属する。なお、全ての調査区域が細長く狭小なため遺構全体を調査できず、一部分の調査に限られているものが多い。さらに調査地区が分かれて広範囲に及ぶため、ひとつの遺跡として記載するよう努めたが、統一した表記にはならず、逆に煩雑になってしまった場合もある。

出土遺物は、第6次調査でコンテナ(内寸54.5×33.6×10.0cm)8箱、第8・9次調査で93箱である。各調査区で異なるが、奈良(8世紀前半)・平安時代(9世紀後半)の土器が主体で、中世土師器・土製品・鍛冶関連遺物・石製品・木製品も認められる。

第2節 層 序 (図版8、写真図版17・23・28・29)

基本層序を図版8に示す。基盤層まで大きく8層に分けられる。過去の調査結果を参考に分層したがabc…などの細分は独自に設定し、細々分した場合はその根拠を記し、その多寡を「>」の記号で示した。各調査区で上・中・下層に分かれ、1・4区では、水田・畝跡が確認できるⅦ層にその他の遺構も多く検出されたため、2・3・第6次調査区とは異なり中層のⅦc層を上・下面に分けて記載した。なお、各調査区の層序対応関係も以下に示した。

包含層はⅦ層とⅧa層である。Ⅶ層からは奈良・平安時代の遺物、Ⅷa層からは主に奈良時代の遺物が出土している。Ⅷa層は場所によってごく薄い堆積のためⅦ層にみられる遺物には下層から表出した遺物が含まれている。遺構確認面はⅦ層上・下面とⅧa層上面とⅧb層上面である。Ⅶ層はⅧa層上面で水田・畝跡の上部が確認できるものの、実際にはⅧa層上面まで削り込んだところで遺構の検出作業を行っているため、細長い調査区の両壁面で遺構の掘り込みや土層の堆積を確認している。Ⅷa～b層上・下面で検出される遺構(以下、上層遺構という)は平安時代、Ⅶc2・Ⅶc3・Ⅷa層上面で検出される遺構(以下、中層遺構という。なお1・4区の検出面は、Ⅶc2層を中層上面、Ⅶc3層を中層下面として扱った)は奈良・平安時代、Ⅷb層上面で検出される遺構(以下、下層遺構という)は奈良時代と考える。

- I 層 灰黄褐色粘質土(10YR6/2)粘性ややあり。しまりややあり。表土・耕作土・盛土などを一括した。
- II a 層 灰白色粘質土(10YR7/1)粘性ややあり。しまりややあり。水田床土としての還元作用と耕作による攪拌が目立つ。暗 2>1

- II b 層 灰白色粘質土 (10YR7/2～6/1) 粘性ややあり。しまりややあり。場所により消失する。
- III a 層 青灰色砂質土 (10YR7/1～6/1) 粘性あり。しまりあり。混入物は少ない。
- III b 層 褐灰色砂質土 (10YR6/1) 粘性あり。しまりあり。粒径の細かい砂を微量含む。
- III c 層 褐灰色砂質土 (10YR5/1) 粘性なし。しまりあり。粒径のやや小さい砂を中量含む。
- III d 層 褐灰色砂質土 (10YR6/1) 粘性あり。しまりあり。粒径の細かい砂を微量含む。
- IV a 層 黄灰色砂質土 (2.5Y6/1～7/1) 粘性なし。しまりややあり。1区全体に安定して堆積する。水酸化鉄を含む。
暗 1>2
- IV b 層 灰色砂質土 (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。水酸化鉄を多量含む。粘性 1>2>3
- IV c 層 黄灰色砂質土 (2.5Y6/1) 粘性なし。しまりややあり。水酸化鉄を少量含む。部分的に堆積する。
- IV d 層 灰白色砂質土 (2.5Y7/1) 粘性あり。しまりあり。水酸化鉄を少量含む。部分的に堆積する。
- V a 層 オリーブ灰色砂質土 (5GY6/1～5/1) 粘性あり。しまりあり。水酸化鉄を中～多量含む。ラミナ堆積。
暗 2>1
- V b 層 オリーブ灰色砂質土 (5GY7/1) 粘性あり。しまりあり。水酸化鉄を含む。ラミナ堆積。
- VI a 層 オリーブ灰色シルト (5GY6/1) 粘性ややあり。しまりあり。未分解腐植物を少～多量含む。ラミナ堆積。
2区・3区・6次調査区付近に安定して堆積する。
- VI b 層 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり。しまりややあり。未分解腐植物を少量含む。白色塊を含む。ラミナ堆積。
- VI c 層 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり。しまりややあり。未分解腐植物を含む。白色塊を含む。ラミナ堆積。
- VII a 層 黒褐色～黄灰色粘質土 (5YR3/1～2.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。1・4区の水田畦畔上部の攪拌層 (VIIa1・2・3・5層) や畝 (VIIa4層) を構成する。調査区全体にはVIIa6層が安定して堆積する。包含層 (上層、上面-畝跡・水田跡の上部確認面)
- VII a1 層 褐灰色～黄灰色粘質土 (10YR4/1～2.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。未分解腐植物を少量含む。炭化物 φ2～7mm を少量含む。VII層ブロック φ5mm を微量含む。
- VII a2 層 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。未分解腐植物を少量含む。炭化物 φ5mm を少量含む。
- VII a3 層 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。未分解腐植物を少量含む。炭化物 φ3～7mm を少量含む。
- VII a4 層 褐色粘質土 (7.5YR4/3) 粘性あり。しまりややあり。未分解腐植物を多量含む。
- VII a5 層 黄灰色粘質土 (5YR4/1) 粘性あり。しまりあり。炭化物 φ2～5mm を少量含む。VII c 層ブロック φ5mm を多量含む。
- VII a6 層 黒褐色粘質土 (5YR3/1～10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。未分解腐植物を少量含む。炭化物 φ3～5mm を少量含む。VII層ブロック φ5～7mm を少量含む。
- VII b 層 黄灰色～黒褐色粘質土 (2.5Y4/1～10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。VII c・VII層ブロックを少量～中量含む。炭化物 φ5mm を微～少量含む。3区水田畦畔上部の攪拌層や2区の畝を構成する。包含層 (上層、上面-遺構確認面) 粘性 1>2>3>4>5
- VII c 層 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1～6/1) 粘性ややあり。しまりあり。VII層ブロック φ5～15mm を少～中量含む。包含層 (中層 (1・4・5区の中層上・下面)、上面-遺構確認面) 砂質 3>2>1
- VIII a 層 灰色～青灰色粘質土 (N5/1～5BG6/1) 粘性ややあり。しまりあり。炭化物 φ1～10mm を含む。未分解腐植物を含む。包含層 (中層、上面-遺構確認面) 未分解腐植物 2>1
- VIII b 層 青灰色シルト (5BG5/1～4/1) 粘性なし。しまりあり。未分解腐植物を含む。(下層、上面-遺構確認面)
暗 2>1

Ⅶc層 暗青灰色砂質土(5G5/1)粘性なし。しまりあり。青灰色砂層との互層。無遺物層。

第3節 遺 構

A 遺構の概要

遺構名は、遺構の性格を示す(種別)記号と数字によって付けている。種別記号は〔文化庁文化財部記念物課2010〕を参考に井戸-SE、土坑-SK、溝状遺構-SD、性格不明遺構-SX、柱穴・ピット-SPとし、遺構番号は遺構の種類に関係なく各調査区で検出順に付けた。なお、畝跡(畝状遺構)と水田跡(畦畔状遺構)は同じ「SN」であったため、必要に応じて「SN(畝跡)」や「SN(水田跡)」のように種別記号に続けて()内に記載した。本文では、調査区ごと(調査地の北方向から1・4・5・2・3・第6次調査区の順)に上層、中層、下層遺構の順で主な遺構のみ記述した。なお、各遺構の属性や詳細な計測値等は別表1に示した。主軸方位の計測については、溝状遺構など長軸が捉えやすいものについて示した。平面形(円形・楕円形など)・断面形(弧状・台形状・皿状・U字状・V字状など)・覆土の堆積についても記載したが、調査区壁面で検出した遺構も多く判断が難しい。切り合い関係については、同一検出面における新旧関係を示し、上・中・下層間の関係は省略している。ここでは個別図で図示した代表的な遺構について主に説明する。なお、2区 第6次調査区は隣接地だが、遺構のつながりは追いきれなかった。

B 遺構各説

1) 1 区 の 遺 構 (上層)

黒褐色粘質土等からなるⅦa～Ⅶb層中に帰属するかあるいは、その可能性が高い遺構を一括した。SN(水田畦畔)9条、Ⅶa4層中に畝と畝間で構成されるSN(畝跡)、SD12基が検出された。SD54～56・111～113・115・116は、水田跡との位置関係などから水田跡に伴う可能性が高く、調査区東側の低地で検出された。また、畝跡と考える溝状遺構は調査区西側の微高地で多数認められた。

a 水 田 跡 (SN)

調査区東半のB-10H-6E・8Iにかけて、Ⅶa～Ⅶb層下面を遺構確認面とする主に畦状遺構からなる水田跡を検出した。これらは全て調査現場で調査区壁面の土層断面で確認したもので、畦状遺構の形状および主軸方向は土層断面から復元した。畦状遺構はⅦa6層上面に構築されたSN120(1・3層)・128・129と、Ⅶa4層下面～Ⅶb層下面にかけて構築されたSN118・119・120(5・7層)・121・124に2分できる。

SN118 (図版9・10、写真図版5) B-10H-8I14・19・24に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面から復元した。遺構確認面はⅦb4層下面で北端は調査区外へ延びる。主軸はN-3°-Wを指し、確認面での短軸0.50m、高さ0.16mを測る。3層の盛土からなる。SD117を切るが、SD56との新旧関係は明確でない。遺物は出土していない。

SN119 (図版9・10、写真図版5) B-10H-8I6・7・11・12に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面から復元した。遺構確認面はⅦb4層下面で北端は調査区外へ延びる。主軸はN-37°-Wを指し、確認面での短軸0.30m、高さ0.22mを測る。2層の盛土からなり台形状を呈する。SD55・115・116に切られる。遺物は出土していない。

SN120 (図版9・10、写真図版5) B-10H-7H22・23、8H2～4に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面から復元した。遺構確認面はⅦa2層下面で北端は調査区外へ延びる。土層断面の観察から8層に分層され、Ⅶa1層上面までの存在が確認された。4a層としたⅦa6相当層上面の1・2層と3層の盛土2基と、6層としたⅦb層上面相当の5層、同層下面相当の7層の合計4基の畦状遺構からなる。遺物は出土していない。

1～4期に区分し、古い順に説明する。1期は主軸がN-11°-Wを指し、確認面での短軸0.21m、高さ0.18m

を測り、7層に相当する。SD54と重複し当遺構が新しい。2期は主軸が若干西に向きN-17°-Wを指し、短軸0.17m、高さ0.17mを測り5層に相当する。3期は主軸がさらに西向きのN-19°-Wを示し、短軸0.20m、高さ0.11mを測り、3層に相当する。4期は主軸が最も西向きのN-25°-Wを指し、短軸0.78m、高さ0.61mと規模が大きくなる。2層に分層され、上面にはⅦa1層が堆積する。なお、4a・bと6層は水田面の可能性がある。SN121(図版9・11) B-10H-7F4・5に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面で復元した。遺構確認面はⅦb4層下面で南北端は調査区外へ延びる。確認面での短軸0.80m、高さ0.10mを測り単層の盛土からなる。SD112を切るが、SD111・113に切られる。上部にはⅦa6層を挟んでSN128が存在する。遺物は出土していない。

SN124(図版9・11) B-10H-7G12～14に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面で復元した。遺構確認面はⅦb4層下面で南北端は調査区外へ延びる。確認面での高さ0.11mを測り単層の盛土からなる。上部にはⅦa6層を挟んでSN129が存在する。遺物は出土していない。

SN128(図版9・11) B-10H-6F24, 7F3～5・10に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面で復元した。遺構確認面はⅦa1層下面で南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-9°-Eを指し、確認面での短軸2.40m、高さ0.15mを測り2層の盛土からなる。下部にはⅦa6層を挟んでSN121が存在する。遺物は出土していない。

SN129(図版9・11) B-10H-7G8・12～14に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面で復元した。遺構確認面はⅦa4層上面で南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-78°-Eを指し、確認面での短軸は1.40m、高さ0.14mを測り単層の盛土からなる。下部にはⅦa6層を挟んでSN124が存在する。遺物は出土していない。

b 畝 跡 (SN) (図版9・11・12, 写真図版5・6)

調査区西半のB-10H-4B～6Eで確認された。これらは調査区南北両壁面のⅦa4層中で明瞭に観察された。Ⅶa4層は未分解腐植物を主体とする土壌で、確認面での短軸0.59～1.15m、深さ0.13～0.25mを測る。断面形が溝状の畝間(1・2層)が比較的等間隔に並び、その左右両側は畝の盛土(3層)と考えられる。また畝間の直下には粘性・しまりのある土壌(5層)も部分的に認められた。

この畝跡を構成するⅦa4層は、10H-6E13・14付近で水平的な堆積となり、この西側が畝跡の区域となる。後述するが(第Ⅷ章)、東側の水田跡との時間的な前後関係は、畝跡が認められるⅦa4層とⅦa6層相当と考えるSN(水田跡)120の4a層の関係から、畝はSN120の3・4期が残存するⅦa6層以後の形成と考えられるものの、一律ではない。また、畝跡は多数の畝・畝間で構成されるため、遺構番号は付けず観察表と代表的な土層断面を示した。遺物は出土していない。なお、この畝跡は主にⅦa4層で確認されることから、中層(上面・下面)図面図版に出てくる際は、便宜上「Ⅶa4」と表記した。

c 溝状遺構(SD)

上層に属する溝状遺構は、前述のように畦状遺構に伴って水田跡を構成していた可能性もある(SD54～56・111～113・115・116)。

SD1(図版9・12, 写真図版6) B-10G-3J19・20・24・25, 4J5, 10H-4A1に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb4層上面で、主軸はN-35°-Wを指し、確認面での深さ0.23mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は5層に分層され、レンズ状堆積がみられる。土師器食膳具・煮炊具を主体に須恵器甕や黒色土器の小片、鉄滓がわずかに出土している。土師器無台碗(1)、須恵器有台杯(2)・壺・瓶類(3)・甕(4)を図示した。

SD2(図版9・12, 写真図版6) B-10H-4A1～3・7・8に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦa6層上面で、主軸はN-34°-Eを指し、確認面での短軸2.70m、深さ1.14mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は5層に分層されレンズ状堆積がみられる。規模や形状から旧流路跡の可能性があり、土師器食膳具、須恵器無台碗・有台碗・甕・横瓶(5)が出土している。

SD6(図版9・12, 写真図版6) B-10H-5C8に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb1層上面で、主軸はN-31°-Eを指し、確認面での短軸0.45m、深さ0.51mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は8層

に分層されレンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕・食膳具、須恵器有台杯、黒色土器無台碗(6)が出土している。

SD54 (図版9・10、写真図版6) B-10H-7H24、8H4・9に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb4層下面で、主軸はN-5°-Eを指し、確認面での短軸1.70m、深さ0.31mを測る。基底面は凹凸が著しく小穴状に起伏し、覆土は2層である。SN(水田跡)120に切られるが、位置関係などからこの水田に関連する遺構の可能性はある。非ロクロの土師器甕を主体に、須恵器甕(7)が出土している。

SD55 (図版9・10、写真図版6) B-10H-8H5・10、8I6に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb3層下面で、主軸はN-36°-Wを指し、確認面での短軸0.50m、深さ0.07mを測る。覆土は単層で、SN(水田跡)119を切るが、位置関係などからこの水田に関連する遺構の可能性はある。遺物は出土していない。

SD56 (図版9・10、写真図版5) B-10H-8I19・20・24・25に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb4層下面で、主軸はN-11°-Wを指し、確認面での短軸1.50m、深さ0.14mを測る。基底面は凹凸が著しく小穴状に起伏する。覆土は単層で、SN(水田跡)118を切るが、位置関係からこの水田に関連する遺構の可能性はある。遺物は出土していない。

SD111 (図版9・11) B-10H-7F4に位置する。遺構確認面はⅦb4層上面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.06mを測り、覆土は単層である。SN(水田跡)121を切る。遺物は出土していない。

SD112 (図版9・11) B-10H-7F4に位置する。遺構確認面はⅦc1層上面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.16mを測り、覆土は単層である。SN(水田跡)121、SD113に切られる。遺物は出土していない。

SD113 (図版9・11) B-10H-7F4・5に位置する。遺構確認面はⅦc1層上面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SN(水田跡)121、SD112を切る。遺物は出土していない。

SD115 (図版9・10) B-10H-8I11・12に位置する。遺構確認面はⅦb4層下面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.12mを測り、基底面は凹凸が著しい。覆土は単層である。SN(水田跡)119を切るが、位置関係などからこの水田に関連する遺構の可能性はある。遺物は出土していない。

SD116 (図版9・10) B-10H-8I12・13・18に位置する。遺構確認面はⅦb4層上面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.19mを測り、基底面は凹凸が著しい。覆土は2層に分層される。SN(水田跡)119を切るが、位置関係などからこの水田に関連する遺構の可能性はある。遺物は出土していない。

2) 1 区 の 遺 構 (中層上面)

黄灰色粘質土をベースとするⅦc層を遺構確認面とするが、1区東側を中心にⅦc2層上面とⅦc3層上面を確認面とする遺構があり、前者を中層上面遺構、後者を中層下面遺構として扱った。検出された遺構はSK17基、SD26基、SX1基、SP8基の計52基である。

a 土 坑 (SK)

SK19 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B11・16に位置する。土層断面で検出され、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.25mを測り、断面形は台形状を呈する。覆土は2層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SD11を切る。遺物は出土していない。

SK20 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B11に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.43mを測る。断面形はやや漏斗状を呈する。覆土は4層に分層されレンズ状堆積がみられる。SK81、SD11を切る。非ロクロの土師器甕・杯(14)が出土している。

SK48 (図版13・14 写真図版7) B-10H-7G1・6に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.19mを測り断面形は皿状を呈する。覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK52 (図版13・15 写真図版7) B-10H-5D24・25に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.30mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層されレンズ状堆積がみられる。土側溝

で南側は遺存せず、西側はSK53に切られる。非ロクロの土師器甕の小片がわずかに出土している。

SK53 (図版13・15 写真図版7) B-10H-5D24に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.41mを測る。断面形はU字状を呈し、覆土は3層に分層される。SK52を切る。須恵器甕(15)を図示したが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SK58 (図版13・15 写真図版7) B-10H-5D17に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.33mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK59 (図版13・14 写真図版7) B-10H-7F5に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.23mを測り、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK60 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B17・18に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.51mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は3層に分層される。東側はSD40に切られる。遺物は出土していない。

SK78 (図版13・15) B-10G-3J19に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.33mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層されレンズ状堆積がみられる。遺物は出土していない。

SK79 (図版13・15 写真図版8) B-10H-3A21、4A1・2に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。土側溝で南側は遺存しない。確認面での深さ0.32mを測り、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK81 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B11に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。西側はSK20に切れ、土側溝で南側は遺存していないため、遺構プランは不明瞭である。覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK93 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B12・17に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。土側溝で南側は遺存せず、遺構プランは不明瞭である。断面形は漏斗状を呈し、覆土は5層に分層されレンズ状堆積がみられる。遺物は出土していない。

SK97 (図版13・15) B-10H-5C1・2に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。土側溝で南側は遺存せず、遺構プランは不明瞭である。確認面での深さ0.33mを測る。覆土は2層に分層される。SK98を切るが、SD12・13・96には切られる。遺物は出土していない。

SK103 (図版13・15 写真図版8) B-10H-5D18・23・24に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。土側溝で南側は遺存せず、遺構プランは不明瞭である。確認面での深さ0.33mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK114 (図版13・15) B-10H-7F10、7G6に位置する。土層断面で検出され、南側は調査区外に延びる。確認面での深さ0.12mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

b 溝状遺構(SD)

①規模が大きく自然流路の可能性が高いもの(SD11・82)、②畚跡と考えるもの(SD3・4・7・9・13・21・22・88～91)、③上記以外の区画溝と考えるもの(SD10・38～40・42・43・63・110)がある。

SD3 (図版13・16 写真図版8) B-10H-4B24・25、5B5に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-28°-Eを指し、確認面での短軸1.20m、深さ0.24mを測る。断面形は台形状を呈し覆土は3層に分層される。SP95に切られる。図示し得なかったが、ロクロ・非ロクロの土師器甕・無台碗の小片がわずかに出土している。

SD4 (図版13・16 写真図版8) B-10H-4B25、4C21、5B5に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-28°-Eを指し、確認面での短軸0.50m、深さ0.16mを測る。覆土は2層に分層される。SX132に切られる。非ロクロの土師器甕、須恵器有台杯(45)・杯蓋、黒色土器の小片がわずかに出土している。

SD7 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C9・13・14に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-34°-Eを指し、確認面での短軸0.13m、深さ0.24mを測る。断面形はV字状を呈する。覆土は2層に分層されレン

ズ状堆積がみられる。遺物は出土していない。

SD8 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C9・14に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-27°-Eを指し、確認面での短軸0.30m、深さ0.14mを測る。断面形はU字状を呈し、覆土は単層である。土師器長甕が出土している。

SD9 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C9・10・14・15に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-24°-Eを指し、確認面での短軸0.38m、深さ0.31mを測る。断面形はV字状を呈する。覆土は2層に分層されレンズ状堆積がみられる。土師器長甕が出土している。

SD10 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C15・20、5D11・16に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-26°-Eを指し、確認面での短軸1.45m、深さ0.34mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。土師器無台碗(18)・鉢・甕、須恵器横瓶が出土している。

SD11 (図版13・16 写真図版8) B-10H-4A8～10・14・15、4B11に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-6°-Wを指し、確認面での深さ0.62mを測る。覆土は5層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD82を切るが、SK19・20に切られる。非ロクロの土師器甕片が全ての層から主体的に出土しているが、須恵器無台杯・杯蓋・甕、黒色土器(5層のみ)、磁石もみられる。土師器長甕(19)、須恵器甕(20～23)を図示した。**SD12** (図版13) B-10H-4C21、5C1に位置し、北東端は調査区外へ延びる。主軸はN-58°-Eを指す。覆土は2層に分層される。SK98、SD22を切る。土師器小甕(24)、須恵器無台杯・甕(25)が出土している。

SD13 (図版13・15・16) B-10H-5C1・2に位置し、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.23mを測る。覆土は3層に分層されレンズ状堆積がみられる。SK97を切るが、SD96に切られる。被熱礫が1点出土している。

SD16 (図版13・17 写真図版9) B-10H-4B17・18・23に位置する。調査区に平行して確認され、蛇行気味に南側は調査区外へ延びる。主軸はN-56°-Wを指し、確認面での深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分層される。SD40・88を切る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕の小片が出土している。

SD21 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C15に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-34°-Eを示し、確認面での短軸0.21m、深さ0.33mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は4層に分層されレンズ状堆積がみられる。SP99に切られる。遺物は出土していない。

SD22 (図版13・16) B-10H-5C1に位置する。主軸はN-25°-Eを指し、確認面での短軸0.52m、深さ0.15mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。北端はSD12に切れ、南端はSX132に切られる。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕・無台碗の小片がわずかに出土している。

SD38 (図版13・17 写真図版9) B-10H-6F11・16に位置し、北側は調査区外へと続く。主軸はN-23°-Eを指し、確認面での短軸1.25m、深さ0.13mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。被熱礫(360)のみ出土している。

SD39 (図版13・17 写真図版9) B-10H-6F17・18・22・23に位置し、南北端は調査区外へと続く。主軸はN-27°-Eを指し、確認面での短軸2.02m、深さ0.21mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は2層に分層される。SD110を切る。ロクロ・非ロクロの土師器甕・羽釜・無台碗、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・甕が出土している。土師器甕(38)・須恵器無台杯(39)を図示した。

SD40 (図版13・14・17 写真図版7・9) B-10H-4B18に位置し、北側は調査区外へと続く。確認面での短軸0.33m、深さ0.16mを測る。断面形は概ね弧状を呈し、覆土は3層に分層される。SK60を切るが、SD16に切られる。図示し得なかったが、1・2層から非ロクロの土師器甕、須恵器甕が出土している。

SD42 (図版13・17 写真図版9) B-10H-7G8・13～15・18～20に位置し、南北端は調査区外へと続く。確認面での深さ0.31mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は3層に分層される。SD43に切られる。土師器甕(40)、須恵器無台杯・壺瓶類(41)が出土している。

SD43 (図版13・17 写真図版10) B-10H-7G15・19・20に位置し、南北端は調査区外へと続く。主軸は

N-31°-Eを指し、確認面での短軸1.95m、深さ0.18mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。SD42を切る。図示し得なかったが、非クロクの土師器製の小片が出土している。

SD63 (図版13・17 写真図版10) B-10G-3J19・20・24・25に位置し、南北端は調査区外へと続く。主軸はN-3°-Wを指し、確認面での短軸1.44m、深さ0.45mを測る。覆土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SD82 (図版13・16 写真図版8) B-10H-4A9・10・14・15、4B11に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-25°-Eを指し、確認面での深さ0.72mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は5層に分層される。直上のSD11に切られる。遺物は出土していない。

SD88 (図版13・17) B-10H-4B18・23に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは0.22mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。SD16に切られる。遺物は出土していない。

SD89 (図版13・17) B-10H-4B23・24に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD90 (図版13・17) B-10H-4B24に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは0.19mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD91 (図版13・17) B-10H-4B24に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは0.22mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD96 (図版13・15) B-10H-5C1・2に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは0.17mを測る。断面形は弧状を呈し覆土は2層に分層される。SK97・SD13を切るがSD12に切られる。遺物は出土していない。

SD110 (図版13・17 写真図版9) B-10H-6E16・17・21・22に位置し、南北端は調査区外へと続く。主軸はN-48°-Eを指し、確認面での深さ0.16mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。SD39に切られる。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構 (SX)

SX132 (図版13・16) B-10H-4B25、4C21、5B5、5C1に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.15mを測る。覆土は単層である。SD4・22を切る。遺物は出土していない。

d ピ ッ ト (SP)

SP99 (図版13・16) B-10H-5C14・15に位置する。調査区南壁で検出し、確認面での深さ0.32mを測る。断面形はU字状を呈し、覆土は単層である。SD21を切る。遺物は出土していない。

SP123 (図版13・16) B-10H-5C15に位置する。調査区南壁で検出し、確認面での深さ0.16mを測る。断面形はV字状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

3) 1 区 の 遺 構 (中層下面)

VIIc3層上面およびVIIa層上面を遺構確認面とする。SD44・66、SX45・65は、上層の水田跡により遺構周辺にVIIc層の堆積がみられずVIIa層で確認した。SE1基、SK10基、SD14基、SX4基、SP11基の計40基である。

a 井 戸 (SE)

SE57 (図版18・19 写真図版10) B-10H-5C1～3・7・8に位置する。遺構確認面はVIIc3層上面で南北端は調査区外へ延びる。検出時点では溝状遺構として調査を進めていたが、基底面が深い点と下層から斎串などの木製品が複数出土したため井戸と判断した。調査区が狭小で壁面崩落の危険があり基底面は未検出だが、確認面からの深さ0.96mまで掘り下げた。断面形は漏斗状を呈し、覆土は8層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD5に切られる。遺物の多くは5・6層から出土している。土師器鍋(8)・羽釜(155)、黒色土器皿(9)・杯蓋(10)、須恵器無台杯(11・12)・杯蓋(13)や、斎串(362・363)をはじめとする大量の木製品(364～372)が出土した。ほかに、9世紀以降の土師器小甕や無台碗、須恵器無台杯・甕、磨耗礫も出土している。

b 土坑(SK)

SK32 (図版18・21 写真図版12) B-10H-6E1・6に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、確認面での深さ0.11mを測り、覆土は単層である。SD33を切るが、SD29に切られる。遺物は出土していない。

SK49 (図版18・19 写真図版10) B-10H-8I13に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、北側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈し覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK50 (図版18・19 写真図版10) B-10H-5C15に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、北側は調査区外へ延びる。南側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ0.33mを測り、断面形は弧状を呈する。覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SD24を切る。遺物は出土していない。

SK51 (図版18・20 写真図版12) B-10H-5D24、6D4に位置する。土層断面のSD24底面で確認し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.12mを測り、覆土は単層である。SD30を切るが、SD24に切られる。遺物は出土していない。

SK76 (図版18・20) B-10H-4A1に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.24mを測る。覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SK77、SD75を切る。遺物は出土していない。

SK77 (図版18・20) B-10H-4A1に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.14mを測り、覆土は単層である。SD75を切るが、SK76に切られる。遺物は出土していない。

SK83 (図版18・20) B-10H-4A2・7に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.21mを測り、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK84 (図版18・20) B-10H-4A7・8に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.23mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK85 (図版18・20) B-10H-4A8に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.21mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SP122を切る。遺物は出土していない。

SK100 (図版18・19) B-10H-5D16に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

c 溝状遺構(SD)

SD5 (図版18・19) B-10H-5C1～3・7に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-29°-Eを指し、確認面での短軸1.73m、深さ0.37mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。直下のSE57を切る。非ロクロの土師器壺・無台碗、須恵器無台杯(16)・杯蓋(17)・甕、被熱窯が出土している。

SD15 (図版18・21 写真図版11) B-10H-6E7～9・13に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-32°-Eを指し、確認面での短軸3.22m、深さ0.33mを測る。覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SD29・35、SX131、SP14・41に切られる。非ロクロの土師器壺を主体に無台碗(26)・鉢・瓶(27)、須恵器無台杯・杯蓋・壺・甕、カマド形土製品(325)が出土している。

SD18 (図版18・20 写真図版11) B-10H-4B11・12・16～18に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、調査区に平行しているが西側は中層上面の遺構に切られる。主軸はN-62°-Wを指し、確認面での短軸0.60m、深さ0.33mを測る。覆土は3層に分層される。非ロクロの土師器壺が主体的に出土し、土師器鉢(28)、磨耗窯(354)を図示した。他に、敲打痕の認められる磁石が1点出土している。

SD24 (図版18・19・20・21 写真図版11・13) B-10H-5C10・15、5D11・16～18・22～24、6D4・5・10、6E1・6に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-56°-Wを指し、確認面での短軸0.44m、深さ0.28mを測る。覆土は5層に分層され、1層はⅦc2層に類似する。SK51、SD30・31・33を切るが、SK50に切られる。主体的に出土している土師器壺(29)のほか、土師器鉢・羽釜、

須恵器無台杯・甕、磨耗礫もわずかに出土している。

SD28 (図版18・20 写真図版11) B-10H-5D18・23に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面である。主軸はN-50°-Wを指し、確認面での長軸1.15m、短軸0.30m、深さ0.18mを測る。平面形は中央部がやや括れた長方形、断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分層される。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、須恵器杯・大甕がわずかに出土している。

SD29 (図版18・21 写真図版12・13) B-10H-5D18・23～25、6D5、6E1・6～8・13・14に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-54°-Wを指し、確認面での短軸0.48m、深さ0.31mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は3層に分層される。SK32、SD15・30・31・33・102、SP34・41を切るが、SX131に切られる。非ロクロの土師器甕を主体に、須恵器無台杯・有台杯・墨痕の認められる杯蓋・甕、磨耗礫もわずかに出土している。土師器甕(30)、被熱礫(359)を図示した。

SD30 (図版18・20・21 写真図版12) B-10H-5D24・25、6D4・5に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-29°-Eを指し、確認面での短軸1.85m、深さ0.27mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は3層に分層される。SK51、SD24・29に切られる。非ロクロの土師器甕を主体に、須恵器無台杯・有台杯(転用視1点)・墨痕の認められる杯蓋・甕もわずかに出土している。土師器甕(32)・把手か脚(33)、須恵器甕(36)を図示した。

SD31 (図版18・20・21 写真図版11・12) B-10H-6D5・10、6E1に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-51°-Eを指し、確認面での短軸0.34m、深さ0.06mを測る。覆土は単層である。SD33を切るが、SD24・29・35に切られる。遺物は出土していない。

SD33 (図版18・21 写真図版12) B-10H-6E1・2・6・7に位置する。遺構確認面はⅦa層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-34°-Eを指し、確認面での短軸1.80m、深さ0.30mを測る。覆土は2層に分層される。SK32、SD24・29・31・35に切られる。非ロクロの土師器甕、須恵器杯蓋(31)・有台杯(34)・甕(35)、磨耗礫が出土している。

SD35 (図版18・21 写真図版12・13) B-10H-5D25、6D5、6E1・2・7～9・13～15・20に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、調査区に平行して確認されたが、北側は調査区外へ延びる。土側溝などで遺存する部分は少ないが、主軸はN-55°-Wを指し、確認面での短軸0.44m、深さ0.15mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は2層に分層される。SD15・31・33、SP14を切る。非ロクロの土師器甕、須恵器無台杯・有台杯(37)・杯蓋・甕が出土している。

SD44 (図版18・22 写真図版13) B-10H-7H16・17・21・22に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-37°-Eを指し、確認面での短軸0.43m、深さ0.15mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。SD66、SX65を切る。遺物は出土していない。

SD66 (図版18・22 写真図版13) B-10H-7H16・17・21～23、8H2・3に位置する。遺構確認面はⅦa層上面で、北側は蛇行して調査区外へ延びる。主軸はN-50°-Wを指し、確認面での短軸0.80m、深さ0.22mを測る。覆土は2層に分層される。SD44に切られるが、SX45・65を切る。遺物は出土していない。

SD75 (図版18・21 写真図版10・13) B-10G-3J25、4J5、10H-3A21、4A1に位置する。遺構確認面はⅦa層上面で、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.13mを測る。覆土は単層である。SK76・77、SD63に切られる。遺物は出土していない。

SD80 (図版18・21) B-10H-4A3・8・9に位置し、北側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc3層上面で、南側は中層上面の遺構に切られる。確認面での深さ0.29mを測る。基底面は若干起伏し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

d 性格不明遺構(SX)

SX45 (図版18・22 写真図版13) B-10H-7H22・23、8H2・3に位置する。遺構確認面はⅦa層上面で、南北

端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.22mを測り、断面形は血状を呈する。覆土は3層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD66に切られるが、SX65を切る。土師器甕、須恵器杯蓋(42)・羽口(320)が出土している。SX65(図版18・22 写真図版13) B-10H-7H17・21・22に位置する。遺構確認面はⅦa層上面で、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.19mを測り、覆土は2層に分層される。SD44・66、SX45に切られる。非ロクロの土師器甕を主体に須恵器大甕・墨痕の認められる有台杯、円筒形土製品が出土している。土師器無台杯(43)・土師器甕(44)を図示した。

SX106(図版18・22) B-10H-7G20・25、7H21に位置する。遺構確認面はⅦa層上面で、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.08mを測る。断面形は血状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX131(図版18・21) B-10H-6E7・13に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面であり、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.30mを測る。覆土は2層に分層される。SD15・29を切る。遺物は出土していない。

e ビット(SP)

SP14(図版18) B-10H-6E7に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面である。平面は円形で、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP25(図版18・22) B-10H-5D16に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、確認面での長軸0.36m、短軸0.27m、深さ0.24mを測る。平面は楕円形、断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SP26(図版18・22) B-10H-5D16に位置する。遺構確認面はⅦc3層上面で、北側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ0.11mを測り、断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SP34(図版18・22) B-10H-6E7に位置する。確認面はⅦc3層上面で、北側はSD29に切られる。確認面での深さ0.15mを測り、断面形は弧状を呈する。覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP41(図版18・22) B-10H-6E7に位置する。SD15の底面で検出され、南側はSD29に切られる。確認面での深さ0.33mを測る。断面形はV字状を呈する。覆土は2層に分層される。非ロクロの土師器甕、羽釜かカマド形土製品と思われる破片が出土しているが、図示し得たのは不明土製品(339)のみである。

SP62(図版18・22) B-10H-4A8に位置する。確認面はⅦc3層上面で、確認面での長軸0.35m、短軸0.25m、深さ0.18mを測る。平面は楕円形、断面形は台形状を呈する。覆土は2層に分層される。SD80を切る。遺物は出土していない。

4) 4区 の 遺 構 (上層)

Ⅶb層中に帰属するものを一括した。検出された遺構は、土層断面で畦状遺構が確認されたSN(水田畦畔)1条、SK1基、SX1基の計3基である。

a 水田跡(SN)

SN35(図版23・24 写真図版14) B-10G-3J11~13・16~18に位置する。土層断面で確認した。1区SN120の3・4期が形成されるⅦa6層上面に構築され、盛土は単層で、SX6との切り合いは明瞭でない。主軸は東西方向で隣接する1区へと続く。確認面での短軸3.30m、高さ0.31mを測り、断面は台形状を呈する。遺物は出土していない。

b 土坑(SK)

SK4(図版23・24 写真図版14) B-10G-3J16・17・21・22に位置する。遺構確認面はⅦb2層上面で、中層の遺構より約0.1m高い。SD7・8を切るが、南東端は土側溝で遺存せず、そのまま調査区外へ延びる。平面形は楕円形、断面は血状を呈し、覆土は2層に分層される。主軸はN-34°Eを指し、確認面での短軸1.12m、深さ0.17mを測る浅い土坑である。残存率の高い土師器無台碗を中心とした食膳具が、廃棄されたような状態でまとまって出土した。10世紀代と考える土師器無台碗が主体であるが、非ロクロの甕、須恵器杯・甕、被熱窯、磨耗礫もわずかにみられる。土師器無台碗(46~59)・鉢(60)、須恵器有台杯(61)を図示した。

c 性格不明遺構 (SX)

SX6 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J2・3・7・8・12・13 に位置する。遺構確認面はVII b1 層上面で、西側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.69m を測り基底面は起伏している。覆土は 2 層に分層される。SN35 との切り合いは明瞭でない。土師器無台碗、須恵器無台杯 (62)・杯蓋 (63) が出土している。

5) 4 区 の 遺 構 (中層上面)

VII c2 層上面を遺構確認面とする。検出された遺構は、SD 5 基と SP 3 基の計 8 基である。このうち SD1～3・5・7 は、規則的な間隔で検出され畝間跡の可能性はある。

a 溝 状 遺 構 (SD)

SD1 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3I25、3J21、4I5、4J1 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-57°-W を指し、確認面での深さ 0.34m を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。土師器小甕 (64)、須恵器杯蓋 (65) を図示したが、非ロクロの土師器甕も 1 点出土している。

SD2 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3I25、3J21、4J1 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-57°-W を指し、確認面での短軸 0.53m、深さ 0.39m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は 3 層に分層されレンズ状堆積がみられる。図示し得なかったが、土師器甕がわずかに出土している。

SD3 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3I25、3J21・22 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-55°-W を指し、確認面での短軸 0.74m、深さ 0.34m を測る。覆土は 2 層に分層されレンズ状堆積がみられる。北側を SD7 に切られる。図示し得なかったが、土師器甕 1 点、黒色土器 1 点が出土している。

SD5 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3J11・12・16・17 に位置し、東西端は調査区外へと続く。主軸は N-60°-W を指し、確認面での短軸 0.56m、深さ 0.16m を測る。断面形は V 字状を呈し覆土は単層である。土師器無台碗を主体に須恵器無台杯が 1 点出土しているが、図示し得たのは土師器の長甕 (66) のみである。

SD7 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3J16・21・22 に位置し、東西端は調査区外へと続く。主軸は N-74°-W を指し、確認面での短軸 0.52m、深さ 0.39m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は 3 層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD3 を切るが、SK4 に切られる。図示し得なかったが、土師器甕、須恵器有台杯、磁石が 1 点ずつ出土している。

b ピ ッ ト (SP)

SP27 (図版 23・24) B-10G-3J16 に位置し、確認面での深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP32 (図版 23・24) B-10G-3J18 に位置し、確認面での深さ 0.36m を測る。断面形は概ね V 字状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SP33 (図版 23・24) B-10G-3J17・18 に位置し、確認面での深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

6) 4 区 の 遺 構 (中層下面)

VII c3 層上面を遺構確認面とする。検出された遺構は SK 2 基、SD 4 基、SP 18 基の計 24 基である。溝状遺構は、中層上面同様に規則的な間隔で検出され畝の畝間跡の可能性はある。ビットが多く検出され、柱根は出土していないが 6 基 (SP11～13・15・17・34) で柱痕が確認された。

a 土 坑 (SK)

SK24 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J17・18 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.33m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。SD10 に切られるが SP34 を切る。遺物は出土していない。

SK30 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J12 に位置し、西側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.28m を測る。断面形は漏斗状を呈し、覆土は 3 層に分層される。SD26 を切る。遺物は出土していない。

b 溝状遺構 (SD)

SD8 (図版23・24 写真図版15) B-10G-3J16・17・22に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-55°-Wを指し、確認面での短軸0.43m、深さ0.22mを測る。覆土は単層である。SP16・22・29を切るが、SK4に切られる。遺物は出土していない。

SD9 (図版23・24 写真図版15) B-10G-3J16・17に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-56°-Wを指し、確認面での短軸0.39m、深さ0.21mを測る。断面形はV字状を呈する。覆土は単層である。SP14・17を切る。遺物は出土していない。

SD10 (図版23・24 写真図版15) B-10G-3J11・12・17・18に位置し、西端は調査区外へ延びる。主軸はN-73°-Wを指し、確認面での短軸0.33m、深さ0.20mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SK24、SP23・28を切るが、SP11・12に切られる。図示し得なかったが、土師器無台碗が1点出土している。

SD26 (図版23・24 写真図版14) B-10G-3J7・12・13に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-60°-Wを指し、確認面での短軸0.78m、深さ0.33mを測る。基底面は起伏し、覆土は2層に分層される。SK30、SP31に切られる。遺物は出土していない。

c ビット (SP)

SP11 (図版23・24) B-10G-3J12・17に位置し、確認面での深さ0.15mを測る。平面形は楕円形、断面形は浅い漏斗状を呈する。覆土は2層に分層され、中央部に柱痕が残る。SD10を切る。遺物は出土していない。

SP12 (図版23・24) B-10G-3J12・17に位置し、確認面での深さ0.21mを測る。平面形は円形、断面形は概ね漏斗状を呈する。覆土は2層に分層され、中央部に柱痕が残る。SD10、SP23を切る。遺物は出土していない。

SP13 (図版23・24) B-10G-3J13・18に位置し、確認面での深さ0.25mを測る。北側は土側溝で遺存しないが、平面形は円形、断面形は概ねV字状を呈する。覆土は3層に分層され、柱痕が残る。遺物は出土していない。

SP15 (図版23・24) B-10G-3J21に位置し、確認面での深さ0.21mを測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分層され、柱痕が残る。遺物は出土していない。

SP17 (図版23・24) B-10G-3J16に位置し、確認面での深さ0.27mを測る。大半はSD9に切られるが、平面形は円形を呈すると考える。断面形はV字状を呈し、覆土は2層に分層され、中央部に柱痕が残る。遺物は出土していない。

SP28 (図版23・24 写真図版14) B-10G-3J11に位置し、確認面での深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。直上のSD10に切られる。遺物は出土していない。

SP29 (図版23・24 写真図版14) B-10G-3J16に位置し、確認面での深さ0.23mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。直上のSD8に切られる。遺物は出土していない。

SP31 (図版23・24 写真図版14) B-10G-3J7・12に位置し、確認面での深さ0.39mを測る。断面形は概ねV字状を呈し、覆土は2層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD26を切る。遺物は出土していない。

SP34 (図版23・24) B-10G-3J17に位置し、確認面での深さ0.23mを測る。半分遺存していないが、断面形は概ね漏斗状を呈し、覆土は2層に分層され、柱痕が残る。SK24に切られる。遺物は出土していない。

7) 5区 の 遺 構

a 性格不明遺構 (SX)

SX1 (図版25 写真図版15) B-10G-5H4・5・10、511・6に位置し、南西側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦa層で、確認面での深さ0.09mを測り、覆土は単層である。5区で検出した唯一の遺構である。遺物は出土していない。

8) 2区 の 遺 構 (上層)

黒褐色粘質土等からなるⅦa～Ⅶb・Ⅶc1層中に帰属するかあるいは、その可能性が高い遺構を一括した。

検出された遺構は、Ⅶa6・Ⅶb層中に畝と畝間で構成されるSN(畝跡)、SD3基、SX1基である。特に、畝の畝状遺構は、調査区西側で多数認められた。

a 畝 跡 (SN) (図版 28 写真図版 17)

調査区西半のD-3I-4B～8Gで確認された。これらは、南北両壁面のⅦa6・Ⅶb層中で明瞭に観察された。確認面での短軸0.50～0.97m、深さ0.16～0.27mを測る断面形がV字状の畝間(1・2層)が比較的等間隔に並び、その左右両側は畝の盛土(3層)と考えられ、畝間の直下には粘性・しまりのある土壌(5層)も部分的に認められた。この畝跡が認められるⅦa6・Ⅶb層は、調査区全体で確認されるが、畝・畝間は東へ向かって不明瞭になる。調査段階で認められた畝跡の主軸方向と、南北両壁面の土層断面を基に畝跡を示した(図版28)。これは模式的な図であり、それぞれの畝や畝間の繋がりを検証したものではない。畝跡は非常に多数の畝・畝間で構成されるため、遺構番号は付けず観察表と代表的な土層断面を示した。遺物は出土していない。

b 溝状遺構 (SD)

SD22(図版28) D-3I-6E17・18に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc1層で、主軸はN-60°-Eを指し、確認面での短軸0.82m、深さ0.12mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD39(図版28 写真図版17) D-3I-7F18・19に位置する。土層断面で確認され、北側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc1層で、確認面での深さ0.38mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD45(図版28 写真図版17) D-3I-6D3・4に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc1層で、主軸はN-88°-Eを指し、確認面での短軸0.42m、深さ0.31mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構 (SX)

SX46(図版28) D-3I-6D4・5に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc1層で、確認面での深さ0.46mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

9) 2 区 の 遺 構 (中層)

Ⅶa1・2層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SE1基、SK1基、SD26基、SX1基、SP12基の計41基である。

a 井 戸 (SE)

SE25(図版29 写真図版18) D-3I-4B4・5・9に位置する。遺構確認面はⅦa1層上面で、土層断面で確認され南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.75mを測り、断面形は漏斗状を呈する。覆土は8層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器長甕(67)・甕か飯(68)、磨耗礫、円形板状製品(373)が出土している。

b 土 坑 (SK)

SK13(図版29 写真図版18) D-3I-9G5、9H1・6・7・12に位置する。遺構確認面はⅦa2層上面で、土層断面で確認され南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.34mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は8層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SD10・SP50を切る。非ロクロの土師器甕類(82～84)を主体に無台碗、須恵器有台杯(85)・杯蓋・甕(86)、粘土塊・羽羽、碗形滓(321)、砥石(346)が出土している。

c 溝状遺構 (SD)

SD1(図版29・30 写真図版18) D-3I-4C24、5C4・5・9・10・15、5D6・11に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦa1層上面で、主軸はN-6°-Eを指し、確認面での短軸2.32m、深さ0.73mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は11層に分層され、レンズ状堆積がみられる。規模や堆積状況などから自然流路の可能性がある。非ロクロの土師器甕、器種不明の須恵器小片、被熱礫(361)が出土している。

SD3(図版29・30 写真図版18) D-3I-4C17・18・22・23に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認

面はⅤa1層上面で、主軸はN-63°-Eを指し、確認面での短軸1.09m、深さ0.32mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は6層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕(72)を主体に無台杯(71)・壺、須恵器無台杯(73)、円筒形土製品(330)、被熱した磨耗礫がわずかに出土している。

SD4(図版29・30 写真図版18・21) D-3I-8G13・14・18・19に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅤa2層上面で、主軸はN-52°-Eを指し、確認面での短軸1.24m、深さ0.27mを測る。断面形は概ね弧状を呈し、覆土は3層に分層される。SD10を切る。非ロクロの土師器甕類(87~90)を主体にミニチュア無台杯(91)、須恵器杯蓋、羽口(322)が出土している。

SD7(図版29・30 写真図版19) D-3I-4C11・12・16・17に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅤa1層上面で、主軸はN-23°-Eを指し、確認面での短軸1.38m、深さ0.41mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は6層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕、黒色土器高杯(69)、被熱礫が出土している。

SD10(図版29 写真図版18) D-3I-8G13・18・19・23~25、9G4・5、9H1・6・7・12に位置し、南北端は調査区外へ延びる。調査区南北壁面で確認したが、SK13・SD4に切られ遺構プランは明瞭でない。遺構確認面はⅤa2層上面で、確認面での深さ0.36mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。非ロクロの土師器長甕(92)・無台碗を主体に、須恵器無台杯・杯蓋、被熱礫がわずかに出土している。

SD11(図版29・30 写真図版19) D-3I-9H12・13に位置し、東端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅤa2層上面で、主軸はN-52°-Eを指し、確認面での短軸0.30m、深さ0.28mを測る。断面形はV字状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD16(図版29・30 写真図版19・21) D-3I-8G12・13に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅤa1層上面で、主軸はN-52°-Eを指し、確認面での短軸0.91m、深さ0.21mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SD26(図版29・30 写真図版19) D-3I-4C23・24、5C3に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅤa1層上面で、主軸はN-29°-Eを指し、確認面での短軸0.66m、深さ0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層される。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SD29(図版29・30 写真図版19) D-3I-4B5・10、4C6に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅤa1層上面で、主軸はN-52°-Eを指し、確認面での短軸1.63m、深さ0.38mを測る。断面形は概ね弧状を呈し、覆土は3層に分層される。SP14・23を切る。遺物は出土していない。

SD31(図版29・30) D-3I-7F6に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅤa1層上面で、主軸はN-44°-Eを指し、確認面での短軸0.50m、深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

d 性格不明遺構(SX)

SX2(図版29・31 写真図版19) D-3I-4B4・5に位置し、北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅤa1層上面で、確認面での深さ0.47mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層され、ブロック状堆積がみられる。SX37を切る。非ロクロの土師器甕、須恵器杯蓋(70)が出土している。

SX37(図版29・31 写真図版19) D-3I-4C4に位置する。土層断面で確認し、大部分は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅤa1層上面で、確認面での深さ0.34mを測る。覆土は6層に分層され、ブロック状堆積がみられる。遺物は出土していない。

SX42(図版29・31 写真図版20) D-3I-6E19・24・25、7E4・5に位置する。北側は調査区外へ延び、南側は土剣溝で遺存しない。遺構確認面はⅤa1層上面で、確認面での深さ0.39mを測る。断面形は浅い台形状を呈する。覆土は5層に分層される。非ロクロの土師器甕(74~76)・壺(77)、須恵器無台杯(78・81)・有台杯(79・80)・杯蓋(転用瓶)・甕、円筒形土製品(326)、磨耗軽石が出土している。

SX44 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-4C6・11 に位置し、北側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦa1 層上面で、確認面での深さ 0.33m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 3 層に分層される。SP43 に切られる。遺物は出土していない。

e ビット (SP)

SP14 (図版 29) D-3I-4B10 に位置し、SD29 の底面で検出された。確認面での深さ 0.17m を測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP18 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-8F5 に位置する。遺構確認面はⅦa1 層上面であるが、検出が遅れたため遺構の規模・形状は異なる可能性がある。主軸は N-80°-E を指し、確認面での深さ 0.32m を測る。平面形は円形、断面形は V 字状を呈し、覆土は 3 層に分層される。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP20 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-4B4 に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦa1 層上面で、確認面での深さ 0.60m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は 8 層に分層され、柱痕が残る。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP23 (図版 29) D-3I-4C6 に位置し、SD29 の底面で検出された。確認面での深さ 0.13m を測る。平面形は円形で、断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SP36 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-4C11 に位置する。遺構確認面はⅦa1 層上面で、主軸は N-84°-W を指し、確認面での長軸 0.56m、短軸 0.48m、深さ 0.60m を測る。平面形は楕円形、断面形は漏斗状を呈する。覆土は 6 層に分層され、柱痕が残る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP38 (図版 29・31 写真図版 21) D-3I-4C11 に位置する。遺構確認面はⅦa1 層上面で、確認面での深さ 0.19m を測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈する。覆土は 3 層に分層され、ブロック状に堆積する。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP41 (図版 29・30 写真図版 21) D-3I-4C17 に位置する。遺構確認面はⅦa1 層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.44m を測る。断面形は変形した U 字状を呈する。覆土は 4 層に分層される。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP43 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-4C11 に位置する。遺構確認面はⅦa1 層上面で、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.24m を測る。断面形は U 字状を呈し、覆土は 3 層に分層される。SX44 を切る。遺物は出土していない。

SP47 (図版 29・31) D-3I-9H13 に位置する。遺構確認面はⅦa2 層上面で、確認面での深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP50 (図版 29 写真図版 18) D-3I-9H6・7・12 に位置する。SK13 の底面で検出された。確認面での深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

10) 2 区遺構各説 (下層)

Ⅶb 層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SD 7 基、SP 20 基の計 27 基である。

a 溝状遺構 (SD)

SD9 (図版 32 写真図版 21) D-3I-7F13・17・18 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-43°-E を指し、確認面での短軸 0.31m、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD15 (図版 32 写真図版 21) D-3I-8G13・18 に位置し、南側は調査区外へ延びる。主軸は N-45°-E を指し、確認面での短軸 0.37m、深さ 0.08m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SD19 (図版 32) D-3I-6E6・11 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-45°-E を指し、確認面での短軸 0.56m、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD28 (図版32 写真図版21) D-3I-7F18に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-41°-Eを指し、確認面での短軸0.36m、深さ0.13mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

d ビット(SP)

SP24 (図版32) D-3I-9H1に位置する。遺構掘削中に壁面が崩落し、十分な記録が取れなかった。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が1点出土している。

SP48 (図版32) D-3I-8G19・24に位置する。SD10の底面で検出されたが、覆土などから下層遺構と判断した。北側は調査区外へ延び、確認面での深さ0.23mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP51 (図版32 写真図版17) D-3I-7F11に位置する。深堀中の土層断面で検出された。南側は調査区外へ延び、確認面での深さ0.34mを測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は3層に分層され、ブロック状に堆積する。柱根が出土している(375)。

SP52 (図版32 写真図版21) D-3I-8G24に位置し、確認面での深さ0.27mを測る。断面形はU字状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している(374)。

SP53 (図版32 写真図版21) D-3I-9H6に位置し、確認面での深さ0.15mを測る。断面形は漏斗状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している(376)。

11) 3区 遺構(上層)

黒褐色粘質土等からなるⅦa～Ⅶb・Ⅶc1層中に帰属するかあるいは、その可能性が高い遺構を一括した。検出した遺構は、SN(水田畔)3条・SD6基・SP3基の計12基である。

a 水田跡(SN)

調査区中央の10H6E～8Iで検出された。全て南北両壁面の土層断面で確認された畦状遺構であり、形状や方向は土層断面をもとに復元した。

SN45 (図版33 写真図版23) D-4J-4C20・25、4D16・21・22に位置する。遺構確認面はⅦb2層下面で、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-80°-Eを指し、確認面での高さ0.37mを測る。概ね台形状を呈する盛土で、4層に分層される。SD46・47に切られる。SD47の上部に1層が認められるため、一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SN48 (図版33・34 写真図版24) D-4J-3B25、3C21・22に位置する。遺構確認面はⅦa2層下面で、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-72°-Eを指し、確認面での高さ0.51mを測る。台形状を呈する盛土で、5層に分層される。SD50を切るが、SD49・51に切られる。これらは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SN54 (図版33) D-4J-4D13・14に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb2層下面で、南側の土層断面のみで確認した。確認面での高さ0.20mを測る。弧状を呈する盛土で、3層に分層される。SD19を切る。遺物は出土していない。

b 溝状遺構(SD)

SD46 (図版33 写真図版23) D-4J-4C25に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb1層上面で、確認面での深さ0.07mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SN45とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD47 (図版33 写真図版23) D-4J-4C25、4D21に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb2層上面で、確認面での深さ0.13mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。SN45とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD49 (図版33・34) D-4J-3C21・22、4C1・2に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb2層上面で、主軸はN-49°-Eを指し、確認面での幅は南側が広く北側の約3倍で0.92m、深さ0.18mを測る。また、

南北で断面形が異なり別の遺構の可能性もある。断面形はU字状～弧状を呈し、覆土は2層に分層される。形状・方向などの類似するSD51と共にSN48とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD50 (図版33・34) D-4J-3B20に位置し、南側は調査区外へ延びる。土層断面で確認し、遺構プランは不明瞭である。遺構確認面はⅦc1層上面で、確認面での深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し覆土は単層である。堆積状況などからSN48とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD51 (図版33・34) D-4J-3B20・25、3C16・21に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb2層上面で、主軸はN-89°-Eを指し、確認面での幅は南側が広く北側の約3倍で0.90m、深さ0.30mを測る。また、南北で断面形が異なり別の遺構の可能性もある。断面形はV字状～弧状を呈し、覆土は2層に分層される。形状・方向などの類似するSD49と共にSN48とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD53 (図版33 写真図版23) D-4J-4D16・21に位置し、北側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb2層上面で、確認面での深さ0.12mを測る。断面形は概ね弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

c ピ ッ ト (SP)

SP1 (図版33・34) D-4I-1J19に位置する。土層断面で検出し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb2層上面で、確認面での深さ0.14mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP10 (図版33・34 写真図版24) D-4J-5D2に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc1層上面で、確認面での短軸0.44m、深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SP52 (図版33 写真図版23) D-4J-4D21に位置し、北側は調査区外へ延びる。壁面のSN45土層断面中で検出し、確認面での深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SN45に関係する可能性もある。遺物は出土していない。

12) 3 区 の 遺 構 (中層)

Ⅶa1層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SK6基、SD14基、SX2基、SP13基の計35基である。

a 土 坑 (SK)

SK4 (図版35) D-4J-3B20・25、3C16・21に位置し、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.17mを測る。断面は皿状を呈し、覆土は単層で、SD3に切られる。非ロクロの土師器甕、須恵器杯蓋が各1点出土している。

SK5 (図版35 写真図版24) D-4J-3B15・20に位置し、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.33mを測り、断面はやや台形状を呈する。覆土は4層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕、円筒形土製品(331)・磁石(349)が出土している。

SK20 (図版35) D-4J-2A19に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.15mを測り、断面形は皿状を呈する。覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕(93)が出土している。

SK24 (図版35 写真図版24) D-4J-3B20に位置し、北側は土側溝で遺存しない。主軸はN-46°-Wを指し、確認面での長軸0.67m、深さ0.20mを測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈する。覆土は4層に分層され、ブロック状堆積がみられる。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、磨耗礫・磨耗軽石がわずかに出土している。

SK36 (図版35) D-4J-5E16・21に位置する。北側は調査区外へ延び、南側は大部分が土側溝で遺存しない。確認面での深さ0.17mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕(94)が出土している。

SK37 (図版35) D-4I-1J19に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.52mを測る。断面形は漏斗状を呈し、覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SX12を切る。非ロクロの土師器甕が出土している。

b 溝 状 遺 構 (SD)

SD3 (図版35) D-4J-3B20、3C16に位置し、北側は調査区外へ延びる。主軸はN-48°-Eを指し、確認面での短軸0.25m、深さ0.05mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。SK4を切る。遺物は出土していない。

SD7 (図版35 写真図版24) D-4J-3C22、4C1・2に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-49°-Eを指し、確認面での短軸0.29m、深さ0.20mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は2層に分層される。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、焼礫が出土している。また、2層からモモの核が11点と多量に出土した。

SD9 (図版35) D-4J-4C20、4D16に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-60°-Eを指し、確認面での短軸0.58m、深さ0.12mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は2層に分層される。非ロクロの土師器甕、須恵器有台杯(95)が出土している。

SD11 (図版35) D-4I-1J19に位置する。主軸はN-64°-Eを指し、一部土側溝で遺存しないが、確認面での長軸0.65m、短軸0.24m、深さ0.12mを測る。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD15 (図版35 写真図版25) D-4J-2A25、2B21に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-70°-Eを指し、確認面での短軸0.17m、深さ0.07mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SD41を切る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が出土している。

SD18 (図版35 写真図版25) D-4J-5D3・7・8に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-70°-Eを指し、確認面での短軸0.78m、深さ0.21mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕、須恵器壺・瓶類(96)、磨耗礫が出土している。

SD19 (図版35) D-4J-5D8・9・13・14に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-65°-Eを指し、確認面での短軸0.70m、深さ0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SD40を切る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が出土している。

SD21 (図版35 写真図版25) D-4J-2A1・2・7・8・13に位置する。調査区に平行するが南側は蛇行して調査区外へ延びる。主軸はN-45°-Wを指し、確認面での短軸0.42m、深さ0.25mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層される。中央部分に直径約0.50mの炭化物集中が認められた。非ロクロの土師器甕を主体に、須恵器有台杯(97)、磨耗礫が出土している。

SD22 (図版35・36) D-4J-5D14・15・19・20に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-48°-Eを指し、確認面での短軸0.94m、深さ0.17mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、須恵器杯が出土している。

SD23 (図版35・36) D-4J-5D20、5E16に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-68°-Eを指し、確認面での短軸0.52m、深さ0.11mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。土師器の小片が1点出土している。

SD33 (図版35・36 写真図版25・26) D-4J-4C2・3・7・8に位置し、南側は調査区外へ延びる。主軸はN-66°-Eを指し、確認面での短軸0.44m、深さ0.24mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕・無台杯(98)が出土している。

SD35 (図版35・36 写真図版26) D-4J-4D21に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-63°-Eを指し、確認面での短軸0.31m、深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕、須恵器甕(100)が出土している。

SD40 (図版35・36 写真図版26) D-4J-5D8・9・13・14に位置し、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.73mを測る。SD19直下で検出され、断面形は漏斗状を呈する。覆土は4層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕、須恵器甕(99)が出土している。

SD41 (図版35・36 写真図版26) D-4J-2A25、2B21に位置し、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.23mを測る。SD15直下で検出され、断面形はU字状を呈する。覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構(SX)

SX12 (図版35) D-4I-1J19に位置し、南側は調査区外へ延びる。東側もSK37に切られ、遺構プランは不明瞭

である。確認面での深さ0.14mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕、磨耗礫が出土している。

SX27 (図版35・36) D-4I-1J25、4J-1A21に位置し、西側は調査区外へ延びる。主軸はN-76°-Eを指し、確認面での深さ0.28mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。下層遺構(SP59)の柱根が検出された。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

d ピ ッ ト (SP)

SP2 (図版35・36) D-4J-3C21に位置し、北側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ0.13mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP8 (図版35・36) D-4J-2A2に位置し、東側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ0.20mを測る。断面形はV字状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SP13 (図版35・36 写真図版25・26) D-4J-2B21に位置し、北側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ0.10mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP14 (図版35・36) D-4J-2B21に位置し、確認面での長軸0.32m、短軸0.26m、深さ0.08mを測る。平面形は円形、断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP16 (図版35・36) D-4J-2A20・25に位置し、確認面での長軸0.20m、短軸0.17m、深さ0.04mを測る。平面形は円形、断面形はV字状を呈し、覆土は単層である。土師器の小片が1点出土している。

SP17 (図版35・36) D-4J-2A25に位置し、確認面での長軸0.21m、短軸0.18m、深さ0.07mを測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP25 (図版35・36) D-4J-3C21に位置し、中央部分がサブトレンチで遺存しない。確認面での長軸0.60m、深さ0.06mを測る。平面形は楕円形、断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕が1点出土している。

SP26 (図版35・36) D-4I-1J20に位置し、確認面での深さ0.10mを測る。北側は土側溝で遺存しないが、断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP29 (図版35・36) D-4I-1J13・14に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.40mを測る。断面形はU字状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP34 (図版35・36 写真図版26) D-4J-4C8に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.13mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SP44を切る。遺物は出土していない。

SP42 (図版35・36) D-4J-2A14・19に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.11mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SP43 (図版35・36) D-4I-1J13に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.20mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP44 (図版35・36 写真図版25・26) D-4J-4C8に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.44mを測る。断面形はV字状を呈し、覆土は2層に分層される。SP34に切られる。遺物は出土していない。

13) 3 区 遺 構 各 説 (下層)

Ⅶb層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SK2基、SX2基、SP8基の計12基である。

a 土 坑 (SK)

SK31 (図版37) D-4J-3B20に位置する。北側は土側溝で一部遺存しないが、主軸はN-83°-Wを指し、確認面での長軸0.61m、短軸0.47m、深さ0.21mを測る。平面形は楕円形、断面形は概ね弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK38 (図版37) D-4I-1J20・25、4J-1A21に位置する。北側は土側溝で遺存しないが、主軸はN-46°-Wを指し、確認面での長軸1.53m、深さ0.21mを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は2層に分層される。遺構内で

SP60 が検出された。遺物は出土していない。

b 性格不明遺構 (SX)

SX30 (図版37 写真図版26) D-4J-3B14・15・19・20に位置する。西側は湧水で崩落したため調査できなかったが、確認面での短軸1.02m、深さ0.17mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕(101)が出土している。

SX39 (図版37 写真図版26・27) D-4J-5D2に位置し、部分的に土側溝で遺存しない。主軸はN-18°-Wを指し、確認面での長軸1.29m、短軸0.70m、深さ0.13mを測る。断面形は皿状を呈し、基底面はやや起伏する。覆土は単層である。非ロクロの土師器甕類(102・103)を主体に、黒色土器高杯(104)、円筒形土製品が出土している。

c ビット (SP)

SP28 (図版37) D-4I-1J13に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での短軸0.47m、深さ0.28mを測る。断面形は不定形で、覆土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SP55 (図版37 写真図版27) D-4J-4C14に位置し、確認面での短軸0.22m、深さ0.47mを測る。断面形はV字状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している(377)。

SP56 (図版37 写真図版27) D-4J-4C2に位置し、確認面での長軸0.28m、短軸0.24m、深さ0.48mを測る。崩落の怖れがあり、底までは掘削できなかった。覆土は単層で、柱根が出土している(378)。

SP57 (図版37 写真図版27) D-4J-2A7に位置し、確認面での長軸0.26m、短軸0.24m、深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している(379)。

SP58 (図版37 写真図版27) D-4J-2A1に位置し、確認面での長軸0.20m、短軸0.19m、深さ0.32mを測る。断面形はU字状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している(380)。

SP59 (図版37 写真図版27) D-4J-1A21に位置し、SX27内で検出された。確認面での長軸0.24m、短軸0.22m、深さ0.21mを測る。崩落の怖れがあり、底までは掘削できなかった。覆土は単層で、柱根が出土している(381)。

SP60 (図版37 写真図版27) D-4I-1J20・25に位置し、SX38内で検出された。確認面での長軸0.30m、短軸0.27m、深さ0.05mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している(382)。

SP61 (図版37 写真図版27) D-4I-1J18に位置し、確認面での長軸0.20m、短軸0.18m、深さ0.18mを測る。崩落の怖れがあり、底までは掘削できなかった。覆土は単層で、柱根が出土している(383)。

14) 第6次調査区の遺構(上層)

黒褐色粘質土等からなるⅦa～Ⅶb・Ⅶc1層中に帰属するあるいは、その可能性が高い遺構を一括した。検出された遺構は、Ⅶa6・Ⅶb層中に畝と畝間で構成されるSN(畝跡)と、SD3基である。特に、畝状遺構は調査区中央～西側で多数認められた。

a 畝跡 (SN) (図版40 写真図版29)

調査区西半のD-3I-5A～6Bで確認された。これらは1区で確認されたⅦa4層の下で認められ、調査区南北両壁面のⅦa6・Ⅶb層中で明瞭に観察された。特にⅦb層は未分解腐植物を主体とする土壌で、断面形がU～V字状の畝間(1・2層)が比較的等間隔に並び、その左右両側は畝の盛土(3・4層)と考えられる。1・2区のように畝間の下部に認められたような粘性の強い土壌(5層)は観察できなかった。また、この畝跡が認められるⅦa6・Ⅶb層は、調査区全体に認められ、西側ほど畝・畝間ともに明瞭であった。なお、畝跡は非常に多数の畝・畝間で構成されるため、遺構番号は付けず観察表と代表的な土層断面を示した。遺物は出土していない。

b 溝状遺構 (SD)

SD1 (図版40 写真図版29) D-3I-10F9・10に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦb1層で、主軸はN-75°-Eを指し、確認面での短軸1.08m、深さ0.19mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。非ロクロの土師器甕、須恵器有台杯(105)・甕が出土している。

SD7 (図版40 写真図版29) D-3I-7D22・23、8D2・3に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc1層で、主軸はN-20°-Eを指し、確認面での短軸2.14m、深さ0.41mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が出土している。

SD8 (図版40 写真図版30) D-3I-6C16・21に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc1層で、主軸はN-60°-Eを指し、確認面での短軸0.50m、深さ0.17mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は単層である。器種不明の土師器小片が出土している。

15) 第6次調査区の遺構(中層)

Ⅶa1層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SD7基、SX2基の計9基である。

a 溝状遺構(SD)

SD2(図版41) D-3I-9F17・18・22～24、10F4に位置し、東側は調査区外へ延びる。主軸はN-57°-Wを指し、確認面での短軸0.47mを測る。SD3と合流するが新旧関係は明瞭でない。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕を主体に、無台碗1点が出土している。

SD3 (図版41 写真図版30) D-3I-9F17・22に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-2°-Wを指し、確認面での短軸0.46m、深さ0.14mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。南側に別の遺構の存在も考えられ、合流するSD2との新旧関係も明瞭でない。非ロクロの土師器甕を主体に壺、黒色土器鉢、磨耗礫が出土している。

SD9 (図版41 写真図版31) D-3I-6B20、6C16に位置し、南北端は調査区外へ延びる。東側は土側溝で遺存しない。主軸はN-66°-Eを指し、確認面での短軸0.99m、深さ0.21mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕、須恵器杯蓋が出土している。

SD15 (図版41 写真図版30) D-3I-5A15・20、5B16に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-32°-Eを指し、確認面での短軸0.72m、深さ0.29mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。SX11を切る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が多量に出土している。

SD18 (図版41 写真図版30) D-3I-5A20、5B16・21に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-31°-Eを指し、確認面での短軸0.94m、深さ0.27mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は単層である。SX11を切る。遺物は出土していない。

SD19 (図版41 写真図版30) D-3I-5B21・22に位置し、東側は調査区外へ延びる。主軸はN-70°-Eを指し、確認面での短軸0.34m、深さ0.17mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は2層に分層される。SX11を切る。遺物は出土していない。

SD20 (図版41) D-3I-6B2・3に位置し、西側は試掘坑で遺存せず南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.26mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。SX11を切る。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

b 性格不明遺構(SX)

SX11 (図版41 写真図版30) D-3I-5A、5B、6Bに位置し、大部分は調査区外へ延びる。規模が大きく南側土層断面で東西方向に11.60m、確認面での深さ0.30mを測る。断面形は概ね皿状を呈し、覆土は2層に分層される。SD15・18・19・20に切られる。出土遺物は多く、非ロクロの土師器甕類(107～110)が主体を占めるが、壺(111・112)、須恵器無台杯・有台杯(113・114)、黒色土器鉢(106)、土製支脚(333)・焼成粘土塊(341)、被熱礫・磨耗礫(352・353)が出土している。

SX12 (図版41) D-3H-4J14・15・20・25に位置し、東側は試掘坑で遺存せず大部分が調査区外へ延びる。確認面での深さ0.26mを測る。覆土は2層に分層される。非ロクロの土師器甕を主体に、無台碗が出土している。

16) 第6次調査区の遺構(下層)

Ⅶb層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SK1基、SD8基の計9基である。

a 土坑(SK)

SK5 (図版42 写真図版30) D-3I-8E22に位置し、東側がわずかに調査区外へ延びる。主軸はN-58°-Wを指し、確認面での長軸1.07m、深さ0.11mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

b 溝状遺構(SD)

SD4 (図版42 写真図版31) D-3I-9F11・12・16・17に位置する。大部分が土側溝と既設コンクリートで遺存しない。確認面での深さ0.15mを測り、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕を主体に、円筒形土製品(332)、搬入礫と考える自然礫がわずかに出土している。

SD6 (図版42 写真図版31) D-3I-8D8～10・14・15・20、8E11に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-61°-Eを指し、確認面での短軸3.58m、深さ0.07mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は4層に分層される。出土遺物は多く、非ロクロの土師器甕類(115～122)を主体に壺(123)、須恵器無台杯(124)・有台杯(125)・杯蓋・壺瓶類(126)、円筒形土製品(327)、砥石(343)・磨耗礫・磨耗軽石(355)・敲石・被熱礫が出土している。

SD10 (図版42) D-3I-6B8・9に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-70°-Eを指し、確認面での短軸0.47m、深さ0.10mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、黒色土器、磨耗礫・被熱礫がわずかに出土している。

SD13 (図版42 写真図版31) D-3H-4J3・8・9・13・14に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-8°-Eを指し、確認面での深さ0.22mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は2層に分層される。非ロクロの土師器甕・壺が出土している。

SD14 (図版42 写真図版31) D-3I-4A16・21に位置する。東側は土側溝で遺存せず、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-43°-Eを指し、確認面での短軸0.82m、深さ0.23mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が出土している。

SD16 (図版42) D-3H-4J14・15に位置し、SX12の底面で検出されたが、下層遺構であるSD17・21との切り合い関係が明瞭でなかったため、同じ下層遺構と判断した。主軸はN-77°-Eを指す。南側は調査区外へ延びる。東端はSD21と合流するが新旧関係は明瞭でない。確認面での短軸0.51m、深さ0.40mを測り、覆土は単層である。図示し得なかったが、須恵器無台杯、被熱礫・磨耗礫・磨耗軽石が出土している。

SD17 (図版42 写真図版31) D-3H-4J20・25、3I-4A21に位置する。主軸はN-17°-Wを指し、南側は調査区外へ延びる。東端はSD21と合流するが新旧関係は明瞭でない。確認面での短軸0.50m、深さ0.16mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD21 (図版42) D-3H-4J15・19・20に位置する。試掘坑の底面で検出され、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.09mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SD16・17との新旧関係は明瞭でない。出土遺物は多く、非ロクロの土師器甕を主体に、杯(127)・手づこね(128・129)、須恵器無台杯、磨耗礫が出土している。

17) 第10次調査区の遺構

VII(本調査でのVIIc2)層上面およびVIII(本調査でのVIIIa)層上面を確認面とする遺構である。それぞれ中層上面・下面に相当する。検出された遺構は、上面がSX7基で、下面がSK1基・SX1基・SP1基の計10基である。ここでは中層下面で検出されたSK1についてのみ記載する。

SK1 (図版43) B-6D-10I16に位置し、主軸はN-17°-Wを指す。工事立会中の検出であり、南西側は遺存しない。平面形は楕円形と推定され、確認面での深さ0.31mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は褐色灰色粘質土で炭化物を含む。底面には土師器長袋2個体(275・276)が逆方向に口縁部を合わせた、いわゆる合わせ口の状態で出土した。土師器長袋2個体を埋納する土器棺墓と考える。他に、無台碗小片が1点出土している。

第V章 遺 物

第1節 概 要

今回の調査では土器・土製品・石製品・鍛冶関連遺物・木製品が出土している。その量は、コンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）にして101箱であり、内訳は、土器88箱、土製品2箱、石製品5箱、鍛冶関連遺物1箱、柱根を含む木製品5箱（コンテナ内寸130.5×30.0×17.8cm）である。各調査区における種別ごとの内訳は煩雑になるため割愛するが、全体量は第6次調査8箱、第8次調査の1区37箱、2区31箱、3区21箱、第9次調査の4区7箱、5区1箱である。遺構出土遺物は少なく、土器でみると1/5ほどの20箱である。

遺跡からは全体形状の分かる残存率の高い土器が多く出土した。掲載遺物の抽出にあたり、調査区が狭小で部分的な遺構の調査となったことを考慮し、遺構出土遺物よりも残存率の高い資料を優先している。また、類似資料の重複掲載を避け、バラエティに富んだ様相が分かるように努めた。

接合資料については、その帰属判断が難しいが、遺構出土資料が含まれる場合には基本的に遺構出土遺物として扱い、複数の遺構資料が含まれる場合には遺構の切り合いや破片の大きさなどで帰属を決めている。ただし遺物の分布状況は遺構の範囲内でまとまっている地点もあるが、上・中・下層で検出した遺構の範囲とは必ずしも一致しない（図版7・27・39）。また、遺構外出土の遺存率の高い遺物も多く、遺構出土遺物と接合しても、その破片の大きさ等から遺構外出土とした遺物もある。なお、接合関係は観察表（別表2）に記載した。

遺構出土資料は第IV章の遺構順に、その他の遺物については量が少ないため器種ごとに記載した。また、確認調査や工事会時出土の遺物も多く、主な出土地点を第8図に示した。各遺物の属性・情報は観察表（前掲）にまとめたが、特に注意される点や補足については本文に記した。各項目の注意点は、別表2の最初に示している。

第2節 土 器

出土した土器の大半は奈良・平安時代であり、上・中・下層で土師器・須恵器を中心に黒色土器と、灰軸陶器・中世土師器がわずかに出土している。土師器・須恵器の層位ごとのグリッド別重量分布は図版7・27・39に示したとおりである。全ての地区で須恵器よりも土師器が多く出土している。1・4・5区は上・中層上面の遺物量が多く、特に土師器が圧倒的である。2区は検出遺構数に比して下層出土の土師器が多く、3区の遺物分布は遺構範囲と概ね一致する。第6次調査区は他の地区とは逆に下層の遺物出土量が際立って多い。土器は、一般的な器種が揃い、在地か周辺で製作されたものが主体と考えるが、細かい時期区分で見ると偏りや変化がみられる。また、東北地方に特徴的な土師器（89・200・242など）が存在し、遺跡の性格に関係して注目される。

なお、出土土器の編年の位置づけや時期区分は春日編年[1999・2000・2005など]を基本としており、本資料の時期・生産地について春日真実氏にご教示いただいたことを併記しておく。

A 実測図の表現と観察項目

成形・調整技法の表現・名称は、『山三賀II遺跡』[坂井ほか1989]を参考に以下のとおりとした。

1. ナデ・ケズリ・ハケメ・ミガキ…ロクロの回転を利用しない調整。
2. ロクロナデ・ロクロケズリ・カキメ…ロクロの回転を利用した調整。
3. タタキメ・あて具痕…タタキ調整によって外面と内面にみられる工具痕。

4. 底部のヘラ切り・糸切り…ロクロの回転を利用した切り離し。

また、実測図では径の復元が困難なものについて中軸線から稜線等を離すことで表現し、調整が変換する場所については実線とした。土器の色調は外面の色調を記載したが、器面の場所によって色調が異なるものについては、最も広い範囲で確認されるなど平均的な色調を示した。

胎土は、10～20倍のルーペを使用し肉眼観察を行った。長石・石英・雲母・角閃石・各種岩石や砂粒・海綿動物骨針・赤色粒子・白色粒子が観察された。土器器は、前山〔2012〕などを参考に長石・石英・各種岩石や砂粒について、表面が摩耗しているか否かと含有量を観察し以下のように分類した。

I群…磨耗した石英・長石・各種岩石を主体的に含むもの。さらに破碎した石英・長石・各種岩石を中量含むものをIa類、少量含むものをIb類、相対的に少ないものをIc類とした。

II群…破碎した石英・長石および各種岩石を主体的に含むもの。さらに磨耗した石英・長石・各種岩石を中量含むものをIIa類、少量含むものをIIb類、相対的に少ないものをIIc類とした。

III群…磨耗および破碎した石英・長石・各種岩石を主体的に含むもの。多量に含むものをIIIa類、相対的に少ないものをIIIb類とした。

IV群…磨耗・破碎にかかわらず石英・長石・各種岩石の破片をほとんど含まないもの。

I群が最も多く、II群が次ぐ。混和材は、土器の製作段階で混入されたものであり、当時付近を流れていた信濃川水系の河川から採取した可能性が高い。しかし、約3割を占めるII群に顕著な破碎した石英・長石・各種岩石などは、意図的な混入とも考えられる。また、混和材をほとんど含まないIV群の煮炊具は1点もなかった。

須恵器は、胎土が生産地を反映していると思われるため、これまでの研究成果〔坂井1989・春日2000・春日²⁰⁰¹〕を参考に下記の3群に分け、本文・観察表に記載した。

A群…1mm前後の長石・石英・砂粒を定量含む。粘質が強く、器面は滑らかである。新津丘陵窯跡群など信濃川右岸で生産された可能性が高いもの。

B群…1mm以下の細かい白色小粒子を多量に含む。砂質が強く、混入物の少ない精白な胎土で器面に黒色の斑点、吹き出しがみられる。佐渡の小泊窯跡群で生産された可能性が高いもの。

C群…石英・長石を多量に含み、小礫が露出する。粘質が強く、器面はざらついている。笹神丘陵の笹神・真木山窯跡群を中心とする阿賀北地方で生産された可能性が高いもの。

D群…A～C群以外のものを一括した。

このD群の産地については、遺跡周辺の信濃川左岸に存在する角田山麓・西古志地域の窯跡群などが候補としてあげられる。また、頸城地域の窯跡産と考えられるものなどもあるが、分る範囲で個別に記述した。

B 土器の分類

種別ごとに製作技術や形態的特徴などで器種分類を行った。同一器種内の大別はA・B…、細別は1・2…、さらに形態などによる細々別にはa・b…を用いた。法量による分類にはI・II…を用いて、その組み合わせにより分類を表している。なお、出土量が少ないものについては器種名のみ表記した(第5～7図)。

須 恵 器

無台杯 口径でI(14cm以上)・II(12～13cm前後)・III(12cm以下)に大別し(主体はII類)、さらに器高指数(器高÷口径×100)で細別した。底部切り離しはヘラ切りが主体であるが、回転糸切りも1点認められた(233)。

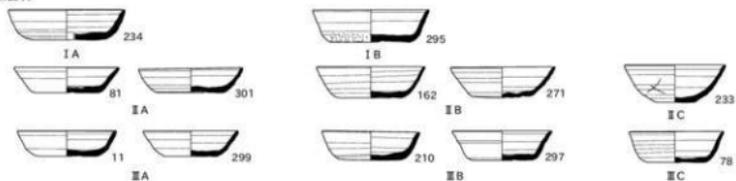
A類: 器高指数が26以下の比較的身が浅いもの

B類: 器高指数が27～30前後のもの

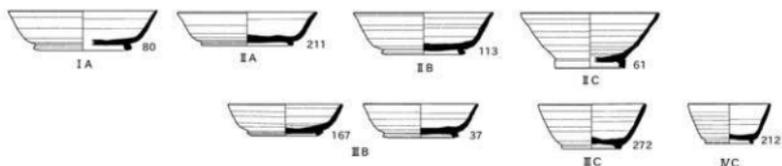
C類: 器高指数が32以上の比較的身が深いもの

有台杯 口径でI(18cm以上)・II(15～17cm前後)・III(12～14cm前後)・IV(10cm以下)に大別し(大平がII・III類)、器高指数で細分した。

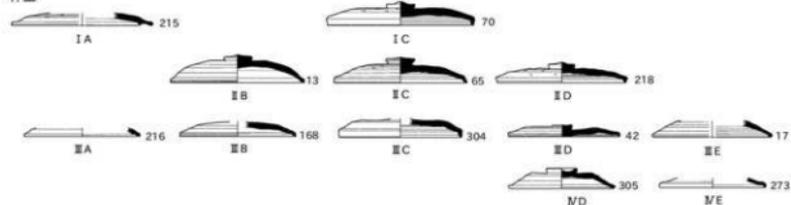
無台杯



有台杯



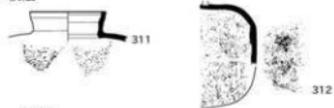
杯蓋



鉢

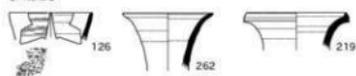


横瓶



壺・瓶類

【口縁部】



【底部】



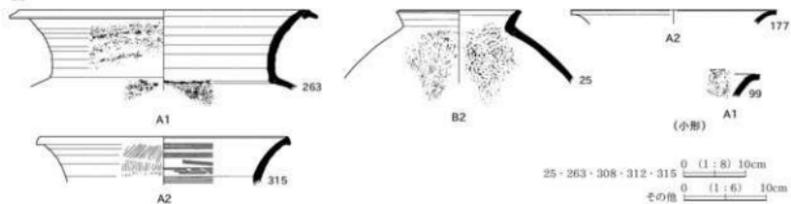
【体部】



壺蓋



甕



25・263・308・312・315 0 (1:8) 10cm
その他 0 (1:6) 10cm

第5図 奈良・平安時代の須恵器器種分類

A 類：器高指数が 24 以下の比較的身が浅いもの

B 類：器高指数が 26～29 前後のもの

C 類：器高指数が 36 以上の比較的身が深いもの

杯 蓋 口端部径で I (17cm 以上)・II (15～16cm 前後)・III (13～14cm 前後)・IV (12cm 前後) に大別し (主体はⅢ類)、見受けのかえりの有無と口端部の形態で細別した。内外面に墨書や刻書が施されたものがある。

A 類：内面に身受けのかえりを持つもの

B 類：内面に身受けのかえりを持たず、口縁端部がほとんど垂下しないもの

C 類：内面に身受けのかえりを持たず、口縁端部が長く垂下するもの

D 類：内面に身受けのかえりを持たず、口縁端部が短く垂下し断面が逆三角形になるもの

E 類：内面に身受けのかえりを持たず、口縁端部が短く垂下し断面が玉縁状となるもの

鉢 体部が逆ハの字状に開き口縁部は直立する。口縁端部が丸く取まるものと、内面が肥厚し端面を持つものがある。

横 瓶 依型の体部をもつ。

長頸瓶 長い頸部をもつ瓶ないしは壺。全体形状の分かる個体はない。体部外面下半はケズリが施される。

壺・瓶類 全体形状の分からない破片資料のみであり、貯蔵具ではあるものの壺か瓶か判断の付かないものを一括した。口縁部は、直立するものと逆ハの字状に開くものがあり、後者の端部は丸く取まるもの (126・262) とつまみあげられるもの (219) がある。外面には横位沈線間に波状文が施されるものがある (126)。体部は曲線的あるいは直線的な器形を呈し、外面には 2 条の横位沈線が上方や下方に認められる。また、横位沈線間にハの字状の刻みが施されるものもある (237)。底部は、平底と脚付きがあり、脚の形状はハの字状に開くだけのもの (3) と末端部が内折して接地面の細いもの (96) がある。また、貫通する孔が開けられているものもある (96)。

短頸壺蓋 壺にともなうもの。1 点のみ出土している (169)。

甕 口縁部形態で大別し、口縁部に施される波状文の有無で細別した。外面のタタキメは平行線文、内面のあて具痕は同心円文が施されたものが多い。器壁の厚い大形と薄い小形があると思われる。

A 類：長く外反してのびるもの

B 類：短く直線的にのびるもの

[口縁部文様]

1 類：波状文が施されるもの

2 類：波状文が施されないもの

土 師 器

無台杯 ロクロ使用の有無で分けた。底部形態は丸底と平底があり、器形や法量にもバラエティがある。

A 類：ロクロを使用していないもの (ロクロがみられない)

B 類：ロクロを使用しているもの (ロクロがみられる)

無台碗 すべてロクロを使用している。口径で I (18cm 以上)・II (15～16cm 前後)・III (14cm 以下) に大別し (主体はⅢ類)、さらに器高指数で細別した。底部切り離しは大半が回転糸切りである。

A 類：器高指数が 32 以下の比較的身が浅いもの

B 類：器高指数が 33 のもの

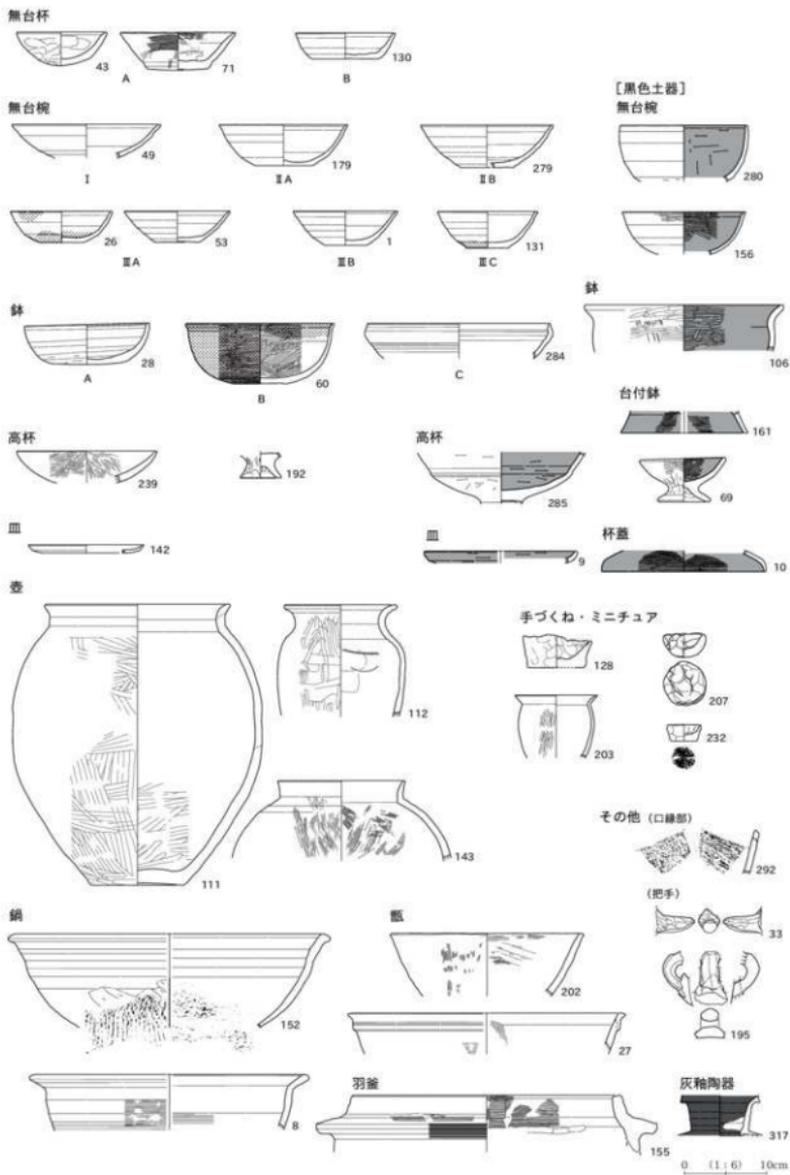
C 類：器高指数が 34 以上の比較的身が深いもの

鉢 すべてロクロを使用している。口縁部形態で分けた。

A 類：直立するもの

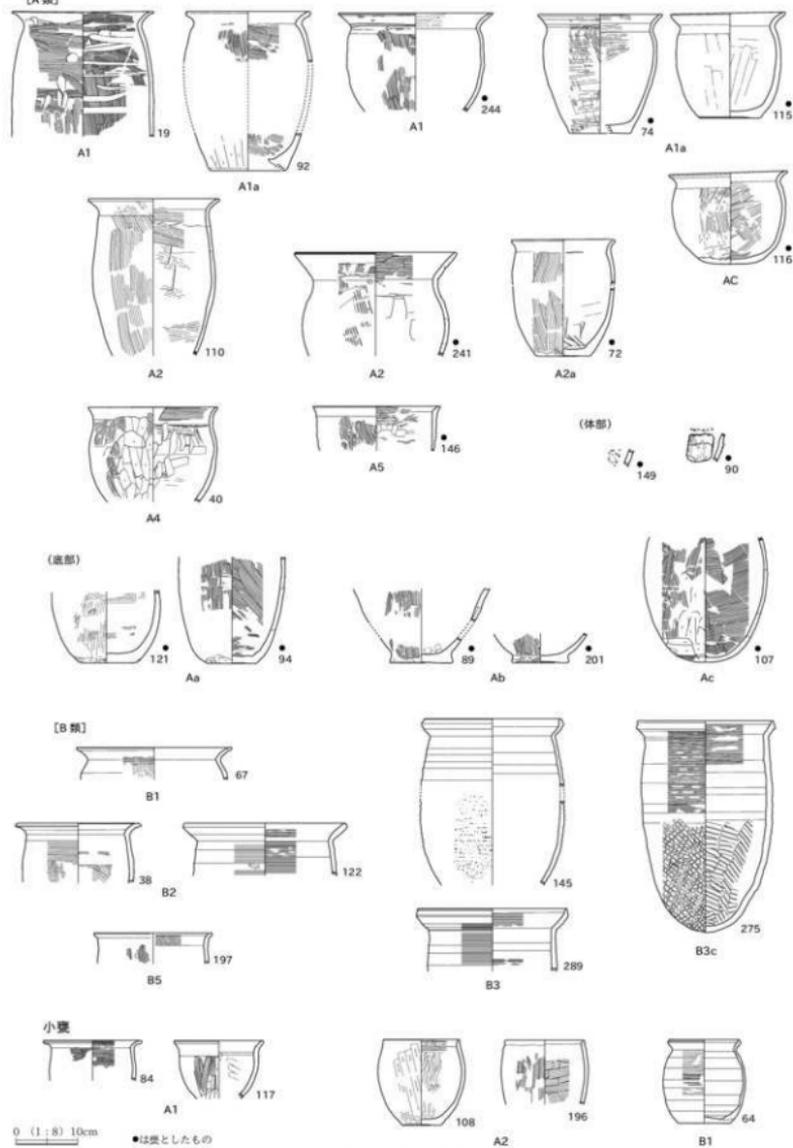
B 類：端部が外反するもの

C 類：内側に屈曲するもの



第6図 奈良・平安時代の土師器・黒色土器器種分類

長頸・壺
[A類]



第7図 奈良・平安時代の土師器器種分類

高杯 内外面ともに丁寧なヘラミガキが施された杯部とナデ調整による脚部が1点ずつ出土している。

皿 身のごく浅い器。法量の異なる皿が1点ずつ出土している。319は中世土師器である。

壺 頸部がしまり、体部のふくらみが大さいもの。内外面をヘラケズリ後にヘラミガキされる。体部が丸くふくらむもの(111・143)と肩が張るようにふくらむもの(112)がある。大形と小形がみられる。

長甕・腰 口径が19cm～26cmの煮炊具。体部が細身で長胴の長甕と、体部が張り比較的短胴の甕に分かれる。製作技法上で大きく異なるロクロ使用の有無(カキメがみられるか否か)で大別し、それぞれ口縁部・底部形態により細別した。A2類には「西古志型甕」[坂井1990^{註6)}]が含まれる。体部外面にハケメ調整後に数条の斜位沈線が施されるもの(149)や、粘土帯の接合部分が工具により波状を呈するもの(90・252)などがある。

A類:ロクロを使用していないもので、体部内外面にハケメが施されるもの

B類:ロクロを使用しているもので、体部内外面にハケメが施されるもの

C類:ロクロを使用しているもので、体部にカキメ・タタキメ(あて具痕)がみられるもの

[口縁部形態]

1類:くの字状に外反し、端部が丸く収まるもの

2類:くの字状に外反し、端部が面取りされて断面が四角形となるもの

3類:くの字状に外反し、端部が面をもち、上方につまみ上げられているもの

4類:緩やかに外反し、端部が丸く収まるか先細りするもの

5類:直立気味に立ち上がり、外傾して端部が丸く収まるか先細りするもの

[底部形態]

a類:平底で、体部にかけて直線的に立ち上がるもの

b類:平底で、体部にかけて明瞭な段をもって立ち上がるもの

C類:丸底のもの

小 甕 口径が16cm未満の煮炊具。ロクロ使用の有無で大別し、口縁部形態により細分した。

A類:ロクロを使用していないもので、体部内外面はハケメを主体にヘラケズリ・ヘラミガキされる

B類:ロクロを使用しているもので、体部にカキメやロクロメがみられる

[口縁部形態]

1類:口縁部がくの字状に外反するもの

2類:口縁部が直立気味に立ち上がるもの

鍋 口径が30cm以上で、口径に比べ器高が低い煮炊具。口縁部から底部まで残存のものはないが、すべてロクロを使用している。口縁部は、強く外反するものや段をもつものなどバラエティがある。

甕 口縁部が直立する。全体形状の分かるものは出土していないが、体部が直線的に外傾する器形から甕と判断した。ロクロ使用で口縁部外面に段をもつもの(27)と、ロクロ未使用で口縁部に段をもたないもの(202)がある。

羽釜 口縁部下に鈎状の張り出しをもつ煮炊具で、上に甕などをのせて使用したと考える。155のほか口縁部破片が数点出土している。

灰釉陶器 壺・瓶類の口縁部(317)・体部・底部(318)が出土している。同一個体と考える。

その他 器種が不明のもの。土器の歪みの可能性もあるが、口縁部が波状を呈するもの(292)がある。また、棒状(33)と環状(195)の把手が1点ずつ出土している。煮炊具の体部などに付くと考える。

手づくね・ミニチュア 粘土を手でこねただけで器の形にしたもので、内外面には指頭圧痕が明瞭にみられる(128・207)。法量は異なるが底部形態で分けた。また、器面にハケメ・ミガキなどの調整が施されているものはミニチュアとした(203・232)。

A類:丸底のもの

B類：平底のもの

黒色土器

多様な器種が出土しているが、全体形状の分かる資料はごくわずかである。

無台杯 底部がやや直線的に立ち上がる。内面が黒色処理されている。

無台碗 体部が内湾気味に立ち上がる。内面が黒色処理されている。

有台碗 高台を丁寧に作り出している。内面が黒色処理されている。

高 杯 内面が黒色処理されている。小形・中形・大形がみられ、285は脚部内面も黒色処理されている。

杯 蓋 内外面が黒色処理され、光沢を帯びる。

鉢 口縁部が外反し、内面が黒色処理されている。

台付鉢 161は台付碗の可能性もある脚部で内外面が黒色処理されている。69は器内面が黒色処理されている。

皿 内外面が黒色処理され、光沢を帯びる。

C 遺構出土の土器

1) 1 区

SD1 (図版44, 写真図版34・45) 土師器無台碗(1)、須恵器有台杯(2)・壺(3)・甕(4)を図示した。1は略完形品で底部切り離しは糸切りである。ⅢB類で胎土はIb類、Ⅵ期と考える。2は底部で胎土B群、Ⅶ期と考える。3は壺・瓶類の脚部で、4はやや短いがA2類の口縁部である。ともに胎土D群である。

SD2 (図版44, 写真図版45) 須恵器横瓶(5)を図示した。全体形状は不明瞭である。胎土A群。

SD6 (図版44, 写真図版45) 黒色土器無台碗(6)を図示した。底部の破片資料で全体形状は不明瞭である。底部切り離しは糸切り。内面はミガキが施され黒色処理されている。胎土Ⅱc類でⅦ期以降の所産と考える。

SD54 (図版44, 写真図版45) 須恵器甕(7)を図示した。全体形状は不明瞭である。胎土A群。

SE57 (図版44, 写真図版34・42・45) 多くの遺物が出土している。土師器鍋(8)、黒色土器皿(9)・杯蓋(10)、須恵器無台杯(11)・12)・杯蓋(13)を図示した。8はロクロ成形で内外面にカキメが残り、口縁部は逆くの字状に外反する。胎土Ic類でⅢ期と考える。9・10は内外面ともに丁寧にミガキが施され黒色処理され光沢を帯びている。胎土は9がⅣa類、10がⅣb類で、10はⅦ期と考える。多様な黒色土器が出土した燕市上町遺跡(松島2009)に類例がある。11はⅢA類、12はⅡB類で11の底部内面には「一」の刻書が施される。ともに底部切り離しはヘラ切り、胎土A群でⅦ期と考える。13はⅡB類で内面に「×」の刻書が施される。胎土はD群でⅢ期の所産と考える。

SK20 (図版44, 写真図版45) 土師器杯(14)を図示した。全体形状は不明瞭であるが、口縁部内面はミガキが施され赤彩されている。胎土Ⅱc類でⅢ期の所産と考える。

SK53 (図版44, 写真図版45) 須恵器甕(15)を図示した。全体形状は不明瞭である。胎土A群。

SD5 (図版44, 写真図版45) 須恵器無台杯(16)・杯蓋(17)を図示した。16は胎土A群で底部切り離しはヘラ切り、Ⅲ期と考える。17はⅢE類で胎土B群、Ⅵ期と考える。内面には墨痕が残り、転用碗と考える。

SD10 (図版44, 写真図版45) 土師器無台碗(18)を図示した。底部切り離しは糸切りである。胎土はⅡc類でⅦ2・3期と考える。

SD11 (図版45, 写真図版34・45) 土師器長甕(19)、須恵器甕(20～23)を図示した。19はA1類で胎土はⅢb類である。内外面ともにハケメが施された後、ナデが行われる。体部内面の下半に黒色付着物がわずかに認められる。Ⅲ期。20はA1類で胎土はA群、8世紀代の所産と考える。21～23は体部のみで全体形状は不明瞭である。21は胎土B群、22・23はA群である。

SD12 (図版45, 写真図版34・45・46) 土師器小甕(24)、須恵器甕(25)を図示した。24はB1類で胎土はIb

類、口縁部～体部上半の内外面には炭化物・ススが付着している。VI期と考える。25はB2類で胎土はA群である。8～9世紀代の所産と考える。

SD15 (図版45, 写真図版34・46) 土師器無台碗(26)・甗(27)を図示した。26は略完形品でⅢA類、口縁部外面・底部にスス、底部内面には炭化物が付着している。胎土Ic類でVI期以降の所産と考える。27はロクロ成形で口縁部は逆ハの字状に開く。口縁部外面に段が巡り、端部は外面が肥厚して面をもつ。胎土はIIc類であり、器形から甗と判断した。VI期以降と考える。

SD18 (図版46, 写真図版34・46) 土師器鉢(28)を図示した。口縁部は直立し端部は断面が右上がりになり面をもち、内面にはごく細い洗線が巡る。体部外面から底面にかけてケズリが施される。胎土IIb類でⅢ期と考える。

SD24 (図版46, 写真図版46) 土師器甗(29)を図示した。Aa類で体部外面から底面はケズリが施されている。内面はハケメが施され、胎土はIIb類、Ⅲ期と考える。

SD29 (図版46, 写真図版42・46) 土師器甗(30)を図示した。A類で、底面には平行葉脈痕がみられる。中央部分は円形に凹み、体部外面はハケメが施される。胎土はIIb類、Ⅲ期と考える。

SD30 (図版46, 写真図版42・46) 土師器甗(32・33)、須恵器甗(36)を図示した。32は底部の立ち上がりに若干凹みができるAb類で、底面にはミヤマカワラハンノキと推測される網状脈の木葉痕がみられる(第Ⅵ章参照)。体部内外面にはハケメが施される。胎土はⅢa類でⅢ期と考える。33は甗など煮炊具の体部などに対応付く把手部分と考えたが、わずかではあるが端部に面をもっていることから脚の可能性もある。胎土はIIc類でⅢ期と考える。36は甗の底部付近でタタキメ・あて具痕とともに幾重にも認められる。胎土はA群である。

SD33 (図版46, 写真図版41・46) 須恵器杯蓋(31)・有台杯(34)・甗(35)を図示した。31はつまみ・口端部が残存せず、内面には墨痕が認められる。胎土D群で8世紀代。34はIIA類で内面に墨痕が認められ、転用視と考える。胎土はD群で、浅い高台などからⅣ期とした。35は口縁部が短いB2類で胎土はA群である。Ⅴ期の所産と考える。

SD35 (図版46, 写真図版46) 須恵器有台杯(37)を図示した。ⅢB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土はD群でⅢ期の所産と考える。

SD39 (図版46, 写真図版41・46) 土師器長甗(38)、須恵器無台杯(39)を図示した。38はロクロ成形の長甗で、体部外面はハケメ後のカキメが残り、内面はハケメがナデ消されている。器壁は厚く、B2類で口縁部は面をもつ。本遺跡出土煮炊具の胎土としては珍しいIc類でⅢ期の所産と考える。39は小片で全体形状は不明瞭だが、体部外面に墨書が施される。胎土はD群。図示しなかったが、155と類似する羽釜の口縁部がI点出土している。

SD42 (図版46, 写真図版46) 土師器甗(40)、須恵器壺・甗類(41)を図示した。40はA4類でハケメが施された後、体部外面は縦方向にケズリが施され、内面はその際の指頭圧痕がみられる。胎土はIIc類でⅢ期と考える。41は壺・甗類の小片で全体形状は不明瞭である。体部外面に自然釉が付着する。胎土はD群。

SX45 (図版46, 写真図版34・46) 須恵器杯蓋(42)を図示した。若干歪みがあるが、略完形でⅢD類とした。胎土A群でⅤ期の所産と考える。

SX65 (図版46, 写真図版34・44・46) 土師器無台杯(43)・甗(44)を図示した。43はA類の略完形品で丸底である。内外面ともに横方向のナデが行われる。胎土はⅢb類でⅡ2期～Ⅲ1期の所産と考える。44は小片のため全体形状は不明瞭であるが、体部内外面にハケメが施される。内面には粘土帯の輪積み痕跡が明瞭に残り、上部と下部では色調が異なる。胎土はIIb類でⅢ期と考える。

SD4 (図版46, 写真図版46) 須恵器有台杯(45)を図示した。残存率は少ないが全体形状が分かる破片でⅢB類とした。胎土はA群でⅢ期と考える。

2) 4 区

SK4 (図版47, 写真図版34・35・46・47) 土師器無台碗(46～59)・鉢(60)、須恵器有台杯(61)を図示した。浅い土坑から残存率の高い資料がまとまって出土し、一括性が高い。最も多く出土した土師器無台碗は、大半が

Ⅲ類に属し、ⅢA類が53・54・56・59、ⅢB類が52・57・58、ⅢC類が47・55で、ⅡA類は46・50で、底部の残存しない48はⅡ類、49はⅠ類である。底部が残存しているものは全て底部切り離しが糸切りである。胎土はⅠc・Ⅲb類が大半を占める。Ⅰc類が46～48・50・51・55、Ⅲb類が49・52～54・57・58、その他Ⅱb類が59、Ⅱc類が56であった。46～48・50・51がⅥ期、49・52～59がⅦ1期と考える。60は略完形品でやや外反する口縁部直下に浅い凹線が巡り、内外面は丁寧なミガキが施される。内面は口縁部に、外面は全体にスガが付着する。胎土はⅡb類で、Ⅲ期と考える。61はⅡC類で器高指数41と身深である。工事立会で400m以上も離れた地点出土の破片と接合した。本遺跡から出土した他の須恵器と比べ非常に軽い。高台は外端接地で、胎土はB群、Ⅶ1期のいわゆる高野段階〔坂井・鶴岡・春日1991〕と考える。

SX6 (図版47、写真図版41・47) 須恵器無台杯(62)・杯蓋(63)を図示した。62はⅡA類で底部切り離しはヘラ切りである。底面に墨書が施される。63はつまみを欠くがⅢD類で天面はケズリが施される。ともに胎土はB群でⅦ期の所産と考える。

SD1 (図版47、写真図版35) 土師器小甕(64)、須恵器杯蓋(65)を図示した。64はSK4との接合資料である。B1類で体部外面にはカキメがみられる。胎土はⅠb類でⅦ期の所産と考える。65はⅡC類で天面はケズリが施される。胎土はA群でⅢ期の所産と考える。

SD5 (図版47、写真図版47) 土師器長甕(66)を図示した。B3類で内外面にカキメがみられる。胎土はⅣA類で9世紀代と考える。

3) 2 区

SE25 (図版48、写真図版47) 土師器長甕(67)・甕(68)を図示した。67はB1類で口縁部は逆くの字状に強く外反する。口縁部は丸く取まるが口縁部直下の外面が若干肥厚する。頸部外面には横方向のハケメが施される。胎土はⅡb類でⅢ期の所産と考える。68は逆ハの字状開く器形で、端部は丸く取まる。器壁が厚く器形から甕と考えた。胎土はⅡb類でⅢ期の所産と考える。

SD7 (図版48、写真図版35・41) 黒色土器高杯(69)を図示した。杯部は内外面ともにミガキが施され、内面は黒色処理される。脚部は内外面にナデが行われている胎土はⅠc類でⅢ期の所産と考える。

SX2 (図版48、写真図版35・47) 須恵器杯蓋(70)を図示した。ⅠC類で天面はケズリが施される。胎土は信濃川右岸の窯跡産と考えA群とした。Ⅲ期の所産と考える。

SD3 (図版48、写真図版35・41・42・47) 土師器無台杯(71)・甕(72)、須恵器無台杯(73)を図示した。71はA類で口縁部内面にスガが付着する。胎土はⅡc類でⅢ期の所産と考える。72はA2a類で内外面に炭化物やスガが付着する。胎土はⅢa類でⅢ期の所産と考える。73は底部小片であるが、底面は赤彩が施され、内面には墨痕がみられる。胎土はA群で9世紀代と考える。

SX42 (図版48、写真図版35・41・42・47・48) 土師器甕(74・76)・長甕(75)・壺(77)、須恵器無台杯(78・81)・有台杯(79・80)を図示した。74はA1a類で内外面にはハケメの後にミガキが施され、口縁部から体部上位内面には炭化物が付着する。75は残存している器形から長甕と判断した。A2類で口縁部から体部下位の内面には炭化物が付着する。76は甕の底部でAa類である。底面までハケメが施される。74～76はともに胎土Ⅰb類でⅢ期の所産と考える。77は丸みを帯びた体部器形と内面に施されたミガキから壺と判断した。胎土はⅡb類でⅢ期と考える。78は約20m離れた第6次調査区との接合資料で、ⅢC類、底部切り離しはヘラ切りである。81はⅡA類で底部切り離しはヘラ切り。79はⅢB類で底部切り離しはヘラ切りである。底面には墨書が施される。80はⅠA類で底部切り離しはヘラ切りである。転用祝で内面に墨痕が残る、磨耗している。78～81はともに胎土A群でⅡ2期～Ⅲ1期の所産と考える。

SK13 (図版49、写真図版41・42・48) 土師器長甕(82)・甕(83)・小甕(84)、須恵器有台杯(85)・甕(86)を図示した。82はA1類で頸部に浅い凹線が巡り、内外面はハケメが施される。内面は縦位に、外面は縦位の後に横位にハケメが施され文様のような効果をもつ。胎土はⅠa類でⅢ期。83は立ち上がり若干の段をもつ

底部でAa類。全体形状は不明瞭だが内面は丁寧なハケメが施される。焼成時或使用時にはじけたのか、粉々に砕けた小片がまとまって出土した。底面はナデが行われる。胎土はIc類でⅢ期。84はA1類で83と類似した特徴をもち、小片も多く出土した。強く外反した口縁部の内外面はナデが行われ、口縁部直下の外面が肥厚する。体部上半は内外面にカキメが残り、その後一部にハケメが施される。胎土はIa類でⅢ期。85はⅡB類で底部外面の高台内に墨痕がみられる。胎土D群でⅢ期。86は甕の体部小片で全体形状は不明瞭である。胎土はD群。SD4(図版49、写真図版35・36・44・48)土師器長甕(87・88)・甕(89・90)・ミニチュア無台杯(91)を図示した。87はA2類で内面は横位に、外面は縦位にハケメが施され、内面には指頭圧痕がみられる。胎土はIb類でⅢ期。88はA1類で口縁部は先細りする。胎土はIIc類でⅢ期。89はAb類で底部から扶れるように立ち上がる。底部内面には指頭圧痕が残り、焼成時の黒斑がみられる。胎土はIIb類でⅢ期。90は体部小片で全体形状は不明瞭であるが、外面にハケメが施される。A類で粘土帯のつなぎ目部分に工具を押しつけて波状を呈する。胎土IIa類でⅢ期。91は小形で内面に横位のハケメが施され、外面はナデが行われている。胎土IIa類でⅢ期と考える。

SD10(図版49、写真図版36)土師器長甕(92)を図示した。推定であるが口縁部から底部までわかる資料。A1a類とした。体部の内外面はハケメ、外面下半には縦位にケズリが施される。胎土IIb類でⅢ期と考える。

4) 3 区

SK20(図版50、写真図版42・48)土師器甕(93)を図示した。A類の底部で底面に網状脈の木葉痕とイネの顔果と推定される圧痕が認められる。胎土はIb類で混和材を多く含む。Ⅲ期と考える。

SK36(図版50、写真図版36・42)土師器甕(94)を図示した。体～底部の破片資料でAa類である。内外面はハケメが施される。底部内面はナデが行われ、底部外面はケズリが施され、底面は凹凸する。外面には全体的にスガが付着する。胎土はIIIb類でⅢ期と考える。

SD9(図版50、写真図版36・48)須恵器有台杯(95)を図示した。高台は低く太い。ⅡB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土はA群でⅢ期の所産と考える。

SD18(図版50、写真図版48)須恵器壺・瓶類(96)を図示した。脚部破片で全体形状は不明瞭である。端部は内側に屈曲し外面に微隆起が巡る。その上部に外面から斜め下方に穿孔されている。胎土はA類でⅢ期。

SD21(図版50、写真図版36・48)須恵器有台杯(97)を図示した。高台は低く細い。ⅢB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土はD群でⅢ期の所産と考える。

SD33(図版50、写真図版48)土師器無台杯(98)を図示した。A類で体部外面はケズリが施され、内面はハケメの後ミガキが施される。底面もミガキが施される。胎土はIb類でⅢ期の所産と考える。

SD40(図版50、写真図版48)須恵器甕(99)を図示した。器壁が薄く、小形の可能性がある。口縁部直下の外面に波状文・横位沈線が施され、A1類とした。胎土はD群。8世紀代と考える。

SD35(図版50、写真図版48)須恵器甕(100)を図示した。肩部小片で、全体形状は不明瞭。胎土はD類。

SX30(図版50、写真図版48)土師器甕(101)を図示した。やや扶れて立ち上がる底部でAb類とした。内外面にハケメが施され、外面には指頭圧痕がみられる。胎土はIb類でⅢ期と考える。

SX39(図版50、写真図版36・48)土師器長甕(102)・甕(103)、黒色土器高杯(104)を図示した。102はA1類で内外面にハケメが施される。内面はその後にナデが行われ、指頭圧痕がみられる。胎土はIIIb類でⅢ期と考える。103はやや扶れて立ち上がる底部でAb類とした。内外面は細かいハケメが施される。底部はナデが行われ中央部分が凹む。胎土はIb類でⅢ期と考える。104は高杯としたが脚が付かず別器種の可能性もある。杯部外面に段をもち、ケズリの後ミガキが施される。内面はミガキが施され黒色処理される。胎土Ib類でⅡ2期～Ⅲ1期と考える。

5) 第6次調査区

SD1(図版51、写真図版48)須恵器有台杯(105)を図示した。口縁部はⅢ類とした。胎土A群でⅢ期。

SX11 (図版51, 写真図版36・37・48) 黒色土器鉢(106)、土師器甕(107)・小甕(108・109)・長甕(110)・壺(111・112)、須恵器有台杯(113・114)を図示した。106は内外面にミガキが施され、内面は黒色処理される。胎土はIa類でⅢ期の所産である。107は丸底で内外面に細かいハケメが施される。外面下半部分はケズリが施されススが付着する。Ac類で粘土帯の輪積み痕が明瞭に残る。胎土はIa類でⅢ期である。108はA2類で内外面はケズリの後ミガキが施される。口縁部から体部上半の内面には炭化物が付着する。胎土Ⅲb類でⅢ期と考える。109はA1類で内外面にハケメが施され、口縁部から体部上半の内面には炭化物が帯状に付着するが、部分的に体部中央まで認められる。胎土Ib類でⅢ期。110はA2類で内外面はハケメが施され、輪積み痕跡が明瞭に残る。口縁部から体部外面には部分的にススが付着する。胎土Ⅱb類でⅢ期と考える。111は体部内外面・底面にミガキが施される。胎土Ia類でⅡ2期～Ⅲ1期と考える。112は体部外面に縦位のミガキが施され、内面はナデが行われる。胎土Ia類でⅢ期。113はⅡB類で底部切り離しはヘラ切りである。高台は太く内端接地である。胎土はA群でⅡ2期～Ⅲ1期と考える。114はⅡA類で底部切り離しはヘラ切りである。高台は低くやや太い。胎土A群でⅢ期の所産と考える。

SD6 (図版52, 写真図版37・42・43・49) 土師器甕(115・116・118・120・121)・小甕(117・119)・長甕(122)・壺(123)、須恵器無台杯(124)・有台杯(125)・壺・瓶類(126)を図示した。115は略完形品で口縁部が大きく外反したA1a類で、頸部外面は浅く凹線が廻り段をもつ。内外面はナデが行われ、底面はケズリが施される。体部外面はわずかにススが付着し、内面は全体的に炭化物が付着する。胎土Ia類でⅢ期と考える。116は略完形品で口縁部が外反したやや丸底のA1c類で頸部外面には浅く凹線が廻り段をもつ。内外面はハケメが施され、底部外面付近はケズリが施される。内外面にはスス・炭化物が付着する。胎土Ⅲb類でⅢ期。118は口縁部が外反したA1類で、内面はナデが行われ外面はハケメが施される。胎土Ib類でⅢ期。120は口縁部が外反したA1類で頸部外面には浅く凹線が廻り段をもつ。内外面はハケメが施され、口縁部内面には帯状に、体部には部分的に炭化物が付着する。胎土Ic類でⅢ期。121はAa類で、内外面はハケメが施され、底面はケズリが施される。内面には炭化物が付着し、胎土Ib類でⅢ期。117は口縁部が外反したA1類で、外面はハケメの後にケズリが施される。胎土Ic類でⅢ期。119は口縁部がわずかに外反したA1類で頸部外面には浅く凹線が廻りわずかに段をもつ。内面はハケメ、外面はケズリが施される。胎土Ⅲb類でⅢ期。122は口縁部が外反したロケ口成形のB2類で、器壁は厚く口端部に面をもつ。内外面にカキメがみられる。胎土Ⅱa類でⅢ期。123は内面にミガキが施され、外面や底面にはケズリの後ミガキが施される。胎土Ib類でⅢ期。124は器壁が厚く小さい。Ⅲc類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土はA群でⅡ2期～Ⅲ1期と考える。125の高台は低く太い。内端接地でⅡA類。底部切り離しはヘラ切りである。胎土はA群でⅢ期の所産と考える。126は壺・瓶類の口縁部で沈線間に波状文が施される。胎土はD類でⅡ2期～Ⅲ1期の所産と考える。

SD21 (図版52, 写真図版37・49) 土師器杯(127)・手づくね(128・129)を図示した。127は高台が付くか判断できなかったため杯とした。B類で内外面ともにミガキが施される。胎土Ic類でⅡ2～Ⅲ1期と考える。128・129は平底の手づくねB類で、内外面ともに指頭圧痕がみられる。胎土は128がIa類、129がⅢb類でいずれもⅢ期と考える。

D 遺構外出土の土器

1) 1 区

土師器(図版53・54, 写真図版37・41・49・50・52・55) 無台杯(130)・無台椀(131～141)・皿(142)・壺(143)・長甕(144・145・147)・甕(146・148・149)・鍋(150～154)・羽釜(155)を図示した。130はB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土は粗くIa類、Ⅲ期と考える。132・136はⅢA類、131・133・134はⅢC類、135はⅢB類である。底部を欠く137・139はⅡ類、138はⅢ類である。胎土は136がIa類、135・139～141はIc類、133はⅡa類、131・132・137がⅡc類、134がⅢb類、138がⅣb類である。

底部が残る資料は、すべて底部切り離しが糸切りである。141は体部外面に墨書が施される。内外面に炭化物やススが付着しているものや(135・136)、外面にのみススが付着しているものがある(131・134)。131～135はⅥ期で、136～140はⅦ1期と考える。142は小片で底部切り離しはヘラ切りで、胎土はIc類である。Ⅶ期と考える。143は体部が丸く張り出した器形で、体部内外面には細かいハケメが施された後、ミガキが施される。胎土はIIa類でⅡ2～Ⅲ1期と考える。144はA5類、145・147はB3類である。144は体部がほとんど張らず口縁部が外傾して開く。端部は先細りで内面がやや湾曲する。胎土IIa類で、Ⅲ期。145は体部内面の下半部は丁寧にナデが行われ、あて具痕が残っていない。147は口縁～体部上半で外面にはカキメが残り、部分的に縦位のナデが行われる。胎土は145がIa類、147がⅢa類でⅦ期と考える。146・148・149は破片資料で全体形状が不明瞭なためとした。146はA5類、148はB2類、149はA類である。146は体部から直立して立ち上がり、口縁部はやや外傾する。端部は先細りし内面は平坦である。内外面はハケメが施され、体部内面はナデが行われ指頭圧痕がみられる。胎土IIa類でⅢ期。148はA2類で、いわゆる西古志型壺(坂井1990など)の口縁部で端部が面取りされている。小片で不明瞭だが胎土IIb類でⅦ期と考える。149は体部小片で内外面にハケメが施された後、外面に3条の斜位沈線が認められる。図示していないが同一個体の小片が数点出土している。胎土Ⅲb類でⅢ期。150・151は外反する口縁部で150の内面にはカキメがみられる。胎土Ⅲb類で8世紀代。152～154は口端部内外面が肥厚する。胎土は順にⅢa・Ⅱc・Ia類でⅦ期と考える。155は口縁部直下外面にやや下に向く突帯をもつ羽釜で、体部以下の形状は不明瞭である。内外面に細かいハケメが施される。胎土IIb類で、被熱痕跡などにより同一個体片は容易に認識でき、カマド型土製品(325)と類似している。県内でも出土例が少なく不明瞭だが、東北地方出土の羽釜形土製品を集成した(古川2014)によると本資料はIIb類に相当すると考えられ、時期は、9世紀後半から10世紀代とされる。しかし、9世紀前葉を主体とするSE57出土の破片と接合しており、遡る可能性もある。

黒色土器(図版54・写真図版49・50) 無台碗(156・157)・碗(158)・無台杯(159)・有台碗(160)・台付鉢(161)を図示した。156は底部を欠くが身は深めである。内面は体部下半まで、外面は口縁部にミガキが施され、内面が黒色処理される。胎土IVa類でⅦ期と考える。157はわずかに段をもつ底部で、内面はミガキが施され黒色処理される。底部切り離しは糸切りで、外面立ち上がり部分ともにケズリが施される。胎土IIc類で10世紀代と考える。158は底部を欠くため有台か無台か判断が難しくとした。内面にはミガキが施され黒色処理される。胎土IVb類で10世紀代と考える。159は器壁の厚い平底の底部で内面はミガキ、外面立ち上がり部分はケズリが施され、内面が黒色処理される。胎土IIa類でⅢ期と考える。160は高台の底部で内面にはミガキが施され、黒色処理される。胎土IIc類で10世紀でも新しい時期と考える。161は台杯鉢としたが台杯碗の可能性もある脚部で、ハの字状に直線的に開く。内外面はミガキが施され、黒色処理される。胎土IVb類でⅦ期と考える。

須恵器(図版54・55、写真図版37・38・41・50・51) 無台杯(162～164)・鉢(165)・有台杯(166・167)・杯蓋(168)・短頸壺蓋(169)・壺・瓶類(170～175)・甕(176～178)を図示した。162・163はIIb類、164はIIa類でやや身が浅い。いずれも底部切り離しはヘラ切りで、胎土B群、Ⅶ期である。165は底部を欠くが、口縁部にかけて逆ハの字状に開く。体部外面上半はカキメが残り、下半はケズリが施される。胎土A群でⅢ期。166は径が小さく低い高台の底部で、底外面には墨書が施される。167はⅢb類で高台は低く内端接地である。いずれも底部切り離しはヘラ切りで胎土A群、Ⅲ期である。168はつまみ部を欠くがⅢb類。胎土D群でⅢ期。169はつまみ部を欠く短頸壺蓋で天面はケズリが施され、外面には墨書が施される。胎土A群。170～175は小片で全体形状は不明瞭である。170は体部外面下半にケズリが施される。胎土はC群。171は肩部小片で器壁は薄い。胎土はD群。172は肩～体部で肩部上方にごく細い沈線が巡る。体部下半の外面には浅いタタキメがみられる。外面全体に自然釉が付着する。胎土はA群。173は平底の壺底部で、外面はケズリが施され、底面はケズリが施された後にナデが行われる。胎土はD群。174はハの字状に開く壺底部で、胎土はD群と考える。

175はハの字状に開く壺底部の端部に面をもち、高台の接地部分が細いもの。胎土はD群と考える。176はA1類で口端部の外側が肥厚し、直下に波状文が施される。胎土はD群。177はA2類で推定口径が25cmで器壁も薄いため、小形の可能性もある。胎土はC群。178はA1類で口縁部は大きく外反し、肥厚して段をもつ。直下には波状文が施される。胎土はA群。

2) 4 区

土師器(図版55、写真図版38・51) 無台椀(179～182)を図示した。179はII A類で、胎土IV b類、VI期。180・182はIII C類で、胎土は180がI c類で182がII c類、ともにVI期。179・180・182の底部切り離しは糸切りである。181はIII A類で、磨耗により底部切り離しは不明瞭である。胎土III b類で10世紀代。

黒色土器(図版55、写真図版51) 無台椀(183)を図示した。底部を欠くが、内面はミガキが施され黒色処理される。胎土IV b類でVI期と考える。

須恵器(図版55、写真図版51) 無台杯(184・185)を図示した。184はIII A類、185はIII B類で身が深い。いずれも底部切り離しはヘラ切りで、胎土B群、V期と考える

3) 5 区

土師器(図版55、写真図版51) 無台椀(186・187)を図示した。186はIII類の口縁部で器壁は薄い。187は切り離しが糸切りの底部である。いずれも胎土III b類で、10世紀代と考える。

黒色土器(図版55、写真図版51) 椀(188)を図示した。底部を欠くため有台か無台か不明瞭である。体部からハの字状に直線的に開く。内面はミガキが施され黒色処理される。胎土はII c類でVI期。

4) 2 区

土師器(図版56、写真図版38・43・51) 杯(189・190)・無台杯(191)・高杯(192)・甕(195・197～201)・小甕(196)・甕(202)・ミニチュア(203)・手づくね(204～209)を図示した。189は杯としたが高杯の可能性もある口縁部で、内外面はミガキが施される。190は杯としたが鉢の可能性もある口縁部で器壁は厚い。いずれも口縁部未使用のA類で、胎土はII c類、III期と考える。191は丸底のB類底部である。外面はミガキが施され、内外面ともに赤彩される。胎土I b類でIII期。192は脚部でハの字状に開く。内外面はナデ・ハケメが施される。胎土I b類でIII期。195は燕市三角田遺跡の双耳甕(松島2001)のように煮炊具の体部に付く環状把手と考へた。胎土はII a類でII 2～III 1期と考える。196はA2類で、体部から内湾気味に立ち上がり口縁部は直立する。内外面はハケメが施され、胎土III b類でIII期。197はB5類で体部から直立気味に立ち上がり、口縁部は外傾し端部は丸く取まる。体部外面はハケメが施され、口縁部内面はカキメがみられる。胎土II c類でIV期と考える。198はAa類の底部で、内外面と底面にハケメが施され、内面はナデが行われる。199～201はAb類の底部である。いずれも立ち上がりが括れる。199は内外面と底面にケズリが施される。200は底部のみ残存し、内面はナデが行われている。底面には東北地方に特徴的な網状脈の木葉痕が残る。分析の結果、ミヤマカワランノキの可能性が指摘されている(第VI章参照)。201は内面にナデが行われ、外面と底面はハケメが施される。胎土は198がII c類、199・200がIII a類、201がII b類でいずれもIII期である。202は旧吉田町小浜訪前遺跡(布施ほか2006)の甕に類似していると考え甕とした。体部から逆ハの字状に直線的に開き端部は丸く取まる。内外面は細かいハケメが施され、内面はケズリも施される。胎土I a類でIII期。203は器壁が薄く小形で、丁寧に作られ、体部外面はミガキが施されることから甕形のミニチュア土器とした。胎土I a類でIII期。204・205は平底のB類、206～209は丸底のA類である。204は手づくねとしたが、口縁部を使用しない無台杯の可能性もある。内外面にナデによる指頭圧痕がみられる。新潟市四十石遺跡(渡邊ほか2012)で類似する無台杯が出土している。胎土I a類でIII期。205はごく小さい器状のもので、内外面に指頭圧痕がみられる。粘土のみで混和材をほとんど含まない胎土IV a類である。206～209はほぼ同じ大きさで酷似している。指頭圧痕のほか、粘土の接合部まで明瞭にみられる。胎土は206・207がI b類、208がI c類、209がI a類である。いずれもIII期。なお、202・208・209は確認調査(第7次調査)で8T遺構(SD)出土であるが、本調査

で遺構の特定ができなかったため包含層扱いにした。

黒色土器 (図版 56, 写真図版 51) 高杯 (193)・杯 (194) を図示した。193 は脚部で、外面はナデ・ハケメが施される。内面はミガキが施され黒色処理される。胎土Ⅱb 類で 8 世紀代と考える。194 は底部を欠く杯で、外面はハケメが施される。内面はミガキが施され、黒色処理される。胎土Ⅲb 類でⅢ期と考える。

須恵器 (図版 56・57, 写真図版 38・41・52) 無台杯 (210)・有台杯 (211～214)・杯蓋 (215～218)・壺・瓶類 (219)・長頸瓶 (220)・横瓶 (221) を図示した。210 はⅢB 類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土 A 群でⅡ 2～Ⅲ 1 期と考える。211 はⅡ A 類で底部切り離しはヘラ切りである。太く短い高台が付き、胎土 A 群でⅢ期と考える。212 は出土した有台杯で最も径が小さく、身が深いⅣC 類である。底部切り離しはヘラ切りで、細い高台が付く。胎土 B 群でⅤ期と考える。213・214 は底部破片で、判別できた 213 の底部切り離しはヘラ切りである。底径は異なるがごく短い高台が付く。胎土は 213 が D 群、214 が A 群でいずれもⅢ期と考える。215 はⅠ A 類、216 はⅢ A 類でいずれも時期判定の基準となる身受けのかえりが付く。215 が大きく、やや内側にかえりが付く。端部は器壁が薄くなってから膨らみ丸く収まる。216 はごく短いかえりが付き、端部は丸く収まる。胎土は 215 が信濃川右岸の窯跡産と考え A 群、216 が D 群でいずれもⅡ 2 期である。217 はⅡ D 類で天面はケズリが施される。外面下部に「日置口」の墨書が施される (第Ⅷ章参照)。胎土 D 群で西古志地域周辺の窯で生産されたと考え。Ⅲ期。218 はⅡ D 類で天面はケズリが施される。胎土 D 群でⅣ期と考える。219 は外反する口縁部で、わずかにつまみ上げられた端部直下には一条の凹線が巡る。胎土は A 群で 7 世紀代と考える。220 は肩～体部であるが、長頸瓶とした。肩部外面直下に 2 条のごく細い沈線が巡る。体部下半はケズリが施され、内面は製作時に付いた指頭圧痕がみられる。胎土 D 群でⅢ期と考える。221 は体下半部の小片で全体形状は不明瞭である。外面はカキメがみられる。胎土 A 群である。

5) 3 区

土師器 (図版 57, 写真図版 38・43・44・52) 無台杯 (222)・有台椀 (223)・甕 (226～229)・小甕 (225)・ミニチュア (230・231)・手づくね (232) を図示した。222 はやや小形の A 類で、内外面はナデが行われる。胎土Ⅳb 類でⅢ期と考える。223 は小片だが有台椀の底部と考えた。胎土Ⅲb 類で 10 世紀後半以降であろうか。225 は A1 類で短い口縁部が強く外反する。体部外面はハケメが施され、頸部外面には製作時の指頭圧痕がみられる。胎土Ⅱc 類でⅣ期と考えた。226 は Aa 類の底部で内外面にはハケメが施される。底部の立ち上がり部分には製作時の痕跡が明瞭でないが一条の沈線が巡る。胎土Ⅱc 類でⅢ期。227 は口縁部が大きく開く A1 類で、体部内面はナデ、外面はハケメが施される。胎土Ⅱc 類でⅢ期。228 は A 類の体部小片で全体形状は不明瞭である。内面に認められる魚骨状の圧痕を分析したが、魚骨とは断定できなかった (第Ⅵ章参照)。粘土帯のつなぎ目が明瞭にみられる。胎土Ⅰb 類でⅢ期と考える。229 は厚い底部小片で底面には繊維状の圧痕が認められる。胎土Ⅲa 類でⅢ期。230 は底部を欠き、内面にはケズリが施され口端部は尖る。胎土Ⅱc 類。231 は内外面にナデが行われ、底面にはハケメが施される。無台杯の形をしている。胎土Ⅰc 類でⅢ期。232 は内外面にナデが行われ指頭圧痕がみられる。ごく小形である。胎土はほとんど混和材を含まないⅣb 類である。

黒色土器 (図版 57, 写真図版 52) 高杯 (224) を図示した。口縁部と脚端部を欠くが、外面はミガキが施され杯部内面は調整が不明瞭であるが黒色処理される。胎土Ⅳb 類でⅡ 2～Ⅲ 1 期である。

須恵器 (図版 57, 写真図版 42・44・52) 無台杯 (233・234)・有台杯 (235)・壺・瓶類 (236・237) を図示した。233 は身が深いⅡC 類で、底部切り離しは本遺跡出土須恵器で唯一の糸切りである。体部外面に「×」の刻書が施される。胎土は A 群としたが頸城地方の窯で生産された D 群の可能性もある。Ⅴ期である。234 はⅠ A 類で底面に三本線のような刻書が施される。胎土 A 群でⅢ期。235 はⅢB 類で太い高台が付く。胎土 A 群で 8 世紀代と考える。236・237 は小片で全体形状は不明瞭である。236 はやや角度の鋭い肩部にかけて直線的に開く体部で、外部下半に 2 条の細い沈線が巡る。胎土は A 群で 8 世紀代と考える。237 は屈曲する肩部から体部にかけての破片で、体部の浅い沈線間に銀歯状の刻みが施される。右上がりの刻み内は、工具の痕跡か施文の効

果か凹凸がみられる(図版44)。胎土D群でⅡ2～Ⅲ1期と考える。

6) 第6次調査区

土師器(図版58・59、写真図版38・39・43・44・52) 鉢(238)・高杯(239)・甕(241・244・246～252)・長甕(242・243)・瓶(245)・手づね(253・254)を図示した。238は口縁部外面に凹線が巡り、体部はミガキが施される。胎土I c類でⅢ期とした。239は高杯としたが、脚部を欠くため不明瞭である。内外面はミガキが施される。胎土は混和材をほとんど含まないIV b類でⅢ期と考える。241は長い口縁部が大きく開き端面に面をもつA2類で、体部は丸みがある。口縁面を作り出した際の痕跡が線状に残る。口縁部内面はハケメが施され、体部内面はナデが行われ、外面はハケメが施される。胎土はI a類でⅡ2期としたが、遡る可能性もある。244・246はA1類だが法量が大きく異なる。244は鍋との折衷のような器形を呈し、器壁が薄く口縁部外面には細い凹線が不規則に巡る。外面にはススが付着する。246は外面にハケメが施され、内面はナデが行われる。胎土は244がⅡa類、246がⅢa類でいずれもⅢ期。247～250は煮炊具の底部で、立ち上がりが分かる248～250はAa類とした。247～249の底面は中央部がやや凹み、250はハケメが施される。内面は247・248がナデが行われ、249はハケメが弧状に施される。胎土は247・249がⅢb類、248がⅢa類、250がⅡa類でいずれもⅢ期。251・252はA類。251は体部外面はハケメが施され、内面は漆が厚く付着する。漆は器面で流れて固まったような印象を受ける。胎土Ⅱc類でⅢ期。252は体部外面にハケメが施され、内面はナデが行われる。90と同様に粘土帯のつなぎ目には工具痕が認められ波状を呈する。胎土はI a類でⅢ期。242・243は体部が張らないため長甕とした。口縁部が大きく開くA1類で、242の内面は口縁部にハケメが施され、体部はナデが行われる。胎土は242がⅡa類、243がⅢb類でいずれもⅢ期と考える。245は体部からやや開いて立ち上がる。口縁部から体部まで内面全体にハケメが施され、体部外面は表面が剥落する。胎土はⅢb類でⅢ期。253・254はB類としたが、254の底部はやや丸みを帯びて器壁が薄く他のB類とは異なる。いずれも内外面に明瞭な指頭圧痕が残り、底面にはススが付着する。胎土は253がI a類、254がI b類でⅢ期。

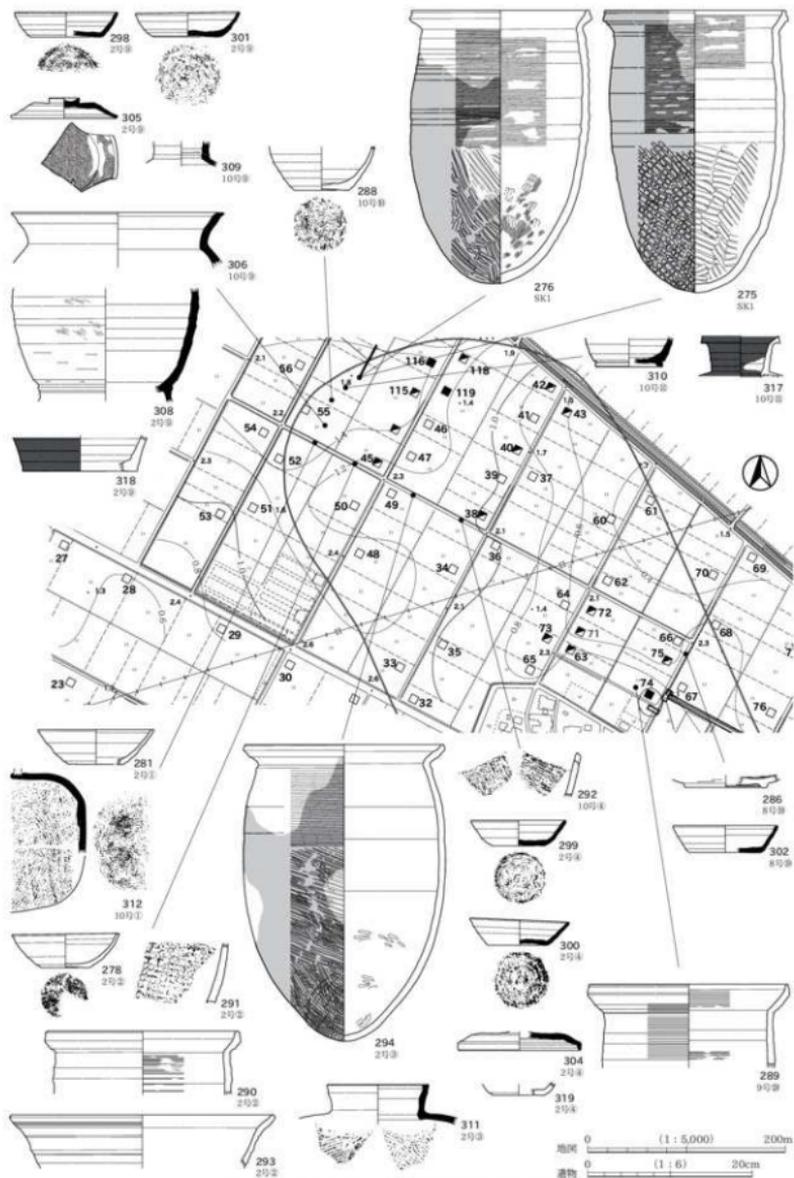
黒色土器(図版58、写真図版38) 高杯(240)を図示した。ハの字状に開く脚部で杯部との境界に一条の細い沈線が巡る。外面はミガキが施され、杯部内面は黒色処理される。胎土I b類でⅢ期と考える。

須恵器(図版59、写真図版39・41・42・53) 無台杯(255)・有台杯(256～259)・杯蓋(260)・鉢(261)・壺・瓶類(262)・甕(263・264)を図示した。255は底面に刻書が施される。向きは不明瞭であるが、「=」のように2本の線が認められる。底部切り離しはヘラ切りで胎土はA群である。256・259はⅡA類、257はⅡB類、258は口縁部を欠くため分類できないが深い身の器形と考える。いずれも底部切り離しはヘラ切りである。256・257は太く短い内端接地の高台が付き、258は体部と高台との接合部外面にごく細い沈線が巡るため、接合部が細くなる。259の高台は外端接地で、底面には墨書が二か所認められる。胎土は258がD群、それ以外がA群で、256・258がⅡ2～Ⅲ1期、257・259がⅢ期。260は内面に「×」の刻書が施され、天面にはケズリが施される。胎土D群でⅢ期。261は逆ハの字状に開く口縁部で、口縁部断面は右上がりて内側に面をもつ。内外面に自然軸が付着する。胎土はD群。262は逆ハの字状に開く口縁部で全体形状は不明瞭である。胎土A群でⅢ期。263はA1類で口縁部には4条2段の波状文が施される。264は底部付近で外面にタタキメとカキメ、内面にあて具痕がみられる。胎土はいずれもA群で263は8世紀代と考える。

E 確認調査・工事立会出土の土器(第8図)

1) 遺構出土

第1次調査116T(SK)(図版60、写真図版39・41・53) 土師器無台杯(265～268)・小甕(269・270)、須恵器無台杯(271)・有台杯(272)・杯蓋(273)・甕(274)を図示した。265・267がⅢB類、266がⅢA類、268がⅡA類で、全て底部切り離しは糸切りである。胎土は265がIV b類、266がⅢa類、267がI b類、268がⅡa類で、いずれもⅥ期と考える。269はB1類で270はB類、底部切り離しは糸切りである。270の底面に



第8図 確認調査および工事立会出土土器の主な地点

はススが附着している。胎土は269がⅡa類、270がⅡb類で、269はⅥ期と考える。271はⅡB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土B群でⅥ期。272はⅢC類で身が深く、太くて短い高台が付く。胎土B群でⅥ期。273はⅣE類で内面には墨痕が認められ、転用視と考える。器壁が薄く、胎土B群でⅥ期と考える。274は類の短いB2類口縁部で、体部外面にタタキメとカキメが、内面にはあて具痕がみられる。胎土はA群。

第10次調査 (SK1: 土器棺墓) (図版60、写真図版40) 土師器長甕(275・276)を図示した。275・276はB3c類の完形で、口径・器高とも275が大きいものの体部径は276がやや大きい。体部上半の内外面にカキメが、体部下半には外面にタタキメ、内面にはあて具痕がみられる。体部を中心に外面には全体的にススが附着する。胎土は275がⅠa類、276がⅢb類でⅥ期である。

2) 包含層出土

土師器 (図版61、写真図版40・41・44・53・54) 無台椀(277～279・281～283)・鉢(284)・甕(287)・小甕(288)・長甕(289～291・294)・鍋(293)・不明(292)を図示した。277・278・281はⅢA類で279はⅡB類である。283も含め底部切り離しはすべて糸切りである。283は底面に墨書が施される。胎土は277・282・283がⅣb類、278がⅠc類、279がⅢa類、281がⅣa類でいずれもⅥ期と考える。284は体部から逆ハの字状に開き口縁部は内側に屈曲する仏鉢の模倣と考える。胎土Ⅳb類でⅥ期。287はAa類の底部で底面中央部は凹み、内外面は細かいハケメが施される。胎土Ⅲb類でⅢ期。288はB類で底部切り離しは糸切りである。胎土はⅠa類で9世紀代である。289・290はB3類の口縁～体部で内外面にロクロメ・カキメがみられる。胎土は289がⅢb類、290がⅠb類でⅥ期である。291はB類の体部で外面にタタキメ・内面はナデが行われる。外面には炭化物が附着している。胎土ⅡbでⅥ期。292は波状を呈するB類の口縁部と考えた。器種不明としたものの、器の歪みの可能性もあるが、平口縁としても器種は不明瞭である。内外面にハケメが施される。胎土Ⅱa類で時期はⅢ期か。294はB3c類の略完形で、外面にロクロメ・カキメ、内面にあて具痕がみられる。外面には全体的にススが附着する。胎土はⅢa類でⅥ期である。293は外傾して開く口縁～体部で外面にはススが附着する。胎土Ⅱc類でⅥ期と考える。

黒色土器 (図版61、写真図版53・54) 無台椀(280)・高杯(285)・有台皿(286)を図示した。280は底部を欠くが、体部外面下方はケズリが施され、内面にはミガキが施され黒色処理される。胎土Ⅳb類でⅥ期と考える。285は杯部で口縁部と脚部を欠く。外面は凹線と細い沈線による段があり、ケズリの後ミガキが施される。内面はミガキが施され黒色処理される。脚部内面もナデが行われ黒色処理される。胎土はⅢb類でⅡ期としたが、遡る可能性もある。286は底部で有台皿としたが有台椀の可能性もある。内外面はミガキが施される。内面と高台内は黒色処理される。胎土はⅡc類。なお、280は確認調査時の遺構出土であるが、単独出土のため、ここで扱った。

須惠器 (図版62・63、写真図版40・41・44・54) 無台杯(295～303)・杯蓋(304・305)・壺・瓶類(307～310)・横瓶(311・312)・甕(306・313～316)を図示した。295はⅠB類、298・301・302はⅡA類、297はⅢB類、296・299・300はⅢA類で、底部切り離しはいずれもヘラ切りである。295は底部からの立ち上がり部分にケズリが施される(図版44)胎土A群でⅢ期と考える。296は胎土A群で、本遺跡では出土例の少ないⅣ期と考える。297は身がやや深く、胎土D群でⅤ期。298～302の胎土はB群で、298・302がⅤ期、それ以外がⅥ期と考える。303は底部で内面全体に漆が附着する。器壁は薄く、胎土B群でⅥ期と考える。304はつまみ部を欠くがⅢC類で、外面には自然釉が附着する。胎土A群でⅢ期。305は径の小さいⅣD類で、内面に墨痕が認められることから転用視と考える。胎土B群でⅥ期。307は直線的に開く体部で、内面上部にごく細い沈線が2条走る。胎土はD群。308はやや丸みを帯びて立ち上がる体部で長頸壺の可能性もある。外面下半はケズリが施され、高台との境界部には浅い沈線が2条走る。309は頸部で長頸壺の可能性もある。310は底部で308とは法量の違う長頸壺の可能性もある。底部切り離しはヘラ切りである。いずれも胎土はB群であるが小片のため時期は不明瞭である。311は口縁～体部で、口縁部内面と体部外面に自然釉が附着する。体部外面

にタタキメ、内面にあて具痕がみられる。312は体部で側端部は粘土板閉塞で側面はケズリが施され、外面にタタキメとカキメ、内面にあて具痕がみられる。胎土はいずれもD群でV期と考える。306はやや小形のB2類口縁部で、内面に自然軸が付着する。313はA1類で肥厚した口縁部直下に4条の波状文が施される。314・315はA2類の口縁部で、口端部の形状は異なる。315の口縁部外面にはロクロ成形前のタタキメがみられ、自然軸が付着する。316は体部で外面にタタキメとカキメ、内面にあて具痕がみられる。いずれも胎土D群。灰釉陶器(図版63、写真図版54)壺・瓶類(317・318)を図示した。317は口端部を若干欠く口縁へ頸部である。口縁部外面は肥厚して端部はつまみ上げられ断面三角形を呈する。頸部はほぼ直角に屈曲する。外面は全体に内面は大部分に灰釉が施される。318は平底の底部で、底部切り離しはヘラ切りである。外面と底面に灰釉が施される。317・318は胎土や出土地点などから同一個体の可能性がある。また接合せず図示し得なかったが同一個体の体部片も出土している。猿投窯産で9世紀代と考える。

中世土師器(図版63、写真図版54)皿(319)を図示した。底部の破片資料。全体形状は不明瞭。底部から体部へ緩く立ち上がる。古代土師器と同じ分類基準にあてはめると、胎土は混和材をあまり含まないIVb類である。

第3節 土製品

総重量2,460.8gで、焼成粘土塊が215.6g、その他の土製品が遺構から1,195.5g、包含層から1,049.7g出土した。図示したのは17点である。内訳はカマド形土製品1点、円筒形土製品7点、土製支脚2点、土鍾3点、紡錘車1点、不明土製品2点、焼成粘土塊1点である。胎土は、土師器と同じ属性項目で分類した。種別ごとに記載する。

カマド形土製品(図版64、写真図版55) 甕型土製品や移動式カマドなどともいう。1区SD15から出土した。調査区全体で図示した1点のみの出土である。325aが土器の掛け口部である釜口、325bが焚き口部右上部の破片で同一個体と考える。破砕した細かい長石・石英や砂粒を多量に含む胎土(IIb類)は、容易に個体識別が可能であり、周辺からは同一個体と考える接合しない破片が出土している。釜口が外反して開く形で、内外面はごく細かいハケメが施される。SD15は、VI2・3期以降の土器が出土しており(26・27)、同時期と考える。

円筒形土製品(図版64、写真図版40・55) 円筒形土器や円筒型土製品や筒形土製品などともいう。2区・3区・第6次調査区のみから出土している。全て破片資料であり、全体形状は不明瞭である。内外面ともにハケメが施され、内面には粘土帯の輪積り痕跡が明瞭に残るものが多い。331は内面に明瞭なハケメが施されるため、円筒形土製品としたが、上端部までが短く食膳具(無台杯)の可能性もある。ハケメの方向は、全体的に内面は横方向で外面が縦方向であるが、326は内面横方向に、332は外面縦方向にケズリが施される。上端部は先細りし、底部のあるものは平底で329の底部中央部はやや凹む。326～328は底部を欠くため不明瞭であるが、332は底のない底部と考えた。胎土は326がIIb類、327・328がIIc類、329がIIIa類、330がIa類、331がIb類、332がIIIb類と規格性は見出せない。328・329以外は遺構出土であり共存する土器は大半がIII期に比定されるため、これら円筒形土製品も概ね同じ時期の所産と考える。甕の芯材や煙道など電の構築と使用に関連した遺物と考えられている(西山1996など)が、本遺跡の出土状況から用途まで類推できなかった。

土製支脚(図版64、写真図版55) 図示した2点の他に2区・第6次調査区の包含層から小破片が出土している。333は第6次調査区SX11から出土した。下半部のみの遺存である。全体的に丁寧にナデが行われ、下端部底面には使用によると考える浅いV字状の凹みが認められる。胎土Ia類。334は1区包含層から出土した(立会調査中の出土であり、厳密には1区隣接地であり調査区外)。半分の遺存である。全体的に製作時の痕跡と考える指頭圧痕が残り、端面も平坦でない。胎土Ib類。

土鍾(図版64、写真図版55) 計4点出土している。図示した2点は、いずれも1区包含層からの出土であるが、他に同じ1区包含層からと第6次調査区包含層から各1点出土しており、すべて太い管状土鍾である。335は

端部のみ半周ほど遺存しているが、全体形状は不明瞭である。外面はナデが行われ、端面には置かれていた台の痕跡が残る。胎土Ⅲb類。336は両端まで半周ほど遺存している。厚さは335よりも薄く、外面はナデが行われるが指頭正痕が若干残る。胎土Ⅰa類。

紡錘車 (図版64, 写真図版55) 図示した2点のみの出土である。337は3区包含層からの出土で、破片資料のため全体形状は不明瞭である。上面はナデによりやや凹んでいる。胎土Ⅱb類。338は2区包含層からの出土で、断面台形の紡錘車である。約半分を欠くが、全体に丁寧なナデが行われている。胎土Ⅲb類。

不明土製品 (図版64, 写真図版55) 用途・種類の分からない土製品を一括した。いずれも1区からの出土で、図示した2点のみである。339は1区SP41から出土した。両端・両側面など大部分を欠き、全体形状は不明瞭である。ナデやケズリが施される面を表とした。成形時のものか爪痕が2か所に残る。表面には棒状工具などの痕跡が円筒状の凹みが認められる。胎土はⅡc類。340は1区包含層から出土した。太い管状土鏝の可能性もあるが、外面に断面V字状の斜位沈線状の凹みが認められることから不明土製品とした。胎土はⅡb類。

焼成粘土塊 (図版64, 写真図版55) 何らかの理由で粘土塊が被熱したものである。出土総重量215.6gを測り、内訳は1区SP41から41.8g、第6次調査区SX11から173.8gである。いずれも不整形で大きさま様々であり、最大の1点のみ図示した(341)。胎土Ⅳb類でほとんど混和材を含まず微細な長石・石英を含み、黒色土器や土師器無台碗に多い胎土である。第Ⅶ章でも述べるが、少量ながら存在する焼成粘土塊は、本遺跡内で土器製作が行われた可能性を示唆する。

第4節 鍛冶関連遺物

鑄の羽口・鉄滓が出土した。形状が分かる大きめの羽口3点、鉄滓2点を図示した。種別ごとに記載する。

羽口 (図版63, 写真図版55) 総数12点で419.8g出土した。内訳は1区8点(289.8g)、2区3点(126g)、3区1点(4g)で、4区・5区・第6次調査区からは出土していない。1区は調査区中央から西半部で出土し、2区3点が隣接するグリッドから出土している。320は1区SX45から出土した。半周ほど遺存する体部の破片資料。胎土には土器片や粗大な長石や石英が目立つ。推定外径74mm、推定孔径(内径)30mmである。322は2区SD4から出土した。全周のうち1/3程度遺存する先端部分の破片資料。強い被熱により内外面先端が黒化する。推定外径65mm、推定孔径(内径)32mmである。323は2区包含層から出土した。全周のうち1/5程度遺存する先端部分の破片資料。先端部分はガラス質に溶解し、強い被熱により黒化する。溶解部は気泡が目立つ。推定外径66mm、推定孔径(内径)31mmである。

鉄滓 (図版63, 写真図版55) 1区で174.5g、2区で82.0g、3区で23.0g、4区で12.8g出土し、5区・第6次調査区からは出土していない。1区B-10H-6F11では鉄滓とともに羽口も定量出土し、3区は鉄滓と羽口が隣接するグリッドから出土している。2区では調査区中央やや東側で鉄滓が出土しているものの羽口の出土地点とは若干距離がある。321は2区SK13から出土した椀形滓で、最大長41mm、最大厚18mm、重さ27.05gを測る。324は3区包含層から出土した椀形滓で、最大長37mm、最大厚16mm、重さ22.88gを測る。

第5節 石製品

研磨や磨耗が認められる礫を「石製品」とした。被熱の痕跡が認められる礫もここに含めて記載する。石材は基本的に肉眼観察により同定した。他に調査区全体から搬入礫と考える自然礫がコンテナ(内寸55.4×33.6×10.0cm)で1箱出土している。これらの礫のうち安山岩は角田山麓で比較的多く採集できることから運ばれてきたものとする。また、わずかに出土している花崗岩・軽石など弥彦・角田山麓にはない石材は、採取可能な阿賀野川などから運ばれてきたことが窺える。

砥石 (図版 65, 写真図版 55・56) 表面に磨耗痕や明瞭な線状痕を有するものを一括した。総数 24 点出土した。内訳は 1 区 11 点, 2 区 6 点, 3 区 3 点, 4・5 区から各 1 点, 第 6 次調査区 2 点で, 8 点図示した。342 は 4 面に砥面をもつ泥岩製の砥石で, 1 区包含層から出土した。343 は第 6 次調査区 SD6 から出土し, 裏面以外の 5 面に砥面をもつ泥岩製の砥石であるが, 砥石として使い始めた初期段階のものとする。344 は 5 区包含層から出土した泥岩製の砥石で, ごく薄い剥片の一部と端部両面が V 字状に磨耗している。345 は断面三角形の泥岩製の手持ち用砥石で, 2 区包含層から出土した。346 は表裏 2 面に砥面をもつ泥岩製の砥石で表面には線状痕が残る。2 区 SK13 から出土した。347 は表と両側面 3 面に砥面をもつ頁岩製の砥石で, 1 区包含層から出土した。348・349 は比較的大きく, 台石状を呈する。348 は泥岩製の砥石で表面に研磨痕, 裏面には敲打痕が残り, 側面には線状痕が認められる。1 区包含層から出土した。349 は 3 区 SK5 の底面から出土した砂岩製の砥石で, 表・側面の上半部に研磨痕が残る。また, 図示し得なかったが研磨痕の他に敲打痕が認められるものが 2 点, 1 区から出土している。

磨耗礫・磨耗軽石 (図版 65・66, 写真図版 56) 表面に平滑な磨耗痕をもつもので, 磨耗の方向が不明瞭なものを一括した。磨耗礫は円礫やその他硬質岩を使用しているもので, 磨耗軽石は軽石を使用しているものである。350～354 が磨耗礫である。総数 69 点出土した。内訳は 1 区 23 点, 2 区 8 点 (うち 1 点に被熱痕がみられる), 3 区 13 点, 4 区 9 点 (うち 2 点に被熱痕がみられる), 第 6 次調査区 16 点で, 5 点図示した。この中にはいわゆる磨石も含まれる。350 は安山岩製で表面に敲打痕, 裏面に磨耗痕がみられる。1 区包含層出土。351 は泥岩製で全体的に磨耗している。4 区包含層出土。352・353 は第 6 次調査区 SX11 から出土した。352 は安山岩製で 1 面を欠くが 3 面に被熱痕と磨耗痕がみられる。353 は安山岩製で表面に被熱痕と 1 面に磨耗痕がみられ, 部分的に黒色付着物が残る。354 は 1 区 SD18 から出土した。花崗岩製で全体的に磨耗痕と被熱痕がみられ, 部分的に敲打痕が残る。被熱により表面が脆く砕けそうな状態である。これは, 破砕しやすいように被熱しているとも考えられ, 本遺跡出土土師器の胎土Ⅱ群との関係が示唆される。つまり, 胎土Ⅱ群の混和材として主体的に含まれる被熱した石英・長石・各種岩石などは, このような方法で採取している過程の資料かもしれない。354 は, 土師器の混和材として持ち込まれ, 被熱・敲打して上記混和材を採取している過程の資料かもしれない。

355～357 が磨耗軽石である。総数 8 点出土した。内訳は 1 区 1 点, 2 区 3 点, 3 区 1 点, 第 6 次調査区 3 点, 工事立会時 (調査区外) 1 点で, 3 点図示した。355 は第 6 次調査区 SD6 から出土し, 半分程度に磨耗痕がみられる。356 は 2 区包含層から出土し, 全体的に磨耗痕がみられる。357 は工事立会時に出土し, 一部に磨耗痕がみられる。なお, 磨耗痕のみられない軽石が 1 点 3 区包含層から出土している。

敲石 (図版 66, 写真図版 56) 総数 6 点出土した。内訳は 1 区 3 点, 第 6 次調査区 3 点で 1 点図示した。358 は第 6 次調査区包含層から出土し, 安山岩製円礫を用いた敲石で全体的に敲打痕が残る。

被熱礫 (図版 66, 写真図版 56) 総数 40 点出土した。内訳は 1 区 9 点, 2 区 9 点, 3 区 4 点, 4 区 8 点, 第 6 次調査区 10 点で 3 点図示した。図示した 359～361 はすべて安山岩製である。360・361 は被熱により全体的に脆く砕けそうな状態である。359 は 1 区 SD29 から, 360 は 1 区 SD38 から, 361 は 2 区 SD1 から出土した。

その他 自然礫が 33 点出土している。内訳は 1 区 1 点, 2 区 4 点, 3 区 17 点, 4・5 区から各 1 点, 第 6 次調査区 9 点である。

第 6 節 木 製 品

総数 47 点出土した。内訳は柱痕 10 点, 円形板状製品 2 点, 板状製品 16 点, 棒状製品 5 点, ヘラ状製品 1 点, 箸状製品 1 点, 舟車 2 点, 燃えさし 8 点, 不明・自然木 2 点である。そのうち遺存状態の良好な 22 点を図示した。柱痕以外の大半が 1 区 SE57 から出土している (362～372)。以下, 種別ごとに記載する。

斎串 (図版 67, 写真図版 57) 362・363 は完形の斎串である。板目材を使用し片側を剣先状に尖らせ、圭頭状にした反対側には上向きの切り込みが左右非対称に入る。363 裏面には浅い線状痕が数本みられる。362 は長さ 18.5cm、幅 2.9cm、厚さ 0.6cm で、363 は長さ 18.4cm、幅 2.7cm、厚さ 0.4cm を測りほぼ同じ大きさである。

箸状製品 (図版 67, 写真図版 57) 364 は完形で厚さが 0.7cm 以下と細いことから箸状製品と考えた。

へら状製品 (図版 67, 写真図版 57) 365 は唯一の竹材でへら状製品である。上部片側は細く下部は扁平にへら状に加工され、使用によるものか線状痕が残る。完形で長さ 31.0cm、幅 1.6cm、厚さ 0.3cm を測る。

棒状製品 (図版 67, 写真図版 57) 366・367 は棒状製品とした。366 は追柾目材を使用し全周・両端部は加工されている。上端とした方は扁平に、下端とした方は中央をやや欠くがドーム状に丸くなり、断面円形ですりこぎ状を呈する。略完形で長さ 26.8cm、幅 3.2cm、厚さ 3.2cm を測る。367 は半割材を使用した木柱・木杭かもしれない。上部を欠き、先端部は加工され方形の面をもつ。幅 6.0cm、厚さ 5.0cm を測る。

板状製品 (図版 67, 写真図版 57) 368～371 は板状製品である。368 は半割材を使用し、端部は加工されて若干尖っている。上部を欠くが幅 4.2cm、厚さ 1.8cm を測る。369 は板目材を使用し、両端部は切り落とされている。使用によるものか表面に線状痕がみられる。側面を若干欠くが完形で長さ 51.8cm、幅 2.5cm、厚さ 0.9cm を測る。370 は柾目材を使用し断面三角形を呈する。両端部を欠くが幅 1.4cm、厚さ 0.5cm を測る。371 は柾目材を使用し断面長方形を呈する。下端部を欠くが幅 2.1cm、厚さ 0.3cm を測る。

円形板状製品 (図版 67, 写真図版 57) 372・373 は円形板状製品で曲物の底板と考える。372 は柾目材を使用し表面の加工痕は不明瞭であった。左右 2/3 ほどを欠き中央部のみ残存している。長さ 18.4cm、厚さ 0.5cm を測る。373 は 2 区 SE25 から出土している。柾目材を使用し表面の加工痕は不明瞭であった。完形で直径約 18.0cm、厚さ 0.9cm を測る。

柱根 (図版 68, 写真図版 58) 374～383 は柱根である。374～376 は 2 区、377～383 は 3 区のいずれも下層から出土した。柱の径は 10cm 以下 1 本、10～15cm が 3 本、15～20cm が 6 本である。374・375 はいずれも広葉樹で、374 はクリの可能性が高い。また、374 は出土した柱根で最も太く、直径 20.1cm を測る。ほぼ全周に加工が施されている。375 も外面に若干の加工がみられる。柱の先端を水平に加工されているもの (374・380～381・383) が最も多く、V 字状に尖らされるもの (377) や、片側からのみ斜めに加工されているもの (379) もある。379・382 は腐植により先端の加工が不明瞭であった。378 は端部中央が上部からの圧力により水平になっている。

第7節 その他

有機遺物など上記分類に含まれない遺物を一括した。ヒョウタンが 1 区 SE57 の 6 層から出土しているが、残存不良により図示し得なかった (図版 57)。破片には外側から径 2.0mm のごく小さい穿孔が 2 か所認められるものの、接合しなかったため全体形状は不明瞭だが、釣瓶の可能性もある。また、種実が 20 点出土している (土壌の篩選別などは含めない)。内訳はモモ 18 点、クルミ 2 点である。このうちの大半 (モモ 11 点、クルミ 2 点) は 3 区 SD7 からの出土であり、SD7 出土のモモには長軸 3.0cm と比較的大きいものが 2 点含まれていた。残るモモ 7 点は 1 区 SE57、2 区 SE25・SD13、3 区 SP11・SP44 から各 1 点、3 区包含層から 2 点出土した。さらに、骨が 4 点出土している。同定した結果、ウマの骨 (歯)・鳥類の骨・カニの殻であった (第 VI 章参照)。ウマの歯 1 点は第 6 次調査区 SD21、鳥類の骨 2 点 (同一個体) は SX11、カニの殻 1 点は 2 区包含層からの出土である。

第VI章 自然科学分析

今回の調査では、上層で水田跡や畝跡、中・下層では井戸・土坑・川跡・溝状遺構など古代に属するさまざまな遺構が確認された。畝跡と考えられる畝状遺構が確認された地点で、栽培作物および古植生の検討を目的に、花粉分析・植物珪酸体分析を実施し、遺跡の下限を知るために上層の畝状遺構（畝跡）およびその直上から採取した土壌による¹⁴C年代測定を行った。また、発掘調査で検出された木材類（柱根）に関して樹種同定を実施した。

さらに、出土した土器（主に土師器）に認められる刷紋圧痕や土器底部の網状脈の本葉痕、その他の圧痕について、圧痕レプリカ法を用いた分析で種実・樹種同定を行い、遺跡における植物利用などを検討した。

第1節 下新田遺跡の土層と古植生

A サンプル採取地点の土層層序（図版8）

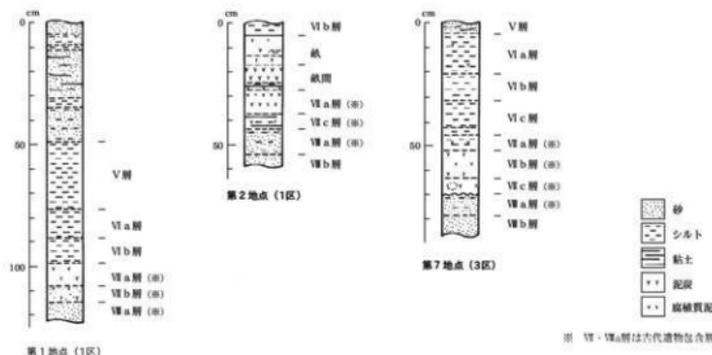
1) 1 区

土層の観察は、畝跡と考えられる畝状遺構が検出されたVII層を含む、V～VII層を対象とした。

第1地点は、下位より青灰色砂層（層厚8cm, VIIa層）、砂混じりで青みがかった暗灰色泥層（層厚7cm, VIIb層）、暗灰褐色泥層（層厚9cm, VIIa層）、細かく成層した青みがかった灰色～暗灰色シルト層（層厚10cm, VIb層）、青みがかった灰色シルト層（層厚12cm, VIa層）、細かく成層した青みがかった灰色シルト層（層厚28cm, V層）が認められる（第9図）。

第2地点は畝状遺構が検出された地点で、下位より青灰色砂層（層厚5cm以上, VIIb層）、青灰色シルト質砂層（層厚10cm, VIIa層）、やや色調が暗い灰色泥層（層厚6cm, VIIc層）、黒灰色泥層（層厚9cm, VIIa層）、灰色がかった褐色泥層（層厚1cm）、灰色シルト層（層厚1cm）、やや色調が暗い褐色の草本質泥炭層（層厚6cm、いわゆるマコモ層、以上畝間層）、青灰色シルトをレンズ状に挟む暗灰褐色泥層（層厚6cm、畝層）、青みがかった灰色シルト層（層厚5cm, VIb層）が認められる（第9図）。

第3地点は畝状遺構の断面が観察できる。畝はそれまでに形成されていた土層の上に土をのせて作られており、



※ VII-VIIa層は古代遺物包含層

第9図 各地点の土層柱状図

下位より褐色草本質泥炭層ブロック混じり暗灰色泥層（層厚6cm、畝間下層）、やや色調が暗い褐色土（層厚9cm、畝間上層）で埋没している。

2) 2 区

第4地点の畝状遺構は、下位より黒灰褐色泥層（層厚2cm以上）、褐色泥炭層（層厚0.8cm）、灰白色層の上面に土をのせて作られており、下位より灰褐色泥層（層厚8cm）、灰色シルト層（層厚1cm）、暗灰色泥層（層厚2cm）で埋没している。

第5地点の畝状遺構は、下位より灰色シルト層（層厚1cm）、暗灰色泥層（層厚4cm）、灰褐色泥層（層厚5cm）で埋没している。このことから、これら2区で検出された畝は灰色シルト層を堆積させた洪水の被災遺構の可能性が考えられる。

3) 3 区

第7地点は、下位より青みがかった灰色砂層（層厚8cm以上、Ⅶb層）、青灰色シルト質砂層（層厚9cm、Ⅶa層）、砂混じり灰色シルトブロックを含む暗灰色泥層（層厚6cm、Ⅶc層）、やや褐色がかった暗灰色泥層（層厚12cm、Ⅶb層）、灰色シルトブロックを含む細かく成層して色調がやや暗い灰色泥層（層厚6cm）、やや色調が暗い灰色泥ブロックを含む細かく成層した灰色シルト層（層厚3cm、以上Ⅶa層）、細かく層理が発達した灰色シルト層（層厚11cm、Ⅶc層）、灰色シルト層（層厚11cm、Ⅶb層）、細かく層理が発達しやや色調が暗い灰色シルト層（層厚16cm、Ⅶa層）、細かく層理が発達しやや青みがかった灰色砂層（層厚32cm以上、Ⅴ層）が認められる（第9図）。

B 分析試料

試料は、2区南壁のほぼ中央部の断面より採取した（第5地点 図版8）。古植生の検討という分析目的を考慮し、Ⅶ層とその上位と下位の層に相当するⅥ～Ⅷ層の各層より採取した土壌試料7点である。なお、畝状遺構が検出されたⅦa層では、畝を構成する堆積物と畝間を充填する堆積物の2点を採取している。

C 分析方法

1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる肥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、保有の現生標本や島倉〔1973〕、中村〔1980a〕等を参考にする。また、イネ属については、検出されるイネ科花粉の表面微細構造、発芽孔の肥厚状況、粒径等を考慮し中村〔1974〕を参考にイネ属と他のイネ科に分類する。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフン（-）で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

2) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリューラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤〔2010〕の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際、分析試料の乾燥重量、プレパラート作製に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物（乾土）1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）

を求めらる。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は100単位として表示し、100個/g未満は「<100」で表示する。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

D 分析結果

1) 花粉分析

結果を第3表、第10図、および主な分類群の顕微鏡写真を第11図に示す。花粉化石は、VIa～VIIa層の各層より産出し、保存状態は試料によって異なるが普通～やや悪い程度である。また、全体的にシダ類胞子が多産する。

各層の花粉化石群集は、優占する分類群は異なるものの多産する分類群は概ね類似する。木本花粉では、各層を通じてマツ属、スギ属、ハンノキ属が多産し、VIIa～VIa層ではブナ属も多産する。この他、ツガ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、サワグルミ属、クマシデ属-アサダ属、コナラ属コナラ亜属、モチノキ属等を伴う。

草本花粉は、各層を通じてイネ科やカヤツリグサ科が多く産出する傾向にあり、VIa層ではゴキツル属も多く産出する。この他、サナエタデ節-ウナギツカミ節、アカザ科、オナモミ属等を伴う。なお、産出は少ないものの全体的にガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、ハス属、ヒシ属、サンショウモ等の水湿地生植物に由来する花粉・胞子が認められ、VIIa層の畝では水生藻類のクンショウモ属も検出される。

また、上記したイネ科花粉中には栽培種であるイネ属の花粉も認められた。イネ属花粉が検出されなかったVIIb層を除く各層のイネ科花粉中におけるイネ属型の割合は、VIIa層が約17.4%、VIIc層が約8.0%、VIIa層(畝間)が約16.2%、VIIa層(畝)が約17.6%、VIc層が約23.2%、VIa層が約16.1%である。

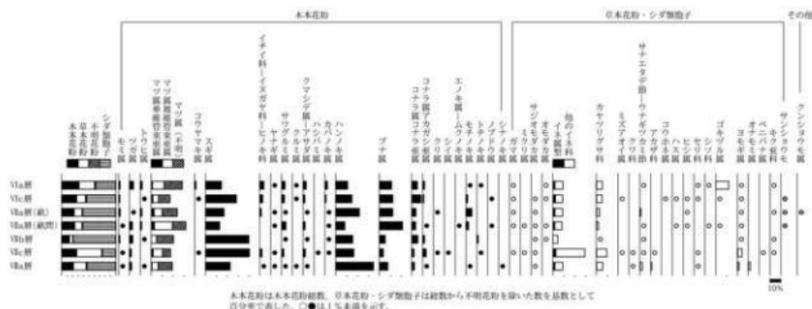
2) 植物珪酸体分析

結果を第12図、第4表、および主な分類群の顕微鏡写真を第13図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められるなど、保存状態は不良である。

植物珪酸体含量は、VIIa～VIa層を通じて、100個/g未満～4.3万個/gである。詳細にみると、畝および畝間が検出された層位(VIIa層)とその上位・下位とで産状が異なり、VIIa～VIIb層が600～1,600個/g、VIIa層が1.9～4.3万個/g、VIc～VIa層がいずれも100個/g未満と、植物珪酸体含量の多寡が顕著である。

第3表 検出花粉一覧

分類群	216 奥層 基本土層					
	VIa層	VIa層	VIa層	VIb層	VIc層	VIa層
木本花粉	-	1	-	-	-	1
マキ属	3	3	2	1	2	1
ツガ属	8	-	1	6	5	4
トウヒ属	4	1	2	3	1	-
マツ属(常緑葉常緑葉)	2	3	3	6	-	4
マツ属(不明)	35	26	18	26	25	17
コウヤマキ属	3	2	-	-	-	1
スギ属	31	71	22	28	64	46
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	8	7	2	-	-	5
サワグルミ属	1	-	1	-	-	1
サワグルミ属	7	7	1	9	1	5
クマシデ属	2	2	-	-	-	1
クマシデ属-アサダ属	6	4	1	4	1	5
ハンノキ属	-	-	-	-	-	2
合ハノキ属	5	3	1	1	1	2
ハンノキ属	23	37	28	18	25	39
ブナ属	24	31	16	46	9	16
コナラ属コナラ亜属	11	21	5	8	9	5
コナラ属アカガシ亜属	4	3	-	1	3	8
ケリ属	-	-	-	-	-	2
シイ属	-	-	-	-	-	2
ヒメヤナギ属	6	6	7	10	4	5
エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	-	-
オモダカ属	1	4	7	5	-	2
トナリノキ属	-	-	-	-	-	1
ノブドウ属	-	1	-	1	-	-
シナノキ属	-	-	-	-	-	1
ウコギ科	1	-	-	1	-	-
ツツジ科	-	1	-	-	-	-
イボタノキ属	-	-	-	1	-	1
オニツツジ属	1	-	-	-	-	-
草本花粉	-	-	-	-	-	-
ガマ属	2	3	2	2	-	2
ミクリ属	-	-	-	3	1	-
サジオモダカ属	-	3	2	1	2	5
オモダカ属	1	1	-	1	-	-
イネ属型	10	19	9	12	-	20
他のイネ科	52	63	42	62	52	230
他のマツ科	38	49	17	10	6	33
ミズアオイ属	-	1	-	-	-	1
カワ科	-	-	-	-	-	3
イブキトランノ属	-	-	-	-	-	2
サナエタデ節-ウナギツカミ節	2	-	7	8	7	24
アカザ科	1	-	-	-	-	-
アカザ科	-	-	-	-	-	12
ナデシコ科	-	-	-	-	-	1
コウホネ属	-	1	-	-	-	-
ハス属	-	2	-	1	-	-
アザミ科	-	1	-	-	-	1
ワオ科	-	1	-	-	-	2
ヒシ属	-	2	3	6	-	-
セリ科	1	1	-	-	-	5
シソ科	1	-	-	1	-	-
クンショウモ属	79	4	3	2	-	-
ヨモギ属	6	3	4	3	9	15
オナモミ属	-	-	-	-	-	18
ペニハナ属	-	-	-	-	-	1
水ウラボシ科	1	-	2	-	1	-
クンショウモ科	3	-	-	-	-	-
不明花粉	-	-	-	-	-	-
不明花粉	9	10	3	8	2	15
シダ類胞子	-	-	-	-	-	-
ゼンマイ属	5	1	-	1	-	1
サンショウモ属	-	3	4	1	-	1
他のシダ類胞子	247	493	346	542	911	214
合計	210	348	128	213	160	234
木本花粉	197	353	88	122	78	307
草本花粉	9	10	5	8	2	15
シダ類胞子	252	497	350	544	911	215
合計(不明を除く)	659	869	566	879	1149	846
その他	-	-	-	-	-	-
クンショウモ属	-	-	1	-	-	-

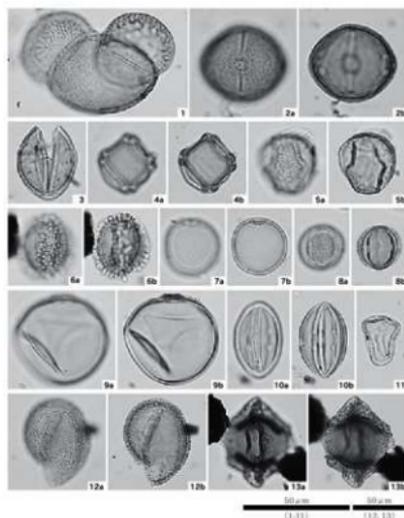


第10図 主要花粉ダイアグラム

各層の植物珪酸体群集についてみると、VIIa～VIIb層は、タケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属、イチゴツナギ亜科等が産出するが、いずれも含量が低い。畝状遺構が検出されたVIIa層は、ヨシ属の含量が極めて高く、タケ亜科、コブナグサ属、イチゴツナギ亜科等を伴う。VIc～VIIa層は、分類群が不明の機動細胞植物珪酸体が100個/g未満確認された程度である。また、栽培種のイネ属は、VIIa層、VIIc層およびVIIa層の畝間より検出されるが、その含量はいずれも100個/g未満である。

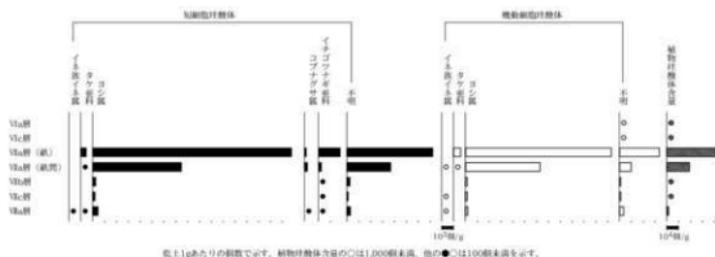
分析の結果、2区南壁のVIIa～VIIa層における花粉化石群集は、本木類ではマツ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属等が多産した。本遺跡の立地等を考慮すると、ブナ属やコナラ亜属は平野部周縁の山地や丘陵に分布する冷温帯性広葉樹林に由来すると考えられ、モミ属、ツガ属、イチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科等の針葉樹はこれらの広葉樹林に混交していたと推定される。また、多産したハンノキ属には湿地林を構成する種が含まれる。スギ属は、植林等により本来の生態性は不明であるが、北陸地域を含む日本海沿岸部では扇状地先端の湧水地周辺や低地部にスギ林の分布が確認されている。この他、ヤナギ属やサワグルミ属、クルミ属、クマシテ属-アサダ属、コナラ亜属、トチノキ属、シナノキ属等は、溪谷林や河畔林を構成する分類群を含む。これらの分類群は、周辺の低地および河川沿いに分布した林分由来と考えられる。

なお、上述した多産した分類群のうち、スギ属、ハンノキ属、ブナ属の消長に着目すると、VIIa層とVIIb～VIIc層の間ではスギ属が増加し、ハンノキ属が減少するという特徴が認められる。また、VIIb～VIIc層とそれより上位の層位の間では、スギ属がやや減少傾向にあり、ブナ属が増加するという特徴が認められる。これら



1. マツ属 (2区南壁 基本土層) VIIa層
2. スギ属 (2区南壁 基本土層) VIIa層
3. コナラ属コナラ亜属 (2区南壁 基本土層) VIIa層
4. イネ科 (2区南壁 基本土層) VIIa層
5. ヨシ属 (2区南壁 基本土層) VIIa層
6. ヨシ属 (2区南壁 基本土層) VIIa層
7. イネ科 (2区南壁 基本土層) VIIa層
8. ヨシ属 (2区南壁 基本土層) VIIa層
9. イネ科 (2区南壁 基本土層) VIIa層
10. コナラ属 (2区南壁 基本土層) VIIa層
11. カヤツグ科 (2区南壁 基本土層) VIIa層
12. ハス属 (2区南壁 基本土層) VIIa層
13. セシ属 (2区南壁 基本土層) VIIa層

第11図 花粉顕微鏡写真



乾重1gあたりの個数で示す。植物群検出量の○は1,000個未満、●は100個未満を示す。

第12図 植物珪酸体の検出量

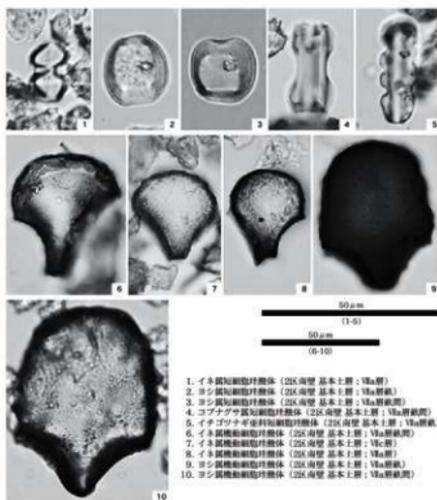
の変化は、周辺域に分布したと思われるハノキ属やスギ属の林分が減少したため、とくにⅦa層以降に山地や丘陵の森林植生と考えられるブナ属が相対的に反映されるようになった結果と推定される。

一方、草本類では、イネ科、カヤツリグサ科の多産と、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、ハス属、ヒシ属、ゴキツル属、サンショウモ等の水湿地生草本・シダ類の検出によって特徴付けられた。水湿地生種の産出状況についてみると、Ⅶa層はサジオモダカ属が僅かに検出されたのみであるが、Ⅶc層では検出される分類群が増え、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、ミズアオイ属等が確認される。さらにⅦa層および上位では上記した分類群とともに、コウホネ属、ハス属、ヒシ属等の水深が1～2m程度の池沼に生育する分類群が産出する。このような変化は、調査地周辺の水域環境の変遷を示している可能性があり、植物珪酸体に認められたヨシ属、コブナグサ属はこのような潤湿な環境に生育したイネ科草本類に由来すると考えられる。この他に検出された、タケ亜科やイチゴツツナギ亜科等のイネ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、アカザ科、ヨモギ属、オナモミ属、キク亜科等は、比較的乾燥した場所に分布した草地環境を反映していると考えられる。

第4表 植物珪酸体一覧と含量

分類群	25a層 基本土層					
	Ⅶa層	Ⅶc層	藪	直筋	Ⅶb層	Ⅶd層
イネ科葉部知照植物群	-	-	-	-	-	<100
イネ科イネ属	-	-	500	<100	-	<100
タケ亜科	-	-	16,800	7,500	300	200
ヨシ属	-	-	300	300	-	<100
コブナグサ属	-	-	1,800	300	<100	<100
イチゴツツナギ亜科	-	-	7,200	3,700	300	100
不明	-	-	-	-	-	-
イネ科葉部植物群植物群	-	-	-	<100	-	<100
イネ科イネ属	-	-	800	<100	-	-
タケ亜科	-	-	12,300	6,300	200	200
ヨシ属	-	-	3,400	1,000	100	100
不明	<100	<100	-	-	-	-
合計	-	-	26,500	11,800	600	500
イネ科葉部植物群植物群	<100	<100	16,300	7,500	300	300
植物珪酸体含量	<100	<100	42,800	19,300	900	1,000

* 1=100; は100個/10g未満を示す。



第13図 植物珪酸体顕微鏡写真

1. イネ科知照植物群 (25a層 基本土層; Ⅶa層)
2. ヨシ属知照植物群 (25a層 基本土層; Ⅶa層藪)
3. コブナグサ属知照植物群 (25a層 基本土層; Ⅶa層直筋)
4. コブナグサ属知照植物群 (25a層 基本土層; Ⅶa層植物群)
5. イチゴツツナギ亜科知照植物群 (25a層 基本土層; Ⅶa層藪)
6. イネ科植物群植物群 (25a層 基本土層; Ⅶa層藪)
7. イネ科植物群植物群 (25a層 基本土層; Ⅶc層)
8. イネ科植物群植物群 (25a層 基本土層; Ⅶa層)
9. イネ科植物群植物群 (25a層 基本土層; Ⅶa層)
10. イネ科植物群植物群 (25a層 基本土層; Ⅶa層藪)

第2節 水田跡（稲作跡）の検討

A 分析試料

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO₂)が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで水田跡(稲作跡)の検証や探査が可能である〔藤原・杉山1984、杉山2000〕。

分析試料は、1区第1地点、1区第2地点、3区第7地点から採取された計15点である(図版8)。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す(第14図)。

B 分析方法

分析は、ガラスビーズ法(藤原1976)を用いて次の手順で行った。

- ① 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- ② 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- ③ 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- ④ 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
- ⑤ 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- ⑥ 封入剤(オイキット)中に分散してプレバート作成
- ⑦ 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレバート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山2000〕。

C 分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、ジュズダマ属型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型の主要な8分類群に限定した。分析結果を第5表および第14図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を第15図に示す。

1) 水田跡(稲作跡)の検討

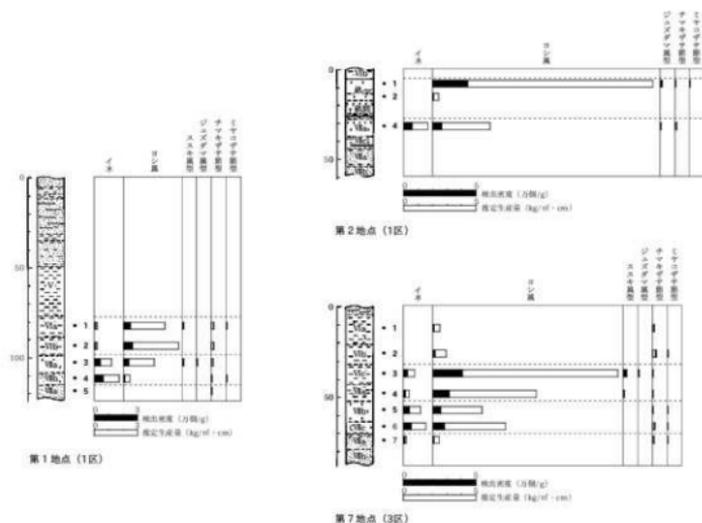
水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山2000)。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

① 1区第1地点

Vla層(試料1)～VIIa層(試料5)について分析を行った。その結果、Vla層(試料1)～VIIb層(試料4)でイネが検出された。このうち、VIIb層(試料4)では密度が6,000個/gと高い値であり、VIIa層(試料3)でも4,100個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられ

第5表 水田跡の植物珪酸体一覽

検出部位 (単位: ×100個/g)		1区第1地点							1区第2地点				3区第7地点						
分類群	学名	1	2	3	4	5	1	2	4	1	2	3	4	5	6	7			
イネ科	Gramineae																		
イネ	<i>Oryza sativa</i>	7	7	41	80			88			27	13	41	94	7				
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	46	61	34	7	245	7	64	8	15	206	115	55	81	7				
ススキ属型	<i>Misanthus type</i>	7									30	6							
ジユズダマ属型	<i>Carex type</i>		7				14	6		7									
ナマケザク属型	Bambusoideae																		
ナマケザク属型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	20	20	14	7	7	7		13	15	30	7	6	7	20	14			
ミヤコザク属型	<i>Sasa sect. Crassirostris</i>	7			7		7				8			7	7	7			
植物群確保総数	Total	85	88	103	80	7	274	7	142	23	53	265	141	110	163	34			
おもな分類群の検定生産量 (単位: kg/ef・cm) : 試料の乾比重も1.0と仮定して算出																			
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.19	0.20	1.21	1.77			1.70			0.78	0.38	1.22	1.59	0.20				
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	2.89	3.83	2.16	0.42	16.49	0.47	4.06	0.48	0.95	12.97	7.28	3.48	5.13	0.43				
ススキ属型	<i>Misanthus type</i>				0.08						0.25	0.08							
ナマケザク属型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	0.15	0.15	0.10	0.05	0.06	0.05		0.10	0.11	0.23	0.05	0.05	0.05	0.15	0.10			
ミヤコザク属型	<i>Sasa sect. Crassirostris</i>	0.02			0.02			0.02			0.02		0.02	0.02	0.02	0.02			



第14図 各地点の植物珪酸体分析結果

る。VIb層(試料2)とVIa層(試料1)では、密度が700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

② 1区第2地点

畝跡の畝を構成する層(以下、畝層)(試料1・2)とVIIa層(試料3)について分析を行った。その結果、VIIa層(試料3)からイネが検出された。密度は5,800個/gと高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

③ 3区第7地点

VIa層（試料1）～VIIa層（試料7）について分析を行った。その結果、VIc層（試料3）～VIIa層（試料7）でイネが検出された。このうち、VIIc層（試料6）では密度が5,400個/gと高い値であり、VIb層（試料5）でも4,100個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の層では、密度が700～2,700個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）などがある。このうち、ジュズダマ属型が検出された。

ジュズダマ属型は、1区第1地点のVIIa層（試料3）、1区第2地点の畝層（試料1）とVIIa層（試料4）、3区第7地点のVIc層（試料3）から検出された。ジュズダマ属には食用や薬用となる栽培種のハトムギが含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態から栽培種と野草のジュズダマとを完全に識別するには至っていない。また、密度も600～1,400個/gと低い値であることから、これらの層でハトムギが栽培されていた可能性は考えられるものの、野草のジュズダマに由来する可能性も否定できない。

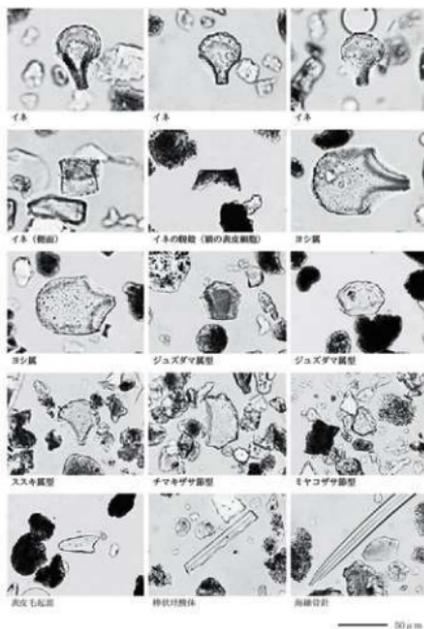
3) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。イネ以外の分類群では、多くの層でヨシ属が多く検出され、ススキ属型やタケ亜科は少量である。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢であり、とくに1区第2地点の畝層（試料1）や3区第7地点のVIc層（試料3）ではヨシ属が卓越している。

以上のことから、各層の堆積当時は、おおむねヨシ属が生育するような湿潤な環境で、1区第2地点の畝層や3区第7地点のVIc層（試料3）ではヨシ属が繁茂するような状況であったと推定される。

なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草としてヨシ属が生育していたことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたこと、ヨシ属の茎葉が施肥などの目的で水田内に持ち込まれたことなどが想定される。

すなわち、各層の堆積当時は、おおむねヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で水田稲作が行われていたと推定される。



第15図 植物珪酸体顕微鏡写真

第3節 畠跡の検討 1 (栽培植物)

A 分析試料

分析試料は、花粉分析およびプラント・オパール分析と土壌水洗後の篩選別の2種類ある。前者は、1区と2区畠跡の畝や畝間、畝直上から採取された計10試料、後者が2区の南壁(第6地点)と北壁(第5地点)の畠跡の畝と畝間で採取された計8試料である。試料採取位置を図版8に、前者試料一覧を第6表に示す。

B 分析方法

1) 花粉分析

試料(湿重量約3~4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フツ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1)の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良い花粉を選んで単体標本(PLC.1102~1109)を作製した(第18図)。

2) プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトルビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで写真を撮影した(第19図)。

3) 篩選別

土壌試料は、5cm×15cmで奥行きが5cmのブロック状で試料の採取および水洗は新潟市文化財センターが行った。堆積物は1.0mm目の篩で水洗され、大型植物遺体の同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡で行った。計数の方法は、完形または一部が破損しても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が困難な分類群は、おおよその数を記号(+)で示した。

C 分析結果

1) 花粉分析

10試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉32、草本花粉31、形態分類を含むシダ植物胞子3の総計66である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を第7表に、分布図を第16図に示した。分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示す。

1・2区ともに同じような花粉組成を示した。樹木花粉ではハンノキ属が最も多く産出しており、33~50%の産出率である。次いでスギ属が14~39%の産出率を示す。その他では、サワグルミ属-クルミ属やクマシデ属-アサダ属、カバノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属などが

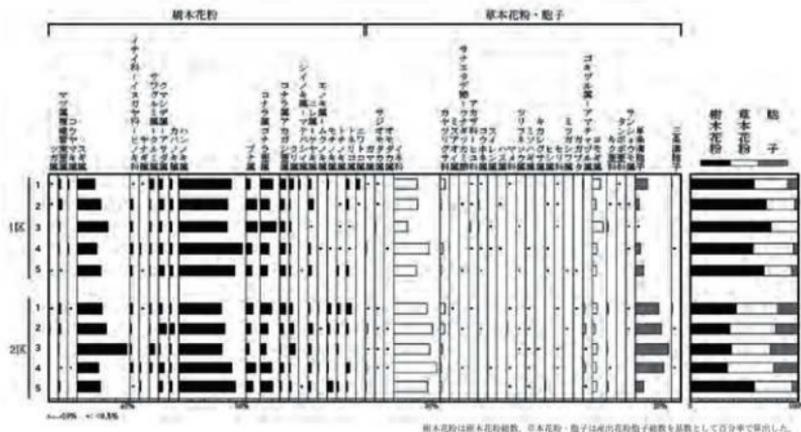
第6表 分析試料一覧

試料No.	調査区	採取位置	時期	土層
1	1区 (第2地点)	畝間上部	古代	灰オリーブ色(5Y5/2) 粘土
2		畝間下部		黒褐色(2.5Y3/1) 有機質粘土
3		畝直上		黒色(2.5Y2/1) 有機質粘土
4		畝上部		黒褐色(2.5Y3/1) 有機質粘土
5		畝下部		
1	2区 (第4地点)	畝直上	古代	灰オリーブ色(5Y4/2) 粘土
2		畝上部		黒色(7.5YR1.7/1) 有機質粘土
3		畝下部		黒色(10YR1.7/1) 有機質粘土
4		畝間上部		オリーブ黒色(5Y3/1) 有機質粘土
5		畝間下部		黒色(7.5YR1.7/1) 有機質粘土

第3節 品種の検討1 (栽培植物)

第7表 検出花粉一覧

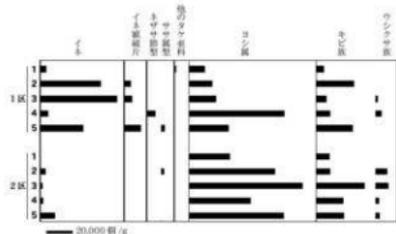
学名	和名	IR					DR				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
<i>Bees</i>	ツバキ	1	1	-	-	1	1	2	-	-	-
<i>Pine</i>	トウヒ属	-	-	-	-	1	1	-	-	2	
<i>Pinus sibirica, Diplospora</i>	マツ属朝鮮管束系属	4	7	2	2	1	4	4	1	1	3
<i>Pinus sibirica, Haploxylos</i>	マツ属華南管束系属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
<i>Scadopyx</i>	コウヤマキ属	2	-	-	2	-	1	-	-	1	
<i>Corymbium</i>	スギ属	30	44	49	36	30	40	46	78	36	30
<i>Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae</i>	イチノキ-イヌガサケ-ヒノキ科	1	6	4	6	4	4	2	2	5	1
<i>Silla</i>	ヤナギ属	1	-	-	2	1	1	-	-	2	2
<i>Platanus</i>	ノボリ木属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
<i>Platanus-Aquilar</i>	ヤブヅルミ属-ウケムシ属	8	3	3	4	2	3	2	9	6	
<i>CorFicus-Oleaceae</i>	マシメ属-アサギ属	7	9	5	8	9	6	12	3	9	7
<i>Betula</i>	カバノキ属	5	7	4	5	6	3	8	3	3	5
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	88	92	77	118	02	68	72	68	90	95
<i>Fagus</i>	ブナ属	8	21	18	11	10	12	8	5	17	12
<i>Quercus vulgaris, Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ属	21	18	26	17	12	19	12	10	20	21
<i>Quercus vulgaris, Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ属	10	9	8	10	9	10	6	2	7	3
<i>Castanea</i>	クリ属	8	2	3	3	2	5	7	9	2	4
<i>Cannabaceae-Panicum</i>	シノノキ属-マナハシ属	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	5	10	1	4	6	3	7	5	5	4
<i>Celtis-Aphananthe</i>	エニキ属-ムクノキ属	-	-	-	1	-	2	1	1	2	
<i>Corydalis</i>	カヅラ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
<i>Philadelphus</i>	キハダ属	-	1	-	1	-	-	-	-	-	
<i>Mallota</i>	アケボノシソ属	-	-	-	-	1	1	-	-	-	
<i>Rhus-Toxicodendron</i>	スズナ属-ウツクシ属	-	1	-	-	-	1	-	-	-	
<i>Ric</i>	モチノキ属	2	-	-	1	-	6	4	1	2	9
<i>Asclepias</i>	トネノキ属	-	1	1	1	3	5	3	2	-	3
<i>Urtica</i>	ブドウ属	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1
<i>Araliaceae</i>	ウコギ科	-	-	-	-	1	-	1	1	1	
<i>Equisetum</i>	イボタノキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	5	5	1	1	4	8	3	-	6	2
<i>Sambucus</i>	コトコ属	6	1	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Ulmaceae</i>	ガマズミ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
◎本											
<i>Zizyphus</i>	ガマ属	1	-	-	4	-	1	9	1	7	2
<i>Alnus</i>	サシメモドキ属	1	1	2	-	-	1	1	1	2	
<i>Sapindus</i>	オモミカ属	-	-	-	1	-	-	2	2	1	
<i>Gramineae</i>	イネ科	67	64	29	112	96	127	169	150	213	96
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリグサ科	14	4	-	10	3	19	20	10	7	6
<i>Monocotyle</i>	スズメノヒゲ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
<i>Moraceae</i>	ワウチ	-	-	-	3	1	1	1	1	1	
<i>Polygonum sect. Persicaria-Echinochloa</i>	ササユリ科-ウチワサユリ科	-	1	-	-	1	-	1	-	1	
<i>Chenopodiaceae-amaranthaceae</i>	アザミ科-ヒユ科	1	1	4	1	-	1	-	-	-	
<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
<i>Caryophyllaceae</i>	コウホネ科	1	3	2	1	1	-	1	-	-	
<i>Nymphaea</i>	スイレン属	-	-	1	2	-	-	1	-	-	
<i>Nelumbo</i>	ハス属	-	1	-	1	-	-	-	-	1	
<i>Paludineae</i>	カキワヅツク属	-	1	-	1	-	-	-	-	-	
<i>Brassicaceae</i>	アブラナ科	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
<i>Ranunculaceae</i>	ハナ科	-	1	-	-	-	1	2	-	-	
<i>Leguminosae</i>	マメ科	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
<i>Asplundia</i>	ツツノツク属	-	-	1	-	1	2	3	-	2	
<i>Liliaceae</i>	シシトマ科	-	-	-	1	-	-	1	2	-	
<i>Ranunculaceae</i>	キキョウ科	-	-	-	-	-	2	1	2	1	
<i>Scrophulariaceae</i>	ヒソコ属	-	1	-	1	1	-	-	-	1	
<i>Apocynaceae</i>	セリ科	1	1	1	-	-	-	-	-	2	
<i>Moraceae</i>	ミズガシラ属	-	-	-	-	1	1	-	1	1	
<i>Symphoricarpos</i>	オギガサ	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
<i>Labiatae</i>	シソ科	-	-	-	-	1	1	-	-	-	
<i>Panicum</i>	オモミカ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
<i>Actinostemon-Gynostemon</i>	コキヤム属-アマチャヅル属	2	-	-	-	-	-	-	-	1	
<i>Androsace-Kentiaea</i>	ブナツグサ属-オオモミ属	1	1	-	-	-	8	13	1	11	
<i>Androsace</i>	ヨモギ属	23	10	24	16	10	1	-	-	-	
<i>Tubiflorae</i>	キク科	-	1	3	-	-	18	12	20	19	13
<i>Ligniflorae</i>	タンポポ科	1	1	-	-	-	4	-	3	2	3
シダ植物											
<i>Selagin</i>	サンショウウ木属	-	1	1	1	-	1	1	-	-	
<i>monolete type spore</i>	単葉緑胞子	35	11	1	16	19	89	113	138	140	22
<i>trilete type spore</i>	二葉緑胞子	2	-	-	1	-	3	1	-	2	
<i>Asteroid pollen</i>	顕本花粉	214	239	202	335	208	204	202	200	216	212
<i>Nonasteroid pollen</i>	日本花粉	84	71	35	131	62	151	204	164	232	103
<i>Spores</i>	シダ植物胞子	37	12	2	18	19	93	110	138	142	22
<i>Total Pollen&Spores</i>	花粉・胞子総数	335	322	239	384	289	448	521	502	590	337
<i>Unknown pollen</i>	不明花粉	4	-	1	2	-	3	-	-	7	



第16図 扇路の花粉ダイアグラム

第8表 試料 1g 当りのプラント・オパール個数

試料 No.	イネ (個/g)	イネ類 雑草 (個/g)	ササ科 (個/g)	ササ類群 (個/g)	他の ササ科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	キジ属 (個/g)	ワヅクサ 属 (個/g)	イネ科 写像型 植物体列 (個/g)
1	4,800	0	0	0	1,600	12,700	6,300	0	0
2	46,800	5,400	0	0	0	18,000	28,800	0	0
3	59,200	6,400	0	0	0	20,800	8,000	1,600	1,600
4	6,500	0	6,500	0	0	73,500	10,800	4,300	0
5	33,400	12,800	0	2,600	0	36,800	28,300	0	0
1区	1	0	0	0	0	31,400	10,500	0	0
2	4,500	0	0	2,300	0	65,900	11,400	9,100	0
2区	2	2,000	0	0	0	87,100	27,600	9,900	0
3	2,500	0	0	0	0	47,300	21,000	2,600	0
4	11,600	0	0	0	0	72,800	21,500	3,300	0



第17図 扇路の植物体分析結果

数～十数%の産出率を示す。草本花粉ではイネ科が最も多く産出しており、11～34%の産出率である。次いでヨモギ属が2～9%の産出率を示す。その他では、好湿性の分類群の種類が多く、ガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、スイレン属、ハス属、ツリフネソウ属、ミソハギ属、キカシグサ属、ヒシ属、ミツガシワ属、ガガバタ、ゴキヅル属—アマチャヅル属、サンショウモ属などがわずかに産出している。

2) プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料 1g 当りの各プラント・オパール個数を求めた。分析結果を第8表および第17図に示し、主な分類群の顕微鏡写真を第19図に示す。

3) 篩選別

選別の結果、木本植物は含まれておらず草本植物の21分類群が得られた(第9表・第20図)。このほか科以下の識別点をもたない一群を同定不能炭化種実とした。また、昆虫遺体が得られたが同定の対象外とした。

以下に得られた大型植物遺体を採取位置別に記載する(同定不能炭化種実を除く)。

[第6地点]

Ⅶa 層畝: ヤナギタデとゴキヅルがわずかに得られた。

Ⅶb 層畝: ヤナギタデとシソ属、イボクサがわずかに得られた。

Ⅶa 層畝間: ヤナギタデとクサネム、エノキグサ属、ミクリ属、スゲ属がわずかに得られた。

VII b 層級間：ヤナギタデとイヌタデ、シソ属、ヒエ属、エノコログサ属がわずかに得られた。

[第5地点]

VII a 層級：アサとクサネム、ゴキツル、シロネ属、シソ属、イヌゴマ属、ヘラオモダカ、オモダカ属、イボクサ、ミクリ属、ホタルイ属がわずかに得られた。

VII b 層級：イネとウキヤガラがわずかに得られた。

VII a 層級間：ミズ属とヤナギタデ、ゴキツル、シロネ属、シソ属、イヌゴマ属、イボクサ、ミクリ属、スゲ属、ホタルイ属がわずかに得られた。

VII b 層級間：ヤナギタデスベリヒコ属、ゴキツル、シソ属、エノコログサ属、ウキヤガラがわずかに得られた。次に、主な分類群の記載を行い、写真を示して同定の根拠とする。

アサ *Cannabis sativa* L. 核 アサ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点がある。表面には下端から伸びる脈がある。長さ 3.3mm、幅 3.2mm、厚さ 2.6mm。

ミズ属 *Pilea* sp. 果実 イラクサ科

茶褐色で、上面観は扁平。側面観は倒卵形で、両端がやや尖る。種皮は柔らかく表面は平滑であるが、光沢はない。長さ 1.4mm、幅 0.8mm。

ヤナギタデ *Persicaria hydropiper* (L.) Spach 果実 タデ科

黒色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は両端が尖る広卵形。着点付近はわずかに肥厚する。網目状隆線は細かい。長さ 1.9mm、幅 1.5mm。

イヌタデ *Persicaria longiseta* (De Bruyn) Kitagawa 果実 タデ科

黒色で、上面観は三角形、側面観は広卵形。果皮は厚く硬い。表面は平滑で、他のタデ属より光沢がある。また、稜となる部分が幅広くである。大きさは他のタデ属より小さい。残存長 1.4mm、残存幅 1.0mm。

スベリヒコ属 *Portulaca* spp. 種子 スベリヒコ科

黒色で、上面観は扁平、側面観は円形。全体的にいぼ状の突起がある。「の」の字状になり先端に着点がある。長さ 0.7mm、幅 0.8mm。

クサネム *Aeschynomene indica* L. 果実 マメ科

褐色で、上面観は楕円形、側面観は完形ならば片面の臍部が顕著に凹む楕円形。臍は全長の 1/3 未満で楕円形、ほぼ中央に付く。臍の縁辺が肥厚する。種瘤が 2 つ並ぶ。残存長 4.6mm、幅 3.8mm。

ゴキツル *Actinostemma tenerum* Griff. 種子 ウリ科

橙褐色で、楕円形。果皮はコルク質、複数のひだ状の広い隆線がある。残存長 7.6mm、残存幅 4.2mm。

エノキグサ属 *Acalypha* spp. 種子 トウダイグサ科

黒色で、上面観は円形、側面観は倒卵形。表面には細かい網目状隆線があり、ざらつく。種皮は断面が櫛状で、薄く硬い。長さ 1.6mm、幅 1.1mm。

シロネ属 *Lycopus* sp. 果実 シソ科

黄褐色で、上面観は三角状狭卵形。腹面中央は稜となる。臍孔は卵形。白色の柔組織で縁取られる。長さ 1.9mm、幅 1.0mm。

シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ 1.3mm、幅 1.2mm。

イヌゴマ属 *Stachys* sp. 果実 シソ科

褐色で、倒卵形。腹側はやや平らで基部に着点があり、背側は膨らんで丸い。表面は平滑。長さ 2.0mm、幅 1.6mm。

ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A.Br. et Bouche 果実 オモダカ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。折れ目が離れているU字形の種子が内部にある。長さ2.2mm、幅1.2mm。

オモダカ属 *Sagittaria* spp. 種子 オモダカ科

黄褐色で、翼の中心部にいびつなU字形をした種子がある。長さ1.8mm、幅1.0mm。

イボクサ *Murdannia keisak* (Hassk.) Hand.-Mazz. 種子 ツククサ科

黒灰色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。中央部に狭楕円形の着点がある。表面はやや凹凸がある。長さ1.4mm、幅2.3mm。

ヒエ属 *Echinochloa* sp. 有ふ果 イネ科

淡褐色で、紡錘形。基部と先端はやや尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。壁は薄く弾力がある。内頰は影らまない。栽培型のヒエよりやや細長く、野生のイヌビエに近い。長さ2.6mm、幅1.4mm。

イネ *Oryza sativa* L. 籾殻 イネ科

橙褐色で、完形ならば側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長5.2mm、残存幅1.5mm。

エノコログサ属 *Setaria* spp. 有ふ果 イネ科

暗黄褐色で、上面観は楕円形、側面観は長楕円形で先端がやや突出する。アワよりも細長く、乳頭突起が顕状を呈する。長さ2.0mm、幅1.1mm。

ミクリ属 *Sparganium* spp. 核 ミクリ科

淡褐色で、上面観は円形、側面観は上部が細くなる卵形。果実は厚く、表面はスポンジ状で柔らかい。縦に5～6本の溝が走る。長さ5.6mm、幅2.7mm。

スゲ属 *Carex* sp. 果実 カヤツリグサ科

茶褐色で、上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる広卵形。側面には黄褐色の稜がある。先端と基部が掘じれたように曲がる。長さ1.5mm、幅0.7mm。

ウキヤガラ *Bolboschoenus fluviatilis* (Torr.) Soják subsp. *yagara* (Ohwi) T.Koyama 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、側面観は倒卵形、断面は正三角形。光沢があり、表面は平滑。長さ3.1mm、幅1.8mm。

ホタルイ属 *Scirpus* spp. 果実 カヤツリグサ科

黒色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は短倒卵形。頂部が尖り、基部は狭まって着点がある。壁は硬い。光沢がある。波打った溝が横に走る。花被には逆刺が密生する。長さ2.2mm、幅1.3mm。

全体的に試料の残りは悪かったが、栽培植物としては、第5地点の畝からアサ(VIIa層)とイネの籾殻(VIIb層)が1点ずつ得られた。栽培種を含む分類群としては、ヒエ属が南壁の畝間(VIIb層)から、エノコログサ属が第5・6地点の畝間(VIIb層)から得られているが、形態は野生種に近い。

D まとめ

プラント・オパール分析の結果、キビ族機動細胞珪酸体が両区ともに畝の下部(試料5・8)や畝間の下部(試料2・10)で産出量が多く、畝直上(試料3・6)では産出量が少ない傾向を示している。特に下部に多い傾向から、キビ族(アワやヒエ、キビ)が畝で栽培されていた可能性が推定される。しかし、篩選別による種実遺体ではそれを支持する結果は得られなかった。ただし、畝として機能している間は、畝および畝間の土壌は乾燥していたと考えられるため、生の植物遺体が残りにくかった可能性も考えられる。アサやイネ籾殻も未炭化で産出数が少ないため、畝に伴うものならば、埋積直後に水成堆積物に覆われるなどの何らかの選存要因を想定する必要がある。なお、イネはプラント・オパール分析の結果でも葉に蓄積される機動細胞珪酸体が畝および畝間から得られている。畝に伴う種実ならば、畝に稲葉をすき込むなど、何らかの要因でもたらされた稲葉に籾殻が付着していた可

能性などが考えられる。

1区では畝や畝間さらに畝直上にも普遍的に多量のイネ機動細胞珪酸体とイネ穎破片が含まれている。しかし、2区では、イネ機動細胞珪酸体の産出量が1区に比べると非常に少なく、イネ穎破片の産出も見られない。2区では水田跡が検出されておらず、両区のイネ機動細胞珪酸体の産出量に違いが生じるのは、畠周囲の水田の分布状況が関係している可能性が考えられる。

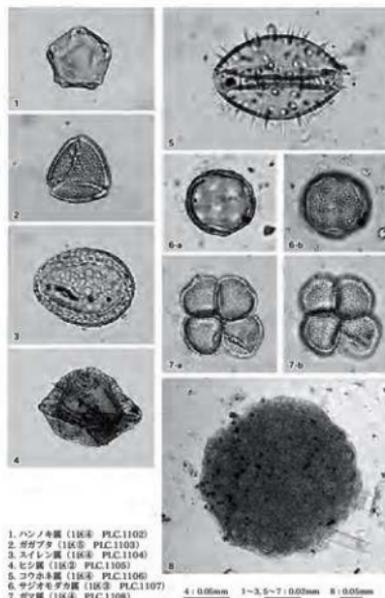
花粉分析の結果、栽培植物などの分類群は検出されなかった。樹木花

粉では、両区ともに湿地林要素のハンノキ属が最も多く産出しており、遺跡周辺にハンノキ属主体の湿地林が広がっていたと考えられる。草本花粉でも、好湿性の分類群の種類が多く、ガマ属やサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、スイレン属、ハス属、ツリフネソウ属、ミソハギ属、キカシグサ属、ヒシ属、ミツガシワ属、ガガバタ、ゴキツソウ属-アマチャヅル属、サンショウモ属が挙げられる。よって、遺跡周辺には比較的水深のある滞水域や陸域の湿地など、様々な湿潤の環境が広がっていたと考えられる。また、サジオモダカ属

第9表 畠跡から検出した大型植物遺体 (括弧内は破片数)

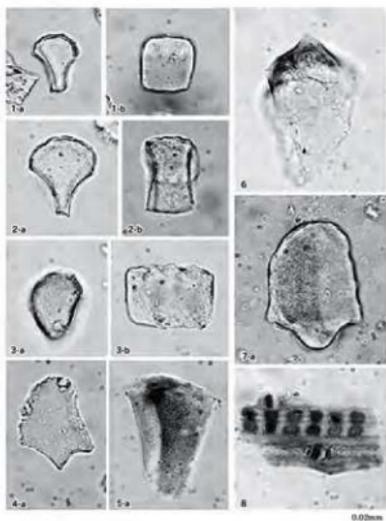
採取位置 層位 時期	区	1				2			
		畝		畝間		畝		畝間	
		Vla	Vlb	Vla	Vlb	Vla	Vlb	Vla	Vlb
分類群		平安時代							
アザミ	根								(1)
ミズ属	葉実								3
ヤナギタデ	葉実	3 (1)	3 (3)	1		(2)			4
イヌタデ	葉実					(4)			1
スベリヒコ属	種子								
ツサムシ	葉実			(1)			(1)		
ゴキツソウ	種子	(1)				(4)		(6)	(1)
エノコログサ属	種子			1					
シロトネ	葉実					1		2	
ソウ属	葉実		(5)			(2)		1 (3)	(1)
イヌゴマ属	葉実					2 (1)		2	
ヘウチモダカ	葉実					2			
オモダカ属	種子					1		1	
イロウサ	種子	2							
ヒシ属	根小葉				1				
イト	根節							(1)	
エノコログサ属	根小葉					(11)			1
ヒシ属	根								
スズ属	葉実		1			3		3 (1)	
ウキヤガラ	葉実							5 (5)	3 (9)
オムライイ属	葉実					2		3	
詳細不明	炭化種子		(1)			(1)			
抽出		(+)	(+)	(++)		(+)		(+)	

+: 1-9, ++: 10-49



1. ハンノキ属 (1区跡 P.I.C.1102)
2. ガガバタ (1区跡 P.I.C.1103)
3. スイレン属 (1区跡 P.I.C.1104)
4. ヒシ属 (1区跡 P.I.C.1105)
5. コウホネ属 (1区跡 P.I.C.1106)
6. サジオモダカ属 (1区跡 P.I.C.1107)
7. アザミ (1区跡 P.I.C.1108)
8. ツリフネソウ属 (1区跡 P.I.C.1109)

第18図 花粉・胞子顕微鏡写真



1. イネ機動細胞珪酸体 (2区跡) 2. イネ機動細胞珪酸体 (1区跡)
3. キビシ機動細胞珪酸体 (1区跡) 4. ササ属茎細胞珪酸体 (1区跡)
5. ウシノコ機動細胞珪酸体 (1区跡) 6. イネ穎破片 (1区跡)
7. サジオモダカ細胞珪酸体 (1区跡) 8. イネ茎細胞珪酸体 (1区跡)

a: 断面 b: 側面

第19図 植物珪酸体顕微鏡写真

やオモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属などは水田雑草を含む分類群としても知られており、これらは遺跡周辺の水田にも生育していた可能性が考えられる。

篩選別の結果、草本植物は抽水植物（植物体の一部が水面を出て空気中に出る植物）であるヘラオモダカやオモダカ、ミクリ属、ウキヤガラ、ホタルイ属や、湿地や水辺に生育するヤナギタデやクサネム、ゴキヅル、イヌゴマ属、イボクサが産出している。これらは、一部花蕾でも産出しており、遺跡周辺に水深のある滞水域や湿地などの湿潤の環境が広がっていた可能性や、水田雑草として生育していた可能性も推定される。複数サンプルから得られている種実もあるため、大型植物遺体の産出状況からもごく近くに水域があった可能性や、畠の耕起により前時代の水成層が攪拌された可能性、後世の水成層から落ち込んだ種実も含まれている可能性などが考えられる。

また、イヌタデやスベリヒユ属、エノキグサ属、シロネ属、シソ属、エノコログサ属などは、乾いた草地や畠に生育する草本植物である。これらがそのまま畠に残っても生の植物遺体は遺存しないと考えられるため、上記の栽培植物と同様、何らかの遺存要因を想定する必要がある。



スケール 1-6, 8-21: 1mm, 7, 5mm

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. アサギ (北陸, 鉄, Ⅴa) | 2. ヒメコメ属実 (北陸, 鉄, Ⅴa) |
| 3. ヤナギタデ実 (高野, 鉄, Ⅴb) | 4. イヌタデ実 (高野, 鉄, Ⅴb) |
| 5. スベリヒユ属種子 (北陸, 鉄, Ⅴb) | 6. クサネム実 (北陸, 鉄, Ⅴa) |
| 7. ゴキヅル種子 (北陸, 鉄, Ⅴa) | 8. エノキグサ属種子 (高野, 鉄, Ⅴa) |
| 9. シロネ属実 (北陸, 鉄, Ⅴa) | 9. シソ属実 (北陸, 鉄, Ⅴa) |
| 11. イヌゴマ実 (北陸, 鉄, Ⅴa) | 12. ヘラオモダカ実 (北陸, 鉄, Ⅴa) |
| 13. キカシグサ種子 (北陸, 鉄, Ⅴb) | 14. イボクサ種子 (高野, 鉄, Ⅴb) |
| 15. ヒメコメ属実 (高野, 鉄, Ⅴb) | 16. イボクサ種子 (北陸, 鉄, Ⅴb) |
| 17. エノコログサ属実 (高野, 鉄, Ⅴb) | 18. ミクリ属種子 (北陸, 鉄, Ⅴa) |
| 19. スベリヒユ属実 (北陸, 鉄, Ⅴa) | 20. ウキヤガラ実 (北陸, 鉄, Ⅴa) |
| 21. ホタルイ属実 (北陸, 鉄, Ⅴa) | |

第20図 大型植物遺体顕微鏡写真

第4節 畠跡の検討 2 (放射性炭素年代測定)

A 測定試料と測定方法

畠跡(畠状遺構)の年代の下限を調べるために、畠状遺構から検出された腐植質堆積物 3 試料について、酸洗浄のちに、加速器質量分析 (AMS) 法により放射性炭素 (^{14}C) 年代測定を行った。測定対象試料は、1 区第 3 地点の畠状遺構上位の TNH-182531 (畠上層最上部・Ⅴb 層直下, 腐植質泥)、畠状遺構直上の TNH-183532 (畠間下層・未分解の草本質泥炭: いわゆるマコモ層)、2 区第 5 地点の畠状遺構直上の TNH-184551 (畠間下層・暗灰色腐植質泥) である (第 10 表・図版 8)。年代測定は米国の Beta Analytic Inc. (ベータ社) で実施され、測定には 3MV HVEE タンデロン加速器が使用された。

B 測定値の見かた

各用語の意味は次の通りである。

1) 未補正 ^{14}C 年代値 (measured radiocarbon age)

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例によりリビー (Libby) の 5,568 年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比

第10表 放射性炭素年代測定の試料と方法

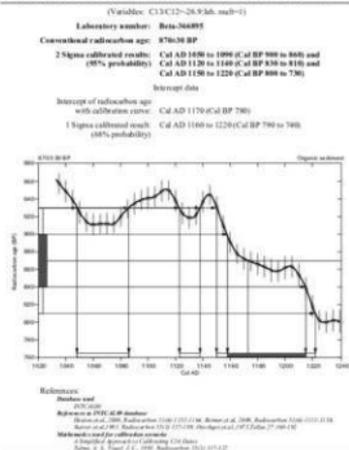
試料	試料採取地点・層位 (試料種類)	重量*	前処理	測定方法
TNH-182S31	1区第3地点土層最上部・VI層直下 (炭素質泥)	45.0g	酸洗浄	加速浴質量分析 (AMS) 法
TNH-183S32	1区第3地点土層最下部・紙状遺構直上 (いわゆるマコモ層)	23.7g	酸洗浄	加速浴質量分析 (AMS) 法
TNH-184S51	2区第5地点土層遺構直上 (暗灰色成層質泥)	20.9g	酸洗浄	加速浴質量分析 (AMS) 法

* : 炭素質土層、乾状態の重量。

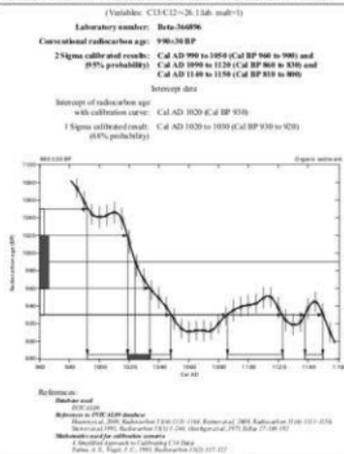
第11表 放射性炭素年代測定

試料	未校正 ¹⁴ C年代 (y BP)	$\delta^{13}C$	校正 ¹⁴ C年代 (y BP)	暦年校正年代 (Cal BC/AD)	測定番号
TNH-182S31	900±30	-26.9	870±30	2 σ : AD 1050~1090 (Cal BP 900~860), AD 1120~1140 (Cal BP 830~810), AD 1150~1220 (Cal BP 800~730)	Beta-366895
				1 σ : AD 1160~1220 (Cal BP 790~740)	
				交点 : AD 1170 (Cal BP 780)	
TNH-183S32	1010±30	-26.1	990±30	2 σ : AD 990~1050 (Cal BP 960~900), AD 1090~1120 (Cal BP 860~830), AD 1140~1190 (Cal BP 810~800)	Beta-366896
				1 σ : AD 1020~1030 (Cal BP 930~920)	
				交点 : AD 1020 (Cal BP 930)	
TNH-184S51	1010±30	-26.4	990±30	2 σ : AD 990~1050 (Cal BP 960~900), AD 1090~1120 (Cal BP 860~830), AD 1140~1150 (Cal BP 810~800)	Beta-366897
				1 σ : AD 1020~1030 (Cal BP 930~920)	
				交点 : AD 1020 (Cal BP 930)	

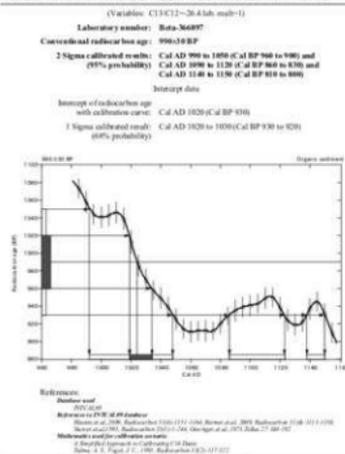
CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS



CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS



CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS



第21図 放射性炭素年代測定結果

からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値 (conventional radiocarbon age)

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に標準化することによって得られる年代値である。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された校正曲線を使用した。使用したデータセットは次のとおりである。

INTCAL09 Heaton, et al., 2009, Radiocarbon 51 (4) : 1151-1164.

Reimer, et al., 2009, Radiocarbon 51 (4) : 1111-1150.

Stuiver, et al., 1993, Radiocarbon 35 (1) : 137-189, Oeschger, et al., 1975, Tellus 27 : 168-190. (海洋性試料については Marine09 を使用)

また、校正曲線のスムーズ化には Talma, A.S. and Vogel, J.C. [1993] の理論を用いた。

なお、暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代校正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68% 確率) \cdot 2 σ (95% 確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

C 測定結果

測定結果および暦年較正年代を第 11 表と第 21 図に示す。

TNH-182S31, TNH-183S32, TNH-184S51 の補正 ^{14}C 年代は、 870 ± 30 y.BP (Beta-366895)、 990 ± 30 y.BP (Beta-366896)、 990 ± 30 y.BP (Beta-366897) である。畠を覆う腐植質堆積物の暦年較正年代から、畠跡の年代は約 68% 確率で AD1020 ~ AD1030 年にかなり近い年代と推定される。

第5節 樹種同定

A 同定試料

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

試料は、2・3 区の柱根 8 点 (試料 1 は株式会社パレオ・ラボ、試料 2 ~ 8 は株式会社火山灰考古学研究所による分析) である。

B 同定方法

カミソリを用いて新鮮な横断面 (木口と同義)、放射断面 (柁目)、接線断面 (飯目) の基本的三断面の切片を複製し、生物顕微鏡によって 40 ~ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質や現生標本との対比によって行った。

C 同定結果

第 12 表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す (第 22 図)。以下に同定根拠となった特徴を記す。
クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 写真 1

横断面：年輪のはじめに大型の道管が 1 ~ 4 列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する広葉樹である。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmくらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。試料No.1の木取りは丸木であった。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 写真2

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと同型の広放射組織からなる複合放射組織である。

コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmくらいに達する。材は強韌で弾力に富み、建築材などに用いられる。

ヤマグワ *Morus australis* Poiret クワ科 写真3

横断面：年輪のはじめに大型の丸い道管が単独あるいは2～3個複合して配列する環孔材である。孔圍部外の小道管は複合して円形の小塊をなす傾向を示す。道管の径は徐々に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の1～3細胞ぐらゐは直立細胞である。接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、1～5細胞幅ほどである。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ10～15m、径30～40cmである。材は堅硬、韌性に富み、建築などに用いられる。

樹種同定の結果、柱根8点の樹種は、ヤマグワ3点、クリ3点、コナラ属コナラ節2点と同定された。ヤマグワはやや堅硬で韌性に富み、クリは重硬で保存性が良く、ナラ属コナラ節は強韌で弾力に富んだ材である。いずれも温帯に広く分布する落葉高木であり、ヤマグワは谷間や流路沿い、緩傾斜地の遡潤な深層の肥沃地を好んで生育する。クリは乾燥した台地や丘陵地を好み、暖温帯と冷温帯の間域では純林を形成することもある。また、二次林要素でもある。コナラ属コナラ節は日当たりの良い山野に生育し、ミズナラなどの冷温帯落葉広葉樹林の主要構成要素や暖温帯性のナラガシワ、二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。いずれの樹種も遺跡周辺に生育していた樹木を利用したと推定される。

第12表 同定樹木一覧

※()内は同属No.

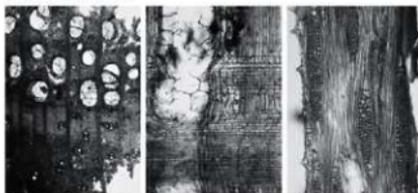
試料No.	出土地点		結果(学名/和名あるいは和名)	備考
	区	遺構/グリッド		
1 (375)	2	SP53 D-3I-9186	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 下層
2 (377)	3	SP55 D-4I-4C14	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 下層
3 (378)	3	SP56 D-4I-4C2	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ 下層
4 (379)	3	SP57 D-4I-2A7	<i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ 下層
5 (380)	3	SP58 D-4I-2A1	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節 下層
6 (381)	3	SP59 D-4I-2I21	<i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ 下層
7 (382)	3	SP60 D-4I-1I20	<i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ 下層
8 (383)	2	SP61 D-4I-1I13	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節 下層



1. 柱根No.2 クリ



2. 柱根No.4 コナラ属コナラ節



3. 柱根No.3 ヤマグワ

第22図 樹種同定図

第6節 出土骨片の同定

A 試料

第6次調査地区のSD21・SX11, 2区VIIc層より出土した4点であり、いずれもクリーニングされた状態にある。試料の詳細は、分析番号を付し同定結果とともに第14表に記した。出土した骨は以上4点ですべてである。種類や部位などを明らかにするため、骨同定を実施した。

B 分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

C 結果および考察

カニ類、鳥綱、ウマの3種類が検出された(第13表)。同定結果を第14表に示す。以下、試料ごとに結果を記す。

1は、ウマの上顎歯片であり、最大長37.57mmを測る。ウマは、役畜や軍用などの多様な用途が考えられるほか、遺跡における出土例は自然死・事故死、屠殺、犠牲(祭祀)などの要因に分類できるとされている〔久保・松井1999〕。本遺跡では、歯牙が確認されたことから少なくともウマの存在が推定されるものの、ウマの利用状況やウマの埋存状況などについては1点のみの出土であるため言及することは難しい。

2・3は、鳥綱の大腿骨/脛骨の破片2点である。いずれも焼骨であることから、食料資源等として利用された後の状況などが推定される。

4は、カニ類の可動指であり、最大長24.93mmを測る。この試料は焼けておらず、大ききなどからみて付近に棲息していたものに由来する可能性がある。

第13表 検出分類群の一覧

節足動物門	Phylum Arthropoda
甲殻亜門	Crustacea
軟甲綱	Malacostraca
高軟甲亜綱	Eumalacostraca
エビ目	Decapoda
エビ亜目	Pleocyemata
カニ類	Fam. et. gen. indet.
脊椎動物門	Phylum Vertebrata
鳥綱	Class Aves
	鳥類 Ord. et. fam. indet.
哺乳綱	Class Mammalia
ウマ目(奇蹄目)	Order Perissodactyla
ウマ科	Family Equidae
ウマ	<i>Equus caballus</i>

第14表 骨同定結果

ラベル記載情報等					同定結果						
調査区	遺構	グリッド	層位	日付	種類	部位	左右	状態等	数量	重量(g)	備考
第6次調査区	SD21	D-31H-4J20	1層	12.12.03	ウマ	上顎歯牙		破片	1	1.50	最大長37.57mm
第6次調査区	SX11	D-31-6B2	2層	12.11.29	鳥綱	大腿骨/脛骨		破片	2	1.40	焼骨
2区		D-31-8G7	VIIc層	13.10.23	カニ類	可動指		破片	1	0.64	最大長24.93mm



1. ウマ上顎歯牙(第6次調査区SD21 1層) 2. 鳥綱大腿骨/脛骨(第6次調査区SX11 2層) 3. 鳥綱大腿骨/脛骨(第6次調査区SX11 2層) 4. カニ類可動指(2B VIIc層)

第23図 出土骨

第7節 レプリカ法による土器圧痕の同定

A はじめに

下新田遺跡は古代を中心とする遺跡で、出土土器には種実と思われる圧痕や木葉痕が複数確認された。ここでは、圧痕のレプリカを採取して同定を行い、当時の利用植物について検討した。

B 資料と方法

資料は、新潟市文化財センターによってあらかじめ抽出された概ね8世紀から9世紀(春日編年[1999]Ⅱ2～Ⅵ期)の土器である。はじめに圧痕を肉眼または拡大鏡で観察し、同定可能と考えられる圧痕122点を抽出した。これらについて、以下の手順で圧痕のレプリカを作製した。

圧痕内を筆と流水で水洗し、乾燥条件下でブローアーを用いて付着物を除去した。資料保護のため、バラロイドB72の5%アセトン溶液を離型剤にして土器に含浸させた。種実などの小さい圧痕の採取方法は、丑野・田川[1991]等を参考にして以下の手順で行った。印象剤に用いるシリコン樹脂((株)ニッシン製JMシリコン レギュラータイプ)を医療用注射器に入れ、圧痕部分に充填してレプリカを作製した。木葉痕などの数物圧痕については、真邊[2013]を参考に、広い面積を採取するための粘性が低く、硬化時間がJMシリコンより長い、アグサ・ジャパン(株)製のブルーミックスソフトを使用した。

採取したレプリカを実体顕微鏡と、一部は走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製VE-9800)で観察および写真撮影を行った。

C 結果

同定した結果を第15表に(種実または種実の可能性がある圧痕)、圧痕と認められた全試料の同定結果を第16表に示す。

種実では、木本植物のイヌシデ果実1点とイイギリ種子1点の2分類群、草本植物のママ科?種子が1点とツククサ種子が1点、ヒエ属有ふ果が1点、イネ科が4点、イネ科穀が4点、イネ穎果が7点、キビ有ふ果が3点、キビ?有ふ果が2点得られた。このほかに、着点があり種実と判断できるが、科以下の同定ができなかった一群を不明種実とし、形状は種実に近いが明確に種実とは判断できなかった一群を不明種実?とした。同様に、果序もしくは芽の形状に似るが、同定根拠が残存していない個体を果序?もしくは芽?とした。

木葉痕ではハンノキ属が4点の1分類群が得られ、科以上の詳細な同定ができなかった一群を広葉樹葉とした。

次に、産出した葉および種実の分類群の記載と写真を掲載し、同定の根拠とする。大きさは第16表に示す。なお、種実の写真は鱗ないし着点を図版の右側に向けて撮影した。

ハンノキ属 *Alnus* sp. 葉 カバノキ科

側脈は基本的に互生し、主脈と45度よりも少し鋭い角度をなして斜上する。また平行で直線的に伸び、先端に近づくに従って少し内向きに曲がる。細脈は側脈とほぼ直角の角度をなし、一見隆起していないように見えるが、斜光線で見ると明瞭に観察できる。葉裏の毛の痕跡はほとんど確認できない。葉縁は残存していない。

第15表 下新田遺跡出土土器種実圧痕の同定結果

分類群	部位	Ⅱ2～Ⅵ期				合計
		粟	稗	雑	土製品	
イヌシデ	果実	1				1
イイギリ	種子	1				1
ママ科?	種子		1			1
ツククサ	種子	1				1
ヒエ属	有ふ果	1				1
イネ	籾	3	1			4
	籾殻	3		1		4
	穎果	7				7
キビ	有ふ果	3				3
	有ふ果?	2				2
不明	果序?	1				1
	種実	1				1
	種実?	3		1		4
	芽?	1				1

以上の特徴から、側脈が直線的で平行に走る樹木の葉としてハンノキ属と、アズキナン属（バラ科）、マンサク属やトサミズキ属（マンサク科）、コナラ属やクリ属（ブナ科）、ブドウ属、カエデ属、トチノキ属、シナノキ属が候補としてあげられる。しかし、ブナ科の種の多くは、今回の圧痕よりも小さい種が多く、同定した4点の大きさに相当するナラガシワやミズナラは側脈が先端に近づくと外向きに曲がっているため除外した。アズキナン属やマンサク属では側脈の角度が今回の圧痕よりもより鋭角になり、アズキナン属やトサミズキ属では側脈の間隔

第16表 新田遺跡出土土器圧痕の同定結果一覧

※出土地点は、サンプル採取した箇所のグリッドを示した。

レプリカ 採取No.	報告 No.	写真 No.	区	遺構	出土地 グリッド	層位	種類 説明	部位	同定結果		写真	測定 (mm)			時期 (1910 1995)	備考		
									分類	属		長さ	幅	厚さ				
3	2		D-31-404	Vc	土器片	底部	内面	キズ?	有本属			2.52	1.37	(0.80)	Ⅲ			
6	2		D-31-409	Va	土器片	底部	外面	縁							Ⅲ	標本(L)		
7	2		D-31-4C11	Va	土器片	口縁部	内面	不明	材(皮)						Ⅲ			
8	2		D-31-4C11	Vc	土器片	底部	内面	イモ	厨裏			2.44	0.45	3.36	1.80	Ⅲ		
11	2		D-31-4C11	Va	土器片	底部	外面	縁							Ⅲ			
13	2		D-31-6C10	Va	土器片	底部	内面	イモ	厨			6.1	(3.23)	(1.08)	Ⅲ			
18	2		D-31-5D17	Va	土器片	底部	内面	イモ	縁部			2.40	(0.30)	3.87	(1.13)	Ⅲ		
20-1	1	SD30	B-10H-5D4	2	土器片	底部	外面	イモ	縁部				(4.24)	(2.07)	(0.33)	Ⅲ		
20-2	1	SD30	B-10H-5D4	2	土器片	底部	外面	イモ	縁部				(3.40)	(2.95)	(0.94)	Ⅲ		
21	1	SD06	B-10H-6C8	3	土器片	底部	内面	材							Ⅲ			
26	1	SD09	B-10H-6P22	2	土器片	底部	外面	キズ?	有本属			2.95	1.60	(0.84)	Ⅲ			
27	1	SD09	B-10H-6P16	2	土器片	底部	外面	イモシテ	厨裏			2.40	3.86	4.17	2.05	Ⅲ		
38	1	SD43	B-10H-7G20	1	土器片	底部	外面	イモ	厨裏			4.76	3.30	(2.39)	Ⅲ			
43	1		B-10H-6P16	Vc	土器片	底部	内面	ツユクサ	種子			2.40	4.12	2.16	1.65	Ⅲ		
45	1		B-10H-7G6	Vc	土器片	底部	中	イモ	縁部			0.60	2.51	(0.80)	Ⅲ			
48	1		B-10H-7G18	Vc	土器片	底部	内面	材							Ⅲ			
51	1		B-10H-4R23	Vb	土器片	底部	外面	不明	焼突?						Ⅲ			
54	2	SD3	D-31-4C17	1	土器片	底部	内面	不明	焼突?						Ⅲ			
60	第6次	SD6	D-31-8H11	1	土器片	口縁部	内面	不明	芽?						Ⅲ			
66	第6次	SD6	D-31-8D15	2	土器片	底部	外面	不明	焼突?						Ⅲ			
68	第6次	SD6	D-31-8D15	2	土器片	底部	外面	不明	焼突?						Ⅲ			
80	第6次	SD11	D-31-6B2	2	土器片	底部	外面	不明	材						Ⅲ			
81	第6次	SD11	D-31-6B2	2	土器片	底部	内面	不明	材のテ						Ⅲ	割れ		
82	第6次		D-31-8E17	Vc	土器片	底部	内面	イモ	厨裏			0.86	3.23	(1.22)	Ⅲ			
83	第6次		D-31-8E23	Va	土器片	底部	外面	不明	焼突						Ⅲ			
84	第6次	44	D-31-6C11	Va	土器片	底部	外面	不明	上具破?						Ⅲ			
85	第6次		D-31-4A16	Va	土器片	底部	内面	イイギリ	種子			2.40	1.71	1.27	1.12	Ⅲ		
90	第6次	SD21	D-31-4I20	1	土器片	底部	内面	不明	案件?						Ⅲ			
91	3		壁?		土器片	底部	外面	不明	材のテ						Ⅲ			
92	3		D-31-5D20	Vc	土器片	底部	外面	イモ	厨裏			3.38	3.85	(0.63)	Ⅲ			
93	2		D-31-3B19	Va	土器片	底部	外面	不明	材						Ⅲ			
96	3		D-41-3C17	Vc	土器片	底部	外面	不明	材のテ						Ⅲ	本業破ではない		
101	3		D-41-2A7	Vc	土器片	底部	内面	イモ	厨裏			0.52	3.69	(1.32)	Ⅲ			
102	3		D-41-2A13	Vc	土器片	口縁部	内面	キズ	有本属			2.75	1.52	(0.95)	Ⅲ			
103	3		D-41-120	Va	土器片	底部	外面	イモ	厨			0.56	3.18	(1.54)	Ⅲ			
105-1	93	42	2	SK20	D-41-2A19	1	土器片	底部	外面	ヒス属	有本属	2.40	4.36	1.64	(0.73)	Ⅲ	本業破	
105-2	1				D-41-2A19	1	土器片	底部	外面	イモ	厨裏	(2.84)	2.19	(0.86)	Ⅲ	割れ、本業破		
108	2				D-31-7P25	Va	土器片	底部	内面	不明	材?		0.36	3.64	2.17	Ⅲ	割れ	
118	127	第6次	SD2	D-31-4D0	1	土器片	底部	外面	イモ	材		2.40	0.41	3.59	2.41	Ⅲ	目2→Ⅲ	
124	69	35	2	SD7	D-31-4C17	1	黒色土器片	底部	外面	縁					Ⅲ			
126	40	46	1		B-10H-7G13	Vc	土器片	底部	内面	不明	材				Ⅲ			
127					B-10H-7G13	Vc	土器片	底部	内面	イモ	材		0.41	3.59	2.41	Ⅲ		
128	88	36	2	SD4	D-31-8G19	1	土器片	底部	外面	キズ	有本属		2.66	1.36	(1.00)	Ⅲ		
131	72	35	2	SD3	D-31-4C18	2	土器片	底部	外面	不明					Ⅲ			
132	91	36	2	SD4	D-31-8G19	1	土器片	底部	外面	マメ科?	種子		2.40	4.72	2.03	2.95	Ⅲ	
146	55	34	4	SK4	B-10G-2I16	1	土器片	底部	外面	不明					Ⅲ	Ⅲ		
149	78	47	2		D-31-6P24	Va	土器片	口縁部	内面	イモ	厨裏		(2.00)	2.52	1.94	Ⅲ		
160	200	43	2		D-31-6C23-24	Va/Vc	土器片	底部	外面	ハンノキ属	葉		2.50			Ⅲ	本業破	
161	32	42	1	SD3	B-10H-5D4	1	土器片	底部	内面	広葉樹	葉					Ⅲ	本業破	
162	1				B-10H-5D23	Va	土器片	底部	外面	不明	材または葉					Ⅲ	本業破ではない	
163	1				B-10H-5C14	Vb	土器片	底部	外面	広葉樹	葉					Ⅲ	本業破	
164	44	3			D-41-3C21	Vc	土器片	底部	外面	ハンノキ属	葉					Ⅲ	本業破、Ⅲ	
165	第6次	SD11	D-31-5A14	2	土器片	底部	外面	ハンノキ属	葉							Ⅲ	本業破	
166	3	SD15	B-10H-6E13	3→6	土器片	底部	外面	広葉樹	葉							Ⅲ	本業破	
167	44	1			B-10H-7G7	Va	土器片	底部	外面	ハンノキ属	葉					Ⅲ	本業破	
168	2				D-31-6D4	Va	土器片	底部	外面	広葉樹	葉					Ⅲ	本業破	
169	2				D-31-9H6	Vc	土器片	底部	外面	広葉樹	葉					Ⅲ	本業破	
170	2				D-31-6D4	Va	土器片	底部	外面	広葉樹	葉					Ⅲ	本業破	
171	2				D-31-8C23	Va	土器片	底部	外面	広葉樹	葉					Ⅲ	本業破	
173	1				B-10H-5D23	Vc	土器片	底部	外面	不明	材					Ⅲ		
174	89	36	2		D-31-8G19	Vc	土器片	底部	外面	キズ	有本属		2.41	1.49	(0.91)	Ⅲ		
176	237	44	3		D-41-3B20	Va	土器片	底部	外面	不明						Ⅲ	目2→Ⅲ	
177	90	44	2	SD4	D-31-8G19	1	土器片	底部	外面	不明						Ⅲ		
179	198	38	2		D-31-8G19	Vc	土器片	底部	外面	不明						Ⅲ		
180	1				SD09	B-10H-5D4	2	土器片	底部	外面	不明					Ⅲ		
181	238	44	3	SD09	D-41-3C21	Vc	土器片	底部	内面	不明						Ⅲ		

が狭いため除外した。シナノキ属では、シナノキは葉が小さすぎ、しかも細脈はほとんど隆起しない点、オオバボダイジュも葉裏に毛が多く、細脈の隆起が弱いため異なる。ブドウ属やカエデ属、トチノキ属では基本的に側脈は主脈に対して対生する場合がほとんどであるが、本試料は互生が大部分のため異なる。残ったのはカバノキ科ハンノキ属となるため、ハンノキ属と同定した。その中で植物の分布と側脈の間隔が一致する種はミヤマカワラハンノキとヤマハンノキが該当する。

イヌシデ *Carpinus tschonoskii* Maxim. 果実 カバノキ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は三角状卵形。下部の大きな着点から縦方向に走る不規則な数本の細い隆線がある。

イイギリ *Idesia polycarpa* Maxim. 種子 イイギリ科

上面観は円形、側面観は狭卵形。下端はやや平坦で、中央に円形で突出する臍がある。表面には微細な網目状隆線がある。

マメ科? Leguminosae sp.? 種子

破片で、先端のレプリカが採れていないものの、元々の形状を推定すると、上面観・側面観ともに楕円形か。表面は平滑だが、部分的に発泡している。臍および初生葉は残存していないが、形状からマメ科とした。

ツクサ *Commelina communis* L. 種子 ツクサ科

上面観は扁平、側面観は切削形。表面には不規則な凹凸がある。

ヒエ属 *Echinochloa* sp. 有ふ果 イネ科

紡錘形。横方向に細かい顆粒状の模様がある。壁は薄く弾力がある。外頸側が膨らむが、内頸側は扁平。内頸側の上半部に刺が目立つ。

イネ *Oryza sativa* L. 籾・糊穀・穎果 イネ科

籾は上面観が楕円形で、側面観は長楕円形。2条の稜があり、表面には四角形の網目状の隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しくならぬ。果柄側は残存していない。穎果は上面観が両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝がある。

キビ *Panicum miliaceum* L. 有ふ果 イネ科

球形で先端は丸く、内頸側が膨らむ。表面は平滑。

D 考 察

分類群が特定できた種実圧痕は、25点であった。栽培植物ではイネとキビが得られ、イネは15点と多かった。その内、イネの穎果が7点と多いため、糊摺り後の個体(米の状態)が粘土中に混じった可能性などが考えられる。さらに、イネ穎果の溝はやや不明瞭であるため、水分を含み膨張していた可能性がある。キビは、キビ?とした圧痕を含めると5点得られ、すべて殻付きの状態である有ふ果であった。

そのほかには、種によっては利用可能なマメ科?種子とヒエ属有ふ果、食用にはならないイヌシデ種子やイイギリ種子、ツクサ種子が得られた。土器作りの際にこれらの種実が付近にあって偶発的に混ざったか、意図的に混和した可能性があるが、いずれも1点しか得られておらず、前者の可能性が高い。あるいは、粘土が有機質粘土であった場合、食用にならない種実などは、採取された時にはすでに粘土自体に混ざっていた可能性もある。

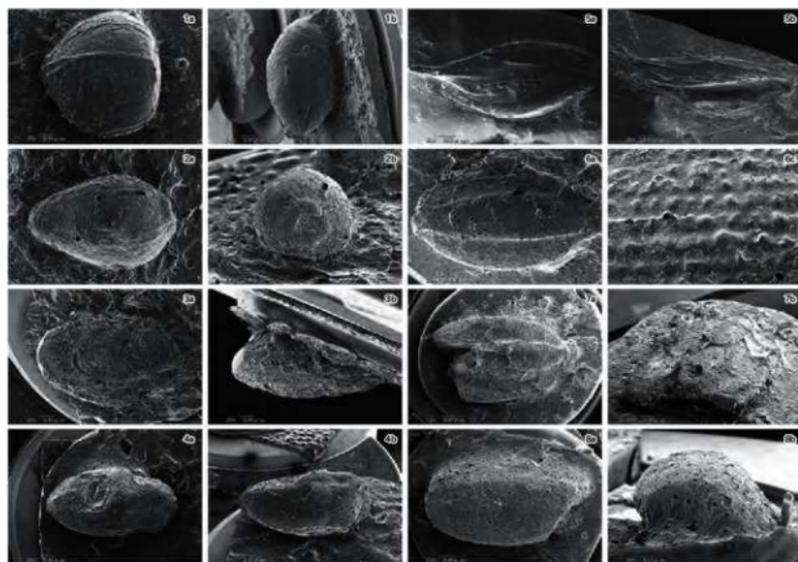
土器の時期別みると、同定できた種実は8世紀前半の壺や杯、椀から得られた。ほとんどが壺から得られており、杯と椀、土製品から得られたのはそれぞれ1点である。土器作りがどこで行われたかは分からないが、水田稲作と畑作は8世紀前半には下新田遺跡内および周辺で水田と畑作が行われていたと推定される。下新田遺跡では、高跡(畝状遺構)で篩選別による大型植物遺体分析が行われているが、イネがわずかに得られたのみでイネ科の穀類は得られていない(第VI章第3節3参照)。

種実以外には、縄や紐などの植物起源と考えられる圧痕が、体部ないし底部の外面に付着している例が5個

体でみられた。器種は甕や杯、碗とさまざまであるが、外面のみに単独で付着しており、土器が乾燥するまでに何らかの要因で縄や紐が土器外面に付着する状況があったと考えられる。

土器底部の敷物圧痕としては、広葉樹を使用した木葉痕が得られた。第25図に示した4点は比較的残存が良好で主脈と側脈が観察でき、ハンノキ属と同定した。北陸地方でこの土器が作られたと仮定するならば、ミヤマカワラハンノキが第一候補、ヤマハンノキが第二候補になる。それ以外は、遺存度が悪いか小さな破片のため、科以下の詳細な同定はできなかった。ミヤマカワラハンノキは日本海側の湿った場所に生育するが、ヤマハンノキは山地や溪畔などの乾いた場所に生育する。2区では花粉分析の結果、両区ともに湿地林要素のハンノキ属が最も多く産出しており、遺跡周辺にハンノキ属主体の湿地林が広がっていたと推定されており(第VI章第1節参照)、ミヤマカワラハンノキならば、遺跡周辺にある資源を利用した可能性がある。

植物以外では、魚骨の様な不明圧痕(第25図18)が得られた。試料は、中軸部とそこから派生する枝(以下派生枝と仮称)で構成される。中軸部はおおむね一定間隔で認められる膨らみによって区画される分節構造が観察できるため、本試料は一見魚類の脊柱に見える。魚類とすれば脊柱後半(尾椎)に相当し、中軸部の個々の節は椎体、派生枝は神経棘・血管棘に対応すると考えられる。しかし、本試料は、派生枝の発する位置が、中軸部の節の接続部分であったり、節の中間部であったりして一定しておらず、魚類の神経棘・血管棘にはみられない特徴である点、中軸の節が接続する部分は単純なふくらみとなっており、硬骨魚類にみられる椎体間の境界線や関節突起などに相当する構造が認められない点、派生枝の基部には、硬骨魚類の神経棘・血管棘の基部にみられる



1. イナシヤ葉実 (No.277)
2. イナシヤ種子 (No.285)
3. マメ科種子 (No.132)
4. ツツヤ種子 (No.43)

5. 七五圓有爪葉 (No.105-1)
6. 子木類 (No.138)
7. 子木類 (No.16)
8. 子木類 (No.8)

走査型電子顕微鏡写真のスケール: 写真上に記載 a: 上面観, b: 側面観, c: 拡大

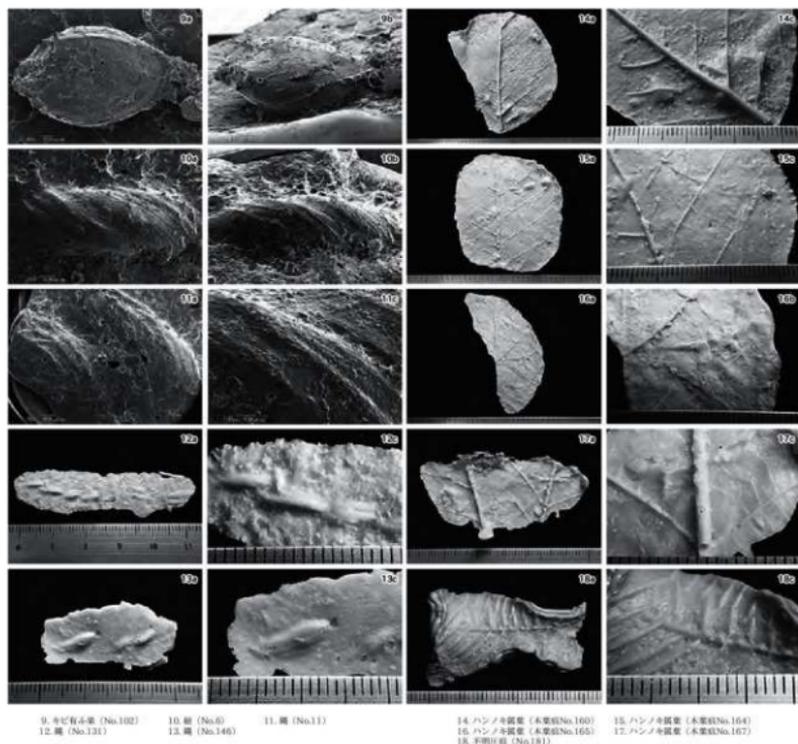
第24図 圧痕レプリカ走査型電子顕微鏡写真(1)

神経弓門・血管弓門に相当する構造が認められない点から、魚類の尾椎とは特徴が合致せず、魚類（少なくとも硬骨魚類）と同定するのは困難であった。今後類例を待ち、再検討したい。

このほかには、人間との関わりが不明な材や枝、稗もしくは茎などの植物遺体の断片が得られた。さらに土器成形時に付いたと思われる工具痕が断面で2点確認できた。これらを含めると、下新田遺跡の土器にはさまざまなものが付着しており、今後はこれが概期の土器の一般的な傾向なのか下新田遺跡のみの傾向かを比較検討する必要があると考える。

謝 辞

木葉痕については東北大学植物園 米倉浩司氏、不明圧痕については早稲田大学非常勤講師 樋泉岳二氏のご教示を得た。記して感謝申し上げます。



左向き電子顕微鏡写真のスケール：写真上に記載 a：全体（17a・18a）、底部を除く、b：断面図、c：拡大

第25図 圧痕レプリカ走査型電子顕微鏡写真（2）・実体顕微鏡写真

第Ⅶ章 総 括

第 1 節 遺 構

A 上層の畝跡と水田跡の年代について

今回の調査では、上層で畝跡（畝状遺構）が1・2・第6次調査区で、水田跡（畦畔状遺構）が1・3・4区で確認された。以下、両方の遺構が確認された1区を中心に、その前後関係および年代について考察する。

畝跡・水田跡は、遺構認識の遅れから畝状の高まりや水田畦畔を調査区壁面で確認したに過ぎないが、いずれも明瞭であった。特に畝跡は地形が微高地となる1区西側では、畝間やその下の粘土質の土層まで観察され連続して20米以上約40mに渡り確認された。また、水田畦畔も7条確認され、特にSN120は4回作り直され、最終的には高さ50cm前後に及ぶ土堤状の土層堆積（いわゆる大畦畔）が明瞭に確認された。南北両壁面で認められる土層堆積の検討から、これら水田畦畔は南北・東西方向に主軸がある。主軸方向が東西を指すSN124・129と南北を指すSN120は、時間的な同時性は見出せないものの方角の水田を連想させる。

また、畝跡を構成するⅦa4層に認められる畝状の起伏は概ね調査区西側に広がる。中央部付近で水平的な堆積となり、水田跡はその東側で確認された。両遺構の時間的な前後関係は、切り合う地点がなく明瞭でない。しかし、Ⅶa4層と調査区全体に安定して堆積するⅦa6層（SN120の4a層はこのⅦa6相当層）を中心とした堆積土層の検討により、各遺構の前後関係は以下の4通りに分類できる。

- ① Ⅶa6層堆積よりも前に構築された水田（SN120（1・2期）・SN121・SN124）
- ② Ⅶa6層堆積以降でⅦa4層すなわち畝よりも前に構築された水田（SN129）
- ③ Ⅶa6層堆積以降でⅦa1層よりも前に構築された水田（SN120（3・4期）・SN128）
- ④ Ⅶa1層堆積よりも前に構築された水田（SN118・SN119）

このうち①が最も古く②が次ぎ、②と同じか新しい③・④と続く。②・③・④間、および各分類内における前後関係は明瞭でないが、①・②は畝よりも明らかに古い水田跡と考える。すなわち、上層で確認された畝跡と水田跡の時間的な前後関係は一律ではなく、まず水田があり、その周辺に畝が作られた後も水田として利用されていた状況が推察される。

また、水田跡における稲作の検討と畝における栽培植物を検討する目的で、数地点の土壌から花粉分析や植物珪酸体（プラント・オパール）分析さらに篩選別による大型植物遺体分析を行った。さらに、これらの遺構や遺跡の下限を検討する目的で上層遺構である畝跡の畝と畝直上の土壌による放射性炭素（¹⁴C）年代測定を行った（第Ⅶ章参照）。

分析の結果、Ⅶ層で検出された植物珪酸体の量から水田の可能性が高いとされた。しかし、畝跡はどの地点においても明確な栽培植物を検出する事はできなかった。この点やプラントオパール分析と篩選別分析結果の相違について、畝として機能している間は、畝・畝間の土壌は乾燥していたと考えられ、生の植物遺体が残りにくかった状況が想定されている。また、畝の畝直上の土壌で行った放射性炭素（¹⁴C）年代測定では、11世紀前半という結果が出ている。上記分類の③・④に相当する水田跡（SN120（3・4期）・SN128・SN118・SN119）については畝跡との時間的な前後関係が不明瞭であるものの、上層の畝跡、すなわち遺跡の下限を概ね示す年代と捉える事ができるだろう。畝跡に伴う遺物が明瞭でなく遺構年代の決定が難しかったが、この測定結果により少なくとも古代の範囲に取まることが確認された。

B 土器棺墓について

第10次調査(確認調査)中層で確認されたSK1から土器棺墓が検出された。工事立会時の検出であり、土師器長甕2個体の内276の大半はすでに排土の中であったが、残存状況などから合わせ口の状態であることが確認された(図版43)。古代の埋葬例は、東日本を対象に資料の集成が行われ〔東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会1995〕、県内では類型が少なくわずか10例を古墳(への追葬)・火葬墓・土坑墓に分類して報告されている〔春日1995〕。その後、火葬関連遺構が確認された釈迦堂遺跡の発掘調査報告の中で、増加した検出例も含め上記と同じ分類で集成されている〔江口ほか2000〕。以下では本遺跡で出土した合わせ口の土器棺墓について、県内の類型と多賀城関連の宮城県多賀城市山王遺跡検出例を中心に考える。なお、遺構名は「甕棺墓」とも呼称される〔坂井ほか1986・柳沢ほか2014など〕が、〔文化庁文化財部記念物課2013〕を参考に「土器棺墓」とした。

江口〔2000〕によれば土器棺墓の県内での確認例は、一之口遺跡西地区〔坂井ほか1986〕と草水町二丁目窯跡の2例に過ぎない。時期はいずれも9世紀後半～10世紀初頭とされ本遺跡と同じである。上記集成で、長野県(9世紀後半～後半)と、三重県の2例(8世紀後半～11世紀前半)が報告され、近年では山王遺跡で少なくとも2基(8世紀後半～9世紀前半)が確認されている〔柳沢ほか2014〕。本遺跡のように2個体の合わせ口の土器棺墓が多いが、山王遺跡では土師器長甕3個体(長軸91.0cm)、一之口遺跡(土坑長96.0cm)では、土師器長甕3個体と土師器無台碗が共存する例もある。そして、本遺跡・一之口遺跡・山王遺跡の土器棺2例の合わせて4例は、いずれも主軸方向が南北を指している。長野県・三重県例は全く方向が異なるが、他の類型を含め検討が必要であろう。また、本遺跡の土師器外面には全体にススが付着するのに対し、各報告による一之口遺跡および山王遺跡の土師器には煮炊具としての使用痕が認められない。さらに山王遺跡土器棺(SX10090)の中央の土師器は、焼成前に体下半部が口縁部と平行に切断されており、棺用に焼成された可能性が指摘されている〔柳沢ほか2014〕。また、山王遺跡の土器棺内の土壌分析の結果、2才かそれ以前の幼児の歯が検出されている〔鈴木2014〕。おそらく本遺跡出土の土器棺も、やや小さい(長軸67.9cm)が同様に幼児用の棺と考える。類型の少ない県内の古代埋葬例を考える上で本遺構は貴重な例であるが、遺跡の性格、主軸方向や時期、他県も含めて増加した類型等の検討など、多くの課題を残した。さらに、今回は対象外とした火葬墓なども含めた検討作業も今後の課題である。

第2節 遺物

A 土器の編年の位置づけ

下新田遺跡では上・中層から奈良・平安時代、下層からは主に奈良時代の土器が出土し、他に中世の資料も数点確認されている。県内における古代土器の編年案は大枠が整備され〔春日1999・2005など〕、さらに本遺跡の位置する西蒲原地域においても編年案が示されている〔春日2000〕。また、西古志型甕を含む煮炊具について県内の変遷を示したもの〔春日2007・2015a〕など、その後の資料増加に伴う当地域の土器編年案は整備されつつある。以下では本遺跡の主体をなす奈良・平安時代の土器について、上記研究成果を参考にその変遷や編年の位置づけを考える。

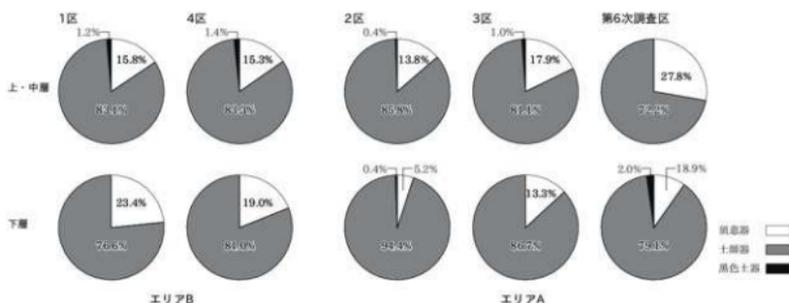
今回の調査地の1・4・5区と2・3・第6次調査区とは100m以上離れており、大きく二つのエリアに分かれる。そして、1・4・5区域(以下、エリアBという)と2・3・第6次調査区域(以下、エリアAという)では、出土する土器にも違いが認められる。掲載した土器に限定した個体の集計ではあるが、全体に占める器種構成比率や、食膳具・貯蔵具における種別比率が異なる(第26図)。未掲載品を含む全体でも概ね同様の割合を示すと考える。エリアBは食膳具が60%を超えているのに対し、エリアAでは食膳具と煮炊具がともに40%近くを占め、その他としたミニチュア・手づくね土器が約10%を占める。食膳具における土師器の割合はエリアBが50%を超え、エリアAでは20%に過ぎない。貯蔵具に占める土師器の割合もエリアAで20%を超えるが、エ

リアBでは5%に満たない。また、重量による上・中層と下層との種別比率では、須恵器の割合がエリアBでは下層で多く、エリアAでは上・中層の方が多結果となった(第27図)。これらの違いは、いずれも各エリアにおける時期差を反映した結果と考える。

ここでは土器から得られるさまざまな情報、すなわち器形や口縁部・底部・口端部などの細部形態・調整・胎土・底面圧痕などを基にして、主に春日編年〔1999〕と対応させ、その変遷を煮炊具と食膳具とに分けて示した(第28・29図)。本遺跡は1～6期に区分され、年代や春日編年〔1999〕との並行関係については第17表のように



第26図 エリア別土器構成比率

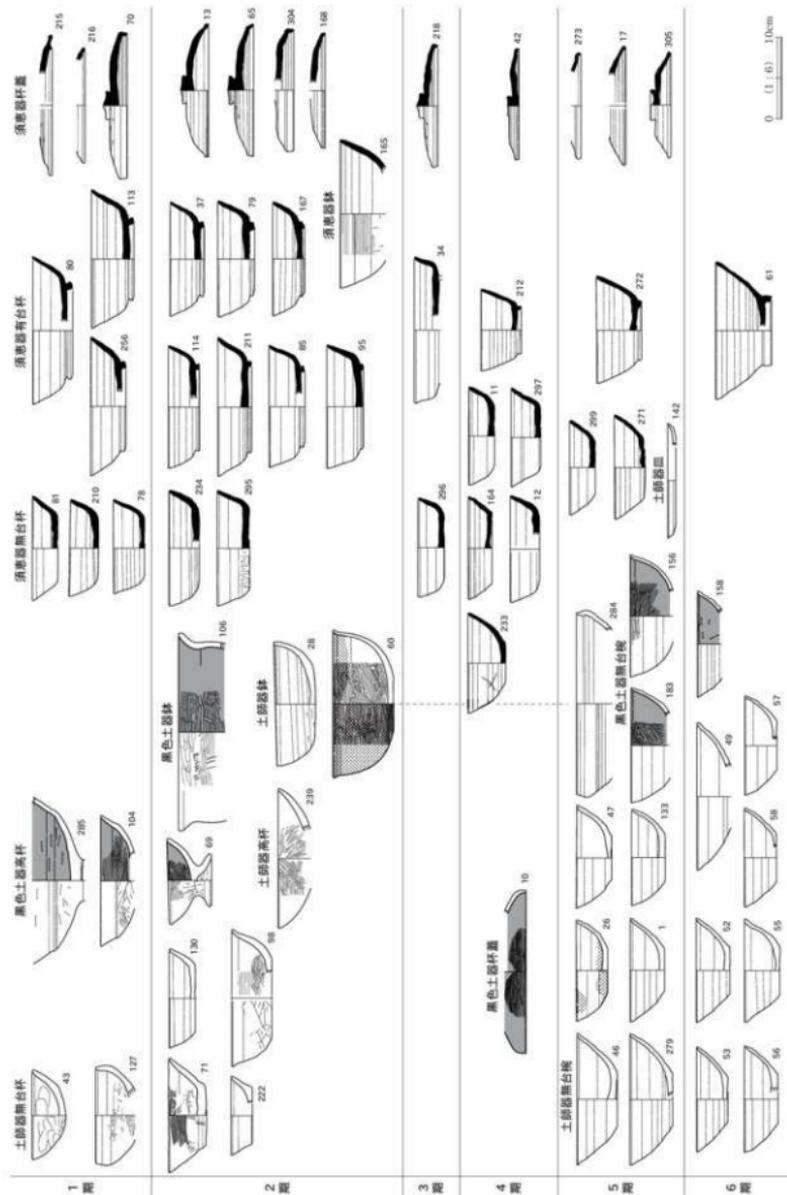


第27図 重量による出土層別種別比率

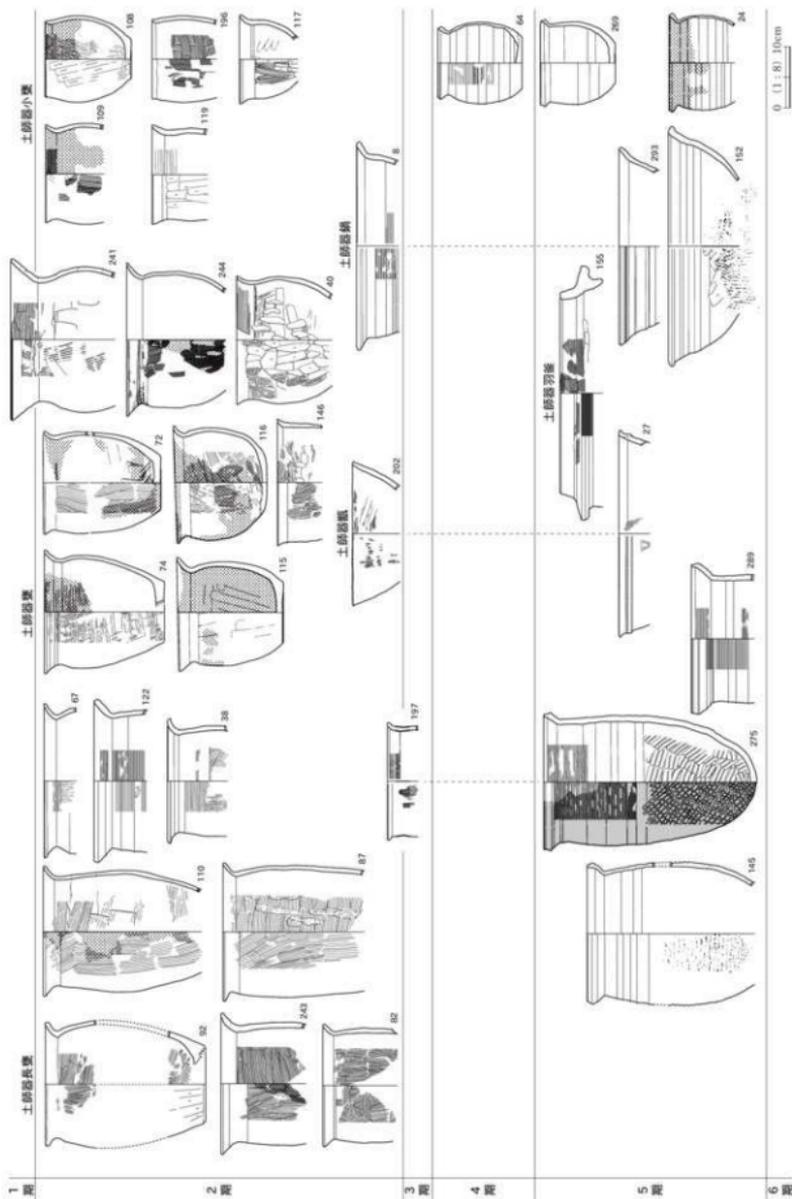
第17表 下新田遺跡の編年の位置づけ

春日編年〔1999〕	本葬	主な出土遺物		
		食膳具	煮炊具	煮炊具
～7世紀末	Ⅱ2期	1期	土: 43 (11%), 黒: 104 (30%) 銅: 70・216・81 (2%), 113 (第6次調査区)	241 (第6次調査区)
	8世紀初頭～前葉	Ⅲ1期	2期	土: 130 (11%), 71 (2%), 98 (31%) 黒: 69 (2%), 106 (第6次調査区)
8世紀中葉～9世紀初頭		Ⅳ1期	3期	銅: 34 (1%), 215 (2%), 296 (第2次調査)
	Ⅳ2期			
	Ⅳ3期			
9世紀前葉～中葉	V1期	4期	黒: 10 (1%) 銅: 11・42・164 (1%), 212 (2%), 233 (3%)	64 (4%)
	V2期	5期	土: 1・26・144 (1%), 46・47 (4%), 284 (第1次調査) 黒: 158 (1%), 183 (4%) 銅: 17 (1%), 271・272 (第1次調査), 299・305 (立倉)	24・147・154 (1%), 269 (第1次調査) 275 (第10次調査区)
V3期				
V4期				
10世紀初頭～前葉	Ⅵ1期	6期	土: 52・53・55 (4%), 黒: 159 (1%), 銅: 61 (4%)	

※食膳具の表記—土: 土師器、黒: 黒色土師、銅: 須恵器



第 28 図 下新田遺跡出土土器の変遷様 (食器類)



第 29 圖 下新田遺跡出土土師の整理群 (集約品)

考える。紙面の都合上、変遷案では割愛した貯蔵具も含め、以下にまとめる。

1期 春日編年のⅡ2～Ⅲ1期に概ね対応する時期と考える。多くはないが2・3・第6次調査区を中心に1区でもわずかに認められる。食膳具は須恵器が多く、土師器無台杯・黒色土器高杯が若干みられる。須恵器は、新津丘陵窯跡産の製品でほぼ占められるが、信濃川左岸の窯産と考えられるもの(216)も若干みられる。煮炊具は明瞭でないが、器形から241が当期の資料と推測する。貯蔵具は土師器・須恵器ともに出土し、第6次調査区の壺(111)は器壁が厚く法量も大きい。

2期 春日編年のⅢ1～Ⅲ2期に概ね対応する時期と考える。遺跡の主体をなす時期で遺物量も多い。2・3・第6次調査区出土遺物の大半を占めるが、他に1区で少量、4区でもわずかに認められる。食膳具は1期同様に須恵器が多く、土師器無台杯・鉢・高杯、黒色土器鉢・高杯と様々な器種がみられるようになる。須恵器無台杯は口径が大きくなり、逆に有台杯は口径が小さくして浅くなる。器種は須恵器・土師器ともに鉢が認められ、1期と比べて須恵器は無台杯より有台杯が圧倒的に多くなる。また、新津丘陵窯跡産の製品でほぼ占められるものの、信濃川左岸の窯産と考えられるもの(13・37・85)も少量確認できる。煮炊具は甕類の他に瓶・鍋が若干みられる。長甕・小甕・甕を含む甕類は、「ロクロ不使用でハケメを施す」という特徴以外は器形・法量・口縁部形態・胎土など多様である。また、ロクロ使用の甕もわずかに出土している。貯蔵具は土師器・須恵器ともに認められるが、土師器の壺(77・112)は1期よりも法量が小さくなる傾向にある。

3期 春日編年のⅣ期に概ね対応する時期と考える。出土量は少ない。1・2・3区で認められるが、エリアA内3区南側の第2次調査(確認調査)区からも出土している(296)。食膳具は須恵器のみで信濃川左岸の窯産と考えられるもの(34・218)の他に新津丘陵窯産(296)も含む。煮炊具は口縁部形態などから3区の197は3期と考えたが、2期の範疇で収まるかもしれない。なお、当期と考える貯蔵具は明瞭でない。

4期 春日編年のⅤ期に概ね対応する時期と考える。出土量はやや少ない。1・4区を中心に2・3区でもわずかに認められる。食膳具は須恵器が圧倒的で、他に黒色土器杯蓋がみられ、この段階で須恵器無台杯が有台杯を上回る。また、新津丘陵窯跡産(11・42など)が主体であるが、信濃川左岸の窯産や佐渡小泊窯産(164・212)の製品が若干含まれるようになる。煮炊具は長甕・甕類がみられず、ロクロ使用の小甕(64)が1点、また当期の貯蔵具はエリアBの周辺で横瓶(312)が出土している。

5期 春日編年のⅥ期に概ね対応する時期と考える。1・4区で認められ、他に確認調査等でエリアB周辺、さらに北西側の区域(以下、エリアCという)から出土している。食膳具は土師器が須恵器を上回り無台碗・鉢・皿の他に黒色土器無台碗もわずかにみられる。須恵器は無台杯・有台杯に量的な差は見せないものの、佐渡小泊窯産の製品でほぼ占められる。煮炊具は全てロクロ使用で、長甕・小甕・鍋・瓶が認められる。他に羽釜(155)は東北地方で出土する羽釜の時期に照らして5期と考えた。なお、当期と考える貯蔵具は明瞭でない。

6期 春日編年のⅦ1期に概ね対応する時期と考える。遺跡全体としての出土は多くはないが、4区SK4からは残存率の高い土師器無台碗がまとまって出土し、一括性の高い資料といえる。食膳具は圧倒的に土師器が多く、須恵器は佐渡小泊窯産の有台杯1点のみである(61)。土師器無台碗でほぼ占められるが黒色土器無台碗も認められる。5期よりも口縁部が開き、作りが粗雑になる傾向にある。なお、当期と考える煮炊具・貯蔵具は明瞭でない。

B 墨書土器

1) 出土地点及び遺構

下新田遺跡の発掘調査では合計9点の墨書土器が出土した(第18表・第30図)。各調査区での出土点数は、1区4点、2区2点、4区1点、第6次調査区1点で、この他に確認調査で1点出土している。遺構出土のものは3点で、SD39(1区)・SX6(4区)・SX42(2区)から各1点である。

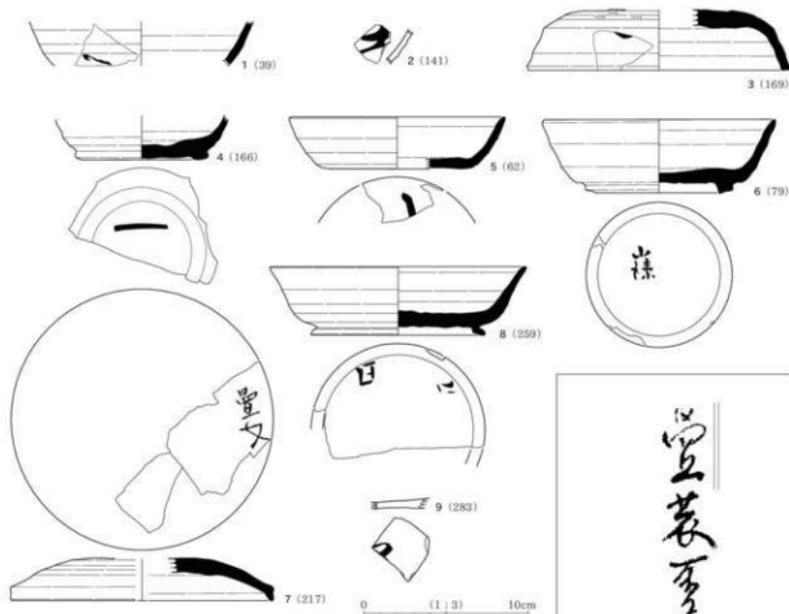
2) 器種と墨書部位

墨書土器9点の内訳は、須恵器が7点、土師器が2点である。須恵器7点のうち食膳具が6点（無台杯2点、有台杯3点、杯蓋1点）、貯蔵具が1点（短頸壺蓋）である。土師器2点はいずれも食膳具の無台碗である。

墨書部位は、須恵器杯（無台杯2点、有台杯3点）では、底部外面4点、体部外面1点で、底部外面への墨書が多い。杯蓋と壺蓋はともに外面に墨書される。土師器無台碗2点は底部外面1点、体部外面1点である。

3) 主な文字の検討

文字を判読できたものは9点のうちの2点（第6(79)・第7(217))にとどまる。



第30図 下新田遺跡出土墨書土器

第31図 八幡林遺跡出土
23号木簡の「日置」
(田中ほか1994)を改変

第18表 下新田遺跡出土墨書土器一覧

番号 No.	報告 No.	出土位置		層位	種別	器種	部位/方向	釈文	時期	備考
		区	遺構 グリッド							
1	39	1	SD39 B-10H-6F22	2	須恵器	無台杯	体部外面	□	-	
2	141	1	B-10H-4A8	VII	土師器	無台碗	体部外面/側位	□	-	
3	169	1	B-10H-5D25、6E6・13	VII	須恵器	短頸壺蓋	外面	□	-	
4	166	1	B-10H-6E6	VIIa	須恵器	有台杯	底部外面	□	2期	
5	62	4	SX6 B-10G-3J12	1	須恵器	無台杯	底部外面	□	4期	
6	79	2	SX42 D-3I-6E24・25	2、VIIc	須恵器	有台杯	底部外面	小□	2期	
7	217	2	D-3I-7F25・28、8G1	VIIc、VIIa	須恵器	杯蓋	外面	日置□	2期	
8	259	第6次調査区	D-3I-8E16	VIIa	須恵器	有台杯	底部外面	□/□	2期	
9	283	-	6JT	VII	土師器	無台碗	底部外面	□	-	第1次調査

a 「小口」(黒6)

須恵器有台杯の底部外面、中央左よりにやや小さく記す。次の黒7も含めて、文字を小ぶりに記す書き方は、主に8世紀代に比較的多くみられる(平川2000)。2文字目は画数の多い文字であるが、墨痕が極めて薄いため、読みきることができない。

b 「日置口」(黒7)

須恵器杯蓋の外面の縁よりにやや小さく記す。1文字目の「日」を小さく記し、「日置」の二文字を一文字のように記す書き方は、長岡市八幡林遺跡出土23号木簡の「日置賣万呂」(田中ほか1994)(第31図)や平城宮造酒司地区出土木簡(2234)の「日置業」[奈良国立文化財研究所1975]など多くの類例がある。3文字目は、「日置」からやや離して記し、また、文字の書き方も「日置」とは異なり少し大きめに記している。そのため、「日置」につながる一連の記載ではない可能性もある。

「日置口」の解釈については次の三つが考えられる。①「日置」を郷名と解する。後述するように日置郷は『和名類聚抄』所載の越後国蒲原郡5郷のうちの一つである。②「日置」を古代の氏族名と解する。前記の八幡林遺跡出土23号木簡には「日置賣万呂」という「日置」を氏族名とする人物名がみられる。③「日置口」を、例えば「日置女」のような人名と解する。

日置郷は、『和名類聚抄』所載の越後国蒲原郡の所管郷5郷(日置・桜井・勇礼・青海・小伏)の内、冒頭に記される郷である。日置郷の範囲については、『新潟県史』や『新潟市史』では触れられておらず、『黒崎町史』は位置不明とする。近年、小林昌二氏は、『和名類聚抄』における郷名の記載順に注目して、日置郷の範囲を信濃川河口付近と想定している(小林2010)。また、『東蒲原郡史』では日置郷の範囲を「信濃川河口付近から海岸砂丘地を経て角田山東麓にかけての地域」とする(東蒲原郡史編さん委員会2012)。下新田遺跡出土墨書土器の「日置」が郷名を記しているとするれば、日置郷の範囲は角田山東麓から、さらに東方に広がる沖積地にも及んでいたと考えられる。なお、新潟県内出土の墨書土器で、郷名を記している可能性のあるものは、上越市木崎山遺跡出土の「佐味」(戸根ほか1992)、新潟市秋葉区上浦A遺跡出土の「桜井」(川上1997)がある。

古代の越後国における日置氏存在については、前記の八幡林遺跡出土23号木簡の「日置賣万呂」が知られるのみである。23号木簡は、鮭や内子鮭の運送に当たって、荷物を輸送編成の各班に割り当てる際に使用された記録簡と考えられ(相澤2015)、八幡林遺跡の所在する古志郡における日置氏の存在がうかがえる。下新田遺跡出土墨書土器の「日置」が氏族名を記しているとするれば、郡域を超えた日置氏の分布の広がりを見せており、島崎川・西川を通じた両地域の交通の実態をうかがわせるものとも考えられよう。

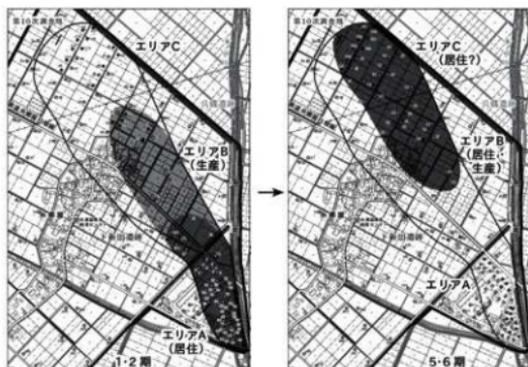
C おわりに

下新田遺跡の調査は、これまで発掘調査事例の少ない当地域において古代の様相を知ることのできる大きな成果となった。しかし、円筒形土製品、カマド形土製品、羽釜、底面に木葉痕のある土師器など遺跡の特徴を示す遺物について十分に検討できなかった。簡単ではあるが、ここに記す。また、畠跡・水田跡などの生産域と、出土した土器とその編年案から推測する遺跡内の土地利用についても考える。

本遺跡からは円筒形土製品(326~332)や土製支脚(333・334)などカマドに関わる遺物が複数出土している。円筒形土製品は、カマドの天井材・袖芯材・煙道として使用されたのではないかと考えられ(西山1996など)、大島橋遺跡(山口1984)・樋切遺跡(関2000)・燕市三角田遺跡(松島2001)など本遺跡と同じか、少し古い時期の周辺での出土も多い。そして、この種の土製品が出土する時期と分布状況などから、当地域へは上越地域からの移住による伝播という可能性が指摘されている(春日2014)。住居跡は確認できなかったが遺跡内には居住空間が広がっていたと考える。円筒形土製品はエリアAのみ、土製支脚はエリアA・Bから出土する。この違いを土器同様に時期差と捉えると、エリアBの北西側をエリアCとして、遺跡内の土地利用の変遷は第32図のように考えられる。すなわち、遺物量の極めて少ない下新田3・4期を抜き、断続的に居住地として利用され

ていたであろう。しかし、各エリア間には空白部分もあり、図示した範囲は明瞭でなく、根拠も乏しいため推測の域を出ない。

次に羽釜(155)とカマド形土製品(325)について考える。名称は異なるが同一遺物の「羽釜形土器」・「甕形土製品」は、東北地方出土品について分類・集成が行われ、年代や出土状況などが整理されている〔古川2014〕。それによれば、羽釜は様々な地域からの系譜があり官衙関連遺跡に限定されない祭祀的な遺物であること、



第32図 下新田遺跡内の変遷案

甕形土製品は官衙関連遺跡に限られ、従来の研究通り〔稲田1978・千葉2001など〕祭祀との関連が指摘された〔古川前掲〕。県内では南魚沼市(田六町)の金屋遺跡でまとまって出土しているが、罫は短く長野・山梨県から群馬・埼玉県へ伝播した羽釜の系統であり、時期は10世紀後半以降とされている〔山本1985〕。本遺跡出土の羽釜は、東北地方で9～10世紀代に増加するもの(ⅡB類)と類似すると考える。また、本遺跡出土のカマド形土製品は、焚き口に庇をたず釜口(掛け口)が外反し、的場遺跡〔小池ほか1993〕・無頭遺跡〔長澤ほか2002〕・田上町行屋崎遺跡〔田畑ほか2015〕でもみられるが、浜田遺跡〔本間ほか1975〕・旗屋崎遺跡〔寺村1979〕・馬場遺跡〔本間ほか1983〕など佐渡地方に多く、東北地方に類例を見出すことはできなかった。東国の「甕形土器」を集成した〔神谷1988〕で「他に例のない形」と記載されており、地域性の強い遺物と考える。本遺跡では羽釜とカマド形土製品は同一遺構から出土せず、地点も離れている。すなわち、羽釜は県内より東北地方に近いが、カマド形土製品は地域性の強い遺物であり、この両者の異なったあり方は、カマド形土製品が官衙関連遺跡に限られるということ〔古川前掲〕が本遺跡でもいえるのか、類例などの検討も含め今後の課題である。

最後に土師器の製作および製作地について考える。本遺跡からは土師器ⅡA類(非ロクロ)の粘土帯接合面(つなぎ目)に施された工具痕跡の明瞭な破片(90・252)や、網状脈の木葉痕がみられる底部片(32・200など)が出土している。前者は粘土組を積み上げる際に工具を連続して押圧することで波状にし、接合面の増加による接着強化が目的と推測される。複数個体にみられることから、土器製作のひとつの工程と捉える事も可能であろう。2点は下新田2期に相当し、エリアAから出土している。また、底面にみられる網状脈の木葉痕の内4点(32・200・レプリカ採取No.164・167(写真図版44))について、他の自然科学分析から遺跡周辺が湿地帯とみられるため、ミヤマカワラハンノキが第一候補とされた(第Ⅵ章参照)。全て2期に相当し、3点がエリアAから出土している。当期に丘陵部で土師器製作をする場合、低湿地のハンノキの葉を選択する確率は低いのではないだろうか。湿地性のハンノキの葉を土器製作時に用いる理由は身近にあったからだと考える。つまり、上記の樹木同定が別の理由などで正しいと断定されれば、土師器焼成遺構は検出されていないものの、本遺跡および周辺で土器製作・焼成が行われていたと推察することも可能だろう。

今回は、東北的な要素〔加藤ほか2001・加藤2004〕がみられる土師器について胎土分類から違いが見出せるか、また類例の少ないウマの骨(歯)の検討など課題を多く残した。今後、今回の調査で個別に検討を行った事項なども合わせて考えることで、本遺跡を含む周辺地域の古代様相の把握へつなぐ更なる成果としたい。

引用・参考文献

- ア 相澤 央 2015 『古代越後平野の内水面交通』『古代の運河』八木書店
- 相田泰臣^{a10} 2012 『林付遺跡第2次調査—新潟市立高東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 味方村誌編纂委員会 2000 『味方村誌通史編』味方村
- イ 橋田孝司 1978 『地の電と王権』『考古学研究』第25巻第1号 考古学研究会
- ウ 瀬田憲幸 2013 『下新田遺跡』『平成24年度 新潟市遺跡発掘調査速報』最新調査成果が語る新潟市の歴史 新潟市文化財センター
- エ 江口友子^{a10} 2000 『北陸自動車道黒埼パーキングエリア改良工事関係発掘調査報告書 観音堂遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第100集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 春日真実 1995 『越後における奈良・平安時代の墓制について』『東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—』東日本埋蔵文化財研究会橋本大会準備委員会
- 春日真実 1999 『第4章 古代 第2節 土器編年と地域性』『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 春日真実 2000 『第5章 まとめ』『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』吉田町
- 春日真実 2005 『越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について—「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に—』『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 春日真実 2006 『越後における7世紀の土器編年』『新潟考古』第17号 新潟県考古学会
- 春日真実 2007 『越後における古代の煮炊具について』『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 春日真実 2014 『古代遺跡の動態—西蒲原地域を事例として—』『郷土史』第7号 燕市教育委員会・燕市郷土史研究会連合会
- 春日真実 2015a 『古代西蒲原地域の土器器煮炊具』『郷土史』第8号 燕市教育委員会・燕市郷土史研究会連合会
- 春日真実 2015b 『考古資料から考える大宝二年の越中国四部分割』『平成24年度越後国域確定1300年記念事業 記録集』新潟県教育委員会
- 春日真実^{a10} 2001 『一般国道116号出雲崎バイパス関係発掘調査報告書IV 梯子谷跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学 2004 『新潟県域における北方系の土器器煮—事例紹介と問題提起—』『越後阿賀北地域の古代土器標相』新潟古代土器研究会
- 加藤 学^{a10} 2001 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書 松野A遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第106集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 神谷佳明 1988 『東国出土の彫形土器についての検討』『群馬の考古学』創立十周年記念論集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 川上貞夫 1997 『上浦A遺跡』新津市教育委員会
- コ 小池邦明^{a10} 1993 『新潟市の場跡跡 跡地地区画整理事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小林昌二 2010 『古代越後の蒲原・沼垂郡—新潟市西区の四十石遺跡にふれて—』『新潟史学』63号 新潟史学会
- 小山正志・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社
- サ 坂井秀秀^{a10} 1986 『北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書II 一之口遺跡西部地区』新潟県埋蔵文化財調査報告書第40集 新潟県教育委員会
- 坂井秀秀^{a10} 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀口遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新潟県教育委員会
- 坂井秀秀 1990 『新潟県三島郡与板町の製鉄遺跡』『新潟考古』第1号 新潟県考古学会
- 坂井秀秀・鶴岡正昭 春日真実 1991 『佐渡の須志遺跡』『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- ス 鈴木敏彦 2014 『山王遺跡多賀前地区 SX10090 横位合口土器器煮棺出土の人歯』『山王遺跡VI—多賀前地区第4次発掘調査報告書—』宮城県文化財調査報告書第235号 宮城県教育委員会・国土交通省東北地方整備局
- セ 関 雅之 2000 『新潟市潟東村所蔵の考古資料整理報告—谷川忠壽美氏収集資料の調査記録—』潟東村教育委員会
- タ 園田優子 2014 『下新田遺跡—地中深く眠る奈良・平安時代のムラ—』『平成25年度 新潟市遺跡発掘調査速報』最新調査成果が語る新潟市の歴史 新潟市文化財センター
- 田中 靖^{a10} 1994 『八幡林遺跡』和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 新潟県和島村教育委員会
- 田畑 弘^{a10} 2015 『行原崎遺跡 一般国道403号(小須戸田上バイパス)道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』新潟県南蒲原郡田上町教育委員会
- チ 千葉孝秀^{a10} 2001 『市川橋遺跡—城山北地区画整理事業に係る発掘調査報告書I—』多賀城市文化財調査報告書第60集 多賀城市教育委員会・多賀城市城南土地区画整理組合
- ツ 道跡中之口村誌編さん委員会 2006 『道跡中之口村誌』新潟市
- 寺村光晴 1979 『旗射崎遺跡—新潟県佐渡郡金井町旗射崎遺跡の発掘調査—』金井町教育委員会
- ト 戸根与八郎^{a10} 1992 『北陸自動車道関係発掘調査報告書 小崎山遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第28集 新潟県教育委員会
- 奈良厚生^{a10} 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 奈良国立文化研究所 1975 『平城宮本館—』
- ニ 新潟古砂丘グループ 1974 『新潟古砂丘と人類遺跡—新潟古砂丘の形成史I—』『第四紀研究』13-2 日本第四紀学会

- 新潟古代土器研究会 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』
- 新潟市国際文化歴史文化課 2007 『新潟県歴史双書 2 新潟市の遺跡』 新潟市
- 新潟市史編さん原始古代中世部会 1994 『新潟市史 資料編1 原始古代中世』 新潟市
- 西山 克己 1996 『7世紀代に用いられた円筒形土器』『長野県考古学会誌』79 長野県考古学会
- ハ 花植哲夫・平沢 正 1984 『角山山東麓・佐野周辺の遺跡調査報告1』『FIELD NOTE』3号 新潟大学考古学研究所
- ヒ 東海原郡史編さん委員会 2012 『東海原郡史 通史編1』
- 東日本埋蔵文化財研究会新木大会準備委員会 1995 『東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—』
- 平川 南 2000 『墨書土器の研究』吉川弘館
- フ 布施智也¹³⁾ 2006 『花立遺跡 小淵前遺跡 吉田町米納津地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』吉田町文化財調査報告書 第13集 吉田町教育委員会
- 吉川一明 2014 『古代東北地方における特殊な形態の煮炊用土器について』『東北歴史博物館研究紀要』15 東北歴史博物館文化庁文化財部記念物課 2010 『第VI章 遺構の記録』『発掘調査のてびき—集落遺跡発掘編—』
- 文化庁文化財部記念物課 2013 『第II章 墳墓の調査』『発掘調査のてびき—各種遺跡調査編—』
- ホ 細野高尙・伊比博和¹⁴⁾ 2012 『大沢谷内遺跡II第7・9・11・12・14次調査—一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 『北陸高速自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 茶院遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第5 新潟県教育委員会
- 本間信昭¹⁵⁾ 1976 『浜田遺跡 新潟県佐波郡真野町浜田遺跡発掘調査報告』真野町教育委員会
- 本間信昭¹⁶⁾ 1983 『馬場遺跡 新潟県佐波郡相川町北片辺馬場遺跡発掘調査報告』相川町教育委員会
- マ 前山精明 2012 『大沢谷内遺跡III 第18次調査—市道鎌倉横川線改良工事に伴う大沢谷内遺跡第2次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡II—2003年度確認調査の概要—』巻町教育委員会
- 高木悦子 2001 『三角田遺跡 国営新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 燕市教育委員会・吉田町教育委員会
- 高木悦子 2009 『上町遺跡 土砂砂子塚・芝ヶ島線道路築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 燕市教育委員会
- ヤ 柳澤和明¹⁷⁾ 2014 『山王遺跡VI—多賀前地区第4次発掘調査報告書—』宮城県文化財調査報告書第235号 宮城県教育委員会・国土交通省東北地方整備局
- 山口栄一 1984 『西川町の遺跡』『西川町史考 その12 史料・民具の紹介と古老の話』西川町教育委員会
- 山口栄一 1994 『下稲場遺跡』『重穂須志器室跡』『前平野須志器室跡』『巻町史 資料編1 考古』巻町
- 山本 肇 1985 『第VIII章 考察 3.羽釜について』『関越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 金屋遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第37 新潟県教育委員会
- ワ 渡邊ますみ¹⁸⁾ 2012 『四石遺跡 第2次調査—(仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四石遺跡第2次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 第V章
- イ 伊東隆夫・山田昌久編 2012 『木の考古学—出土木製品用材データベース—』海青社
- 伊藤元己 1996 『ハス』『週刊朝日百科植物の世界』97 朝日新聞社
- ウ 丑野 毅・田川裕美 1991 『レプリカ法による土器圧痕の観察』『考古学と自然科学』24 日本文化財科学会
- ク 久保和士・松井 章 1999 『第10章 家畜くそ2—ウマ・ウシ』『考古学と自然科学2 考古学と動物学』西本豊弘・松井 章編 同成社
- コ 近藤謙三 2010 『プラント・オパール図譜』北海道大学出版会
- シ 島倉巳三郎 1973 『日本植物の花粉形態』『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 大阪市立自然科学博物館
- 島地 謙・佐伯 浩 原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 1985 『木材の構造』水永堂出版
- 島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣
- ス 杉山真二 2000 『植物性炭体(プラント・オパール)』『考古学と自然科学3 考古学と植物学』辻誠一郎編 同成社
- ナ 中村 純 1974 『イネ科花粉について とくにイネ(Oryza sativa)を中心として』『第四紀研究』13
- 中村 純 1980a 『日本産花粉の標識I II(図版)』『大阪市立自然史博物館収蔵資料目録』第12・13集 大阪市立自然科学博物館
- 中村 純 1980b 『花粉分析による種作史の研究』『自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究—総括報告書—』文部省科研費特定研究『古文化財』総括班
- ホ 星川清親 1992 『改訂増補 栽培植物の起源と伝播』二宮書店
- フ 藤原宏志 1976 『プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の粒体標本と定量分析法—』『考古学と自然科学』9 pp.15-29
- 藤原宏志・杉山真二 1984 『プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—』『考古学と自然科学』17 pp.73-85
- マ 真造 彰 2013 『レプリカ法による土器製作員の復元:素材形状からみた南九州地方の編物底』『地域政策科学研究』10 pp.141-170
- ヤ 山田昌久 1993 『日本列島における木質遺物出土遺跡文献集—用材から見た人間・植物関係史』『植生史研究』特別1号 植生史研究会
- T Talma, A.S. and Vogel, J.C. 1993 A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Radiocarbon, 35 (2)

別表 1 遺構計測表

- 凡 例
- 遺構名 観音寺の遺構は、SN (北回・点線) → SE → SK → SD → SX → SP の順で、その番号順である。あわせて分類別 No.、収容別 No.、写真別 No. を明記し、表示としての役割をもたせてある。なお、②・3層で検出された 1・4 区中継遺構は上・下面の例を簡略に示した。
 - 時代 遺構の記録する年代は大きな区分に基づいた。
 - 主軸方向 軸状遺構・遺状遺構等、必要と思われるもののみ示した。
 - 規模 上層・下層について計測した。遺状遺構については長軸が長さで、短軸が幅である。規模の () 内数字は発見層からの積定数である。
 - 形 態 平面形は土坑・ピットのうち発見状況の良いものを示した。断面形はセクションライン上の形状を基本とした。
 - 切り欠き関係 同一層位で切り欠く遺構を記載した。発見関係の表示は、本遺構が切る遺構を (切)、本遺構を切る遺構を (被) とし、本文箇条書きの記述に対応する。

上層遺構計測表

図版No.	写真図版No.	区	遺構	グリッド	時代	構造	主軸方向	規模 (m)				形 態			切り欠き関係	遺構別 No.	備考			
								上層		下層		周長	平面	背面				底面傾斜(%)	積土	
								長軸	短軸	長軸	短軸									
9-10	5	1	SN 118	B-10H-801-4-13-24	古代	Vb4 F	N 5° W	-	0.50	-	1.10	0.16	-	-	0.40	3	SD117 (被)	本図層		
9-10	5	1	SN 119	B-10H-806-7-11-12	古代	Vb4 F	N 37° W	-	0.30	-	0.65	0.22	-	台形状	0.40	2	SD55-119-7-16 (被)	本図層		
					古代	Vb2 F	N 25° W	-	0.78	-	1.72	0.61	-	-	0.60	2		本図層 4層 (1層)		
					古代	Vb2 F	N 19° W	-	0.20	-	0.45	0.11	-	-	0.93	1		本図層 2層 (3層)		
9-10	5	1	SN 120	B-10H-7H22-23, 8H2-4	古代	Vb1 F	N 17° W	-	0.17	-	0.51	0.17	-	-	0.76	1		本図層 2層 (3層)		
					古代	Vb1 F	N 11° W	-	0.21	-	0.63	0.18	-	-	0.60	1	SD54 (被)	本図層 1層 (7層)		
9-11		1	SN 121	B-10H-7F4-5	古代	Vb4 F	N 42° E	-	0.80	-	-	0.10	-	-	0.68	1	SD112 (被), SD113-112 (被)	本図層		
9-11		1	SN 124	B-10H-7G12-14	古代	Vb4 F	N 60° E	-	0.60	-	0.90	0.11	-	-	0.62	1		本図層		
9-11		1	SN 126	B-10H-6F24, 7F3-5-10	古代	Vb1 F	N 9° E	-	2.40	-	3.35	0.15	-	-	0.77	2		本図層		
9-11		1	SN 129	B-10H-7G8-12-14	古代	Vb4 F	N 78° E	-	1.40	-	1.80	0.14	-	-	0.76	1		本図層		
9-11-12	5-6	1	SN	B-10H-4B-6E	古代	Vb4 F	-	-	0.69 ~ 1.15	-	0.07 ~ 0.24	0.13 ~ 0.25	-	-	0.84 ~ 1.04	5		点跡		
9-12	6	1	SD 1	B-10G-3J19-20-24-25, 4J5, 10H-4A1	古代	Vb4	N 35° W	-	-	-	0.55	0.23	-	遺状	0.89	5		○ 44		
9-12	6	1	SD 2	B-10H-4A1-3-7-8	古代	Vb5	N 34° E	-	2.70	-	1.30	1.14	-	遺状	0.35	5		○ 44		
9-12	6	1	SD 6	B-10H-5C2	古代	Vb1	N 31° E	-	0.45	-	0.24	0.51	-	U字状	0.56	6		○ 44		
9-10	6	1	SD 54	B-10H-7H24, 8H3-4-9	古代	Vb4 F	N 5° E	-	1.70	-	0.60	0.21	-	-	0.53	2	SN120 (被)	○ 44		
9-10	6	1	SD 55	B-10H-8H5-10, 8H6	古代	Vb2 F	N 36° W	-	0.50	-	0.28	0.07	-	-	0.35	1	SN119 (被)			
9-10	6	1	SD 56	B-10H-8H18-20-24-25	古代	Vb4 F	N 11° W	-	1.50	-	0.71	0.14	-	-	0.41	1	SN118 (被)			
9-11		1	SD 111	B-10H-7F4	古代	Vb4	-	-	0.35	-	0.10	0.06	-	-	0.69	1	SN121 (被)			
9-11		1	SD 112	B-10H-7F4	古代	Vb1	-	-	0.35	-	-	0.16	-	-	0.52	1	SN121, SD113 (被)			
9-11		1	SD 113	B-10H-7F4-5	古代	Vb1	-	-	0.60	-	0.30	0.16	-	遺状	0.56	1	SN121, SD112 (被)			
9-10		1	SD 115	B-10H-8H11-12	古代	Vb4 F	-	-	0.31	-	0.11	0.12	-	-	0.46	1	SN119 (被)			
9-10		1	SD 116	B-10H-8H12-13-18	古代	Vb4	-	-	0.61	-	0.35	0.19	-	-	0.37	2	SN119 (被)			
9-10		1	SD 117	B-10H-8H13-14-19	古代	Vb4 F	N 17° W	-	-	-	0.30	0.07	-	-	0.45	1	SN118 (被)			
23-24	14	4	SN 23	B-10G-3J11-13-16 ~ 18	古代	Vb6	-	-	3.30	-	-	0.31	-	台形状	0.97	1	SN6 (本層)			
23-24	14	4	SK 4	B-10G-3J16-17-21-22	古代	Vb2	N 34° E	-	1.12	-	0.44	0.17	櫛形状	遺状	0.69	2	SD7-8 (被)	○ 47		
23-24	14	4	SK 6	B-10G-3J2-3-7-8-12-13	古代	Vb1	-	-	-	-	-	0.69	-	-	0.35	2	SN35 (本層)	○ 47		
28	17	2	SN	D-3B-4B ~ 8C	古代	Vb1 F	-	-	-	-	0.50-0.97	0.16-0.27	-	V字状	-	5		点跡		
28		2	SD 22	D-3B-6B17-18	古代	Vb1	N 60° E	-	0.82	-	0.58	0.12	-	-	遺状	0.60	1			
28	17	2	SD 20	D-3B-7F18-19	古代	Vb1	-	-	(1.19)	-	(0.46)	-	0.38	-	遺状	0.35	2			
28	17	2	SD 45	D-3B-6D3-4	古代	Vb1	N 88° E	-	0.42	-	0.21	0.31	-	-	遺状	0.66	1			
28		2	SK 46	D-3B-6D4-5	古代	Vb1	-	-	(1.25)	(0.47)	(0.27)	(0.24)	-	-	遺状	0.47	1			
33	23	3	SN 45	D-42-4C20-25, 4D16-21-22	古代	Vb2 F	N 60° E	-	1.20	-	-	0.37	-	台形状	0.40	4	SD46-47 (被)			
33-34	24	3	SN 48	D-42-3B35, 3C21-22	古代	Vb2 F	N 72° E	-	(0.46)	-	-	-	-	0.51	-	台形状	0.28	5	SD50 (被), SD49-51 (被)	
33		3	SN 54	D-42-4D13-14	古代	Vb2 F	-	-	-	-	-	0.20	-	遺状	0.38	3	SD19 (被)			
33	23	3	SD 46	D-42-4C25	古代	Vb1	-	-	-	-	-	0.07	-	遺状	0.55	1				
33	23	3	SD 47	D-42-4C25, 4D21	古代	Vb2	-	-	-	-	-	0.13	-	遺状	0.46	1				
33-34		3	SD 49	D-42-3C21-22, 4C1-2	古代	Vb2	N 49° E	-	0.30 ~ 0.92	-	-	0.18	-	U字状-遺状	0.39	2				

関係No.	写真関係No.	区	通称	グラッド	時代	構造	主軸方向	規模 (m)				形態			底面半径 (m)	覆土	切り合い・傾斜	遺物の種類	遺物関係No.	備考
								上層		下層		深さ	前面	背面						
								長径	短径	長径	短径									
33-34		3	SD 50	D-42-3R20	古代 Vc1	-	-	-	-	0.11	-	覆状	0.23	1						
33-34		3	SD 51	D-42-3R20-25, 3C(16-21)	古代 Vb2	N 49° E	-	0.28	-0.90	-	-	0.30	-	V字壁-覆状	0.34	2				
33	23	3	SD 53	D-42-4F(16-21)	古代 Vb2	-	-	-	-	0.12	-	覆状	0.39	1						
33-34		3	SP 1	D-46-L119	古代 Vb2	-	-	0.20	-	-	-	0.14	-	覆状	0.31	1				
33-34	24	3	SP 10	D-42-5D2	古代 Vc1	-	-	0.44	-	0.22	0.18	-	覆状	0.34	3					
33	23	3	SP 52	D-42-4D21	古代 Vb2	-	-	-	-	-	0.11	-	覆状	0.51	1					
40	29	築6C	SN	D-38-5A-6H	古代 Vb2下	-	-	-	-	-	-	-	U-V字壁	0.54	4				品跡	
40	29	築6C	SD 11	D-38-10H(9-10)	古代 Vb1	N 75° E	-	1.08	-	0.18	0.19	-	覆状	0.55	2			○	51	
40	29	築6C	SD 7	D-38-7D22-23, 8R2-3	古代 Vc1	N 20° E	-	2.14	-	1.74	0.41	-	覆状	0.34	1			○		
40	30	築6C	SD 8	D-38-6C(16-21)	古代 Vc1	N 60° E	-	0.50	-	0.27	0.17	-	台形壁	0.69	1			○		

中層遺構計測表

関係No.	写真関係No.	区	通称	グラッド	時代	構造	主軸方向	規模 (m)				形態			底面半径 (m)	覆土	切り合い・傾斜	遺物の種類	遺物関係No.	備考
								上層		下層		深さ	前面	背面						
								長径	短径	長径	短径									
18-19	10	1	SK 37	B-10H-5C1 ~ 3-7-8	古代 Vc3	-	-	0.37	-	-	(0.96)	-	扇斗壁	(0.04)	8	SK5 (裏)		○	44-64-67	下層
13-14	7	1	SK 19	B-10H-4B11-16	古代 Vc2	-	-	0.70	-	(0.28)	0.25	-	台形壁	0.63	2	SD11 (裏)				下層
13-14	7	1	SK 20	B-10H-4B11	古代 Vc2	-	-	(1.38)	-	(0.28)	0.43	-	扇斗壁	0.40	4	SK81, SD11 (裏)		○	44	上層
18-21	12	1	SK 32	B-10H-6R1-6	古代 Vc3	-	-	0.80	-	(0.75)	0.11	-	-	0.66	1	SK33 (裏) SK39 (裏)				下層
13-14	7	1	SK 48	B-10H-7G1-6	古代 Vc2	-	-	(1.35)	-	(0.60)	0.19	-	覆状	0.53	2					上層
18-19	10	1	SK 49	B-10H-8I13	古代 Vc3	-	-	0.70	-	0.25	0.16	-	覆状	0.19	1					下層
18-19	10	1	SK 50	B-10H-5C15	古代 Vc3	-	-	(1.05)	-	(0.40)	0.33	-	覆状	0.54	3	SD24 (裏)				下層
18-20	12	1	SK 51	B-10H-5D24, 6D4	古代 Vc3	-	-	(0.65)	-	(0.25)	0.12	-	-	0.53	1	SK30 (裏) SK24 (裏)				下層
13-15	7	1	SK 52	B-10H-5D24-25	古代 Vc2	-	-	-	-	(0.30)	0.30	-	覆状	0.57	3	SK52 (裏)		○		上層
13-15	7	1	SK 53	B-10H-5D24	古代 Vc2	-	-	(1.00)	-	(0.30)	0.41	-	U字壁	0.50	3	SK52 (裏)		○	44	上層
13-15	7	1	SK 58	B-10H-5D17	古代 Vc2	-	-	(1.25)	-	(0.40)	0.33	-	覆状	0.64	3					上層
13-14	7	1	SK 59	B-10H-7F5	古代 Vc2	-	-	(1.30)	-	(0.32)	0.23	-	-	0.46	3					上層
13-14	7	1	SK 60	B-10H-4B17-18	古代 Vc2	-	-	-	-	-	0.51	-	台形壁	0.39	3	SD40 (裏)				上層
18-20		1	SK 76	B-10H-4A1	古代 Vc3	-	-	0.29	-	(0.08)	0.24	-	-	0.59	3	SK77, SD76 (裏)				下層
18-20		1	SK 77	B-10H-4A1	古代 Vc3	-	-	-	-	-	0.14	-	-	0.70	1	SD75 (裏) SK76 (裏)				下層
13-15	7	1	SK 78	B-10G-3I19	古代 Vc2	-	-	(0.60)	-	(0.30)	0.33	-	覆状	0.54	3					上層
13-15	8	1	SK 79	B-10H-3A21, 4A1-2	古代 Vc2	-	-	(1.45)	-	(0.73)	0.32	-	-	0.61	3					上層
13-14	7	1	SK 81	B-10H-4B11	古代 Vc2	-	-	-	-	-	0.43	-	-	0.46	3	SK20 (裏)				上層
18-20		1	SK 83	B-10H-4A2-7	古代 Vc3	-	-	0.29	-	(0.11)	0.21	-	-	0.59	2					下層
18-20		1	SK 84	B-10H-4A7-8	古代 Vc3	-	-	0.26	-	(0.08)	0.23	-	台形壁	0.62	2					下層
18-20		1	SK 85	B-10H-4A8	古代 Vc3	-	-	0.23	-	(0.06)	0.21	-	覆状	0.67	1	SP122 (裏)				下層
13		1	SK 86	B-10H-4B17	古代 Vc2	-	-	(0.60)	-	(0.20)	0.29	-	覆状	0.56	2					上層
13-14	7	1	SK 93	B-10H-4B12-17	古代 Vc2	-	-	(1.62)	-	(0.38)	0.57	-	扇斗壁	0.39	5					上層
13-15		1	SK 97	B-10H-5C1-2	古代 Vc2	-	-	(1.00)	-	0.54	0.33	-	-	0.51	2	SK98 (裏) SD12-13-19 (裏)				上層
13		1	SK 98	B-10H-5C1	古代 Vc2	-	-	-	-	-	0.17	-	-	0.60	2	SK97, SD12-22 (裏)				上層
18-19		1	SK 100	B-10H-5D16	古代 Vc3	-	-	0.80	-	(0.30)	0.18	-	覆状	0.68	2					下層
13-15	8	1	SK 103	B-10H-5D18-23-24	古代 Vc2	-	-	(1.38)	-	(0.43)	0.33	-	台形壁	0.65	2					上層
13-15		1	SK 114	B-10H-7F10, 7G6	古代 Vc2	-	-	(1.01)	-	(0.65)	0.12	-	覆状	0.54	1					上層
13-16	8	1	SD 3	B-10H-4B24-25, 5A5	古代 Vc2	N 28° E	-	1.30	-	0.60	0.24	-	台形壁	0.67	3	SP95 (裏)		○		上層
13-16	8	1	SD 4	B-10H-4B25, 4C21, 5B5	古代 Vc2	N 28° E	-	0.50	-	0.25	0.16	-	-	0.67	2	SK132 (裏)		○	46	上層
18-19		1	SD 5	B-10H-5C1 ~ 3-7	古代 Vc3	N 29° E	-	1.73	-	0.70	0.37	-	覆状	0.51	3	SP97 (裏)		○	44	下層
13-16	8	1	SD 7	B-10H-5C9-13-14	古代 Vc2	N 34° E	-	0.13	-	0.01	0.24	-	V字壁	0.75	2					上層
13-16	8	1	SD 8	B-10H-5C9-14	古代 Vc2	N 27° E	-	0.30	-	0.10	0.14	-	V字壁	0.61	1					上層
13-16	8	1	SD 9	B-10H-5C9-10-14-15	古代 Vc2	N 24° E	-	0.38	-	0.11	0.31	-	V字壁	0.76	1					上層
13-16	8	1	SD 10	B-10H-5C19-20, SD11-38	古代 Vc2	N 26° E	-	1.45	-	0.51	0.34	-	台形壁	0.62	3					上層
13-16	8	1	SD 11	B-10H-4A8 ~ 10-14-16, 4B11	古代 Vc2	N 0° W	-	-	-	-	0.62	-	-	0.31	5	SD82 (裏) SK19-20 (裏)		○	44	上層

図面No.	写真図面No.	区	通称	グラッド	年代	構造	主軸方向	幅間 (m)				形態		底面積(m ²)	竣工	切り欠き・高低	通称の 名称	通称の No.	備考	
								上層		下層		深沢	平野							崖面
								長間	短間	長間	短間									
13	1	SD12	B-10H4C21-1C1	古代Ⅱc2	N56°E	-	0.99	-	0.40	0.19	-	-	0.70	2	SK08,SD22(旧)	○	45	上面		
13-15-36	1	SD13	B-10H5C1-2	古代Ⅱc2	N39°E	-	0.60	-	0.28	0.23	-	-	0.64	3	SK97(旧),SD06(新)	○		上面		
18-21	11	SD15	B-10H6E7-9-13	古代Ⅱc3	N32°E	-	3.22	-	2.12	0.33	-	-	0.60	3	SD29-35,SK131,SP14-41(旧)	○	45-64	下面		
13-17	9	SD16	B-10H4B17-18-23	古代Ⅱc2	N56°W	-	0.20	-	0.12	0.16	-	-	0.68	2	SD40-88(旧)	○		上面		
18-20	11	SD18	B-10H4B11-12-16-18	古代Ⅱc3	N42°W	-	0.60	-	0.25	0.33	-	-	0.47	3		○	46-06	下面		
13-16	8	SD21	B-10H5C15	古代Ⅱc2	N34°E	-	0.21	-	0.08	0.33	-	-	0.67	4	P99(新)	○		上面		
13-16	1	SD22	B-10H5C1	古代Ⅱc2	N25°E	-	0.82	-	0.55	0.15	-	-	0.70	2	SD12-SK132(新)	○		上面		
18-19-20	11-13	SD24	B-10H5C10-15, SD11-16-18-22-24, 6D4-5-10, 6E1-6	古代Ⅱc3	N56°W	-	0.44	-	0.25	0.28	-	-	0.61	5	SK50(旧),SK31,SD30-31-33(旧)	○	46	下面		
18-20	11	SD28	B-10H5D18-23	古代Ⅱc3	N50°W	1.15	0.30	0.96	0.23	0.18	北西向き	崖状	0.61	2		○		下面		
18-21	12-13	SD29	B-10H5D18-23-25, 6B5, 6C1-6	古代Ⅱc3	N54°W	-	0.48	-	0.30	0.31	-	-	0.67	3	SK131(新),SK2,SD15-30-31-33-102,SP14-41(旧)	○	46-06	下面		
18-20-21	12	SD30	B-10H5D24-25, 6D4-5	古代Ⅱc3	N29°E	-	1.85	-	1.20	0.27	-	-	0.56	3	SK51,SD34-29(新)	○	46	下面		
18-20-21	11-12	SD31	B-10H4D5-10, 4E1	古代Ⅱc3	N51°E	-	0.34	-	0.20	0.06	-	-	0.69	1	SD32(旧),SD34-29-25(新)	○		下面		
18-21	12	SD33	B-10H6E1-2-6-7	古代Ⅱa	N34°E	-	1.80	-	0.35	0.30	-	-	0.60	2	SD34-29-31-35,SK32(新)	○	46	下面		
18-21	12-13	SD35	B-10H5D25, 6D5, 6E1-2-7-9-13-15-20	古代Ⅱc3	N55°W	-	0.44	-	0.20	0.15	-	-	0.63	2	SD15-31-33,SP14(旧)	○	46	下面		
13-17	9	SD38	B-10H6F11-16	古代Ⅱc2	N22°E	-	1.25	-	0.95	0.13	-	-	0.58	1		○	66	上面		
13-17	9	SD39	B-10H6F17-18-22-23	古代Ⅱc2	N27°E	-	2.02	-	0.38	0.21	-	-	0.48	2	SD110(旧)	○	46	上面		
13-14-17	7-9	SD40	B-10H4B18	古代Ⅱc2	N22°E	-	0.53	-	0.28	0.26	-	-	0.62	3	SK60(旧),SD16(新)	○		上面		
13-17	9	SD42	B-10H7G8-13-15-18-20	古代Ⅱc2	N23°E	-	0.80	-	1.80	0.31	-	-	0.67	3	SK43(新)	○	46	上面		
13-17	10	SD43	B-10H7G15-19-20	古代Ⅱc2	N31°E	-	1.95	-	0.55	0.18	-	-	0.49	1	SD42(旧)	○		上面		
18-22	13	SD44	B-10H7H16-17-21-22	古代Ⅱc3	N37°E	-	0.43	-	0.03	0.15	-	-	0.41	2	SD66,NO65(旧)	○		下面		
13	1	SD46	B-10H6E23-24, 7F3-4	古代Ⅱc2	N31°E	-	1.15	-	0.35	0.19	-	-	0.54	1		○		上面		
13-17	10	SD63	B-10G3J19-20-24-25	古代Ⅱc2	N3°W	-	1.44	-	0.56	0.45	-	-	0.50	4		○		上面		
18-22	13	SD66	B-10H7H16-17-21-23, 8H2-3	古代Ⅱa	N50°W	-	0.80	-	0.25	0.22	-	-	0.28	2	SN45-65(旧),SD44(新)	○		下面		
18-21	10-13	SD75	B-10G3J25, 325, 10H3A21, 4A1	古代Ⅱa	N40°W	-	-	-	-	0.13	-	-	0.58	1	SK76-77,SD63(新)	○		下面		
18-21	11	SD80	B-10H4A3-8-9	古代Ⅱc3	N40°W	-	0.85	-	0.66	0.29	-	-	0.45	1		○		下面		
13-16	8	SD82	B-10H4A9-10-14-15, 4B11	古代Ⅱc2	N25°E	-	-	-	-	0.72	-	-	0.20	5	SD11(新)	○		上面		
13-17	11	SD88	B-10H4B18-23	古代Ⅱc2	-	-	0.46	-	0.20	0.22	-	-	0.69	2	SD16(新)	○		上面		
13-17	11	SD89	B-10H4E23-24	古代Ⅱc2	-	-	0.51	-	0.28	0.20	-	-	0.72	2		○		上面		
13-17	11	SD90	B-10H4E24	古代Ⅱc2	-	-	0.95	-	0.60	0.19	-	-	0.74	2		○		上面		
13-17	11	SD91	B-10H4E24	古代Ⅱc2	-	-	0.50	-	0.24	0.22	-	-	0.68	2		○		上面		
13-16	1	SD96	B-10H5C1-2	古代Ⅱc2	-	-	0.50	-	0.20	0.17	-	-	0.69	2	SK97,SD13(旧),SD12(旧)	○		上面		
18	1	SD102	B-10H5D11-12-16-18-23	古代Ⅱc3	-	-	-	-	-	0.26	-	-	0.70	2	SD29(新)	○		下面		
13-17	9	SD130	B-10H4E16-17-21-22	古代Ⅱc2	N49°E	-	-	-	-	0.16	-	-	0.54	1	SD29(新)	○		下面		
18-22	13	SK45	B-10H7H22-23, 8H2-3	古代Ⅱa	-	-	1.80	-	0.99	0.22	-	-	0.57	3	SK65(旧),SD66(新)	○	46-63	下面		
18-22	13	SK65	B-10H7H17-21-22	古代Ⅱa	-	-	1.42	-	0.44	0.19	-	-	0.36	2	SD44-66,SN45(新)	○	46	下面		
18-22	1	SK100	B-10H7G20-25, 7H21	古代Ⅱa	-	-	0.96	-	0.53	0.08	-	-	0.64	1		○		下面		
18-21	1	SK131	B-10H6E7-13	古代Ⅱc3	-	-	-	-	-	0.30	-	-	0.67	2	SD15-29(旧)	○		上面		
13-16	1	SK132	B-10H4B25, 4C21, 6D5, 6C1	古代Ⅱc2	-	-	1.74	-	0.88	0.15	-	-	0.77	1	SD4-22(旧)	○		上面		
18	1	SP14	B-10H6E7	古代Ⅱc3	-	(0.40)	(0.20)	(0.30)	0.15	-	-	-	-	1		○		下面		
18-22	1	SP25	B-10H5D16	古代Ⅱc3	-	0.36	0.27	0.20	0.14	0.24	西向き	崖状	0.54	2		○		下面		
18-22	1	SP28	B-10H5D16	古代Ⅱc3	-	(0.25)	(0.24)	(0.14)	(0.12)	0.11	-	-	0.63	2		○		下面		
18-22	1	SP34	B-10H6E7	古代Ⅱc3	-	(0.28)	(0.26)	(0.16)	(0.16)	0.15	-	-	0.60	1	SD29(新)	○		下面		
18-22	1	SP41	B-10H6E7	古代Ⅱc3	-	(0.40)	(0.37)	(0.18)	(0.16)	0.33	-	-	0.41	2	SD29(新)	○	64	下面		
18	1	SP61	B-10H6F17-22	古代Ⅱc3	-	0.30	0.21	0.10	0.12	0.18	西向き	平野状	-	1		○		下面		
18-22	1	SP62	B-10H4A8	古代Ⅱc3	-	0.35	0.25	0.21	0.13	0.18	西向き	崖状	0.48	2	SD80(旧)	○		下面		
13	1	SP87	B-10H4B16	古代Ⅱc2	-	(0.52)	(0.35)	(0.35)	0.11	-	-	-	0.78	1		○		下面		
18	1	SP94	B-10H4B18-19	古代Ⅱc3	-	(0.46)	(0.21)	(0.21)	0.16	-	-	-	0.70	1		○		下面		
13	1	SP95	B-10H4B25	古代Ⅱc2	-	(0.60)	(0.40)	(0.40)	0.20	-	-	-	0.69	2	SD3(旧)	○		上面		
13-16	1	SP99	B-10H5C14-15	古代Ⅱc2	-	(0.25)	(0.15)	(0.15)	0.32	-	-	-	0.66	1	SD21(旧)	○		上面		
18	1	SP101	B-10H5D17	古代Ⅱc3	-	(0.36)	(0.16)	(0.16)	0.21	-	-	-	0.64	1		○		下面		

図面No.	写真図面No.	区	通称	グリッド	年代	構造面	主軸方向	規模 (m)				形態		底面積(m ²)	積上	切り合い関係	通称 の 名称	建物関係 No.	備考		
								上層		下層		深さ	平面							背面	
								長短	短長	長短	短長										
18	1	SP 104	B-10H 7G7-8	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.403	-	0.183	0.08	-	覆状	0.48	1			下層			
18	1	SP 105	B-10H 7H16	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.581	-	0.193	0.14	-	覆状	0.45	1			下層			
13	1	SP 107	B-10H 6D22	古代 Ⅴc2	-	-	-	0.253	-	0.053	0.23	-	覆斗状	0.72	2			上層			
13	1	SP 108	B-10H 5D17-22	古代 Ⅴc2	-	-	-	0.403	-	0.103	0.09	-	覆状	0.83	1			上層			
13	1	SP 109	B-10H 5D23-24	古代 Ⅴc2	-	-	-	0.453	-	0.103	0.13	-	覆状	0.93	1			上層			
18-20	1	SP 122	B-10H 4A8	古代 Ⅴc2	-	-	-	0.553	-	0.203	0.17	-	覆状	0.72	1			上層			
13-16	1	SP 123	B-10H 5C15	古代 Ⅴc2	-	-	-	0.413	-	0.103	0.16	-	V字状	0.80	1			下層			
23-24	14	SK 24	B-10G 3J7-18	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.903	-	0.403	0.33	-	覆状	0.46	2	SP34 (旧) SD10 (新)		下層			
23-24	14	SK 20	B-10G 3J2	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.613	-	0.223	0.16	-	覆斗状	0.52	3	SD36 (旧)		下層			
23-24	14-15	4	SD11	B-10G 3H25, 3Z21, 4H5, 4J1	古代 Ⅴc2	N 57° W	-	-	-	-	0.34	-	覆状	0.58	3			上層			
23-24	14-15	4	SD2	B-10G 3H25, 3Z21, 4H5	古代 Ⅴc2	N 57° W	-	-	-	-	0.36	0.39	-	覆斗状	0.54	3			上層		
23-24	14-15	4	SD3	B-10G 3H25, 3Z21-22	古代 Ⅴc2	N 55° W	-	-	-	-	0.74	-	0.62	0.34	-	0.60	2	SD7 (新)		上層	
23-24	14-15	4	SD5	B-10G 3J11-12-16-17	古代 Ⅴc2	N 60° W	-	-	-	-	0.56	-	0.14	0.16	-	V字状	0.86	1		上層	
23-24	14-15	4	SD7	B-10G 3J16-21-22	古代 Ⅴc2	N 74° W	-	-	-	-	0.52	-	0.31	0.39	-	覆斗状	0.54	3	SD3 (旧) SK4 (新)		上層
23-24	14-15	4	SD8	B-10G 3J16-17-22	古代 Ⅴc3	N 55° W	-	-	-	-	0.43	-	0.21	0.22	-	-	0.68	1	SP16-22-29 (旧) SK4 (新)		下層
23-24	14-15	4	SD9	B-10G 3J16-17	古代 Ⅴc3	N 55° W	-	-	-	-	0.39	-	0.23	0.21	-	V字状	0.69	1	SP14-17 (旧)		下層
23-24	14-15	4	SD10	B-10G 3J11-12-17-18	古代 Ⅴc3	N 73° W	-	-	-	-	0.33	-	0.19	0.26	-	覆状	0.70	2	SK24, SP22-28 (旧) SP11-12 (新)		下層
23-24	14	4	SD26	B-10G 3J7-12-13	古代 Ⅴc3	N 60° W	-	-	-	-	0.78	-	0.30	0.33	-	-	0.50	2	SK30, SP31 (新)		下層
23-24	4	SP 11	B-10G 3J12-17	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.68	0.08	0.30	0.14	0.15	格内階	覆斗状	0.53	2	SD10 (旧)		下層		
23-24	4	SP 12	B-10G 3J12-17	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.37	0.34	0.26	0.16	0.21	内階	覆斗状	0.42	2	SD10, SP23 (旧)		下層		
23-24	4	SP 13	B-10G 3J13-18	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.32	0.32	0.11	0.06	0.25	内階	V字状	0.45	3			下層		
23-24	4	SP 14	B-10G 3J16-17	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.33	0.09	0.08	0.14	-	覆状	0.50	1	SD9, SP16 (新)		下層			
23-24	4	SP 15	B-10G 3J21	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.30	0.27	0.11	0.11	0.21	内階	覆状	0.39	2			下層		
23-24	4	SP 16	B-10G 3J16-17	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.49	0.41	0.23	0.21	0.08	内階	覆状	0.56	1	SP14 (旧) SD8 (新)		下層		
23-24	4	SP 17	B-10G 3J16	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.41	0.23	0.30	0.13	0.27	内階	V字状	0.55	2	SD9 (新)		下層		
23-24	4	SP 18	B-10G 3J11	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.37	0.28	0.18	0.10	0.19	格内階	V字状	0.4	2			下層		
23-24	4	SP 19	B-10G 3J12	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.27	0.28	0.13	0.10	0.27	内階	覆斗状	0.38	2			下層		
23	4	SP 20	B-10G 3J12	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.33	0.27	0.12	0.08	0.16	格内階	覆斗状	0.50	2			下層		
23-24	4	SP 21	B-10 3J11-12	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.33	0.30	0.10	0.06	0.23	内階	V字状	0.31	1			下層		
23-24	4	SP 22	B-10G 3J16	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.53	0.36	0.26	0.19	0.26	格内階	V字状	0.30	1	SD8 (新)		下層		
23-24	4	SP 23	B-10G 3J12-16-17	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.38	-	0.16	0.21	-	V字状	0.38	2	SD10, SP12 (新)		下層			
23-24	4	SP 25	B-10G 3J8	古代 Ⅴc3	-	-	-	0.23	0.23	0.09	0.06	0.11	内階	覆斗状	0.34	1			下層		
23-24	4	SP 27	B-10G 3J16	古代 Ⅴc2	-	-	-	0.46	-	0.24	0.13	-	覆斗状	0.79	1			上層			
23-24	14	4	SP 28	B-10G 3J11	古代 Ⅴc3	-	-	0.23	-	0.06	0.16	-	覆状	0.58	1	SD10 (新)		下層			
23-24	14	4	SP 29	B-10G 3J16	古代 Ⅴc3	-	-	0.26	-	0.10	0.23	-	覆状	0.52	2	SD8 (新)		下層			
23-24	14	4	SP 31	B-10G 3J7-12	古代 Ⅴc3	-	-	0.30	-	0.08	0.39	-	V字状	0.43	2	SD36 (旧)		下層			
23-24	4	SP 32	B-10G 3J18	古代 Ⅴc2	-	-	-	0.40	-	0.15	0.36	-	V字状	0.57	2	SK24 (旧)		上層			
23-24	4	SP 33	B-10G 3J17-18	古代 Ⅴc2	-	-	-	0.40	-	0.25	0.18	-	覆状	0.72	1			上層			
23-24	4	SP 34	B-10G 3J17	古代 Ⅴc3	-	-	-	-	-	0.19	0.23	-	覆斗状	0.43	2			下層			
25	15	5	SK 1	B-10G 6H4-5-10, 5H1-6	古代 Ⅴa	-	-	4.45	-	4.25	0.09	-	-	0.60	1			下層			
29	18	2	SK 25	D-38-4B4-9-9	古代 Ⅴa1	-	-	1.32	-	0.42	0.75	-	覆斗状	0.02	8			上層			
29	18	2	SK 13	D-38-4C5, 9H11-6-7-12	古代 Ⅴc3	-	-	3.44	-	0.13	0.34	-	覆状	0.63	8	SD10, SP50 (旧)		上層			
29-30	18	2	SD11	D-38-4C24, 5C4-5-9-10-15, 5H6-11	古代 Ⅴa1	N 6° E	-	-	2.32	-	1.06	0.73	-	覆斗状	0.27	11			上層		
29-30	18	2	SD13	D-38-4C17-18-22-23	古代 Ⅴa1	N 63° E	-	-	1.09	-	0.52	0.32	-	覆状	0.37	6			上層		
29-30	18-21	2	SD4	D-38-6D13-14-18-19	古代 Ⅴa2	N 62° E	-	-	1.34	-	0.39	0.27	-	覆状	0.13	3	SD10 (旧)		上層		
29-30	19	2	SD7	D-38-4C11-12-16-17	古代 Ⅴa1	N 23° E	(1.75)	1.38	(1.72)	0.74	0.41	-	覆斗状	0.59	6			上層			
29	18	2	SD10	D-38-6D13-18-19-23-25, 9C4-5, 9H11-6-7-12	古代 Ⅴa2	-	-	1.44	(1.81)	-	-	0.36	-	覆状	0.19	2	SK13-SD4 (新)		上層		
29-30	19	2	SD11	D-38-6H12-13	古代 Ⅴa2	N 52° E	-	-	0.30	-	0.13	0.28	-	V字状	0.27	2			上層		
29-30	19-21	2	SD16	D-38-6D12-13	古代 Ⅴa1	N 52° E	-	-	0.91	-	0.49	0.21	-	覆状	0.36	1			上層		
29-30	19	2	SD26	D-38-4C23-24, 5C3	古代 Ⅴa1	N 29° E	-	-	0.66	-	0.34	0.20	-	覆状	0.49	3			上層		
29-30	19	2	SD29	D-38-4H5-10, 4C6	古代 Ⅴa1	N 52° E	-	-	1.63	-	0.31	0.38	-	覆状	0.39	3	SP14-23 (旧)		上層		

図面No.	写真図面No.	区	通称	グラッド	年代	構造	主軸方向	幅 (m)				形態			底面積 (㎡)	竣工	切り欠き・高低	建物の 名称	建物区分 No.	備考		
								上層		下層		深さ	平面	断面								
								長	短	長	短											
29-30	2	SD31	D-38-796	古代	瓦葺	N-44	E	-	0.50	-	0.26	0.11	-	葺状	0.57	1						
29-31	19	2	SX2	D-38-484-5	古代	瓦葺	-	-	(1.23)	-	(0.67)	(0.50)	0.47	-	葺状	0.33	3	SX37 (旧)	○	48		
29-31	19	2	SX37	D-38-4C4	古代	瓦葺	-	-	-	-	-	-	0.34	-	-	0.49	6					
29-31	20	2	SX42	D-38-6F19-24-25, T64-5	古代	瓦葺	-	-	(4.11)	-	(0.11)	0.39	-	台形状	0.37	5			○	45-64		
29-31	20	2	SX44	D-38-4C6-11	古代	瓦葺	-	-	(1.33)	-	(0.10)	0.33	-	葺状	0.46	3	SP43 (新)					
29	2	SP14	D-38-4B10	古代	瓦葺	-	-	(0.19)	(0.16)	(0.10)	(0.07)	0.17	円形	葺状	0.22	1	SP29 (新)			○		
29-31	20	2	SP18	D-38-8F5	古代	瓦葺	N-60	E	0.52	0.50	0.10	0.07	0.32	円形	V字状	0.15	3			○		
29-31	20	2	SP20	D-38-4B4	古代	瓦葺	-	-	(0.77)	-	(0.10)	0.60	-	扇斗葺	0.15	8				○		
29	2	SP23	D-38-4C5	古代	瓦葺	-	-	(0.19)	(0.05)	(0.16)	(0.04)	0.13	円形	葺状	0.26	2	SD29 (新)			○		
29-31	20	2	SP26	D-38-4C11	古代	瓦葺	N-64	W	0.56	0.48	0.13	0.10	0.60	楕円形	扇斗葺	0.17	6				○	
29-31	21	2	SP28	D-38-4C11	古代	瓦葺	-	-	0.22	0.21	0.07	0.06	0.19	円形	葺状	0.27	3				○	
29-30	21	2	SP41	D-38-4C17	古代	瓦葺	-	-	(0.59)	-	(0.09)	0.44	-	U字状	0.27	4				○		
29-31	20	2	SP43	D-38-4C11	古代	瓦葺	-	-	(0.15)	-	(0.02)	0.24	-	U字状	0.56	3	SX44 (旧)				○	
29-31	2	SP47	D-38-9B13	古代	瓦葺	2	-	-	(0.34)	-	(0.09)	0.10	-	葺状	0.45	1					○	
29	18	2	SP50	D-38-9B67-7-12	古代	瓦葺	-	-	(0.41)	-	(0.11)	0.20	-	葺状	0.12	1	SK13 (新)				○	
35	3	SK1	D-42-3B25-25, 3C16-21	古代	瓦葺	-	-	-	-	-	-	0.17	-	葺状	0.35	1	SD3 (新)				○	
35	24	3	SK2	D-42-3B15-20	古代	瓦葺	-	-	(1.37)	-	-	0.63	0.33	-	台形状	0.05	4				○	
35	3	SK20	D-42-2A19	古代	瓦葺	-	-	-	(1.17)	-	(0.82)	0.15	-	葺状	0.24	3					○	
35	24	3	SK24	D-42-3B20	古代	瓦葺	N-66	W	0.67	0.60	0.25	0.16	0.20	円形	葺状	0.11	4				○	
35	3	SK26	D-42-5B16-21	古代	瓦葺	-	-	(0.56)	-	(0.32)	0.17	-	-	葺状	0.22	1					○	
35	3	SK37	D-42-1J19	古代	瓦葺	-	-	(0.99)	-	(0.56)	0.52	-	-	扇斗葺	0.22	3	SX12 (旧)				○	
35	3	SD3	D-42-3B20, 3C16	古代	瓦葺	N-48	E	-	0.25	-	0.05	0.05	-	葺状	0.33	1	SK4 (旧)				○	
35	24	3	SD7	D-42-3C22, 4C1-2	古代	瓦葺	N-49	E	-	0.29	-	0.17	0.20	-	台形状	0.24	2				○	
35	3	SD9	D-42-4C20, 4D16	古代	瓦葺	N-60	E	-	0.58	-	0.33	0.12	-	葺状	0.31	2					○	
35	3	SD11	D-42-1J19	古代	瓦葺	N-64	E	0.85	0.34	0.50	0.13	0.12	-	楕円形	葺状	0.26	1				○	
35	25	3	SD15	D-42-2A25, 2B21	古代	瓦葺	N-70	E	-	0.17	-	0.07	0.07	-	葺状	0.24	1	SD41 (旧)				○
35	25	3	SD18	D-42-5D37-8	古代	瓦葺	N-70	E	-	0.78	-	0.56	0.21	-	葺状	0.29	1					○
35	3	SD19	D-42-5D8-9-13-14	古代	瓦葺	N-65	E	-	0.70	-	0.43	0.20	-	葺状	0.28	1	SD40 (旧)				○	
35	25	3	SD21	D-42-2A1-2-7-8-13	古代	瓦葺	N-45	W	-	0.42	-	(0.16)	0.25	-	葺状	0.14	3					○
35-36	3	SD22	D-42-5D14-15-19-20	古代	瓦葺	N-48	E	-	0.94	-	0.84	0.17	-	葺状	0.34	1					○	
35-36	3	SD23	D-42-5D20, 5E16	古代	瓦葺	N-68	E	-	0.52	-	0.41	0.11	-	葺状	0.35	1					○	
35-36	25-26	3	SD33	D-42-4C2-3-7-8	古代	瓦葺	N-66	E	-	0.44	-	0.22	0.24	-	葺状	0.18	1					○
35-36	26	2	SD35	D-42-4D21	古代	瓦葺	N-63	E	-	0.31	-	0.14	0.11	-	葺状	0.27	1					○
35-36	26	3	SD40	D-42-5A28-9-13-14	古代	瓦葺	-	-	-	-	-	-	0.73	-	扇斗葺	0.28	4	SD19 (新)				○
35-36	26	3	SD41	D-42-2A25, 2B21	古代	瓦葺	-	-	-	-	-	-	0.23	-	U字状	0.17	3	SD15 (新)				○
35	3	SX12	D-42-1J19	古代	瓦葺	-	-	-	-	-	-	-	0.14	-	葺状	0.23	1	SX37 (新)				○
35-36	3	SX27	D-42-1J25, 4J-1A21	古代	瓦葺	N-76	E	-	0.75	-	0.33	0.28	-	葺状	0.15	2					○	
35-36	3	SP2	D-42-3C21	古代	瓦葺	-	-	(0.20)	-	(0.09)	0.13	-	-	葺状	0.25	1					○	
35-36	3	SP8	D-42-2A2	古代	瓦葺	-	-	(0.24)	(0.18)	0.05	0.05	0.20	-	V字状	0.16	2					○	
35-36	25-26	3	SP13	D-42-2B21	古代	瓦葺	-	-	(0.20)	-	(0.09)	0.10	-	葺状	0.26	1					○	
35-36	3	SP14	D-42-2B21	古代	瓦葺	-	-	0.32	0.26	0.21	0.16	0.08	円形	葺状	0.27	1					○	
35-36	3	SP16	D-42-3A20-25	古代	瓦葺	-	-	0.39	0.17	0.09	0.07	0.74	円形	V字状	0.34	1					○	
35-36	3	SP17	D-42-2A25	古代	瓦葺	-	-	0.21	0.18	0.14	0.13	0.07	円形	葺状	0.31	1					○	
35-36	3	SP25	D-42-3C21	古代	瓦葺	-	-	0.60	0.20	0.34	(0.09)	0.06	楕円形	葺状	0.32	1					○	
35-36	3	SP26	D-42-1J20	古代	瓦葺	-	-	(0.47)	(0.39)	(0.33)	(0.28)	0.10	-	葺状	0.30	1					○	
35-36	3	SP29	D-42-1J13-14	古代	瓦葺	-	-	(0.41)	-	(0.16)	0.40	-	-	U字状	0.04	1					○	
35-36	26	3	SP34	D-42-4C8	古代	瓦葺	-	-	-	-	-	-	0.13	-	葺状	0.27	1	SP44 (旧)				○
35-36	3	SP42	D-42-2A14-19	古代	瓦葺	-	-	(0.64)	-	(0.53)	0.11	-	-	葺状	0.27	3					○	
35-36	3	SP43	D-42-1J13	古代	瓦葺	-	-	(0.46)	-	(0.20)	0.20	-	-	台形状	0.26	1					○	
35-36	25-26	3	SP44	D-42-4C8	古代	瓦葺	-	-	(0.41)	-	(0.08)	0.44	-	V字状	-0.01	2	SP34 (新)				○	
41	1006	SD3	D-38-9B17-18-22-24, 1004	古代	瓦葺	N-67	W	-	0.47	-	0.34	0.14	-	-	0.47	1	SD3 (不明)				○	

図面No.	写真図面No.	区	通稱	グリッド	時代	遺跡名	主軸方向	規模 (m)				形態			底面沖積 (m)	積土	切り合い関係	遺物の 種類	遺物図面 No.	備考
								上層		下層		深さ	平面	断面						
								長	短	長	短									
41	30	第6R	SD 3	D-38-0917-22	古代	Ⅴa1	N72°W	--	0.46	--	0.24	0.14	--	竪状	0.47	1	SD12 (不明)	○		
41	30	第6R	SD 9	D-38-0920、6C16	古代	Ⅴa1	N66°E	--	0.99	--	0.22	0.21	--	竪状	0.58	1		○		
41	30	第6R	SD 15	D-38-5A15-20、5B16	古代	Ⅴa1	N32°E	--	0.72	--	0.20	0.29	--	竪状	0.54	2	SK11 (III)	○		
41	30	第6R	SD 18	D-38-5A20、5B16-21	古代	Ⅴa1	N91°E	--	0.94	--	0.66	0.27	--	台形状	0.52	1		○		
41	第6R	SD 19	D-38-0921-22	古代	Ⅴa1	N70°E	--	0.34	--	0.17	0.17	--	台形状	0.59	2	SK11 (III)	○			
41	第6R	SD 20	D-38-0921-3	古代	Ⅴa1	--	--	--	--	--	0.26	--	--	竪状	0.48	2	SK11 (III)	○		
41	30	第6R	SK 11	D-38-5A、5B、6B	古代	Ⅴa1	--	--	--	--	0.30	--	--	竪状	0.49	2	SD15-18-19-20 (新)	○	51-64-66	
41	第6R	SK 12	D-38-4114-15-20-25	古代	Ⅴa1	--	--	--	--	--	0.26	--	--	--	0.47	2		○		
43	第10R	SK 1	(B-63-11016)	古代	Ⅴa	N17°W	(0.77)	(0.61)	0.36	0.24	0.31	楕円形	竪状	0.77	1		○	60	1層組基	

下層遺構計測表

図面No.	写真図面No.	区	通稱	グリッド	時代	遺跡名	主軸方向	規模 (m)				形態			底面沖積 (m)	積土	切り合い関係	遺物の 種類	遺物図面 No.	備考
								上層		下層		深さ	平面	断面						
								長	短	長	短									
32	21	2	SD 9	D-38-7F13-17-18	古代	Ⅴb	N42°E	--	0.31	--	0.14	0.12	--	竪状	0.28	1		○		
32	21	2	SD 15	D-38-6C13-18	古代	Ⅴb	N45°E	--	0.37	--	0.14	0.08	--	竪状	0.37	1		○		
32	2	SD 19	D-38-0920-11	古代	Ⅴb	N45°E	--	0.56	--	0.38	0.18	--	--	竪状	0.27	1		○		
32	21	2	SD 28	D-38-7F18	古代	Ⅴb	N41°E	--	0.36	--	0.20	0.13	--	台形状	0.28	1		○		
32	2	SP 21	D-31-0918	古代	Ⅴb	--	0.22	0.20	0.10	0.08	--	円形	--	--	--	--		○		
32	2	SP 24	D-38-0911	古代	Ⅴb	--	(0.44)	(0.28)	(0.28)	(0.18)	--	--	--	--	--	--	--		○	
32	2	SP 35	D-38-0919-24	古代	Ⅴb	--	--	0.26	--	0.16	--	--	--	--	--	--	--		○	
32	2	SP 48	D-38-9C19-24	古代	Ⅴb	--	--	0.82	--	0.20	--	0.23	--	竪状	0.20	1		○		
32	17	2	SP 51	D-38-7F11	古代	Ⅴb	--	--	--	--	0.34	--	--	竪斗状	0.10	3		○	68	
32	21	2	SP 52	D-38-6C24	古代	Ⅴb	--	0.30	0.19	--	--	0.27	楕円形	U字状	-0.02	1		○	68	
32	21	2	SP 53	D-38-0916	古代	Ⅴb	--	0.27	0.16	--	--	0.15	楕円形	竪斗状	-0.03	1		○	68	
37	3	SK 31	D-42-3B20	古代	Ⅴb	N83°W	0.61	0.47	0.49	0.24	0.21	楕円形	竪状	-0.01	1		○			
37	27	3	SK 38	D-40-1220-25、42-1A21	古代	Ⅴb	N46°W	1.53	0.80	1.15	0.59	0.21	--	竪状	0.05	2		○		
37	26	3	SK 39	D-42-3B14-15-19-20	古代	Ⅴb	--	--	(1.02)	--	0.83	0.17	--	竪状	0.06	1		○	50	
37	26-27	3	SK 39	D-42-0D2	古代	Ⅴb	N18°W	1.29	0.70	1.07	0.61	0.13	--	竪状	0.13	1		○	50	
37	3	SP 28	D-42-1J13	古代	Ⅴb	--	--	0.47	--	0.12	--	0.28	--	不安形	0.03	4		○		
37	27	3	SP 55	D-42-4C3-8	古代	Ⅴb	--	(0.30)	0.22	--	--	0.47	円形	V字状	-0.13	1		○		
37	27	3	SP 56	D-42-4C2	古代	Ⅴb	--	0.28	0.24	--	--	0.48	円形	--	-0.25	1		○	68	
37	27	3	SP 57	D-42-2A7	古代	Ⅴb	--	0.26	0.24	--	--	0.16	円形	竪状	0.00	1		○	68	
37	27	3	SP 58	D-42-2A1	古代	Ⅴb	--	0.20	0.19	--	--	0.32	円形	U字状	-0.14	1		○	68	
37	27	3	SP 59	D-42-1A21	古代	Ⅴb	--	0.24	0.22	--	--	0.21	円形	--	-0.08	1		○	68	
37	27	3	SP 60	D-40-1220-25	古代	Ⅴb	--	0.30	0.27	--	--	0.05	円形	竪状	0.20	1		○	68	
37	27	3	SP 61	D-42-1J18	古代	Ⅴb	--	0.20	0.18	--	--	0.18	円形	--	-0.10	1		○	68	
42	30	第6R	SK 5	D-38-0922	古代	Ⅴb	N58°W	1.07	--	0.85	0.44	0.11	--	竪状	0.39	1		○		
42	31	第6R	SD 4	D-38-0911-12-16-17	古代	Ⅴb	--	--	--	--	--	0.15	--	--	0.34	1		○	64	
42	31	第6R	SD 6	D-38-0926 ~ 10-14-15-20、8E11	古代	Ⅴb	N61°E	--	3.58	--	0.88	0.07	--	竪状	0.45	4		○	52-64、65-66	
42	31	第6R	SD 10	D-38-0918-9	古代	Ⅴb	N70°E	--	0.47	--	0.13	0.10	--	竪状	0.59	1		○		
42	31	第6R	SD 13	D-38-423-8-9-13-14	古代	Ⅴb	N8°E	--	--	--	--	0.22	--	竪状	0.52	2		○		
42	31	第6R	SD 14	D-38-4A16-21	古代	Ⅴb	N43°E	--	1.08	--	0.30	0.23	--	竪状	0.39	1		○		
42	第6R	SD 16	D-38-4J14-15	古代	Ⅴb	N77°E	--	0.51	--	0.24	0.40	--	--	--	0.41	1	SD17-21 (不明)	○		
42	31	第6R	SD 17	D-38-4205-26、38-4A21	古代	Ⅴb	N17°W	--	0.50	--	0.44	0.16	--	台形状	0.52	2	SD16-21 (不明)	○		
42	第6R	SD 21	D-38-4J15-19-20	古代	Ⅴb	N51°E	--	0.87	--	0.53	0.09	--	--	竪状	0.40	1	SD16-17 (不明)	○	52	

別表2 土器観察表

凡 例

1. 出土位置 調査区（調査次数）、出土位置、通称名、グッドを記した。
2. 接合箇所 縦線通称以外の部分が含まれているものは、その出土位置を記した。
3. 面 積 量Vで記した。
4. 底 面 口徑・底径・高さを示す。（ ）中の数字は、残存率の低いものである。
5. 胎 土 量Vに記した。
6. 色 調「新編 標準土色」(小倉・竹原1967)の記号を記した。

7. 柄・文 磨化・磨化焼成・還元焼成の区別を記した。
8. 製作法・文様等 (1)口縁部・(2)肩部・(3)体部・(4)底面・(5)底脚部・(6)口縁部・(7)底面・(8)全体・(9)内面・(10)外面・(11)口縁部・(12)底面・(13)全体・(14)内面・(15)外面・(16)底面を、部位が記されていないものは、通称部を示す。
9. 遺 存 率 分母を36とし分子を算出で示した。
10. 材料物・使用材料等 二次的な材料について確認できるものを記した。部位については「製作法・文様等」と同じ。
11. レプリカNo. 第1章第7節で分析したレプリカ作成Noを記した。

図版 No.	年号 No.	発見 No.	出土位置		形状	種類	器種			胎土 量V	胎土 色調	底面	製作法・文様等		遺存率	材料物等		備考	レプリカ No.					
			区	グッド			器種名	分製	口徑				底径	胎高		胎土	内面			外面	口縁部	底面	全体	内面
44	34-45	1	IK	S01	B-10G-3225	5	土器類	無白粉	黒B	12.6	5.2	4.2	1b	内磨 Kc (10YR5/2)	磨化	口→底；口口口口口	口→底；口口口口口	赤切り	右	24/36	36/36	29/36		
44	45	2	IK	S01	B-10G-3225	1	底面部	無白粉	黒B	8.0			B	Kc (10YR7/1)	還元	口口口口口	口口口口口	ヘタ取り	右	14/36				
44	45	3	IK	S01	B-10G-3235	1	底面部	赤・黒粉		12.1			D	Kc (10Y4/1)	還元	口口口口口・子	口口口口口			2/36				
44	45	4	IK	S01	B-10G-3235	3	底面部	黄	A2	25.0			D	Kc (10Y6/7.1)	還元	口口口口口	口口口口口			5/36				
44	45	5	IK	S02	B-10H-4A2	1	底面部	磨化					A	Kc (10Y34/1)	還元	あて貝殻		タタキメ						
44	45	6	IK	S06	B-10H-5C8	1	底面土部	無白粉		5.0			Bc	Kc (10YR7/2)	磨化	体→底；ミガキ 黒色焼成	体→底；口口口口口	赤切り・子	(左)	10/36				
44	45	7	IK	S054	B-10H-0H3-4分	1,2	底面部	黄					A	Kc (10Y6/1)	還元	あて貝殻	タタキメ							
44	45	8	IK	S857	B-10H-5C7	6	土器類	黒		(32.4)			1c	Kc (10YR6/4)	磨化	口口口口口・体 タタキメ	口口口口口・体 タタキメ			2/36			スス	
44	45	9	IK	S857	B-10H-5C2	4	底面土部	黒		(18.2)			1a	Kc (10YR2/1)	磨化	ミガキ・黒色焼成	ミガキ・黒色焼成			2/36				
44	45	10	IK	S857	B-10H-5C7	6	底面土部	神蓋		10.8			2b	Kc (N2/0)	磨化	口→体；ミガキ 黒色焼成	口→体；ミガキ 黒色焼成			3/36				
44	42-45	11	IK	S857	B-10H-5C2-7	1,4,5	底面部	無白粉	黒A	11.8	7.2	3.1	A	Kc (2.5Y/1)	還元	口→底；口口口口口	口→底；口口口口口	ヘタ取り	右	11/36	20/36	17/36	精査	
44	45	12	IK	S857	B-10H-5C1	5	底面部	無白粉	黒B	12.8	7.5	3.6	A	Kc (5Y/1)	磨化	口→底；口口口口口	口→底；口口口口口	ヘタ取り	左	2/36	17/36	9/36		
44	42-45	13	IK	S857	B-10H-5C7	4	底面部	神蓋	黒B	16.2	7.4	3.4	D	Kc (N7/0)	還元	口→体；口口口口口	口→体；口口口口口		右	10/36	31/36	13/36	精査	
44	45	14	IK	S820	B-10H-4B11	1	土器類	赤		(15.0)			Bc	Kc (10YR8/2)	磨化	口；ミガキ	口；ナデ			2/36			赤粉	
44	45	15	IK	S853	B-10H-5D24	1	底面部	黄					A	Kc (N4/1)	還元	あて貝殻	タタキメ							
44	45	16	IK	S05	B-10H-5C2	1	底面部	無白粉		9.6			A	Kc (N6)	還元	体→底；口口口口口	体→底；口口口口口	ヘタ取り	右	19/36				黒粉
44	45	17	IK	S05	B-10H-5C2	1	底面部	神蓋	黒B	(14.0)			B	Kc (N6)	還元	口；口口口口口	口；口口口口口・天 ツクリ			3/36				黒粉
44	45	18	IK	S010	B-10H-4D11	1	土器類	無白粉		6.1			Bc	Kc (10YR7/2)	還元	体→底；口口口口口	体→底；口口口口口	赤切り	右	36/36				スス
45	34	19	IK	S820	B-10H-4A3-15 4B11-15	2,4,15	土器類	長狭	A1	23.0			2b	Kc (10YR8/2)	磨化	口；ハケメ・体；ハ メ→ナデ	口；ナデ・体；ハ メ→ナデ			13/36				体；黒色付着 物；スス
45	45	20	IK	S011	B-10H-4A5	5	底面部	黄	A1	(52.0)			A	Kc (2.5Y/1)	還元	口；口口口口口	口；口口口口口	底 スス		5/36				
45	45	21	IK	S011	B-10H-4A1-8	5,8	底面部	黄	B	Kc (3Y5/1)			B	Kc (3Y5/1)	還元	あて貝殻	タタキメ							
45	34	22	IK	S011	B-10H-4A10-18 4B12	1,4,3,18	底面部	黄	A	(2.5Y/1)			A	Kc (2.5Y/1)	還元	体→あて貝殻	体→タタキメ→ナ デ							
45	45	23	IK	S011	B-10H-4A9	3	底面部	黄	A				A	Kc (10YR5/1)	還元	あて貝殻	タタキメ→ナ デ							
45	46	24	IK	S012	B-10H-5C1	1	土器類	小狭	B1	15.4			1b	Kc (2.5YR/2)	磨化	口→体；口口口口口	口→体；口口口口口			7/36				口→底；炭化 物
45	34-45	25	IK	S012	B-10H-4B1-6 Kc1-5c1	1,1,6	底面部	黄	B2	19.0			1b	Kc (10Y4/1)	還元	口；口口口口口・体 あて貝殻	口；口口口口口・体 ミガキ			8/36				
45	34-46	26	IK	S015	B-10H-4B7	1,1b	土器類	無白粉	黒A	12.2	5.5	3.8	1c	Kc (10YR7/2)	還元	口→底；口口口口口	口→底；口口口口口	赤切り	右	18/36	36/36	24/36	底；炭化物	口→底；スス
45	46	27	IK	S015	B-10H-4B7	3	土器類	黄		(33.8)			Bc	Kc (2.5YR/4)	還元	口；口口口口口・ハ ケメ	口；口口口口口・体 ケメ			1/36				
45	34-46	28	IK	S018	B-10H-4B11-16	2	土器類	鉢	A	15.1	9.5	4.9	2b	Kc (10YR7/2)	還元	口→底；口口口口口	口→体；口口口口口 体・タタキ	ヘタ取り・タタ キ	右	18/36	23/36	18/36		
46	46	29	IK	S024	B-10H-5D17-18 22	1,18,18	土器類	黄	Aa	10.0			2b	Kc (10YR6/3)	磨化	ハケメ	ハケメ→タタリ	タタリ			9/36			

国産 No.	外国産 No.	品名	加工位置		部位	種類	仕様		質量 (cm)			動 寸分 割	色 澤	組成	製作法・支那等			流通 年	付着物等		備考	シブ No.			
			区	産地名			ブランド	産種名	分類	口徑	底径				筒高	内面	外面		底面	形状 寸法			底面	全体	内面
46-42	46-30	1K	S029	B-10H-4D24	2	上製部	焼	A	9.6			1b	ニホ-真鍮 (10Y86/2)	焼化ナデ	ハナメ	本製部+ハナメ、 中位置内付		20/36							
46-40	31	1K	S033	B-10H-4E1	1	底製部	棒蓋					D	真鍮 (2.5Y7/1)	焼化	体:ロクロナデ 天:ケナリ、体:ロ クロナデ			底面							
46-42	46-32	1K	S030	B-10H-5D24	1	上製部	焼	Ab	12.4			1a	真鍮 (2.5Y7/2)	焼化	底:ハナメ+ナデ 底:ハナメ+ナデ	本製部		7/36				161			
46-40	33	1K	S030	B-10H-4D24	1	上製部	把手付部					1c	ニホ-真 (2.5Y85/2)	焼化	ナデ										
46-41	46-34	1K	S033	B-10H-4E1-6	1	底製部	有内付	JA	17.6	8.9		D	真鍮 (10Y86/1)	焼化	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36		炭化物 付着	口:スス 底:スス	取用難			
46-46	35	1K	S033	B-10H-4E5	2	底製部	焼	R2	22.0			D	真鍮 (N6/7)	焼化	口:ロクロナデ、体: めて真鍮	口:ロクロナデ、体: まきキ		9/36							
46-46	36	1K	S030	B-10H-4D24	1	底製部	焼					A	真 (2.5Y7/1)	焼化	めて真鍮	まきキ									
46-46	37	1K	S035- 39	B-10H-4E20- 3922	2	底製部	有内付	BB	13.8	9.2	4.2	D	真鍮 (2.5Y6/1)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	ヘタ切り	口:1/36	12/36	8/36					
46-40	38	1K	S015- 11-13.6P22	B-10H-4E1-2- 39	2	上製部	片蓋	R2	19.6			1c	ニホ-真鍮 (10Y87/3)	焼化	口:ロクロナデ、体: ハナメ+ナデ	口:ロクロナデ、体: ハナメ+ナデ		5/36							
46-41	46-39	1K	S039	B-10H-4E22	2	底製部	無内付					D	真鍮 (2.5Y6/2)	焼化	ロクロナデ	ロクロナデ					巻着(口)				
46-46	40	1K	S042	B-10H-7G13	1	上製部	焼	AA	21.0			1c	ニホ-真鍮 (10Y87/3)	焼化	口:ハナメ、体: ハナメ	口:ナデ、体: ハナメ		5/36					126		
46-46	41	1K	S042	B-10H-7G14	1	底製部	蓋+取蓋					D	真鍮(N7/0)	焼化	ロクロナデ	ロクロナデ									
46-34	49	42	1K	SX45	B-10H-7H23	1	底製部	棒蓋	BD	13.5	7.7	1.4	A	真鍮 (N6/0)	焼化	口-体:ロクロナデ	口-体:ロクロナデ		4/36	7.7/36	35/36			底面あり	
46-34	46	43	1K	SX05	B-10H-7H22	1	上製部	無内付	A	10.8	丸底	4.1	1b	ニホ-真鍮 (10Y87/3)	焼化	口-底:ナデ	口-底:ナデ		30/36	36/36	30/36				
46-44	46	44	1K	SX05	B-10H-7H22	1	上製部	焼	A				1b	ニホ-真鍮 (10Y87/2)	焼化	ハナメ+ナデ	ハナメ							スス	
46-46	45	1K	S04	B-10H-4B19- 4C21	1	底製部	有内付	BB	12.4	7.0	3.8	A	真鍮 (10Y85/2)	焼化	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	9/36	6/36					
46-46	46	46	46	SK4	B-10G-2117-22	1.2	上製部	無内付	JA	16.0	8.8	4.9	1c	真鍮 (10Y88/3)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	36/36	20/36				
46-34	46	47	46	SK4	B-10G-2116-21	1	上製部	無内付	BC	12.5	5.4	4.3	1c	真鍮 (2.5Y7/6)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	36/36	34/36				
46-46	46	48	46	SK4	B-10G-2116	1	上製部	無内付	B	16.0			1c	ニホ-真 (2.5Y7/4)	焼化	口-体:ロクロナデ	口-体:ロクロナデ		14/36						
46-46	49	46	46	SK4	B-10G-2116-22	1.2	上製部	無内付	I	18.0			1c	真鍮 (10Y88/2)	焼化	口-体:ロクロナデ	口-体:ロクロナデ		7/36					炭化物	スス
46-46	50	46	46	SK4	B-10G-2116	1	上製部	無内付	JA	15.4	6.1	4.9	1c	ニホ-真 (5Y87/4)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ		12/36	15/36	13/36				
46-47	51	46	46	SK4	B-10G-2117-21	1	上製部	無内付					1c	ニホ-真 (10Y87/3)	焼化	体-底:ロクロナデ	体-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	36/36				体:スス	
46-34	47	52	46	SK4	B-10G-2116-17	1.2	上製部	無内付	BB	12.6	5.8	4.1	1b	真鍮 (2.5Y7/2)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	36/36	24/36				
46-34	47	53	46	SK4	B-10G-2117	2	上製部	無内付	BB	12.7	5.6	3.8	1b	真鍮 (10Y88/3)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	36/36	35/36				
46-34	47	54	46	SK4	B-10G-2117	2	上製部	無内付	BB	14.0	5.3	3.8	1b	ニホ-真鍮 (10Y87/3)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	36/36	22/36				
46-34	47	55	46	SK4	B-10G-2116-17	1.2	上製部	無内付	BC	12.5	5.8	4.3	1c	真 (10Y88/2)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	36/36	36/36				146
46-35	47	56	46	SK4	B-10G-2116-17	1.2	上製部	無内付	BB	13.0	6.2	4.1	1c	真鍮 (2.5Y7/2)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	23/36	12/36				
46-47	57	46	46	SK4	B-10G-2116-22	1	上製部	無内付	BB	12.0	6.0	3.9	1b	ニホ-真 (2.5Y7/3)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	18/36	9/36				
46-47	58	46	46	SK4	B-10G-2116-21- 22	1.2	上製部	無内付	BB	12.0	6.0	3.9	1b	ニホ-真 (10Y87/3)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り	4/36	9/36	11/36	10/36			
46-47	59	46	46	SK4	B-10G-2116	1	上製部	無内付	BB	12.0	5.8	3.8	1b	真鍮 (10Y88/2)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	巻切り、竹の 縁	4/36	36/36	12/36				
46-35	60	46	46	SK4	B-10G-2116-17- 22	1	上製部	底	B	18.0	6.4	7.4	1b	ニホ-真鍮 (10Y87/3)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	まきキ、ロクロ ナデ	30/36	26/36	23/36	口:炭化物	口-底:スス		
46-35	47	61	46	SK4	B-10G-2116-22- 4E5-2D1	1.2	上製部	有内付	BC	16.6	8.4	6.8	B	真 (2.5Y8/1)	焼化	口-底:ロクロナデ	口-底:ロクロナデ	ヘタ切り	4/36	13/36	18/36				
46-41	47	62	46	SX05	B-10G-2112	1	底製部	無内付	JA	13.0	9.0	3.2	B	真(N7/0)	焼化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタ切り	6/36	5/36	8/36				
46-47	63	46	SX05	B-10G-2112	1	底製部	棒蓋	BD	14.4			B	真(N6/0)	焼化	口-体:ロクロナデ	口-体:ロクロナデ		15/36							

国庫 No.	学区域 No.	地区 No.	地上位置		用途	種類	指標			動土 分類	色澤	組成	製作経、支保等		完成 年月	通行率	付帯物等			備考	シブ No.		
			区	道幅名 グラッド			面積	種類	面積				分敷	口径			直径	高さ	内面			外面	完成
47	35	64	405	SK-4 D-316-405-4.11	1	上陸部	小橋	R1	11.1	8.4	13.6	1b	灰緑 (109W7/3)	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ ①-外：タタ	ナデ	12/36	27/36	20/36			
47	35	65	405	SK1 D-316-405-4.11	1.7b	底陸部	林道	D/C	16.0	ウツミ 3.5	3.1	A	灰 (SK6/0)	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ ①-外：タタ	ナデ	3/36	アワ 26/36	16/36			
47	47	66	405	SK6 D-316-405-2.17	1	上陸部	長橋	R3	(24.0)			1b	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	2/36						
48	47	67	235	SK25 D-316-404-9	5.7b	上陸部	長橋	R1	25.0			1b	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	6/36						
48	47	68	235	SK25 D-316-404-9	5	上陸部	狭小橋		18.0			1b	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	4/36						
48	35	69	235	SK7 D-316-4C17-1	1	底陸部	高林		10.2	6.4	5.3	1c	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	13/36	26/36	18/36			124	
48	35-47	70	235	SK2 D-316-404	1	底陸部	林道	1/C	17.7	ウツミ 3.4	2.9	A	灰 (SK6/0)	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ ①-外：タタ	ナデ	12/36	アワ 18/36	15/36	橋脚		
48	47	71	235	SK3 D-316-4C17-18	1	上陸部	狭小橋	A	14.0	7.2	4.6	1c	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	4/36	4/36	4/36			①-底：炭化 物	
48	35-42	72	235	SK3 D-316-4C17-18	1.2.6	上陸部	橋	A1a	16.4	8.8	(19.1)	1b	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	3/36	36/36	9/36			橋脚
48	41-47	73	235	SK3 D-316-4C18	1	底陸部	狭小橋		6.9			A	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	8/36					橋脚	
48	35	74	235	SK41 D-316-6R23-24- 25.735	2.7b	上陸部	橋	A1a	20.0	10.0	19.5	1b	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	10/36	13/36	6/36			①-底：炭化 物
48	47	75	235	SK42 D-316-6R23-24-25	2.7b	上陸部	長橋	A2	18.4			1b	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	5/36						①-底：炭化 物
48	35-42- 47	76	235	SK42 D-316-6R24	2	上陸部	橋	Aa	9.0			1b	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	20/36					スス
48	47	77	235	SK42 D-316-6R23-25- 765	2.7b	上陸部	橋					1b	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	10/36					スス
48	35-48	78	235	SK42 D-316-6R24	2.4.7b	底陸部	狭小橋	D/C	11.4	7.0	3.8	A	R/F (1237/1)	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ	ヘタ張り	10/26	36/36	33/36			橋の改善 状況報告
48	35-41- 48	79	235	SK42 D-316-6R24-25	2.7b	底陸部	有台橋	BB	14.0	9.0	4.5	A	R/F (1237/2)	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ	ヘタ張り	14/36	35/36	23/36			橋脚「小口」
48	41-48	80	235	SK42 D-316-6R24	2	底陸部	有台橋	1A	18.0	12.0	4.8	A	R/F (1271/1)	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ	ヘタ張り	4/36	9/36	7/36			利用機
48	48	81	235	SK42 D-316-6R23-25- 765	1.2.7b	底陸部	狭小橋	A1a	12.8	7.8	3.1	A	R/F (1271/1)	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ	ヘタ張り	4/36	19/36	16/36			
49	48	82	235	SK13 D-316-9H1-6	1.2.7b	上陸部	長橋	A1	19.5			1a	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	6/36						
49	42-48	83	235	SK13 D-316-9H6	1.2.3.7b	上陸部	橋	Aa	8.5			1c	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	28/36					橋脚後の橋 脚
49	48	84	235	SK13 SD10 D-316-9H6	1	上陸部	小橋	A1	15.8			1b	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	7/36						
49	41-48	85	235	SK13 D-316-9H6	1.7b	底陸部	有台橋	BB	14.8	10.0	4.4	D	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ	ヘタ張り	4/36	12/36	10/36			橋脚
49	48	86	235	SK13 D-316-9H6	1	底陸部	橋					D	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	4/36	21/36	13/36			
49	35	87	304	SK4 D-316-8G13-18-19	1.7b	上陸部	長橋	A2	22.3			1b	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	28/36						橋脚
49	36	88	235	SK4 D-316-8G19	1	上陸部	長橋	A1	21.0			1c	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	18/36						127- 128
49	36	89	235	SK4 D-316-8G19	1.7b	上陸部	橋	Ab	9.8			1b	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	36/36					橋上部分 計測工具 残
49	36	91	235	SK4 D-316-8G18-19	1.7b	上陸部	橋	A				1a	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	4/36	21/36	13/36			132
49	36	92	235	SK10 D-316-8G13-18-19	1.7b	上陸部	長橋	A1a	19.6	12.0	(26.0)	1b	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	8/36					
50	42-48	93	235	SK20 D-43-2A19	1	上陸部	橋	A				1b	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ						106
50	36-42	94	235	SK36 D-43-5D25.0E21	1.7b	上陸部	橋	Aa	8.0			1b	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-外：タタ	ナデ	36/36					スス
50	36-48	95	235	SK39 D-43-4C20	1	底陸部	有台橋	BB	15.0	10.4	4.5	A	R/F (1237/2)	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ	ヘタ張り	4/36	20/36	25/36			23/36
50	48	98	235	SK18 D-43-5D19	1	底陸部	橋	無蓋		16.0		A	①-底：ロクロナデ	強化	①：ロクロナデ	①：ロクロナデ	3/36						橋脚「上陸」
50	36-48	97	235	SK21 D-43-2A1-2-7	1.7b	底陸部	有台橋	BB	14.0	9.4	4.2	D	①-底：ロクロナデ	強化	①-底：ロクロナデ	①-底：ロクロナデ	ヘタ張り	4/36	11/36	23/36	17/36		

国産 No.	外国産 No.	年次 No.	品上位置		原産地	種類	品種	分類	口径	直径	高さ	動土 分類	色澤	組成	製作法・文種等		通存年	貯蔵物等			備考	レゾナ No.			
			区	産地名											グッド	内面		外面	底面	内面 方位			口縁部	底面	全体
50	48	98	3K	SD33	D-43-4C7-8	1.VMc	1.VMc	A	116.6	(9)8	4.9	1b	LSA-高機 (10V97/2)	硝化	硝子・ナデ、体~底; 硝子	硝子・ナデ、硝子・ナデ 硝子	5/36	5/36	8/36						
50	48	99	3K	SD40	D-43-5D9	1	底面硝	硝	A1			D	K (7.9V1/1)	硝化	硝子	硝子									
50	48	100	3K	SD35	D-43-4D21	1.VMc	底面硝	硝				D	K (12.9V7/1)	硝化	硝子	硝子									
50	48	101	3K	SK20	D-42-2R20	1	上硝硝	硝	Ab		8.4	1b	LSA-高機 (12.9V6/4)	硝化	硝子	硝子、ハケメ	ヘタ硝り			6/36					
50	36	102	3K	SK39	D-43-4D22.DD2	1.VMc	1.VMc	A	24.0			1b	LSA-高機 (10V96/2)	硝化	硝子	硝子			4/36			スス			
50	48	103	3K	SK39	D-43-5D2	1	上硝硝	硝	Ab		11.0	1b	LSA-高機 (12.9V10/2)	硝化	硝子	硝子			14/36						
50	48	104	3K	SK39	D-43-5D2	1.VMc	混合上硝	高硝子	Ab		15.8	1b	LSA-高機 (10V97/2)	硝化	硝子	硝子			7/36						
51	48	105	第2次 調査品	SK1	D-31-10F10	1	底面硝	硝	III	14.0		1a	K(10V6/1)	硝化	硝子	硝子			3/36						
51	48	106	第2次 調査品	SK11	D-31-5D23.6R02-3	2.VMc	混合上硝	硝		24.0		1a	LSA-高機 (10V97/2)	硝化	硝子	硝子			8/36						
51	36	107	第2次 調査品	SK11	D-31-6R2	1	上硝硝	硝	Ac			1a	LSA-高機 (10V97/2)	硝化	硝子	硝子			18/36			底・スス			
51	36	108	第2次 調査品	SK11	D-31-6R2	1.2	上硝硝	小硝	AZ	12.2	6.3	14.0	1b	LSA-高機 (10V96/2)	硝化	硝子	硝子			9/36	26/36	12/36	硝子		
51	48	109	第2次 調査品	SK11	D-31-6R2	1.2	上硝硝	小硝	A1	16.0		1b	LSA-高機 (7.9V95/3)	硝化	硝子	硝子			10/36						
51	36	110	第2次 調査品	SK1	D-31- SA1.5.5B16.6R3	1.VMc	上硝硝	長機	AZ	21.0		1b	K (10V98/2)	硝化	硝子	硝子			32/36				スス		
51	37	111	第2次 調査品	SK11	D-31-6R2	1	上硝硝	硝		22.0	11.2	34.4	1a	LSA-高機 (10V97/3)	硝化	硝子	硝子			5/36	36/36	21/36			
51	37	112	第2次 調査品	SK11	D-31-5D22.6R2	2.VMc	上硝硝	硝		13.5		1a	LSA-高機 (10V97/3)	硝化	硝子	硝子			18/36						
51	37	48	113	第2次 調査品	SK11	D-31-6R2	1.2	底面硝	硝	III	9.9	10.2	5.1	A	K(NB)	硝化	硝子	硝子			25/36	36/36	33/36		
51	48	114	第2次 調査品	SK11	D-31-5D21	1	底面硝	硝	IIA	15.0	10.6	3.8	A	K(SV6/1)	硝化	硝子	硝子			13/36	15/36	15/36			
52	37	42	115	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15	1.2	上硝硝	硝	A1a	18.2	10.0	17.1	1a	LSA-高機 (10V97/2)	硝化	硝子	硝子			36/36	27/36	35/36	硝子	
52	37	42	116	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15	1.2	上硝硝	硝	A1c	18.9	10.4	14.9	1b	LSA-高機 (12.9V7/3)	硝化	硝子	硝子			27/36	36/36	33/36	硝子	
52	49	117	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15	1	上硝硝	小硝	A1	14.4		1c	LSA-高機 (10V96/3)	硝化	硝子	硝子			10/36						
52	49	118	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15	1.2	上硝硝	硝	A1	17.8		1b	LSA-高機 (10V96/3)	硝化	硝子	硝子			11/36						
52	49	119	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15	1	上硝硝	小硝	A1	16.0		1b	LSA-高機 (10V96/2)	硝化	硝子	硝子			6/36						
52	49	120	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15.8R11	1.2	上硝硝	硝	A1	17.9		1c	LSA-高機 (12.9V7/4)	硝化	硝子	硝子			7/36						
52	37	43	121	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15	1.2	上硝硝	硝	Aa	9.0		1b	LSA-高機 (9V97/4)	硝化	硝子	硝子			36/36					
52	49	122	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15	1.2	上硝硝	長機	K2	26.0		1a	LSA-高機 (10V98/3)	硝化	硝子	硝子			4/36						
52	43	49	123	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15	1	上硝硝	硝		8.0		1b	LSA-高機 (10V98/2)	硝化	硝子	硝子			36/36					
52	49	124	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15.8R11	1.2	底面硝	硝	III	11.3	8.6	3.6	A	K(N7)	硝化	硝子	硝子			11/36	13/36	13/36			
52	49	125	第2次 調査品	SK6	D-31-8D15	2	底面硝	硝	IIA	15.9	9.8	4.5	A	K (7.9V1/7)	硝化	硝子	硝子			8/36	13/36	14/36			
52	49	126	第2次 調査品	SK6	D-31-8D10.8R11	1.2	底面硝	硝	(10)			D	K(N6)	硝化	硝子	硝子			3/36						
52	49	127	第2次 調査品	SK21	D-3H-4Z20	1	上硝硝	硝		11.0		1c	LSA-高機 (10V96/2)	硝化	硝子	硝子			19/36						
52	37	49	128	第2次 調査品	SK21	D-3H-4Z20	1	上硝硝	硝	B	8.3	7.0	3.8	1a	LSA-高機 (12.9V6/3)	硝化	硝子	硝子			33/36	18/36	33/36		
52	37	49	129	第2次 調査品	SK21	D-3H-4Z20	1	上硝硝	硝	B	6.4		1b	LSA-高機 (10V96/2)	硝化	硝子	硝子			25/36					

国産 No.	外国産 No.	品名	加工位置		部位	種類	分類	直径 (mm)	長さ (mm)	高さ (mm)	動寸 分級	色澤	形状	製法別・支那等				通存率		付着物等		備考	シラフ No.			
			区	産地名										方法	表面	内面	表面	内面	表面	全体	内面			表面	表面	
53	37-49	130	IK		B-10H-5C2	Vc	上製	製台輪	B	12.0	8.2	3.2	1a	RC1 (10YR8/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ	ヘタ切り	右	2/30	36/36	23/36				
53	37-49	131	IK		B-10H-5C2	Vc	上製	製台輪	BC	12.0	5.2	4.5	2c	RC1 (7.5YR7/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ	糸切り	右	14/30	33/36	25/36			底: スス	
53	49	132	IK		B-10H-5C2	Vc	上製	製台輪	BA	12.1	5.3	3.8	2c	RC1 (2.5Y7/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ	糸切り	右	6/36	36/36	16/36				
53	49	133	IK		B-10H-5B5	Vc, Vb	上製	製台輪	BC	11.6	5.6	4.1	2a	RC1 (2.5YR7/4)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36	18/36				
53	49	134	IK		B-10H-4B17	Vc	上製	製台輪	BC	12.8	5.2	4.3	2b	RC1 (10YR8/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ	糸切り	右	10/36	18/36	11/36			底: スス	
53	49	135	IK		B-10H-5C2	Vc, Vb	上製	製台輪	BB	12.6	5.4	4.2	1c	RC1 (10YR8/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36	19/36			①～底: 炭化 ①～底: スス	
53	37-49	136	IK		B-10H-4B7	Vc, Vb	上製	製台輪	BA	13.4	5.4	4.2	1a	RC1 (10YR7/3)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	24/36			底: スス	
53	49	137	IK		B-10H-4A8	Vc	上製	製台輪	B	16.4			2c	RC1 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36						
53	49	138	IK		B-10H-4B0	Vc	上製	製台輪	B	(13.0)			2b	RC1 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36						
53	49	139	IK		B-10H-4B11	Vc	上製	製台輪	B	15.6			1c	RC1 (10YR8/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			4/36						
53	49	140	IK		B-10H-4B24	Vc	上製	製台輪	B		5.3		1c	RC1 (10YR6/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	底: ロクロナデ	糸切り	右	15/36					炭化物	
53	41-49	141	IK		B-10H-4A8	Vc	上製	製台輪	B				1c	RC1 (2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ									
53	49	142	IK		B-10H-5C8	Vc	上製	製台輪	B	14.0			1c	RC1 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタ切り		4/36						
53	50	143	IK		B-10H-4B11	Vb	上製	製台輪	B	15.2			2a	RC1 (10YR7/4)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			3/36						
53	50	144	IK		B-10H-3A21 4B17	Vc, Vb, Vc	上製	製台輪	AS	20.2			2a	RC1 (10YR8/4)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			2/36						
53	50	145	IK		B-10H-5C1-2-6 7-14-5B5	Vc, Vb, Vc	上製	製台輪	B3	22.0			1a	RC1 (2.5YR7/6)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			7/36						
53	50	146	IK		B-10H-4B13	Vc	上製	製台輪	AS	20.7			2a	RC1 (10YR7/3)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			5/36						
53	50	147	IK		B-10H-5C7-8	Vc, Vb	上製	製台輪	B3	24.0			2a	RC1 (10YR8/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			6/36						①～底: スス
53	50	148	IK		B-10H-7F5	Vc	上製	製台輪	A2	21.7			2b	RC1 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36						両面炭化
53	50	149	IK		B-10H-4B1	Vc	上製	製台輪	A				2b	RC1 (10YR6/3)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ									
54	50	150	IK		B-10H-7F4	Vc	上製	製台輪	B	(36.0)			2b	RC1 (10YR7/4)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			2/36						
54	50	151	IK		B-10H-7D22	Vc	上製	製台輪	B	(32.0)			2b	RC1 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36						
54	50	152	IK		B-10H-5C2	Vc	上製	製台輪	B	(37.4)			2b	RC1 (10YR8/1)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			5/36						
54	50	153	IK		B-10H-5B5	Vc	上製	製台輪	B	(39.0)			2c	RC1 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			3/36						
54	50	154	IK		B-10G-4I5 10H-3A21	Vc, Vb	上製	製台輪	B	(32.2)			1a	RC1 (10YR8/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			2/36						底: 炭化物
54	55	155	IK	SR57	B-10H-5C1-7	5. Vc	上製	製台輪	B	32.3			2a	RC1 (5YR7/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			1/36						
54	50	156	IK		B-10H-5B5	Vc, Vb, 漆上	混合上製	製台輪	B	14.8			2a	RC1 (10YR8/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			8/36						
54	49	157	IK		B-10H-4B18	Vc	混合上製	製台輪	B		4.8		2c	RC1 (10YR7/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			29/36						
54	50	158	IK		B-10H-4B24	Vc	混合上製	製台輪	B	13.0			2b	RC1 (10YR7/3)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			3/36						スス
54	50	159	IK		B-10H-4B25	Vc	混合上製	製台輪	B		5.2		2c	RC1 (10YR7/2)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			33/36						
54	49	160	IK		B-10H-4B23	Vb	混合上製	製台輪	B		6.3		2c	RC1 (10YR7/4)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			26/36						
54	50	161	IK		B-10H-5C2	Vc	混合上製	製台輪	B	(15.4)			2b	RC1 (N2.0)	酸化	①～底: ロクロナデ	①～底: ロクロナデ			1/36						

国産 No.	外国産 No.	車種 No.	地上位置		車体	種類	軸距		質量 (cm)		動力 分類	色調	構成	製作社・型式等		走行率		対応物等		備考	レゾナ No.			
			区	産地名			グッド	前軸	後軸	口径				直径	高さ	前面	後面	前面	後面			1/2 方向	1/2 走行	全体
54	37	50	1K	B-10H-505	Vb.Vb	底面部	無台枠	直形	13.1	8.0	3.8	B	黒K (N7.0)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	ヘタ切り	右	22/36	29/36	27/36			
54	50	163	1K	B-10G-319-24	Vb.Vb	底面部	無台枠	直形	12.8	7.8	3.7	B	黒K (Z7.2)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	ヘタ切り	左	5/36	17/36	9/36			
54	37	50	1K	B-10G-318-24	Vb.Vb	底面部	無台枠	直形	12.4	8.8	2.9	B	黒K (N6.0)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	ヘタ切り	左	4/36	14/36	12/36			
54	50	165	1K	B-10H-515 [501.6.20.036-13]	Vb.VbA	底面部	無	直形	18.0			A	黒K (Z7.1)	還元	口一底: ロクロナデ				2/36					
55	41	166	1K	B-10H-483	Vb	底面部	有台枠	直形		8.0		A	黒K (Z5.9/1)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	ヘタ切り	右	18/36			黒鉄	「一」 「C」	
55	38	50	1K	B-10H-5D-10-12	Vb	底面部	有台枠	直形	13.8	9.2	3.9	A	黒K (N7.0)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	ヘタ切り	右	10/36	29/36	20/36			
55	51	168	1K	B-10H-4811	Vb	底面部	有台枠	直形	14.0			D	黒K (10Y8/1)	還元	口一底: ナデ, 体: ロクロナデ				3/36					
55	38	41	1K	B-10H-5D25, 506-12	Vb.Vb	底面部	有台枠	直形	16.0		(3.6)	A	黒K (10Y8/1)	還元	口一底: ナデ, 体: ロクロナデ	口一底: ナデ, 体: ロクロナデ		左	7/36			黒鉄	「C」	
55	51	170	1K	B-10G-324	Vb.Vb	底面部	有台枠	直形				C	黒K (Z5.9/1)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	ヘタ切り					自然動		
55	51	171	1K	B-10H- SC15.5D22	Vb.Vb	底面部	有台枠	直形				D	黒K (Z5.9/1)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ						自然動		
55	51	172	1K	B-10H-7G1-6- 19.7H22	Vb.Vb	底面部	有台枠	直形				A	黒K (10Y4/2)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ナデ, 体: ロクロナデ						自然動		
55	51	173	1K	B-10H-5C2.606	Vb	底面部	有台枠	直形		7.0		D	黒K (Z5.9/1)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ナデ						10/36		
55	51	174	1K	B-10H-5C7	Vb.Vb	底面部	有台枠	直形		9.5		D	黒K (N6.0)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ						12/36		
55	51	175	1K	B-10H-49-20	Vb	底面部	有台枠	直形		9.8		D	黒K (Z5.9/1)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ						5/36	自然動	
55	51	176	1K	B-10H-7F3	Vb	底面部	有台枠	直形				A1	黒K (Z5.9/1)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	直状					1/36		
55	51	177	1K	B-10H- SC14.6E16	Vb.Vb	底面部	有台枠	直形				AZ	黒K (Z5.9/1)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	直状					2/36	自然動	
55	51	178	1K	B-10H-4A8	Vb	底面部	有台枠	直形				A1 (44.0)	黒K (7.0Y8/1)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	直状					2/36		
55	38	51	179	4K	B-10G-316	Vb.Vb	上面部	無台枠	直形	15.5	7.0	5.0	Bb	ニッケル-青銅 (10Y8/2)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	巻切り	右	15/36	25/36	16/36		
55	38	51	180	4K	B-10G-322	Vb.Vb	上面部	無台枠	直形	12.4	6.2	4.2	1c	青銅 (10Y8/3)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	巻切り	右	28/36	36/36	32/36		
55	51	181	4K	B-10G-316	Vb	上面部	無台枠	直形	13.8	6.2	4.1	10b	ニッケル-青銅 (10Y7/3)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	巻切り	右	14/36	10/36				
55	51	182	4K	B-10G-316	Vb	上面部	無台枠	直形	11.8	5.4	4.2	1c	青銅 (7.0Y8/3)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	巻切り	右	4/36	32/36	18/36			
55	51	183	4K	B-10G-321	Vb	上面部	無台枠	直形	14.0			Bb	銅-鉛 (7.0Y8/2)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	巻切り	右	5/36					
55	51	184	4K	B-10G-312-21- 23	Vb.Vb.Vb	底面部	無台枠	直形	12.0	8.5	2.9	B	黒K (N4.0)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	ヘタ切り	右	30/36	18/36				
55	51	185	4K	B-10G-312-13	Vb.Vb	底面部	無台枠	直形	(11.9)	(8.0)	3.5	B	黒K (Z5.9/1)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	ヘタ切り	右	2/36	5/36	4/36			
55	51	186	5K	B-10G-4824	Vb	上面部	無台枠	直形		13.0		10b	ニッケル-青銅 (7.0Y8/4)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ						5/36		
55	51	187	5K	B-10G-517	Vb	上面部	無台枠	直形		5.0		10b	ニッケル-青銅 (10Y8/2)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	巻切り	右	18/36					
55	51	188	5K	B-10G-6H4	Vb	上面部	無台枠	直形		(14.0)		1c	ニッケル-青銅 (10Y8/4)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	巻切り	右	3/36					
56	51	189	2K	D-3I-8F5	Vb.Vb	上面部	有台枠	直形		13.0		1c	銅-鉛 (10Y8/2)	還元	口一底: ナデ	口一底: ナデ						7/36	口: 炭化物	
56	51	190	2K	D-3I-9H13	Vb	上面部	有台枠	直形		13.7		1c	銅-鉛 (10Y8/1)	還元	口一底: ナデ	口一底: ナデ						3/36		
56	51	191	2K	D-3I-4B4	Vb	上面部	無台枠	直形				1b	ニッケル-青銅 (10Y8/4)	還元	口一底: ロクロナデ	口一底: ロクロナデ	巻切り	右	18/36	巻鉄	巻鉄	巻鉄		
56	51	192	2K	D-3I-6B12	Vb	上面部	有台枠	直形		5.0		1b	ニッケル-青銅 (10Y8/4)	還元	口一底: ナデ	口一底: ナデ						15/36		
56	51	193	2K	D-3I-6D11	Vb	上面部	有台枠	直形		6.5		1b	ニッケル-青銅 (10Y8/2)	還元	口一底: ナデ	口一底: ナデ						4/36		
56	51	194	2K	D-3I-4C24.5C4	Vb.Vb	上面部	有台枠	直形		14.0		10b	ニッケル-青銅 (10Y8/2)	還元	口一底: ナデ	口一底: ナデ						4/36		
56	51	195	2K	D-3I-8G12	Vb	上面部	有台枠	直形				1a	ニッケル-青銅 (10Y8/4)	還元	口一底: ナデ	口一底: ナデ							鉛ナゲ	

国産品 No.	外国産品 No.	車種 No.	商品名		車種	種別	規格	寸法 (mm)	軸寸	色調	車体	製作材・塗装等				走行年	付帯物等				備考	シブチ No.			
			区	品名								区分	内面	外面	底面		内面	外面	底面	全体			内面	外面	底面
56	51	190	25	D-31-4B4	Ⅴa	上座席	小機	A2	12.7		5b	にがい-焼 10YR7/2	焼化	白+ナデ、赤+ハケ メ	白+ナデ、赤+ハケ メ	9/30									
56	51	197	25	D-31-9H12	Ⅴa	上座席	機	B5 (19.0)			5c	にがい-焼 10YR7/2	焼化	白+赤キメ、赤+ロ ハケメ	白+ロハナデ、赤+ ハケメ	2/30									
56	38	43	198	25	D-31-8G18-19	Ⅴc	Ⅴa	焼化	Aa	8.0		5c	にがい-焼 10YR7/2	焼化	ハケメ+ナデ	ハケメ	16/36					179			
56	38	43	199	25	D-31-4B4	Ⅴa	上座席	機	Ab	7.6		5a	灰黄 (2.5Y7/2)	焼化	赤+ハケメ+ナ デ	赤+赤+ナデ	ナデ	36/36							
56	43	51	200	25	D-31-4C23-24	Ⅴc	Ⅴa	上座席	機	Ab	9.0		5a	灰黄 (10YR8/1)	焼化	赤+ナデ	赤+ナデ	本塗装	14/30					180	
56	38	43	201	25	D-31-8G13-18-19	Ⅴc	Ⅴa	上座席	機	Ab	9.0		5b	にがい (10YR4/1)	焼化	ハケメ	ナデ	ハケメ	21/30					スス	
56	51	202	第7次調査	SD	8T	上座席	機		23.0		1a	青黄 (10YR8/4)	焼化	ハケメ+ナデ+赤 ナデ	白+ナデ、赤+ハケ メ	5/30									
56	51	203	203	25	D-31-8G19-24	Ⅴa	Ⅴa	上座席	ミニチュ ア型	10.0		1a	にがい-焼 10YR6/4	焼化	ナデ	白+ナデ、赤+赤 キ	8/30								
56	38	51	204	25	D-31-4C11	Ⅴa	上座席	ナデ	Ab	4.4	1.0	1a	にがい-焼 10YR7/2	焼化	ナデ	ナデ	10/30	7/30	9/30						
56	38	51	205	25	D-31-8G24	Ⅴc	上座席	ナデ	Ab	3.2	2.6	2.5	7a	灰黄 (2.5Y7/2)	焼化	ナデ	ナデ	ナデ	26/30	16/30	21/30				
56	38	51	206	25	D-31-8B10	Ⅴa	上座席	ナデ	Ab	4.3	丸底	2.4	1b	にがい-焼 10YR7/3	焼化	ナデ	ナデ	ナデ	30/30	36/30	33/30				
56	38	51	207	25	D-31-4C6	Ⅴa	上座席	ナデ	Ab	4.8	丸底	2.9	1b	RF1 (2.5Y7/3)	焼化	ナデ	ナデ	ナデ	36/30	36/30	36/30				
56	38	51	208	第7次調査	SD	8T	V	上座席	ナデ	Ab	4.5	丸底	2.6	1c	灰黄 (2.5YR/3)	焼化	ナデ	ナデ	36/30	36/30	36/30				
56	38	51	209	第7次調査	SD	8T	V	上座席	ナデ	Ab	5.0	丸底	2.9	1a	にがい-焼 10YR7/3	焼化	ナデ	ナデ	29/30	36/30	33/30				
56	38	52	210	25	D-31-4C11-16	Ⅴc	Ⅴa	底座席	有台枠	11.8	7.0	3.5	A	RF1 (N7.0)	焼化	白+底+ロクロナデ	白+底+ロクロナデ	ヘタ塗り	4	17/30	36/30	29/30			
56	52	211	25	D-31-4B10	Ⅴc	Ⅴa	底座席	有台枠	12.4	16.8	11.0	4.1	A	RF1 (2.5Y7/3)	焼化	白+底+ロクロナデ	白+底+ロクロナデ	ヘタ塗り	9/30	8/30	9/30				
56	52	212	25	D-31-8G12	Ⅴc	Ⅴa	底座席	有台枠	10.0	9.8	5.8	4.9	B	RF1 (N6.0)	焼化	白+底+ロクロナデ	白+底+ロクロナデ	ヘタ塗り	4	1/30	23/30	10/30			
56	52	213	25	D-31-4C11-17	Ⅴc	Ⅴa	底座席	有台枠	10.0				D	にがい-焼 10YR7/3	焼化	白+底+ロクロナデ	底+ロクロナデ	ヘタ塗り	4	8/30					
56	52	214	25	D-31-5D24	Ⅴc	Ⅴa	底座席	有台枠	6.0				A	RF1 (10YR5/1)	焼化	ロクロナデ	ロクロナデ		9/30						
56	52	215	25	D-31-8G12	Ⅴc	Ⅴa	底座席	林蓋	1A (17.0)				A	K (N6.0)	焼化	白+赤+ロクロナデ、 赤+ナデ	白+赤+ロクロナデ、 赤+ロクロナデ		2/30						
56	52	216	25	D-31-796	Ⅴc	Ⅴa	底座席	林蓋	1A	14.0			D	RF1 (10YR6/1)	焼化	ロクロナデ、赤ナ デ	ロクロナデ		3/30						
56	41	52	217	25	D-31-7925-28- 301	Ⅴc	Ⅴa	底座席	林蓋	1D (16.0)			D	RF1 (N7.0)	焼化	ロクロナデ	ロクロナデ+ナ デ		3/30					巻戻り口	
56	52	218	25	D-31- 8C4-5D24-8D4	Ⅴc	Ⅴa	底座席	林蓋	1D	14.8	7.4	3.1	2.6	D	にがい-焼 10YR6/2	焼化	ロクロナデ	ロクロナデ+ナ デ		3/30	7/30	4/30			
56	52	219	25	D-31-6D4	Ⅴc	Ⅴa	底座席	巻+脚	12.0				A	RF1 (10YR6/1)	焼化	ロクロナデ	ロクロナデ		4/30						
56	52	220	25	D-31-5D23- 24-6D19	Ⅴc	Ⅴa	底座席	長脚					D	灰黄 (10YR5/1)	焼化	ロクロナデ、前面 底	白+ロクロナデ、 赤+ロクロナデ		左						
56	52	221	25	D-31-9H7	Ⅴc	Ⅴa	底座席	種機					A	K (10Y5/1)	焼化	赤+赤ナ デ	赤+赤ナ デ								
56	52	222	30	D-41-4D21	Ⅴa	上座席	無台枠	A	9.5	7.0	2.6	5b	にがい-焼 10YR6/2	焼化	ナデ	ナデ	ナデ	3/30	6/30	6/30				スス	
56	52	223	30	D-41-3B19	Ⅴc	上座席	有台枠		5.0				5b	にがい-焼 10YR6/4	焼化	ナデ	ナデ		5/30						
56	52	224	30	D-41-4D21	Ⅴc	上座席	高背						5b	灰黄 (2.5Y4/3)	焼化	赤+赤ナ デ	赤+赤ナ デ								
56	52	225	30	D-41-2B21	Ⅴc	上座席	小機	A1	15.8				5c	にがい-焼 10YR6/3	焼化	ナデ	白+赤+ナデ、 赤+赤ナ デ		1/30						無+赤+炭化 物
56	52	226	30	D-41-1A21	ⅤB	上座席	機	Aa	14.0				5c	にがい-焼 10YR7/4	焼化	ハケメ	ハケメ、底面に上 1.赤+赤ナ デ	本塗装	3/30						
56	52	227	30	D-41-2A20-25	Ⅴc	Ⅴa	上座席	機	A1	16.2			5c	にがい-焼 10YR7/3	焼化	ナデ	ハケメ		1/30						炭化物
56	44	52	228	30	D-41-3C21	Ⅴc	上座席	機	A				1b	にがい-焼 10YR7/3	焼化	ハケメ	ハケメ								スス
56	43	52	229	30	D-41-2A7	ⅤB	上座席	機					5a	にがい-焼 10YR6/3	焼化	ナデ	ナデ								炭化物

規格 No	写真規格 No	規格 No	出上位置		原形	種類	規格				第1 分節	色塗	形状	製作名・文庫号				通行年 (1)種類 (2)底面	通行年 (1)種類 (2)底面	通行年 (1)種類 (2)底面	通行年 (1)種類 (2)底面	備考	備考				
			区	座標名			グリッド	分節	口径	直径				高さ	内面	外面	底面							底面	全体	内面	外面
57	52	230	30k	D-41-2A20	Va	上彫彫	ニニチユ ア製付材		(7.5)			1c	ニニチユ ア製付材 (10Y97/2)	酸化	ナズリナナ子	ナ子											
57	38-43- 52	231	30k	D-41-2A8	Vc	上彫彫	ニニチユ ア製付材		4.0	3.0	2.0	1c	ニニチユ ア製付材 (10Y97/3)	酸化	ナ子	ナ子	ナ子・ハケメ	8/36	36/36	22/36							
57	52	232	30k	D-41-2A20	Va	上彫彫	ナツクね		(6.2)			3b	ニニチユ ア製付材 (10Y97/2)	酸化	ナ子	ナ子		1/36									
57	42-52- 53	233	30k	D-41-4C25	Va	彫彫彫	無台彫	BC	12.4	5.2	4.6	A	丸 (5Y91/1)	還元	ローロナ子	ローロロナ子	鼻留り	右	13/36	36/36	25/36	彫彫					
57	42-52- 54	234	30k	D-41-2A1	Va	彫彫彫	無台彫	1A	14.0	8.0	3.6	A	丸 (10Y97/1)	還元	ローロナ子	ローロナ子	ヘラ留り	右	4/36	19/36	6/36						
57	52	235	30k	D-41-2B21	Vc	彫彫彫	有台彫	彫彫	12.6	7.1	4.0	A	丸 (2.5Y7/2)	酸化	ローロナ子	ローロロナ子	ヘラ留り	1/36	10/36	5/36							
57	52	236	30k	D-41-2A8-14	Vc	彫彫彫	有台彫					A	丸 (5Y91/1)	還元	ローロナ子	ローロナ子	彫彫彫										
57	44-52	237	30k	D-41-3B20	Va	彫彫彫	有台彫					D	丸 (2.5Y6/1)	還元	ローロナ子	ローロナ子	彫彫彫										176
58	52	238	彫彫彫 彫彫彫	D-38-8B16	Va	上彫彫	鉄		16.0			1c	ニニチユ ア製付材 (10Y97/2)	酸化	ナ子	ナ子・ミダギ		3/36									
58	52	239	彫彫彫 彫彫彫	D-38-8B22	Va	上彫彫	高林		17.0			3b	ニニチユ ア製付材 (10Y97/2)	酸化	ナ子	ナ子・ミダギ		6/36									
58	38	240	彫彫彫 彫彫彫	D-38-7D16	Va	彫彫彫	高林			9.0		1b	ニニチユ ア製付材 (10Y97/2)	酸化	ナ子	ナ子・ミダギ		31/36									
58	38	241	彫彫彫 彫彫彫	D-38-5B16	Va	上彫彫	鉄	A2	26.0			1a	丸 (2.5Y7/2)	酸化	ローロナ子	ローロロナ子・ハケ メ		12/36									
58	52	242	彫彫彫 彫彫彫	D-38-4A16	Va	上彫彫	鉄	A1	26.0			3a	ニニチユ ア製付材 (10Y97/3)	酸化	ローロナ子	ローロロナ子・ハケ メ		5/36									
58	52	243	彫彫彫 彫彫彫	D-38-5B23	Va	上彫彫	鉄	A1	22.3			3b	ニニチユ ア製付材 (10Y97/3)	酸化	ローロナ子	ローロロナ子・ハケ メ		11/36			スス						
58	52	244	彫彫彫 彫彫彫	D-38-8B16	Va	上彫彫	鉄	A1	25.0			3a	丸 (5Y91/4)	還元	ローロメーナ子	ローロメーナ子		5/36			スス						
58	39	245	彫彫彫 彫彫彫	D-38-6B3	Va	上彫彫	鉄	A	19.6			3b	ニニチユ ア製付材 (10Y95/3)	酸化	ローロメーナ子	ローロメーナ子		16/36									
58	39	246	彫彫彫 彫彫彫	D-38-3221	Va	上彫彫	鉄	A1	18.0			3b	ニニチユ ア製付材 (10Y97/3)	酸化	ローロメーナ子	ローロメーナ子		13/36									
58	39-43- 52	247	彫彫彫 彫彫彫	D-38-5B16	Va	上彫彫	鉄	A	7.8			3b	ニニチユ ア製付材 (10Y97/3)	酸化	ローロナ子	ローロナ子	ナ子中央付心	36/36									
58	39-43- 52	248	彫彫彫 彫彫彫	D-38-5B16	Va	上彫彫	鉄	Aa	9.8			3b	ニニチユ ア製付材 (10Y97/2)	還元	ナ子	ナ子	ナ子中央付心	18/36			スス						
58	39-44	249	彫彫彫 彫彫彫	BT	彫彫彫	鉄	Aa	9.0				3b	ニニチユ ア製付材 (10Y96/4)	酸化	ローロメーナ子	ローロメーナ子	ナ子中央付心	23/36									
58	39-44	250	彫彫彫 彫彫彫	D-38-6C22	Va	上彫彫	鉄	A	7.2			3a	丸 (2.5Y3/1)	酸化	ローロメーナ子	ローロメーナ子		36/36			スス						
59	44-52	251	彫彫彫 彫彫彫	D-38-8B21	Va	上彫彫	鉄	A				3c	ニニチユ ア製付材 (10Y97/2)	酸化	ローロメーナ子	ローロメーナ子					スス						
59	44-52	252	彫彫彫 彫彫彫	D-38-6C11	Va	上彫彫	鉄	A				1a	丸 (2.5Y97/6)	酸化	ナ子	ナ子										彫彫彫 彫彫彫	84
59	39-52	253	彫彫彫 彫彫彫	D-38-4A16	Va	上彫彫	ナツクね	B	7.1	6.2	4.1	1a	ニニチユ ア製付材 (10Y96/3)	酸化	ローロメーナ子	ローロメーナ子		32/36	36/36	30/36							
59	39-52	254	彫彫彫 彫彫彫	D-38-6B3	Va	上彫彫	ナツクね	B	6.0	4.8	3.7	1b	丸 (10Y97/2)	酸化	ローロメーナ子	ローロメーナ子		33/36	36/36	33/36							
59	42-53	255	彫彫彫 彫彫彫	D-38-10B4	Va	彫彫彫	無台彫					A	丸 (5Y91/1)	還元	ローロナ子	ローロナ子	ヘラ留り										
59	53	256	彫彫彫 彫彫彫	D-38-5B16	Va	彫彫彫	有台彫	IIA	16.9	11.9	4.3	A	丸 (2.5Y6/1)	還元	ローロメーナ子	ローロメーナ子	ヘラ留り	9/36	14/36	13/36							
59	53	257	彫彫彫 彫彫彫	D-38-4A16	Va	彫彫彫	有台彫	III	15.8	11.3	4.3	A	丸 (2.5Y1/2)	還元	ローロメーナ子	ローロメーナ子	ヘラ留り	右	4/36	12/36	8/36						
59	53	258	彫彫彫 彫彫彫	D-38-8B17	Va	彫彫彫	有台彫			8.7		D	丸 (N5)	還元	ローロメーナ子	ローロメーナ子	ヘラ留り	右	36/36								
59	41-53	259	彫彫彫 彫彫彫	D-38-8B16	Va	彫彫彫	有台彫	IIA	15.5	10.6	4.2	A	丸 (N17/0)	還元	ローロナ子	ローロナ子	ヘラ留り	13/36	15/36	15/36							
59	42-53	260	彫彫彫 彫彫彫	D-38-5B22	Va	彫彫彫	有台彫			ツマミ 3.3		D	丸 (2.5Y7/1)	還元	ローロナ子	ローロナ子					彫彫						
59	53	261	彫彫彫 彫彫彫	D-38-8B16	Va	彫彫彫	鉄		(16.0)			D	丸 (10Y96/1)	還元	ローロナ子	ローロナ子		3/36			自然彫						
59	53	262	彫彫彫 彫彫彫	D-38-8B22	Va	彫彫彫	有台彫		11.0			A	丸 (2.5Y7/1)	還元	ローロメーナ子	ローロメーナ子		21/36									

演劇 No.	与地区 No.	発演 No.	上演位置		舞台	種類	音響		法量 (cm)			動工 分装	色調	構成	製作料・文庫等		運行料		経費等		備考	シートの No.		
			区	座席名			座席名	分装	口径	直径	高さ				内面	外面	正面	後方	側面	全体			内面	外面
59	39	263	第10次 演劇会 第6次 演劇会	D-36 8R21	Vha	底面型	側	A1	47.0			A	白黒 (1.2SR7/1)	演出	ロコロナデ、体 あて具組	ロコロナデ、産 体、体、タタキ		4/36						
59	53	264	第10次 演劇会	D-36 8R22	Vha	底面型	側	A				A	黒 (7.5SR/1)	演出	体～体、あて具組	体～体、タタキ、 タタキ								
60	53	265	第10次 演劇会	116T		上座席	無台座	Ba	13.2	5.5	4.4	Bb	両面 (1.0SR/6)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	右	8/36	36/36	18/36			
60	39	266	第10次 演劇会	116T		上座席	無台座	Ba	12.4	5.7	4.0	Ba	両面 (1.0SR7/3)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	右	17/36	36/36	20/36			
60	53	267	第10次 演劇会	116T		上座席	無台座	Ba	12.0	5.6	4.0	1b	両面 (1.0SR7/3)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	不明	8/36	36/36	12/36			
60	39	268	第10次 演劇会	116T		上座席	無台座	Ba	14.8	7.0	4.6	Ba	両面 (1.0SR/4)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	不明	15/36	34/36	24/36			
60	39	269	第10次 演劇会	116T		上座席	小鏡	B1	13.5	6.5	12.1	2a	両面 (1.0SR7/6)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	左	2/36	36/36	10/36		又ス	
60	39	270	第10次 演劇会	116T		上座席	小鏡	B				2b	両面 (1.0SR/4)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	右		36/36			又ス	
60	39	271	第10次 演劇会	116T		底面型	無台座	Bb	12.8	7.2	3.6	B	両面 (2.5SR/1)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	へろ切り	左	36/36	36/36	36/36			
60	39	272	第10次 演劇会	116T		底面型	有台座	B1C	13.0	7.0	5.5	B	両面 (1.5SR/1)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	へろ切り	左	22/36	36/36	24/36			
60	41	273	第10次 演劇会	116T		底面型	有台座	B1C	11.8			B	両面 (1.5SR/1)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ							他用機	
60	53	274	第10次 演劇会	116T		底面型	側	B2				A	両面 (2.5SR/1)	演出	ロコロナデ、体 あて具組	ロコロナデ、体 タタキ、タタキ								
60	40	275	第10次 演劇会	SK1 1T	1	上座席	長機	B3C	22.0	丸底	34.5	1a	二面・両面 (1.0SR7/3)	演出	ロコロナデ、体 タタキ、あて具組	ロコロナデ、体 タタキ、タタキ		36/36	36/36	36/36			又ス	
60	40	276	第10次 演劇会	SK1 1T	1	上座席	長機	B3C	21.5	丸底	33.4	Bb	両面 (1.0SR/3)	演出	ロコロナデ、体 タタキ、あて具組	ロコロナデ、体 タタキ、タタキ		31/36	4/36	28/36			又ス	
61	53	277	第10次 演劇会	63T	VB	上座席	無台座	Ba	13.2	5.2	3.6	Bb	両面 (7.5SR/4)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	右	2/36	36/36	10/36		又ス	
61	40	278	平成25年 演劇会	2号台	Ⅲ上	上座席	無台座	Ba	13.0	6.0	4.1	1c	両面 (7.5SR7/6)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	不明	18/36	28/36	20/36			
61	53	279	第10次 演劇会	63T	VB	上座席	無台座	Bb	16.0	6.6	5.2	Ba	二面・両面 (1.0SR7/3)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	右	9/36	19/36	11/36			
61	53	280	第10次 演劇会	SD 74T		黒色上座	無台座		15.4			Bb	二面・両面 (1.0SR7/3)	演出	エガキ、黒色他機	ロコロナデ、体下 タタキ			2/36					
61	53	281	平成25年 演劇会	2号台	Ⅲ上	上座席	無台座	Ba	14.0	7.0	4.2	3a	両面 (7.5SR/4)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	不明	11/36	10/36	12/36			
61	53	282	第10次 演劇会	63T	VB	上座席	無台座		6.3			Bb	二面・両面 (1.0SR7/3)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	右	36/36					
61	41	283	第10次 演劇会	63T	VB	上座席	無台座					Bb	二面・両面 (1.0SR7/3)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	右					他機「口」	
61	54	284	第10次 演劇会	63T	VB	上座席	鏡	C	22.0			Bb	両面 (1.0SR/4)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ								
61	54	285	第10次 演劇会	114T	Ⅲ上	黒色上座	高昇					Bb	二面・両面 (1.0SR7/3)	演出	エガキ、黒色他機	タタキ→エガキ 他機							黒色 他機	
61	54	286	平成25年 演劇会	6号台	Ⅲ上	黒色上座	有付鏡か 有付鏡			10.0		3c	両面 (1.0SR2/1)	演出	エガキ、黒色他機	エガキ 黒色他機								
61	44	287	第10次 演劇会	44T	VB	上座席	側	Aa		8.0		Bb	両面 (1.0SR/5/2)	演出	ハケキ	ハケキ	へろ切り	ナデ	9/36					
61	40	288	平成25年 演劇会	10号台	Ⅲ上	上座席	小鏡	B		6.7		1a	両面 (1.0SR/4)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	幕切り	右	36/36					
61	54	289	平成25年 演劇会	9号台	Ⅲ上	上座席	長機	B3	24.0			Bb	両面 (1.0SR/6)	演出	タタキ	タタキ	幕切り	右	4/36					
61	54	290	平成25年 演劇会	2号台	Ⅲ上	上座席	長機	B3	23.0			1b	二面・両面 (7.5SR7/4)	演出	ロコロナデ、体 タタキ	ロコロナデ			4/36					
61	54	291	平成25年 演劇会	2号台	Ⅲ上	上座席	長機	B				Ba	二面・両面 (1.0SR/4)	演出	タタキ	タタキ							演出機	
61	54	292	平成25年 演劇会	10号台	Ⅲ上	上座席	平明	B				2a	二面・両面 (1.0SR/3)	演出	ハケキ	ハケキ								
61	54	293	平成25年 演劇会	2号台	Ⅲ上	上座席	鏡			31.8		3c	二面・両面 (1.0SR/4)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ				3/36				又ス
61	40	294	平成25年 演劇会	2号台	Ⅲ上	上座席	長機	B3C	24.0	丸底	36.3	3a	二面・両面 (1.0SR7/4)	演出	ロコロナデ、体 あて具組、ナデ	ロコロナデ、体 あて具組、ナデ				18/36	36/36	33/36		
62	40	295	第10次 演劇会	38T	VB	底面型	無台座	1B	14.0	9.7	4.0	A	両面 (1.0SR/1)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	へろ切り	右	10/36	36/36	14/36			
62	54	296	第10次 演劇会	1T	V-V	底面型	無台座	Ba	11.8	8.0	3.1	A	両面 (1.5SR/1)	演出	ロコロナデ	ロコロナデ	へろ切り	右	6/36	24/36	9/36			

国名 No.	年次 No.	区	地上位置		地位	種類	指標			動土 分類	色塗	形状	製作材・支種等		通行率	付帯物等			備考	シブ付 No.						
			道幅名	グランド			道幅名	分類	口径				直径	高さ		内面	外面	表面			開口 形状	表面	全体	内面	外面	表面
62	54	297	第1次調査		987	区	既設部	無台枠	既設	12.0	8.0	3.6	D	R/F (10YR7/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタ張り	右	16/36	18/36	16/36				
62	54	298	平成25年 度立点		299		既設部	無台枠	既設	12.3	8.0	3.0	B	R (7.5Y5/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタ張り	不明	8/36	16/36	13/36				
62	40	54	平成25年 度立点		299		残土	既設部	無台枠	既設	11.7	6.5	3.1	B	R (5Y6/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタ張り	右	27/36	36/36	27/36			
62	40	54	平成25年 度立点		300		残土	既設部	無台枠	既設	12.0	7.0	3.0	B	R (5Y6/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタ張り	右	20/36	36/36	20/36			
62	40	54	平成25年 度立点		301		残土	既設部	無台枠	既設	12.5	8.0	2.9	B	R (5Y6/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタ張り	右	20/36	36/36	23/36			
62	54	302	第1次調査		302		既設部	無台枠	既設	12.5	8.7	3.3	B	R (10Y5/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタ張り・ナデ		11/36	21/36	18/36				
62	44	54	第1次調査		637		既設部	無台枠			8.0		B	R/F (10YR7/1)	露元	不明	ロクロナデ	ヘタ張り		7/36			溝			
62	54	304	平成25年 度立点		299		既設部	林道	既設	14.6			A	R (10Y6/1)	露元	ロクロナデ	ナデ						自然動			
62	41	54	平成25年 度立点		299		残土	既設部	林道	既設	12.5	7.0 3.4	2.5	B	R (7.5Y6/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	7.0 3.4/3.6	8/36	舗装		池田親	
62	54	306	平成25年 度立点		10号全		既設部	溝	既設	25.8			D	R (10Y5/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36				自然動			
62	54	307	第1次調査		37		既設部	溝・覆輪					D	R (10Y6/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ									
62	54	308	平成25年 度立点		299		既設部	溝・覆輪					B	R/F (2.5Y6/1)	露元	ロクロナデ	タタキ→ロクロナ デ、床下「タタキ」		右							
62	54	309	平成25年 度立点		10号全		残土	既設部	溝・覆輪				B	R (5Y3/2)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ									
62	54	310	平成25年 度立点		10号全		既設部	溝・覆輪			8.0		B	R (2.5Y5/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタ張り								
62	54	311	平成25年 度立点		299		既設部	覆輪			12.3		D	R (10Y6/1)	露元	ロクロナデ、床 あて具板	タタキ			2/36			白：自然動 床：自然動			
62	40	312	平成25年 度立点		10号全		既設部	覆輪					D	オリーブ黒 (7.5Y3/1)	露元	床：あて具板	床：タタキ・カキ メ・タタキ				15/36					
62	54	313	第1次調査		507		既設部	溝	既設	A1	(37.0)		D	R (10Y6/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ・透鉄文			2/36						
62	54	314	第1次調査		447		既設部	溝	既設	A2			D	R (10Y6/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ									
62	40	315	第1次調査		447		既設部	溝	既設	A2	40.0		D	R (10Y6/1)	露元	タタキ	タタキ→ロクロナ デ			6/36			自然動			
62	54	316	第1次調査	SD	747		既設部	溝	既設				D	R (9Y5/1)	露元	あて具板	タタキ									
62	54	317	平成25年 度立点		10号全		残土	既設部	溝	既設			B	R/F (2.5Y7/1)	露元	白→黒：ロクロナデ	白→黒：ロクロナデ						灰輪	灰輪	317と同一 線	
62	54	318	平成25年 度立点		299		残土	既設部	溝・覆輪		14.0		B	R/F (2.5YR7/1)	露元	黒：ロクロナデ	黒：ロクロナデ	ヘタ張り			4/36			灰輪	灰輪	316と同一 線
62	54	319	平成25年 度立点		299		土留部	溝	既設		6.0		B	R (10Y6/1)	露元	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36					
-	44	-	3R		D-43-C21		土留部	溝	既設				B	R (5Y6/4)	露元	ナデ								木造	164	
-	44	-	3R		6-10H-7C7		土留部	溝	既設				B	R (10Y6/4)	露元	ハケ								木造	167	

別表3 土製品、石製品観察表

調査No.	写真調査No.	報告書No.	区	出土位置		層位	時代	器種	石材	造端				備考
				遺構	グリッド					長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	
64	55	325a	1K	SD15	B-10H-087	3	古代	ヤナブ形土製品					24.28	
64	55	325b	1K	SD15	B-10H-087	1	古代	ヤナブ形土製品					11.50	
64	40-55	326	2K	SK42	D-39-765	1	古代	内筒形土製品		90.00			270.98	
64	55	327	調査区外	SD6	D-39-8D15	2	古代	内筒形土製品		101.00			54.27	
64	55	328	3K		D-43-5D2	Vlc	古代	内筒形土製品		100.00			12.00	
64	40-55	329	調査区外	SD6	D-31-8D9	Vlc	古代	内筒形土製品		94.00			175.14	
64	40-55	330	2K	SD10	D-39-4C17	1	古代	内筒形土製品					92.00	88.09
64	40-55	331	3K	SK5	D-42-3D20	4	古代	内筒形土製品	48.00				79.00	67.98
64	55	332	調査区外	SD4	D-39-9P16	1	古代	内筒形土製品					70.00	90.29
64	55	333	調査区外	SK11	D-39-0R3	1	古代	土製支脚		63.00		55.00	261.31	
64	55	334	1K		B-10H-6H25	Vlc	古代	土製支脚		58.00	54.00		301.19	
64	55	335	1K		B-10H-8H10	Vlc	古代	管状土罐						54.00
64	55	336	1K		B-10H-8H3	Vlc	古代	管状土罐	97.00				159.97	
64	55	337	3K		D-42-2A19	Vlc	古代	輪舞申					18.00	33.00
64	55	338	2K		D-39-4H5	Vlc	古代	輪舞申					34.00	54.79
64	55	339	1K	SP43	B-10H-6H7	2	古代	不明土製品						42.00
64	55	340	1K		B-10H-7H21	Vlc	古代	不明土製品						17.00
64	55	341	調査区外	SK11	D-39-5A15	2	古代	焼成粘土塊		79.00	65.00	22.00	59.40	
65	55	342	1K		B-10H-7H16	Vlc	古代	磁石	肥沼	99.00	24.00	19.50	68.65	
65	55	343	調査区外	SD6	D-39-8D15	2	古代	磁石	肥沼	118.00	71.00	22.00	258.31	
65	55	344	5K		B-10G-4H25	II	古代	磁石	肥沼	172.00	43.00	9.00	97.16	
65	55	345	2K		D-39-9H19	Vlc	古代	磁石	肥沼	67.00	43.00	46.00	98.89	
65	55	346	2K	SK13	D-39-9H6	1	古代	磁石	肥沼	60.00	51.00	18.00	51.28	
65	56	347	1K		B-10H-4A18	Vlc	古代	磁石	肥沼	99.00	50.00	27.00	109.12	
65	56	348	1K		B-10H-6C1	Vlc	古代	磁石	肥沼	174.00	191.00	65.00	2094.83	
65	56	349	3K	SK5	D-43-3D20	3	古代	磁石	砂沼	178.00	145.00	89.00	2163.71	
65	56	350	1K		B-10H-6R11	Vlc	古代	磨研礫	塚山沼	124.00	61.00	30.00	344.81	
65	56	351	4K		B-10G-2H12	Vlc	古代	磨研礫	塚山沼	139.00	45.00	26.00	154.22	
66	56	352	調査区外	SK11	D-39-0R3	1	古代	磨研礫	塚山沼	79.00	70.00	65.00	417.16	
66	56	353	調査区外	SK11	D-39-0R3	1	古代	磨研礫	塚山沼	123.00	69.00	69.00	538.00	
66	56	354	1K	SD18	B-10H-4H16	2	古代	磨研礫	花岡沼	101.00	82.00	60.00	36.47	
66	56	355	調査区外	SD6	D-39-8D15	2	古代	磨研礫	花岡沼	96.00	54.00	34.00	34.30	
66	56	356	2K		D-39-9C5	Vlc	古代	磨研礫	花岡沼	83.00	43.00	23.00	17.63	
66	56	357	平成25年度 区立		2号室		古代	磨研礫	花岡沼	71.00	70.00	42.00	65.00	
66	56	358	調査区外	SD19	D-39-8E9	Vlc	古代	磁石	塚山沼	68.00	67.00	46.00	217.06	
66	56	359	1K	SD19	B-10H-4E1	2	古代	磨研礫	塚山沼	90.00	75.00	42.00	266.35	
66	56	360	1K	SD18	B-10H-6F1	1	古代	磨研礫	塚山沼	86.00	68.00	47.00	307.35	
66	56	361	2K	SD1	D-39-5C10	2	古代	磨研礫	塚山沼	69.00	89.00	50.00	309.32	

別表4 鍛冶関連遺物観察表

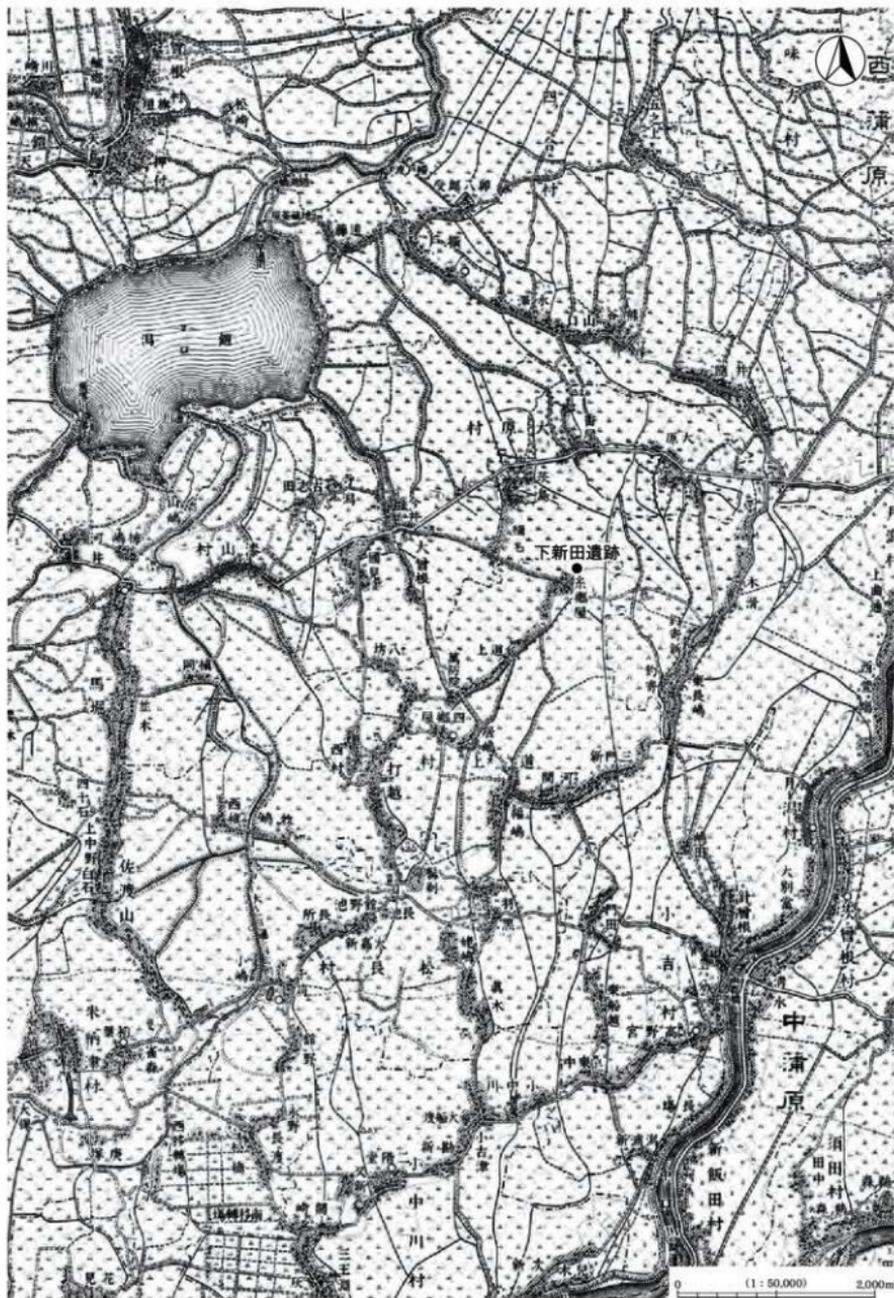
調査No.	写真調査No.	報告書No.	区	出土位置		層位	時代	器種	造端			備考		
				遺構	グリッド				長さ (mm)	外径 (mm)	厚・孔径 (内径) (mm)		重量 (g)	
63	55	320	1K	SK45	B-10H-7H22	1	古代	鉋目			(74.00)	(30.00)	129.58	
63	55	321	2K	SK13	D-39-9H7	3	古代	鉋目			(41.00)	(11.00)	27.05	
63	55	322	2K	SK4	D-38-8G18	1	古代	鉋目			(65.00)	(32.00)	49.56	
63	55	323	2K		D-38-8G24	Vlc	古代	鉋目			(66.00)	(31.00)	23.91	
63	55	324	2K		D-40-1L13	Vlc	古代	鉋目			(37.00)	(16.00)	22.88	

別表5 木製品観察表

調査No.	写真調査No.	報告書No.	区	出土位置		層位	時代	器種	種類	本取寸	造端			備考
				遺構	グリッド						長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚・径 (cm)	
67	57	362	1K	SK37	B-10H-6C7	5	古代	漆申	板目	18.50	2.90	0.60		
67	57	363	1K	SK57	B-10H-6C7	6	古代	漆申	板目	18.40	2.70	0.40		
67	57	364	1K	SK37	B-10H-6C2	5	古代	磨研礫	板目	25.10	1.30	0.70		
67	57	365	1K	SK37	B-10H-6C7	6	古代	へちま製品	竹	31.90	1.60	0.30		
67	57	366	1K	SK37	B-10H-6C2	5	古代	棒状製品	竹	36.80	3.20	3.20		
67	57	367	1K	SK37	B-10H-6C7	5	古代	棒状製品	竹	(27.50)	6.00	5.00	平舞材	
67	57	368	1K	SK37	B-10H-6C7	5	古代	板状製品	板目	(15.70)	4.30	1.80	平舞材	
67	57	369	1K	SK37	B-10H-6C7	5	古代	板状製品	板目	28.80	2.50	0.90		
67	57	370	1K	SK37	B-10H-6C2	5	古代	板状製品	板目	51.00	1.40	0.50		
67	57	371	1K	SK37	B-10H-6C7	5	古代	板状製品	板目	19.50	2.10	0.30		
67	57	372	1K	SK37	B-10H-6C2	5	古代	内筒板状製品	板目	18.40	(6.80)	0.50		
67	57	373	2K	SK25	D-39-4B4	8	古代	内筒板状製品	クリ	(123.80)	20.10	21.40		
68	58	374	2K	SP52	D-39-8G24		古代	柱根	志茂	(39.90)	9.50	9.70		
68	58	375	2K	SP91	D-39-7H11		古代	柱根	志茂	(44.80)	19.10	12.80	試験No.1 平舞材	
68	58	376	2K	SP53	D-39-6H6		古代	柱根	クリ	(56.60)	14.90	17.10	試験No.2	
68	58	377	3K	SP55	D-42-4C14		古代	柱根	クリ	(71.00)	17.40	17.40	試験No.3	
68	58	378	3K	SP56	D-42-4K2		古代	柱根	クリ	(47.20)	12.50	10.10	試験No.4	
68	58	380	3K	SP58	D-42-2A1		古代	柱根	コナラ蔵コナラ蔵	(64.10)	11.00	10.50	試験No.5	
68	58	381	3K	SP59	D-42-2A21		古代	柱根	ヤブヅク	(44.50)	18.90	15.20	試験No.6	
68	58	382	3K	SP60	D-40-1L20-25		古代	柱根	ヤブヅク	(29.50)	17.50	14.70	試験No.7	
68	58	383	3K	SP61	D-40-1L13		古代	柱根	コナラ蔵コナラ蔵	(59.00)	16.10	14.00	試験No.8	

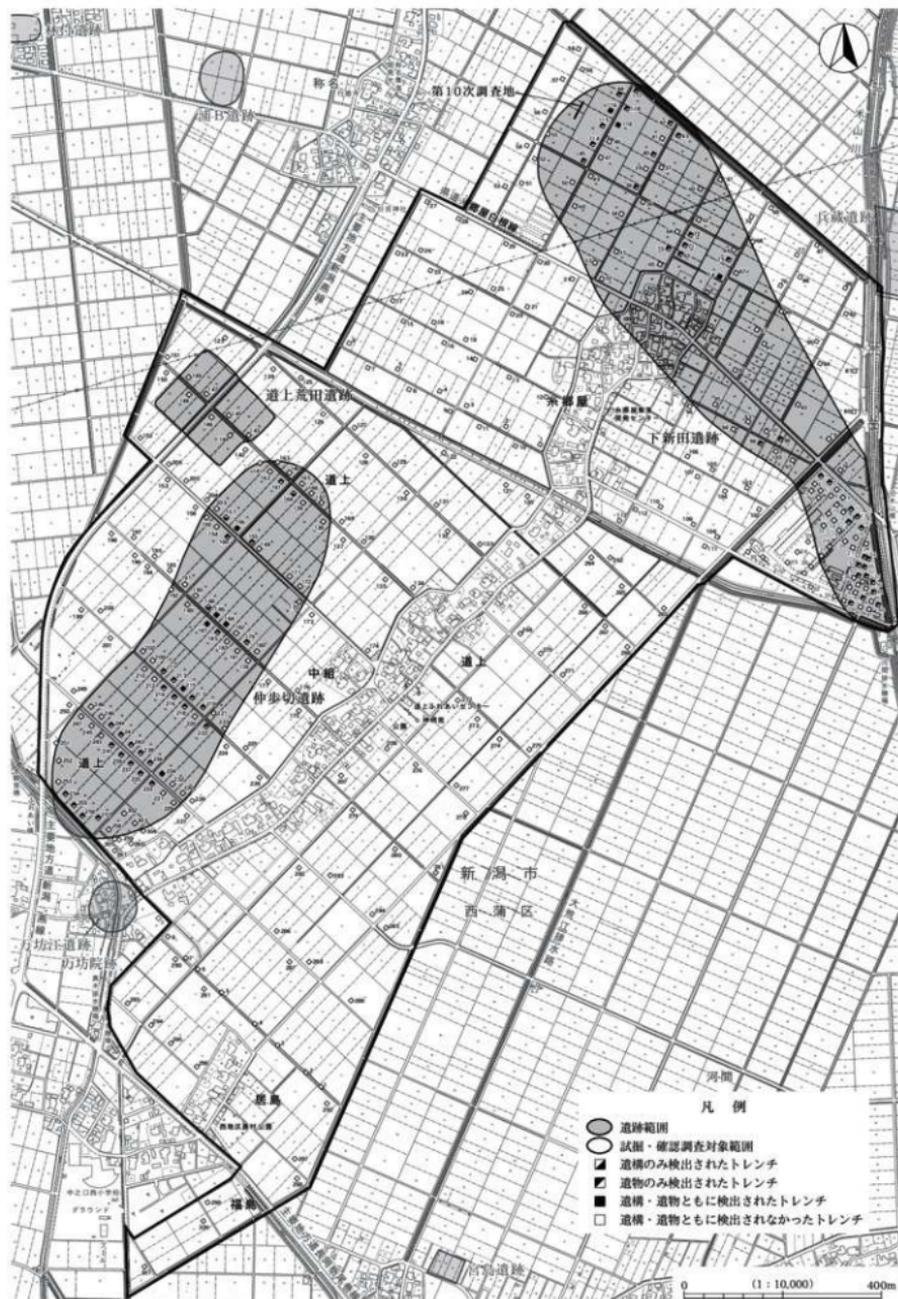
※試験No.1とは第11年度調査品目別検定品目である。

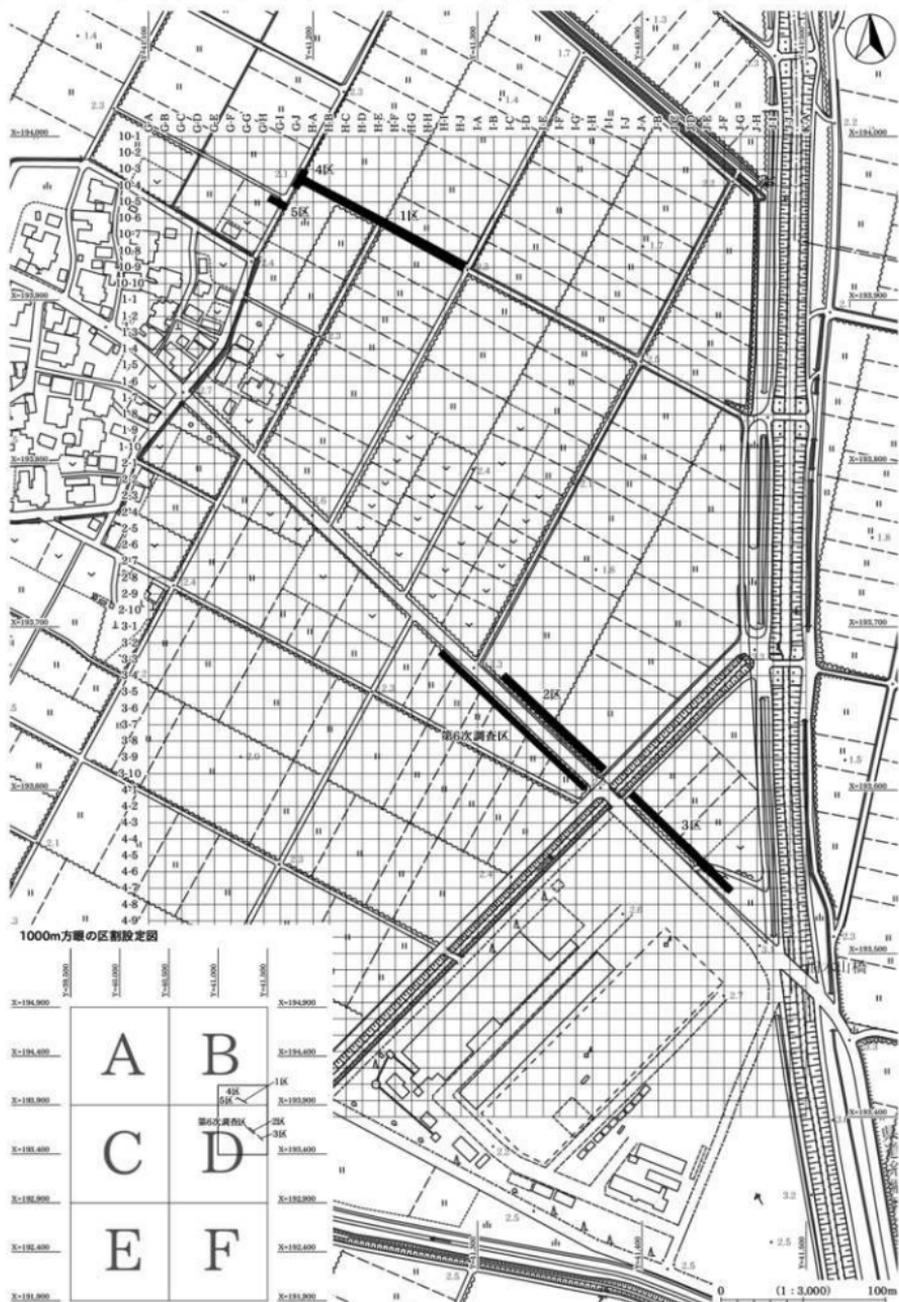
圖 版

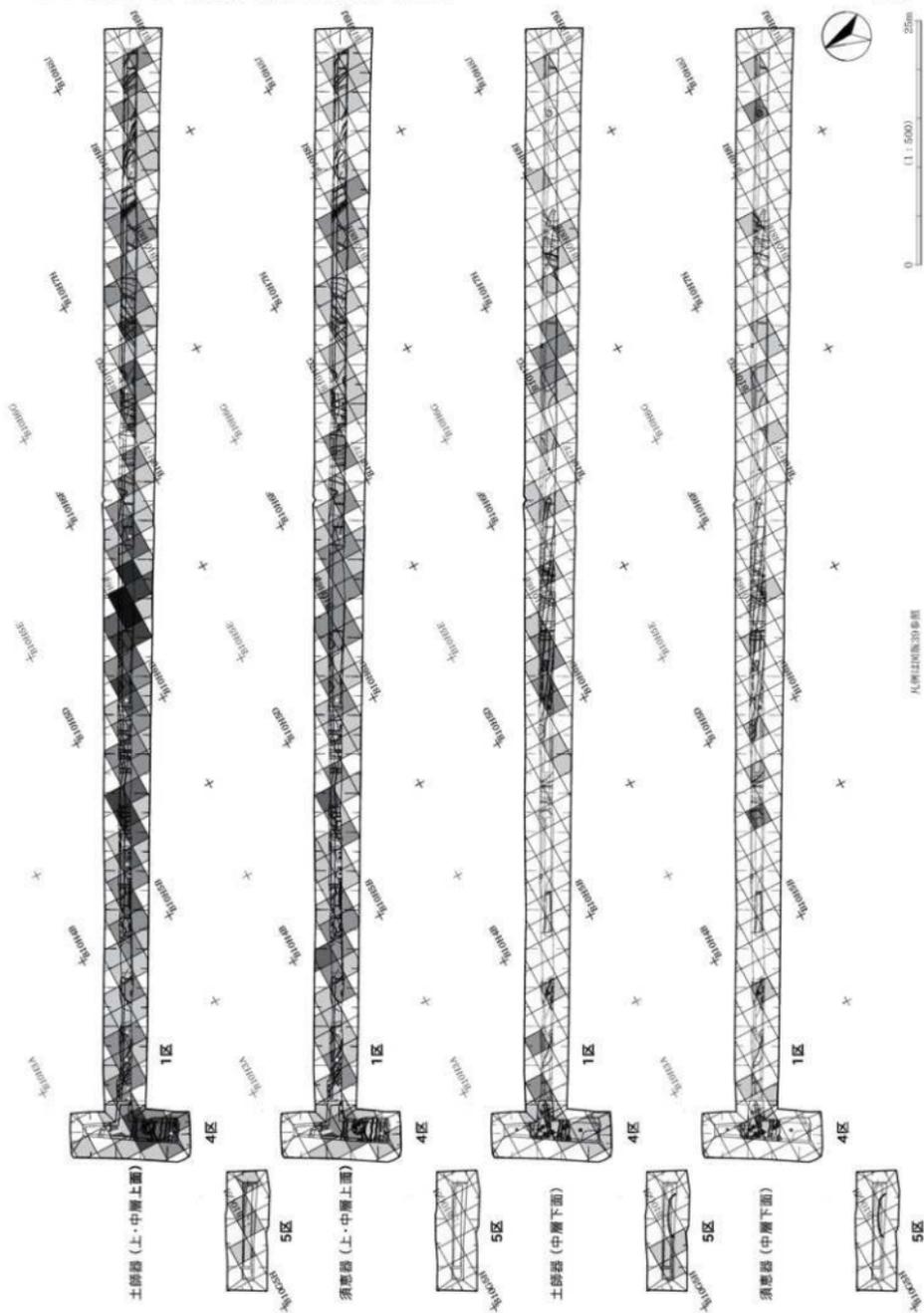








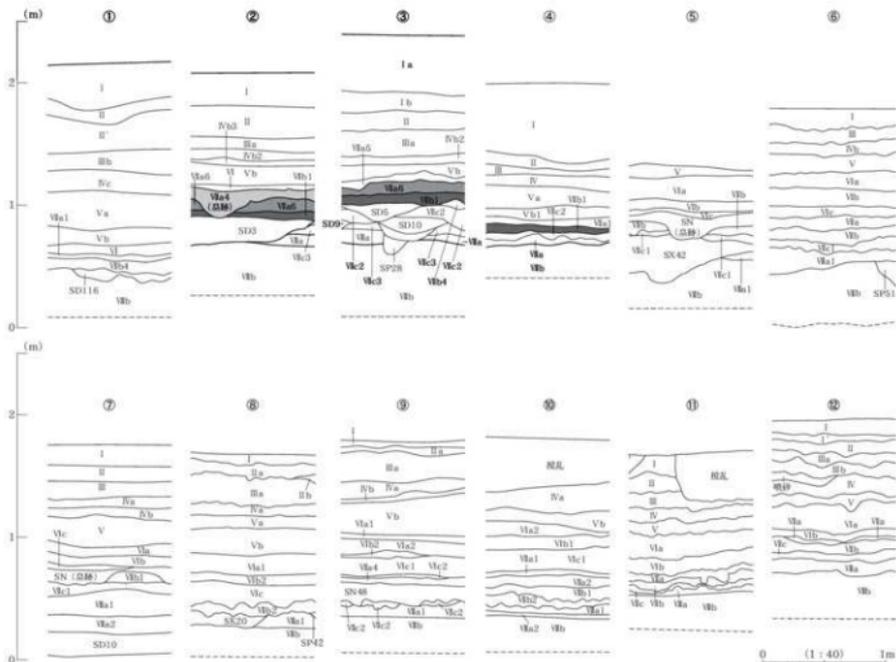
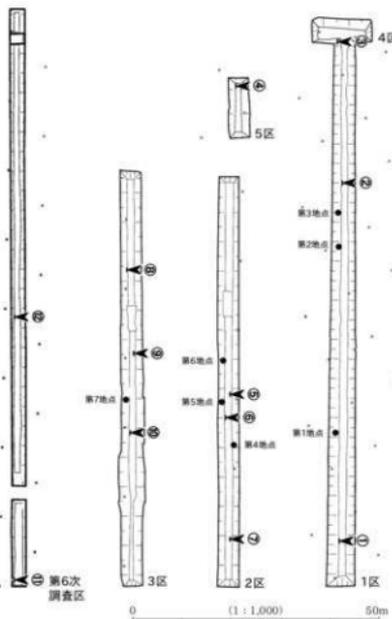




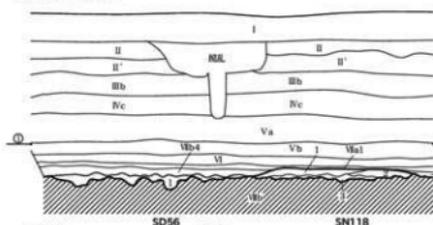
基本層序



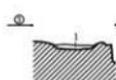
凡例
 ◀ 基本層序前載地点
 ● 土壌サンプル地点



SN118・SD56



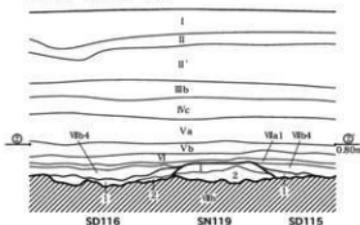
SD55



SN118

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混入。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混入。
 - 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混入。
- SD55
- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がマール状に多量混入。
- SD56
- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がマール状に多量混入。

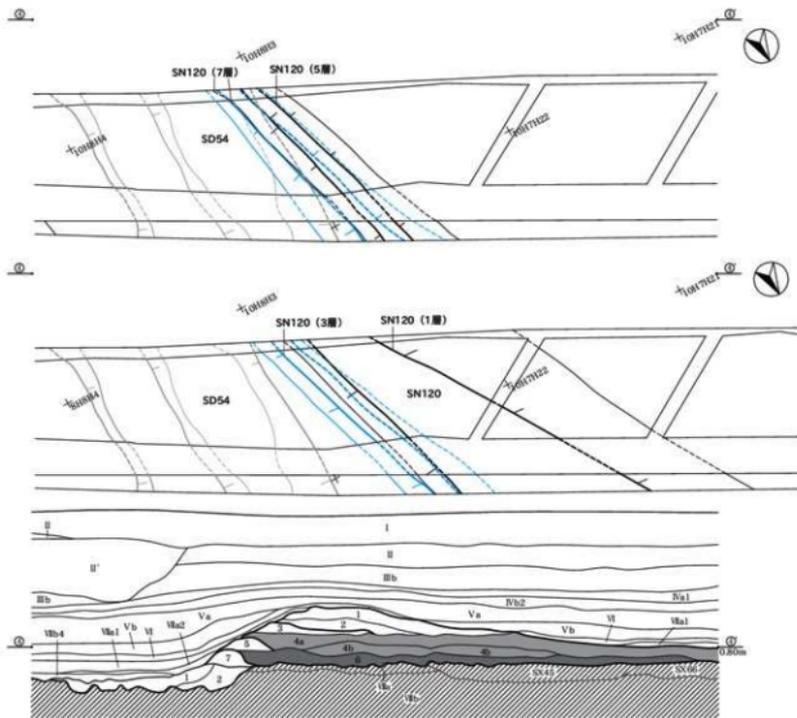
SN119・SD115-116



SN119

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまり中やあり、黄褐色粘質土がブロック状に少量混入。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまり中やあり、地山がブロック状に多量混入。
- SD115
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまり中やあり、地山がマール状に少量混入。
- SD116
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまり中やあり、地山がマール状に少量混入。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまり中やあり、地山がマール状に中量混入。

SN120・SD4

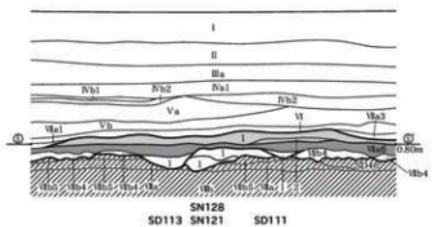
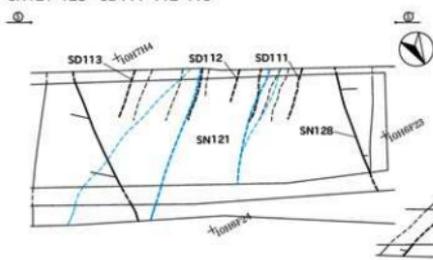


SN120

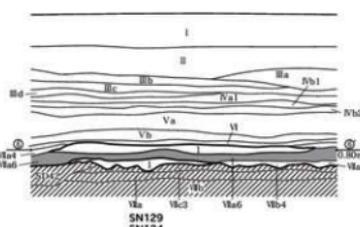
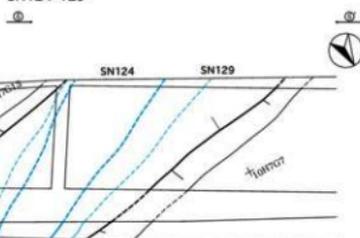
- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、黄灰色粘質土、地山がブロック状に多量混入。
 - 2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を量混入、黄灰色粘質土、地山がブロック状に少量混入。
 - 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を量混入、黄灰色粘質土、地山がブロック状に多量混入。
- SD4
- 4a 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 3mm以下を量混入、黄灰色粘質土、地山がブロック状に少量混入。
 - 4b 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 3mm以下を量混入、黄灰色粘質土、地山がブロック状に中量混入。
 - 5 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、黄灰色粘質土、地山がブロック状に多量混入。

- 6 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、黄灰色粘質土、地山がブロック状に少量混入。
 - 7 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 3mm以下を量混入、黄灰色粘質土、地山がブロック状に中量混入。
- SD4
- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまり中やあり、地山がマール状に少量混入。
 - 2 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまり中やあり、地山がマール状に中量混入。

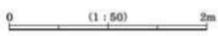
SN121・128・SD111・112・113



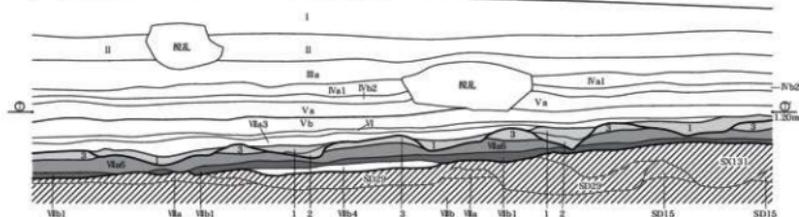
SN124・129



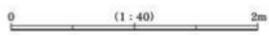
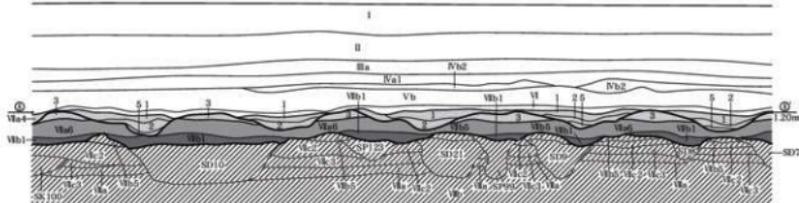
- SN121
1 黒灰色粘質土 (2.5Y3/1) 粘粒あり、しりりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む、黄灰色粘質土。地山ブロック状に少量混じる。
- SN128
1 黒灰色粘質土 (2.5Y3/1) 粘粒あり、しりりあり、黄灰色粘質土がブロック状に中量混じる。Vb4 (基本製作) 層。
2 黒灰色粘質土 (2.5Y3/1) 粘粒あり、しりりあり、黄灰色粘質土がブロック状に中量混じる。
- SD111
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒ややあり、しりりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む。
- SD112
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒ややあり、しりりあり、炭化物φ5~7mmを散見含む。
- SD113
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒ややあり、しりりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む。
- SN124
1 黒灰色粘質土 (2.5Y3/1) 粘粒あり、しりりあり、炭化物φ5mm~1cmを散見含む。黄灰色粘質土がブロック状に中量混じる。
- SN129
1 黒灰色粘質土 (2.5Y3/1) 粘粒あり、しりりあり、炭化物φ1~5mmを散見含む。黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。



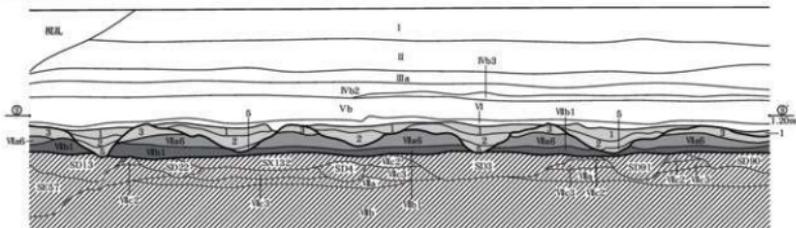
SN (編跡) ①



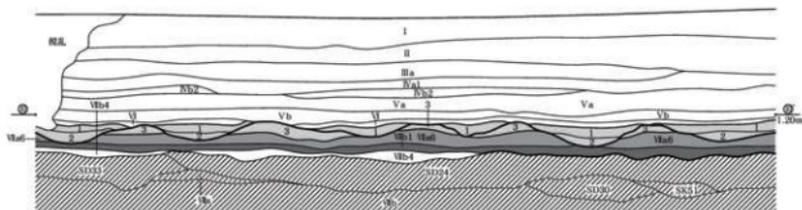
SN (編跡) ②



SN (簡跡) ③



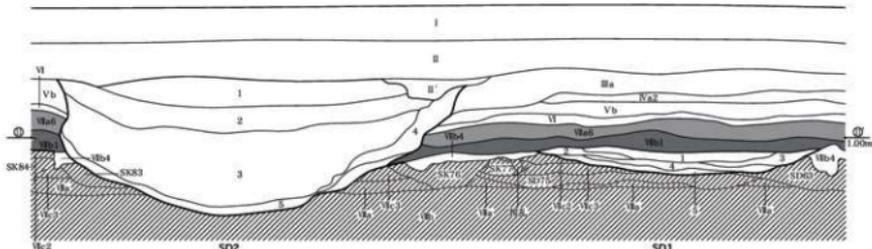
SN (簡跡) ④



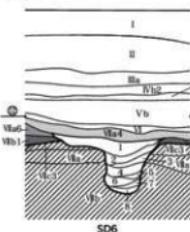
SN

- 1 黒褐色粘質土 (7.5SV5/1) 粘質あり、しまりあり、灰白色粘質土、黒褐色粘質土がブロック状に中層混じる。赤分解腐植物を露出含む。
- 2 灰褐色粘質土 (7.5SV5/2) 粘質ややあり、しまりあり、灰白色粘質土、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。赤分解腐植物を露出含む。
- 3 黒褐色粘質土 (7.5SV5/1) 粘質あり、しまりあり、灰白色粘質土、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。赤分解腐植物を少量含む。
- 4 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘質あり、しまりあり、灰化物φ5~7mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。

SD1-2



SD6



SD1

- 1 黄灰色粘質土 (2.5V5/1) 粘質ややあり、しまりあり、灰化物φ3~5mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
- 2 黒褐色粘質土 (2.5V4/1) 粘質あり、しまりあり、灰化物φ1~7mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に中層混じる。
- 3 黄灰色粘質土 (2.5V5/1) 粘質あり、しまりあり、灰化物φ5~10mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に中層混じる。
- 4 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘質あり、しまりややあり、灰化物φ10~15mmを少量含む。地山がブロック状に露出混じる。
- 5 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘質あり、しまりややあり、灰化物φ5~10mmを少量含む。地山がブロック状に露出混じる。

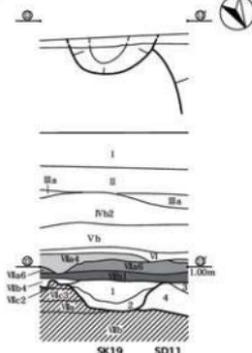
SD2

- 1 黄褐色粘質土 (2.5V6/2) 粘質あり、しまりあり、下部に砂層が混在する。
- 2 黄灰色シルト (2.5V5/1) 粘質ややあり、しまりあり。
- 3 黄灰色粘質土 (2.5V5/1) 粘質ややあり、しまりややあり、白色塊が少し混在している。
- 4 黄褐色粘質土 (2.5V6/2) 粘質あり、しまりあり、灰褐色粘質土、炭化物を少し中層含む。
- 5 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘質あり、しまりややあり、灰化物φ1~5mmを少量含む。地山がブロック状に露出混じる。

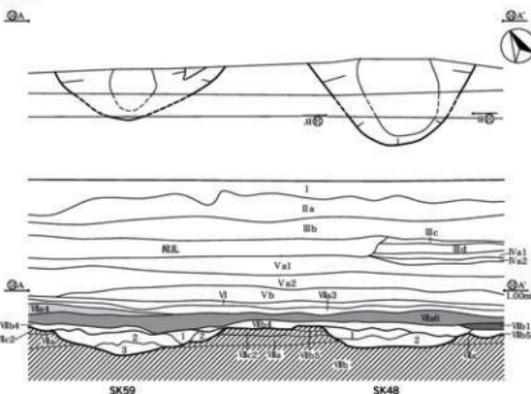
SD6

- 1 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘質あり、しまりあり、灰化物φ5mm以下を露出含む。黄灰色粘質土、地山が少量含む。
- 2 黄灰色粘質土 (2.5V4/1) 粘質ややあり、しまりあり、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に多量混じる。
- 3 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘質あり、しまりあり、灰化物φ2~5mmを露出含む。黄灰色粘質土、地山が少量含む。
- 4 黄灰色粘質土 (2.5V4/1) 粘質ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。
- 5 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘質あり、しまりあり、灰化物φ5mm以下を露出含む。地山が少量含む。
- 6 黄褐色粘質土 (2.5V6/1) 粘質ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。
- 7 黒褐色粘質土 (2.5V3/1) 粘質あり、しまりあり、地山が少量含む。
- 8 黄灰色粘質シルト (2.5V4/1) 粘質ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。

SK19



SK48-59



SK19

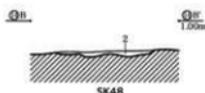
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~7mmを散見含む。黒褐色粘質土。地山がブロック状に少露出する。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 3~5mmを散見含む。地山がブロック状に中露出する。

SK48

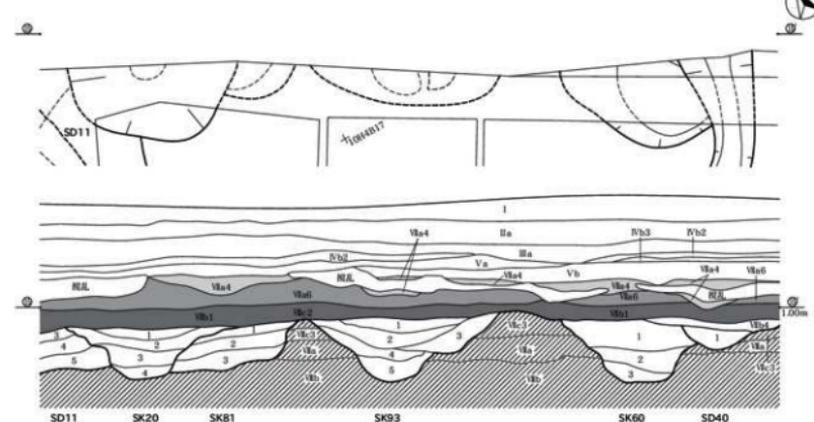
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを散見含む。黒褐色粘質土がブロック状に少露出する。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、地山がブロック状に中露出する。

SK59

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。黒褐色粘質土がブロック状に少露出する。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、地山がブロック状に少露出する。



SK20-60-81-93・SD40



SK20

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを散見含む。黒褐色粘質土。地山がブロック状に少露出する。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、炭化物を散見含む。地山がブロック状に少露出する。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、地山がブロック状に少露出する。
4 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、地山がブロック状に中露出する。

SK60

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを散見含む。地山がブロック状に中露出する。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 3~5mmを散見含む。地山がブロック状に少露出する。

SK81

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。黒褐色粘質土。地山がブロック状に少露出する。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、地山がブロック状に少露出する。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘粒中やあり、しりりあり、地山がブロック状に中露出する。

SK93

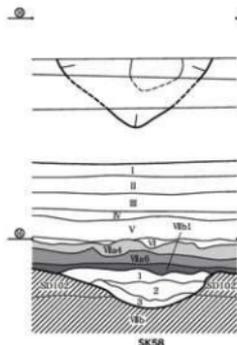
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを散見含む。黒褐色粘質土がブロック状に少露出する。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 3~5mmを散見含む。黒褐色粘質土。地山がブロック状に少露出する。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、地山がブロック状に中露出する。
4 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、地山がブロック状に中露出する。
5 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しりりあり、地山がブロック状に少露出する。

SD40

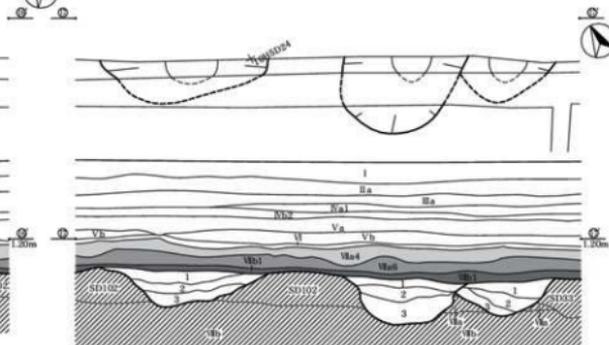
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを散見含む。黒褐色粘質土。黄灰色粘質土がブロック状に少露出する。

0 (1:40) 2m

SK58



SK103-53-52



SK58

- 1 黄灰色粘質シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 1.5cm以下を散見含む。基層色粘質土がブロック状に中量混入。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.SY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm \sim 7mmを散見含む。基層色粘質土がブロック状に少量混入。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 2.3cm以下を散見含む。地山がブロック状に少量混入。

SK52

- 1 黄灰色粘質土 (2.SY4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 1.5cm大を散見含む。基層色粘質土がブロック状に少量混入。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 1.5cm以下を散見含む。地山がブロック状に少量混入。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 1.5cm以下を散見含む。地山がブロック状に中量混入。

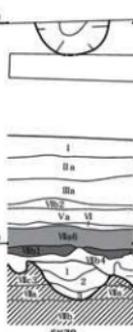
SK53

- 1 黄灰色粘質土 (2.SY4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm \sim 1.5cmを散見含む。基層色粘質土がブロック状に少量混入。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。地山がブロック状に少量混入。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.SY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 1.5cm以下を散見含む。地山がブロック状に中量混入。

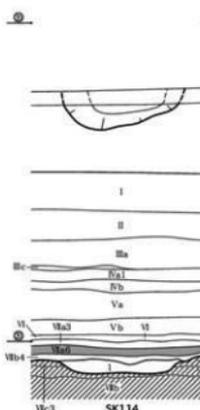
SK103

- 1 黄灰色粘質シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 3 \sim 7mmを散見含む。基層色粘質土がブロック状に少量混入。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.SY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。地山がブロック状に中量混入。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。地山がブロック状に少量混入。

SK78



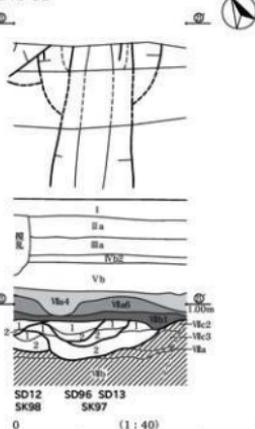
SK114



SK79

- 1 黄灰色粘質土 (2.SY5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 1 \sim 3mmを少量含む。基層色粘質土がブロック状に少量混入。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.SY6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 1 \sim 5mmを散見含む。地山がブロック状に中量混入。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 1 \sim 5mmを散見含む。地山がブロック状に少量混入。

SK97・SD13-96



SK78

- 1 黄灰色粘質シルト (2.SY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 1 \sim 3mmを散見含む。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 1 \sim 7mmを少量含む。地山がブロック状に中量混入。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.SY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。地山がブロック状に少量混入。

SK114

- 1 黄灰色粘質シルト (2.SY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。

SK97

- 1 黄灰色粘質土 (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を少量含む。基層色粘質土。地山がブロック状に少量混入。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.SY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混入。

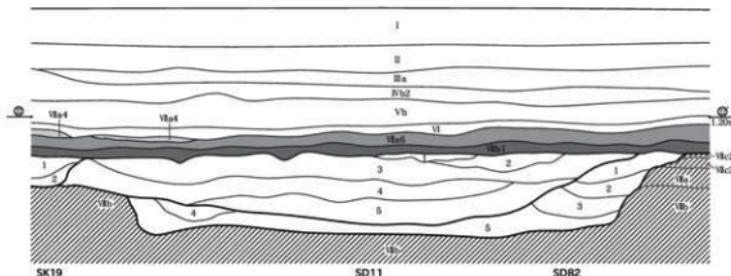
SD13

- 1 基層色粘質土 (2.SY3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 1 \sim 5mmを少量含む。黄灰色粘質土。地山が少量混入。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.SY6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下。基層色粘質土がブロック状に少量混入。

SD96

- 1 基層色粘質土 (2.SY3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。黄灰色粘質土がブロック状に少量混入。
- 2 粘性ややあり、しまりあり、黄灰色粘質土。地山がブロック状に少量混入。

SD11・82



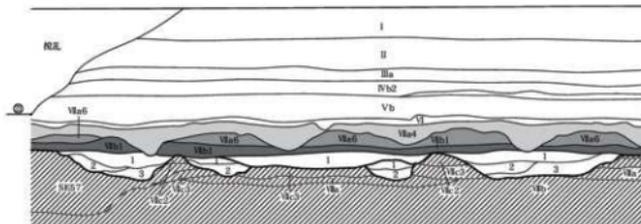
SD11

- 1 黒灰色粘質土 (2.5Y3/1) 粘質あり、しりりや中あり、炭化物 ϕ 1~5mmを散見含む、灰黄色粘質土がブロック状に少量混入。
- 2 黒灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mm、25mm大を少量含む、黒褐色粘質土、灰黄色粘質土がブロック状に少量混入。
- 3 黒灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを少量含む、灰黄色粘質土がブロック状に少量混入。
- 4 黒灰色粘質シルト (2.5Y3/1) 粘質中やあり、しりりあり、堆山がブロック状に中量混入。
- 5 黒灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを少量含む、堆山がブロック状に少量混入。

SD82

- 1 黒灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを少量含む、黒褐色粘質土、灰黄色粘質土がブロック状に少量混入。
- 2 黒灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~7mmを少量含む、堆山がブロック状に少量混入。
- 3 黒灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを少量含む、堆山がブロック状に少量混入。
- 4 黒灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 3~5mmを少量含む。
- 5 黒灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 3~5mm、23mm大を少量含む、堆山がブロック状に少量混入。

SD3・4・13・22・SX132



SD3

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を少量含む、黒褐色粘質土、堆山が少量混入。
- 2 黒灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物粘質土、堆山がブロック状に中量混入。
- 3 黒灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下、黒褐色粘質土、堆山がブロック状に中量混入。

SD4

- 1 黒灰色粘質土 (2.5Y3/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を少量含む、黒褐色粘質土、堆山が少量混入。
- 2 黒灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘質中やあり、しりりあり、黒褐色粘質土、堆山がブロック状に中量混入。

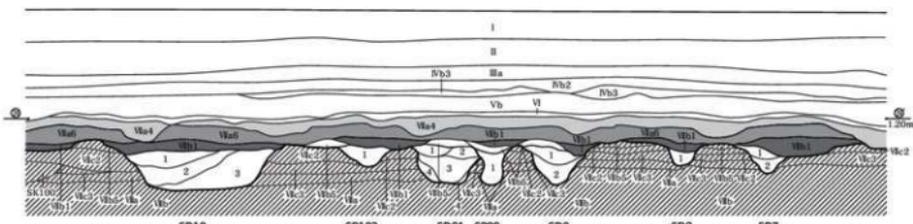
SD4

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを少量含む、黒褐色粘質土、堆山が少量混入。
- 2 黒灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下、黒褐色粘質土がブロック状に少量混入。
- 3 黒灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘質中やあり、しりりあり、堆山がブロック状に中量混入。

SD3

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 3~5mmを少量含む、黒褐色粘質土、堆山がブロック状に少量混入。
- 2 黒灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下、黒褐色粘質土がブロック状に少量混入。

SD7・8・9・10・21・SP99・123



SD7

- 1 黒灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘質中やあり、しりりあり、黒褐色粘質土がブロック状に少量混入、堆山がブロック状に少量混入。
- 2 黒灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を少量含む、堆山がブロック状に少量混入。

SD8

- 1 黒灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を少量含む、堆山がブロック状に少量混入。

SD9

- 1 黒灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘質中やあり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを少量含む、黒褐色粘質土、堆山がブロック状に少量混入。

SD10

- 1 黒灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を少量含む、黒褐色粘質土がブロック状に少量混入。
- 2 黒灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを少量含む、堆山がブロック状に中量混入。
- 3 黒灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 1~5mmを少量含む。

SD9

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y4/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を少量含む、黒褐色粘質土がブロック状に少量混入。
- 2 黒灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を少量含む、黒褐色粘質土、堆山がブロック状に少量混入。
- 3 黒灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘質あり、しりりあり、堆山がブロック状に中量混入。

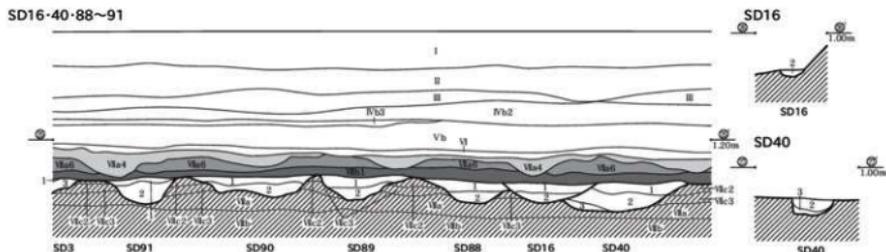
SP99

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y4/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を少量含む、黒褐色粘質土がブロック状に少量混入。

SP123

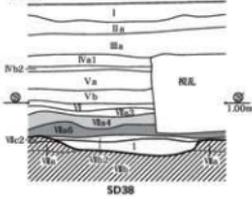
- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y4/1) 粘質あり、しりりあり、炭化物 ϕ 3~5mmを少量含む、黒褐色粘質土がブロック状に少量混入。

SD16-40-88~91

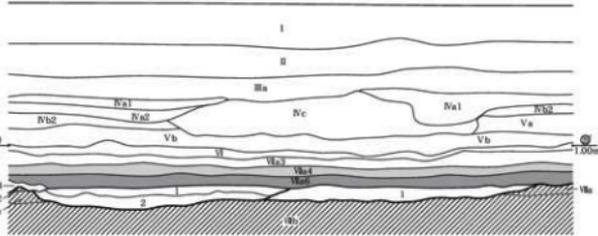


- | | | |
|---|---|---|
| <p>SD16</p> <p>1 黒灰色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む、黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。</p> <p>SD91</p> <p>1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、地山がブロック状に少量混じる。</p> <p>SD90</p> <p>1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む、黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量に含む。</p> | <p>SD89</p> <p>1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に少量混じる。</p> <p>SD88</p> <p>1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む、黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量に含む。</p> | <p>SD16</p> <p>1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~7mmを微量含む、黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に中量混じる。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。</p> <p>SD40</p> <p>1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む、黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に中量混じる。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。</p> |
|---|---|---|

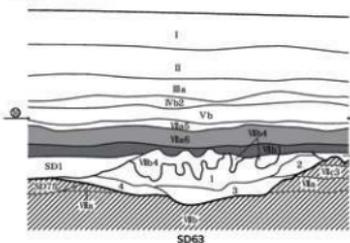
SD38



SD39 - 110

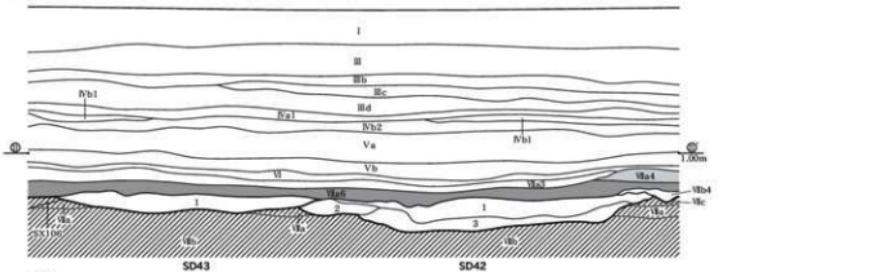


SD63



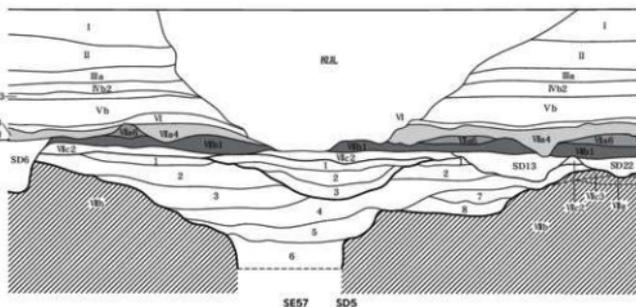
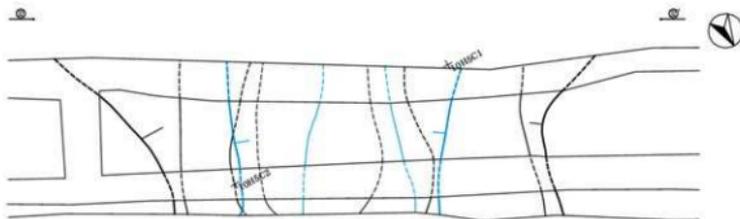
- | | |
|---|--|
| <p>SD39</p> <p>1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mm、3cmを微量含む、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。</p> <p>SD91</p> <p>1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む、地山がブロック状に少量混じる。</p> <p>SD110</p> <p>1 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む、地山がブロック状に多量混じる。</p> | <p>SD63</p> <p>1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを少量含む、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、地山がブロック状に中量混じる。</p> <p>3 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、地山がブロック状に少量混じる。</p> <p>4 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、地山がブロック状に中量混じる。</p> |
|---|--|

SD42-43



- | | |
|--|--------------------|
| <p>SD42</p> <p>1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。</p> <p>2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、地山がブロック状に多量混じる。</p> <p>3 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、地山がブロック状に少量混じる。</p> <p>SD43</p> <p>1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~7mmを微量含む、地山がブロック状に少量混じる。</p> | <p>0 (1:40) 2m</p> |
|--|--------------------|

SE57・SD5



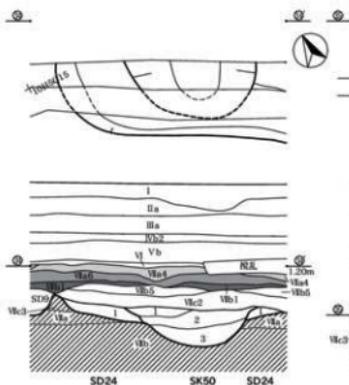
SE57

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、地山がブロック状に少量認める。
- 2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物φ5mm~2.3cmを少量含む、地山がブロック状に少量認める。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒中やあり、しまりあり、白色塊を少量含む、地山がブロック状に中量認める。
- 4 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物φ20mm以下を微量含む。
- 5 灰色粘質土 (5Y5/1) 粘粒中やあり、しまり中やあり、炭化物φ3~5mmを少量含む。
- 6 灰色粘質土 (5Y4/1) 粘粒中やあり、しまり中やあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。
- 7 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、地山がブロック状に中量認める。
- 8 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、地山がブロック状に少量認める。

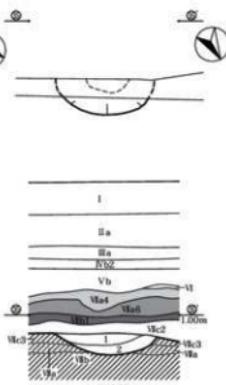
SD5

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む、黄褐色粘質土、地山がブロック状に少量認める。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、黄褐色粘質土がブロック状に少量認める。地山がブロック状に中量認める。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒中やあり、しまりあり、地山がブロック状に少量認める。

SK50・SD24



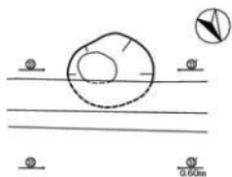
SK100



SK50

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む、黄褐色粘質土がブロック状に微量認める。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む、黄褐色粘質土、地山がブロック状に少量認める。
- 3 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.5cmを微量含む、黄褐色粘質土、地山がブロック状に少量認める。

SK49



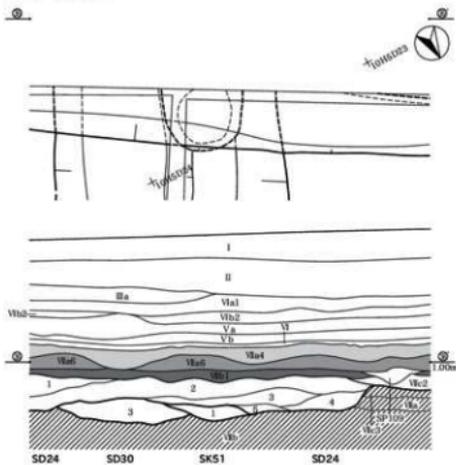
SK49

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物φ3mm以下を微量含む、地山がブロック状に少量認める。

SK100

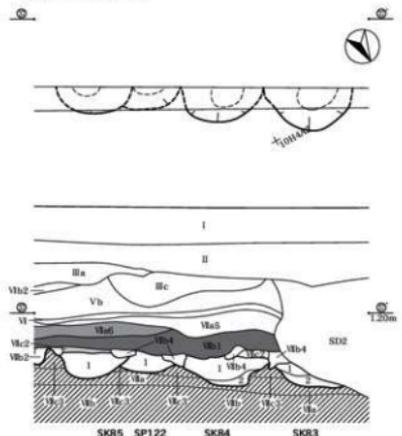
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む、黄褐色粘質土がブロック状に少量認める。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.5cmを微量含む、地山がブロック状に少量認める。

SK51・SD24・30



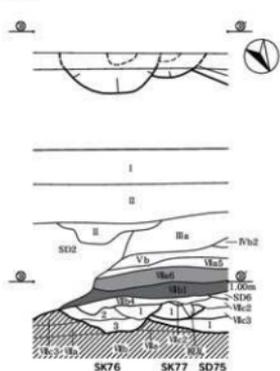
- SK51**
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む。
SD30
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを散見含む。炭質粘質土。地山がブロック状に少量混入。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む。地山がブロック状に少量混入。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを散見含む。地山がブロック状に多量混入。
4 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混入。
5 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混入。

SKB3~85・SP122



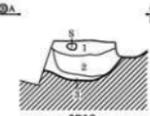
- SKB3**
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。炭質粘質土。地山がブロック状に中量混入。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを散見含む。地山がブロック状に中量混入。
SKB4
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。炭質粘質土。地山がブロック状に少量混入。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを散見含む。地山がブロック状に中量混入。
SKB5
1 黄灰色粘質土 (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭質粘質土がブロック状に少量混入。地山がブロック状に中量混入。
SP122
1 黄灰色粘質土 (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混入。

SK76-77



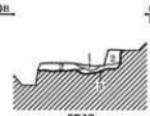
- SK76**
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを少量含む。炭質粘質土がブロック状に少量混入。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを散見含む。地山が炭質粘質土がブロック状に少量混入。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを散見含む。地山がブロック状に少量混入。
SK77
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを散見含む。地山がブロック状に中量混入。

SD18



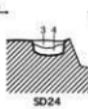
- SD18**
1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1cm以下を少量含む。
2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ7mm~1.3cmを少量含む。炭質粘質土がブロック状に少量混入。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.5cmを少量含む。地山がブロック状に中量混入。

SD18



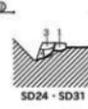
- SD18**
1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1cm以下を少量含む。
2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ7mm~1.3cmを少量含む。炭質粘質土がブロック状に少量混入。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.5cmを少量含む。地山がブロック状に中量混入。

SD24



- SD24**
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを散見含む。地山がブロック状に少量混入。
4 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混入。
SD31
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、地山がブロック状に多量混入。

SD24-31

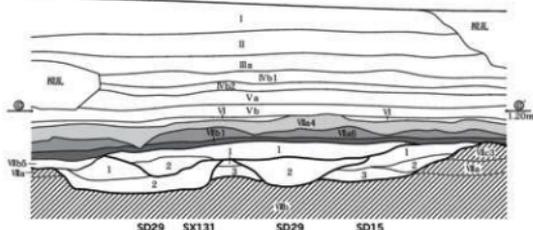


- SD28**
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを散見含む。炭質粘質土。地山がブロック状に少量混入。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、地山がブロック状に中量混入。

SD28



SD15・29・SX131



SK32

1 黄灰色粘質シルト (2.5V4/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを
 散見含む。堆山がブロック状に少量認める。

SD15

1 黄灰色粘質シルト (2.5V4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm~
 1.5cmを散見含む。黒褐色粘土層がブロック状に
 少量認める。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5V4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を
 散見含む。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を
 散見含む。堆山がブロック状に少量認める。

SD29

1 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を
 散見含む。堆山がブロック状に少量認める。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5V4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを
 散見含む。堆山がブロック状に少量認める。

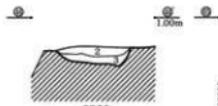
SD31

1 黄灰色粘質シルト (2.5V4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、堆山がブロック状に
 少量認める。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、堆山がブロック状に
 少量認める。

SX131

1 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを
 散見含む。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを
 散見含む。黒褐色粘土層をブロック状に少量認める。

SD29



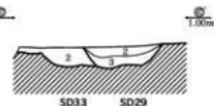
SD29・31



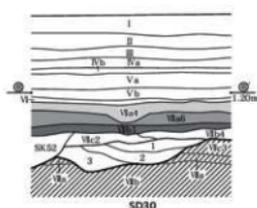
SD29・31・SK32



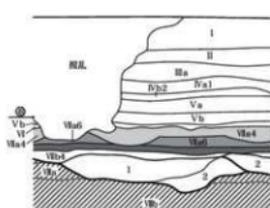
SD29・33



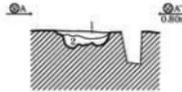
SD30



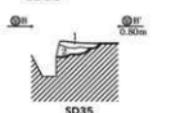
SD33



SD35



SD35



SD30

1 黄灰色粘質土 (2.5V5/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを散見含む。黒褐色粘土層がブロック状に少量認める。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5V4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む。堆山がブロック状に少量認める。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを散見含む。堆山がブロック状に少量認める。

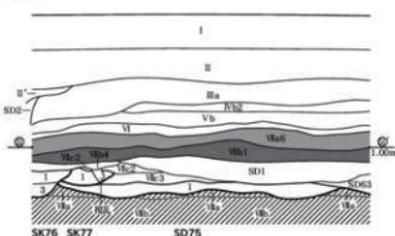
SD33

1 黄灰色粘質シルト (2.5V4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む。堆山がブロック状に少量認める。

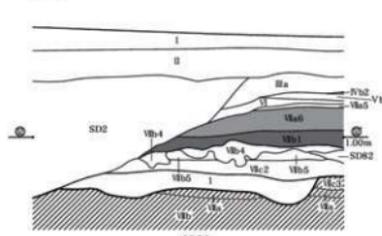
SD35

1 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む。黒褐色粘土層がブロック状に少量認める。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5V4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を散見含む。堆山がブロック状に少量認める。

SD75



SD80



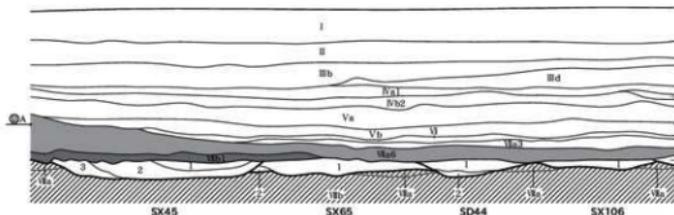
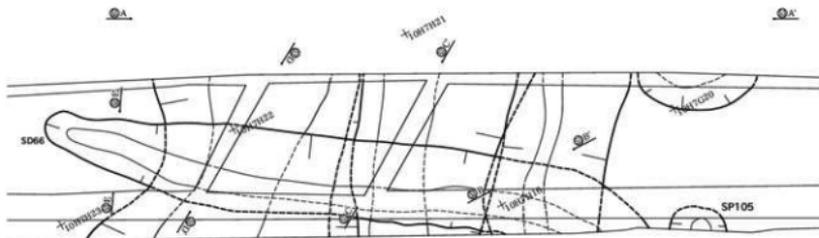
SD75

1 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒あり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを散見含む。堆山がブロック状に少量認める。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5V5/1) 粘粒あり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを散見含む。堆山がブロック状に少量認める。

SD80

1 黄灰色粘質土 (2.5V5/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを少量含む。堆山がブロック状に少量認める。

SD44・SX45・65・106



SD66・44

SD66・SX65

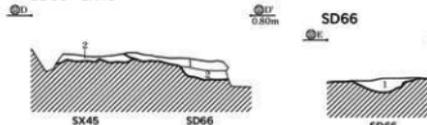
0 1:50 2m



- SD44
- 1 高灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 1~7mmを散見含む。
 - 2 高灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物がブロック状に少量散じる。
- SD66
- 1 高灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む、炭化物がブロック状に少量散じる。
 - 2 高灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物がブロック状に中量散じる。
- SX45
- 1 高灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。
 - 2 高灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む、炭化物がブロック状に中量散じる。
- SX65
- 3 高灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物がブロック状に少量散じる。
- SD66
- 1 高灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。
 - 2 高灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物がブロック状に少量散じる。
- SX106
- 1 高灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む。

SD66・SX45

SD66



SP25

SP26

SP34

SP41



SP62

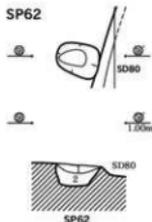
SP25

SP41

SP41

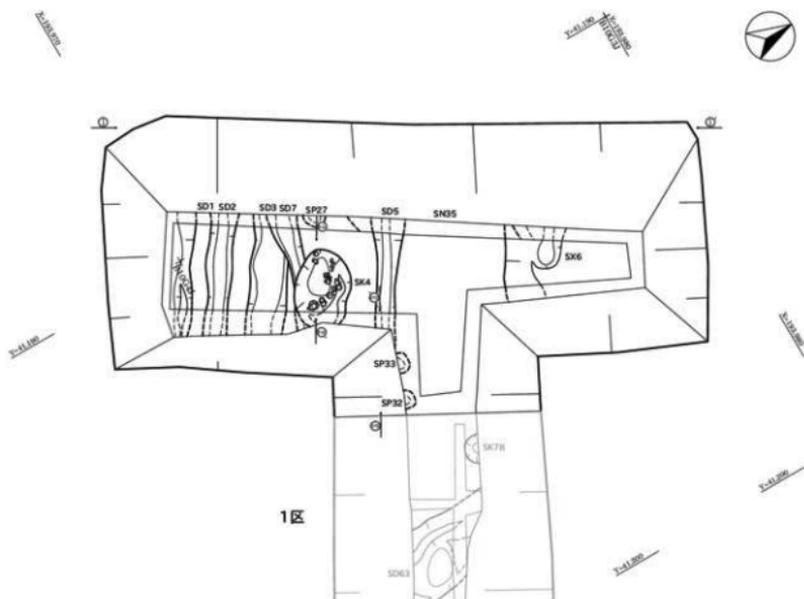
SP41

SP62

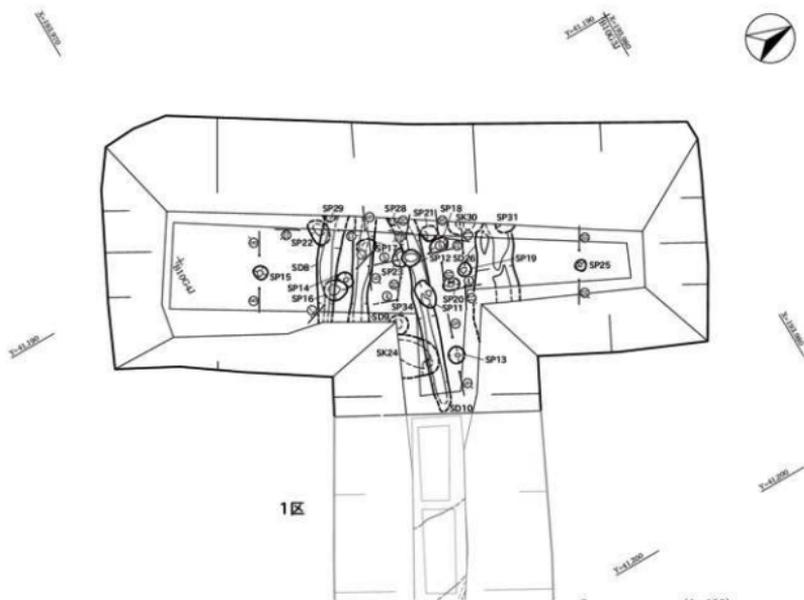


- SP25
- 1 高灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物 ϕ 2~3mmを散見含む。黒褐色粘質土、炭化物がブロック状に少量に含む。
 - 2 高灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物がブロック状に少量散じる。
- SP41
- 1 高灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物 ϕ 2~5mmを散見含む。黒褐色粘質土、炭化物がブロック状に少量に含む。
 - 2 高灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物がブロック状に少量散じる。
- SP41
- 1 高灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む、炭化物がブロック状に少量散じる。
- SP41
- 1 高灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm以下を散見含む、炭化物がブロック状に少量散じる。
- SP62
- 1 高灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm~2.5cmを散見含む、炭化物がブロック状に少量散じる。
 - 2 高灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物 ϕ 5mm~2.5cmを散見含む、炭化物がブロック状に少量散じる。

0 1:40 2m

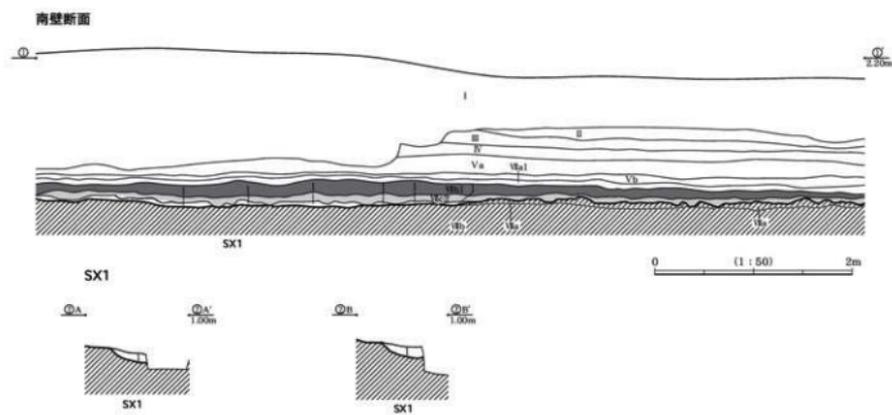
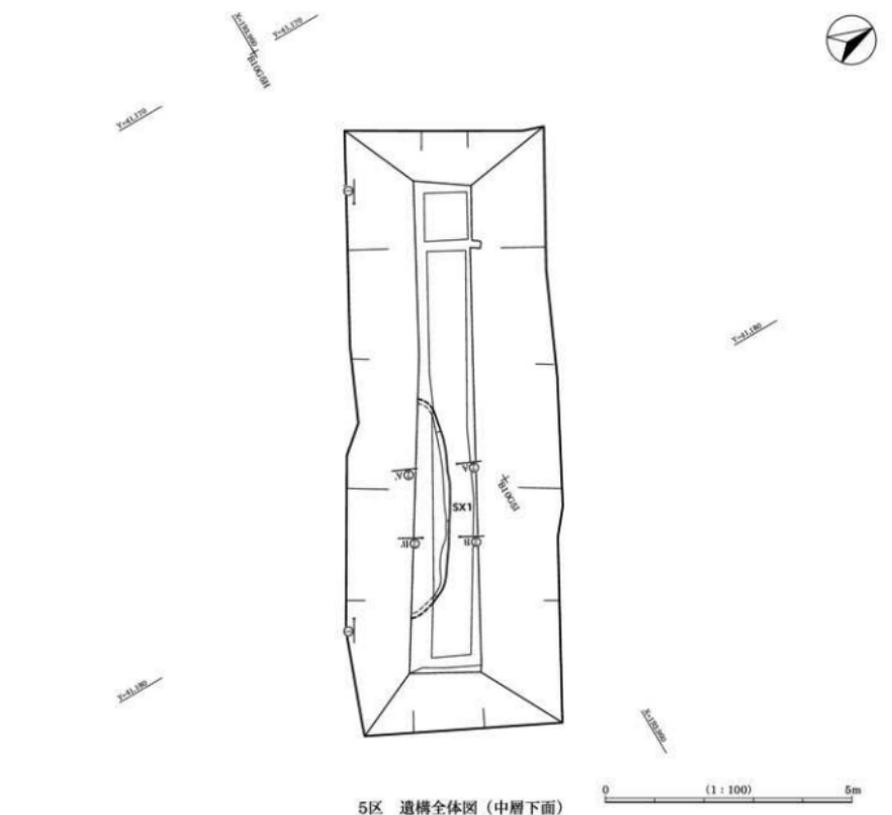


4区 遺構全体図 (上層・中層上面)



4区 遺構全体図 (中層下面)

0 (1:100) 5m



SX1 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、堆山がブロック状に少量混じる。

0 1:40 2m



2区 土師器 (上・中層)



2区 須恵器 (上・中層)



2区 土師器 (下層)



2区 須恵器 (下層)

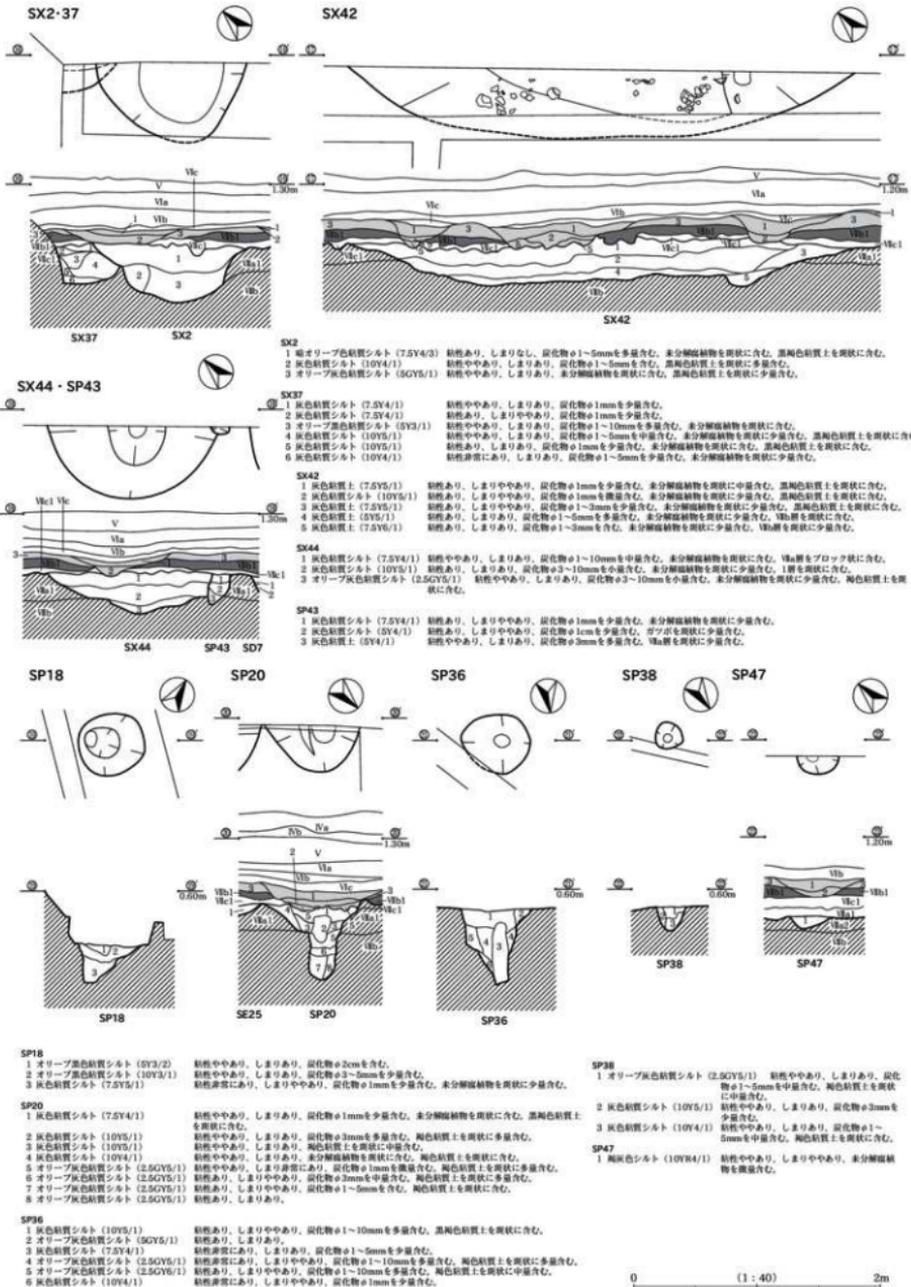
3区 土師器
(上・中層)3区 須恵器
(上・中層)

3区 土師器 (下層)

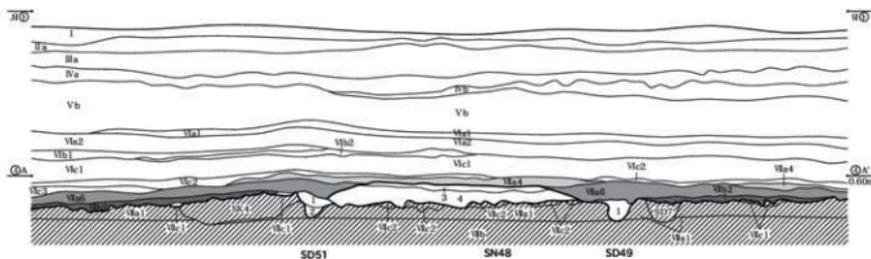
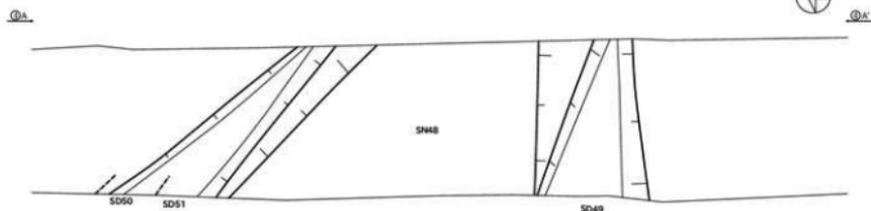
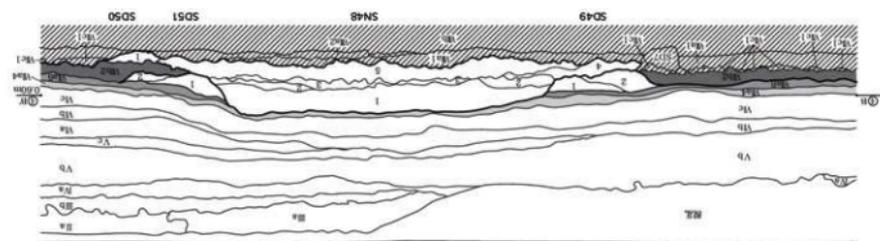


3区 須恵器 (下層)





SN48・SD49・50・51



SN48

- 1 黒褐色粘質土 (2.SY3/1) 粘性あり、しまり非密にあり、炭化物 $\phi 3\sim 20\text{mm}$ を多量含む、未分解腐植物を多量含む、Vb層をブロック状に多量含む。
- 2 黒褐色粘質土 (2.SY2/1) 粘性非密にあり、しまりあり、炭化物 $\phi 3\sim 5\text{mm}$ を中量含む、未分解腐植物を多量含む。
- 3 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性あり、しまり中やあり、炭化物 $\phi 3\sim 5\text{mm}$ を中量含む、未分解腐植物を多量含む。
- 4 灰色粘質シルト (SY4/1) 粘性中やあり、しまりあり、炭化物 $\phi 3\text{mm}$ を中量含む、未分解腐植物を中量含む。
- 5 黒色粘質シルト (SY2/1) 粘性中やあり、しまりあり、炭化物 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ を少量含む、未分解腐植物を多量含む。

SD49

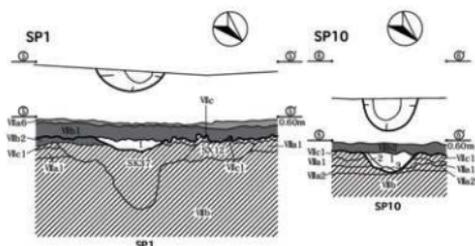
- 1 黒褐色粘質土 (2.SY3/1) 粘性非密にあり、しまり中やあり、炭化物 $\phi 3\sim 5\text{mm}$ を中量含む、未分解腐植物を中量含む。
- 2 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性非密にあり、しまりあり、炭化物 $\phi 5\sim 10\text{mm}$ を中量含む、未分解腐植物を多量含む。

SD50

- 1 灰色シルト (SY5/1) 粘性中やあり、しまりあり、炭化物 $\phi 3\sim 10\text{mm}$ を中量含む、未分解腐植物を少量含む。

SD51

- 1 黒褐色粘質土 (2.SY3/1) 粘性あり、しまり中やあり、炭化物 $\phi 3\sim 5\text{mm}$ を中量含む、未分解腐植物を中量含む。
- 2 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性非密にあり、しまり中やあり、炭化物 $\phi 5\sim 10\text{mm}$ を中量含む、未分解腐植物を多量含む。



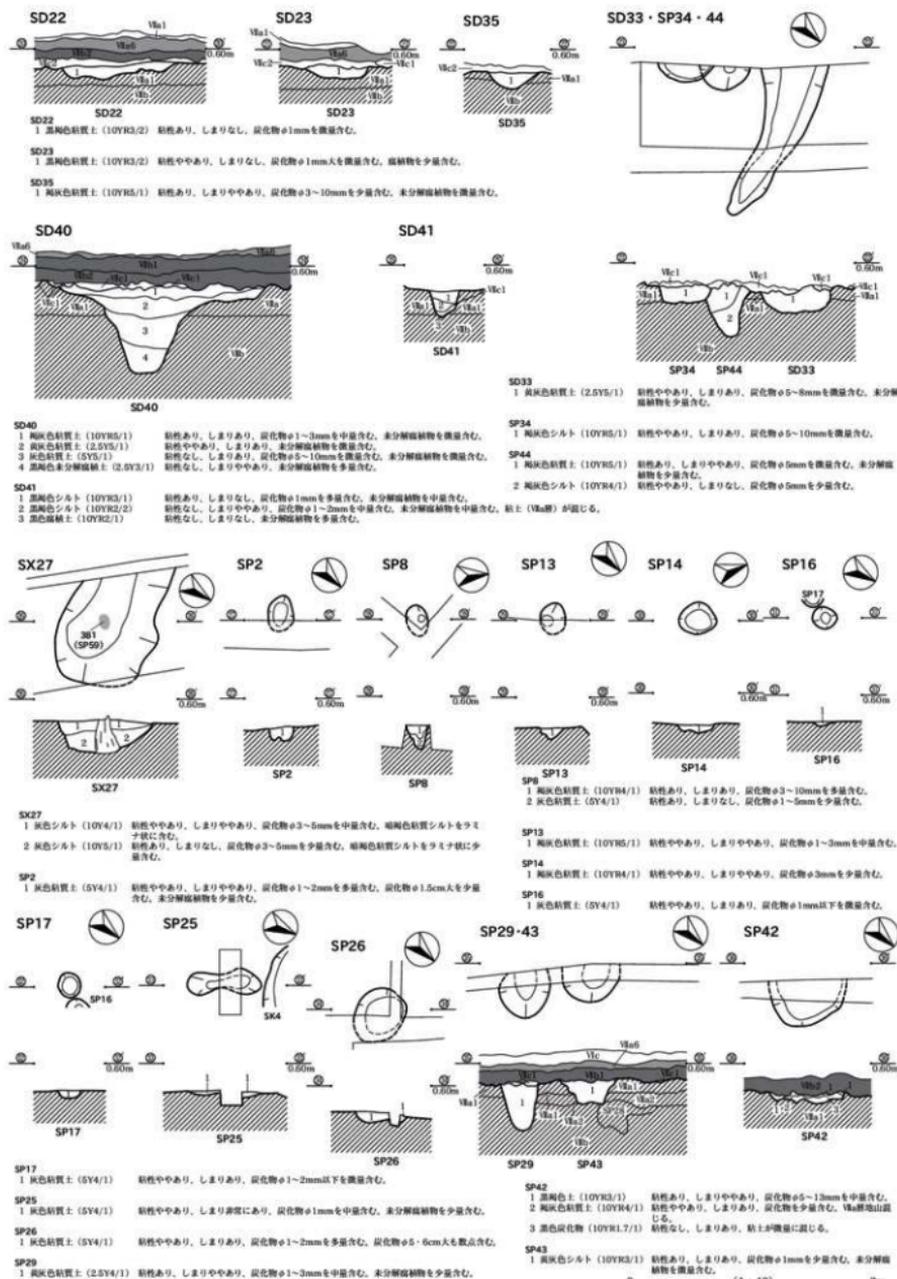
SP1

- 1 暗灰褐色粘質土 (2.SY4/2) 炭化物 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ を微量含む、未分解腐植物を中量含む、堀山をラミナ状に含む。

SP10

- 1 黒色粘質シルト (2.SY2/1) 粘性非密にあり、しまりなし、未分解腐植物を微量に含む。
- 2 オリーブ黒色粘質シルト (SY3/1) 粘性非密にあり、しまりなし、炭化物 $\phi 3\text{mm}$ を微量含む、堀山を塊状に含む。
- 3 暗オリーブ灰色粘質シルト (2.SY7/1) 粘性非密にあり、しまりなし、炭化物 $\phi 3\text{mm}$ を微量含む、2層をラミナ状に含む。

0 (1:40) 2m



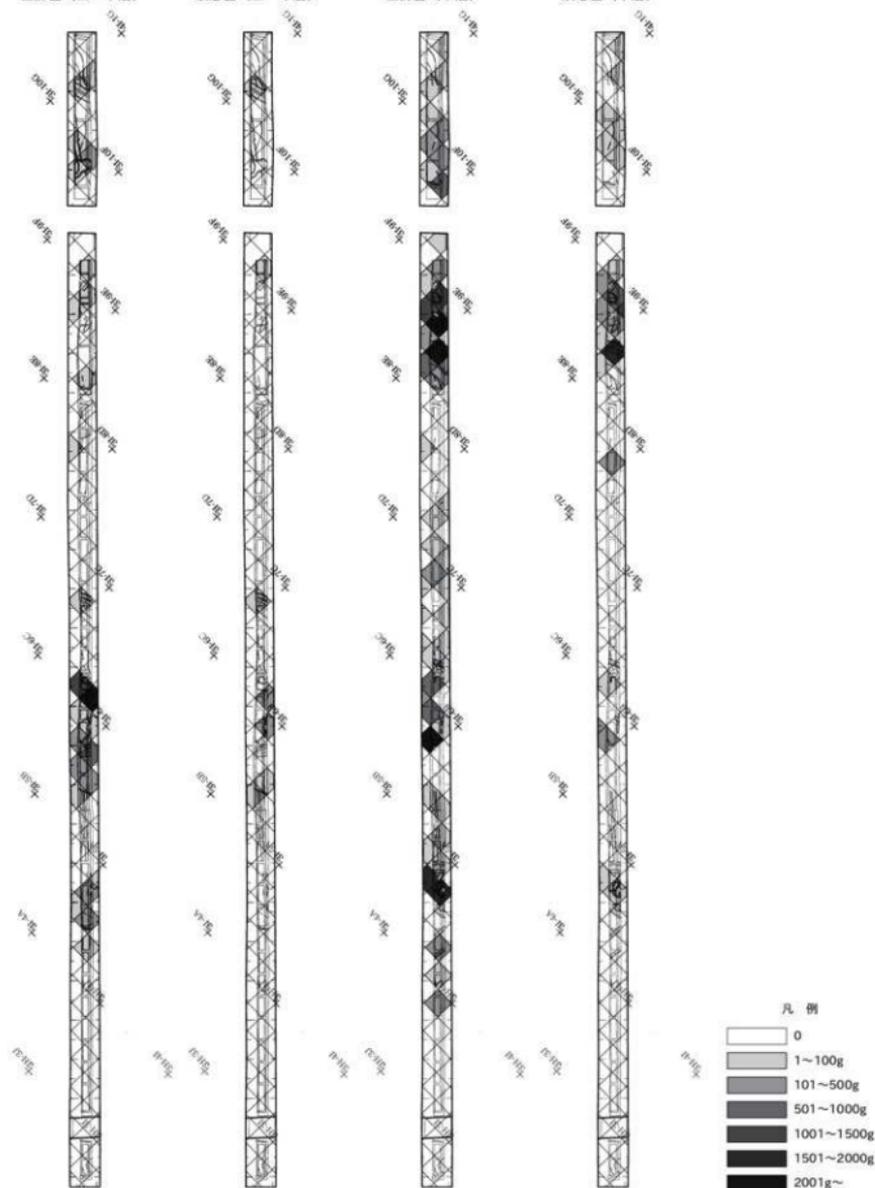


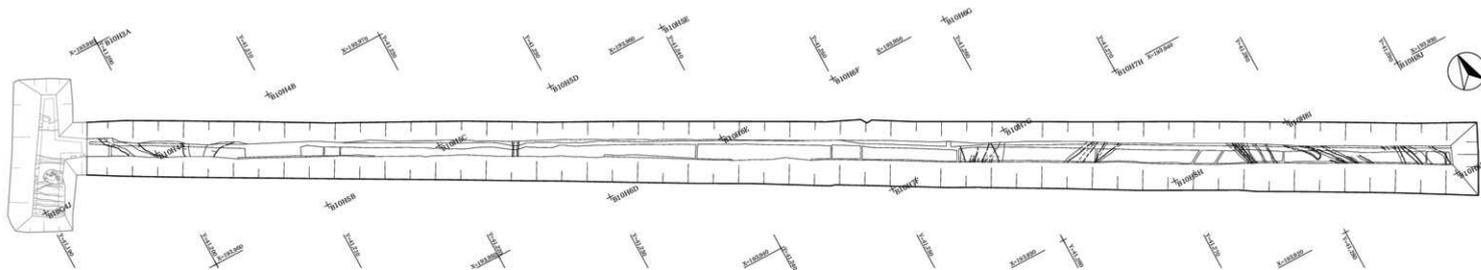
土師器 (上・中層)

須恵器 (上・中層)

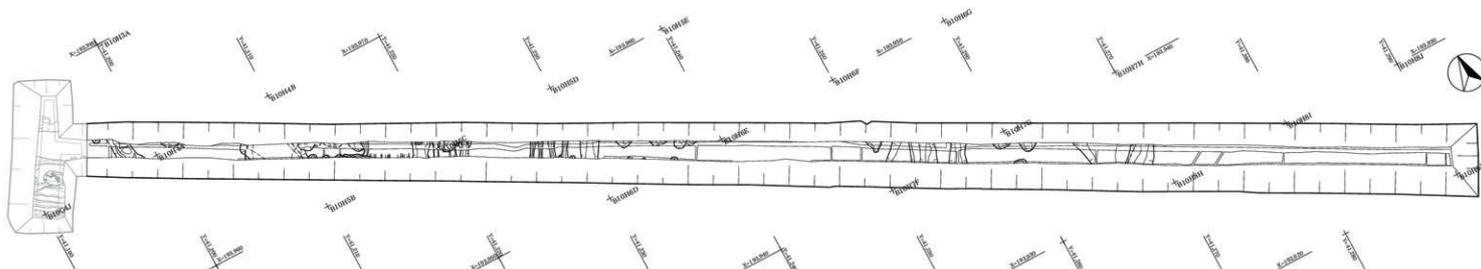
土師器 (下層)

須恵器 (下層)

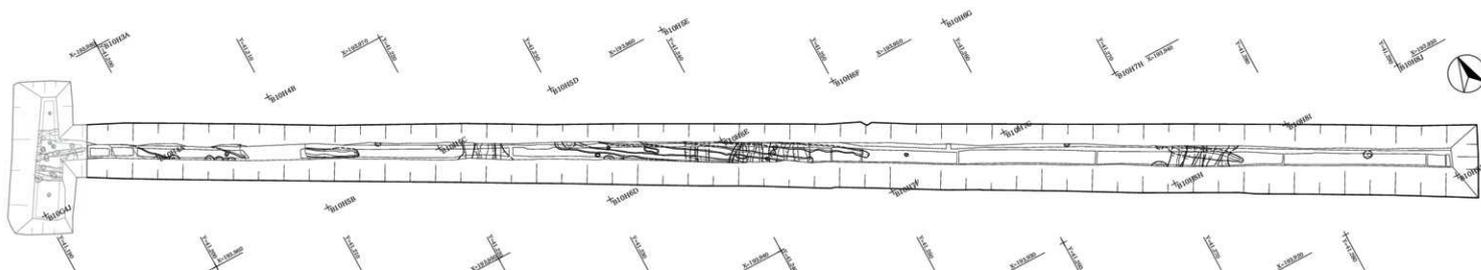




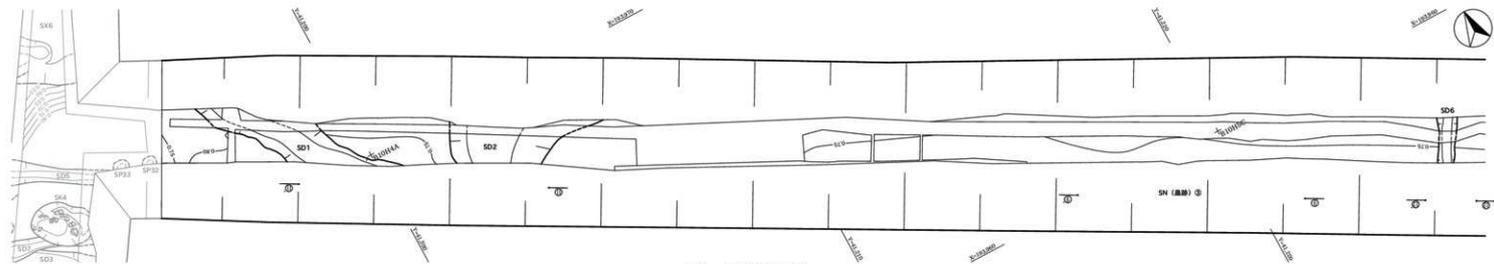
1区 遺構全体図 上層



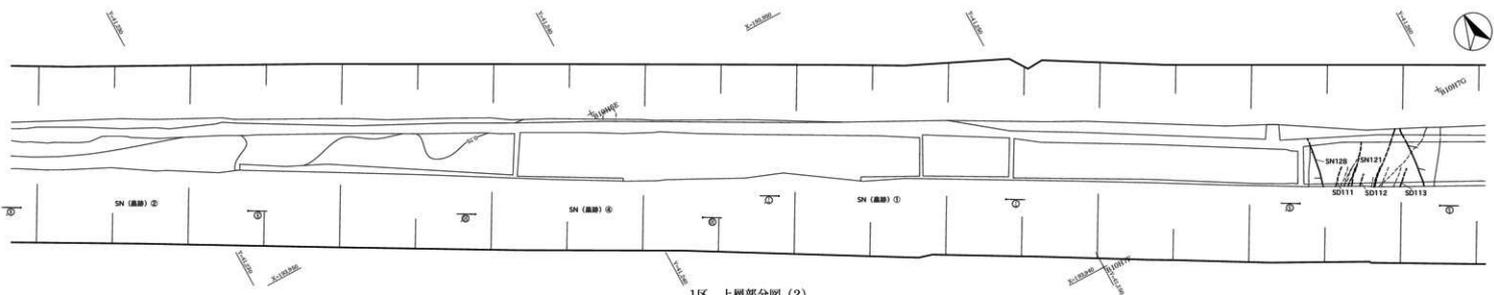
1区 遺構全体図 中層上面



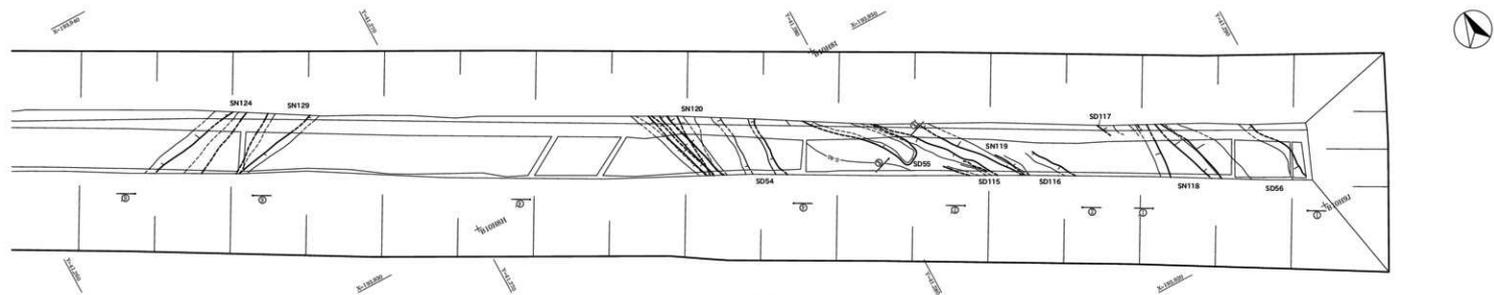
1区 遺構全体図 中層下面



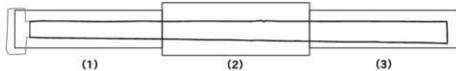
1区 上層部分図 (1)

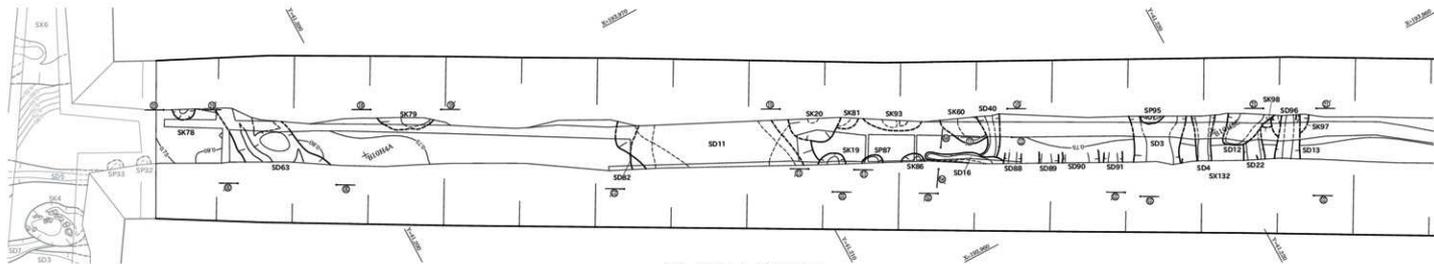


1区 上層部分図 (2)

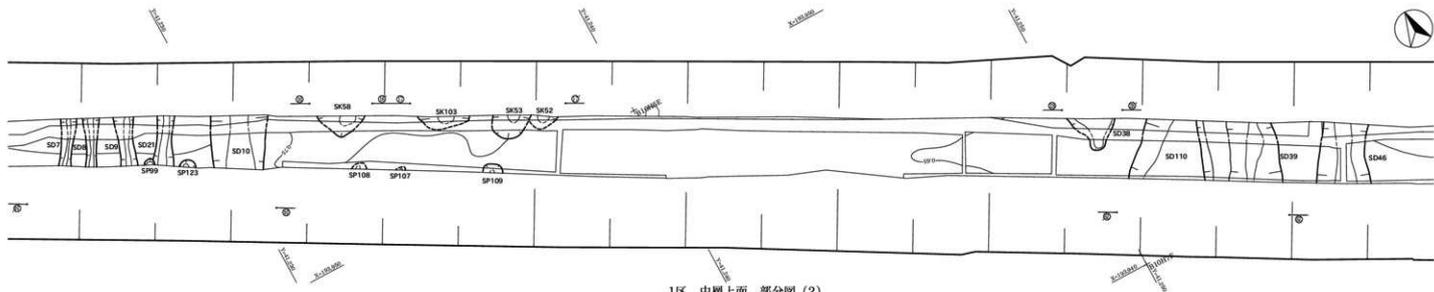


1区 上層部分図 (3)

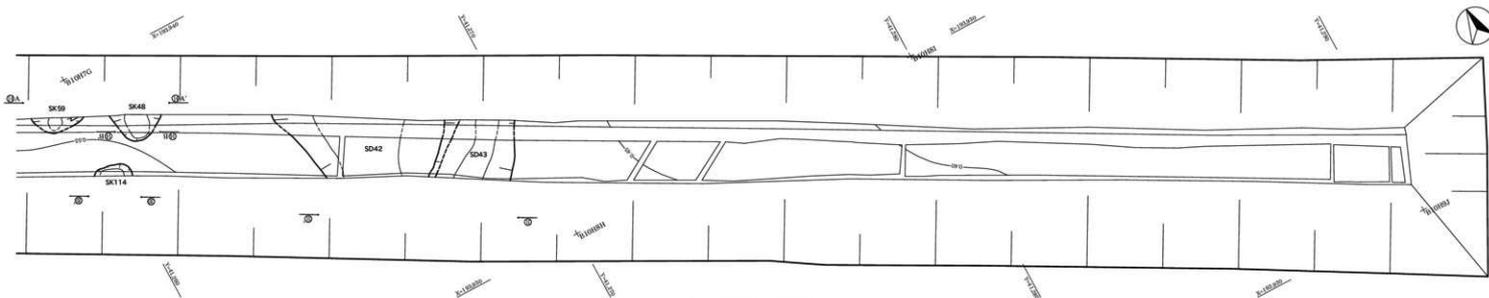




1区 中層上面 部分図 (1)

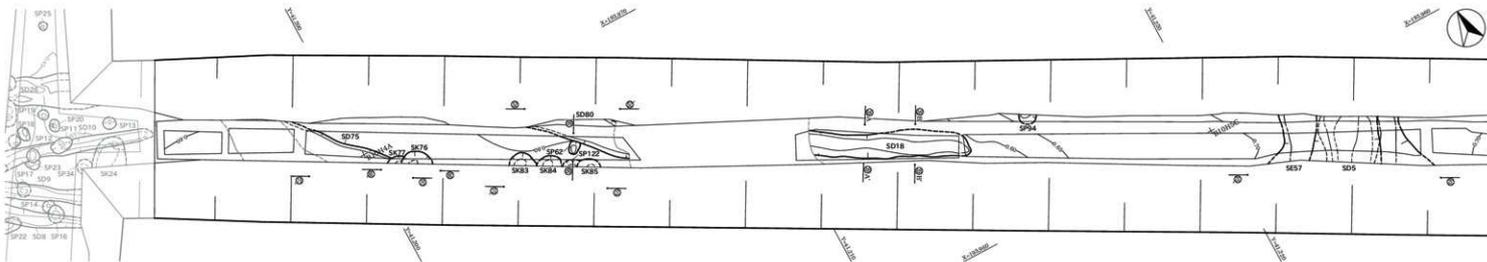


1区 中層上面 部分図 (2)

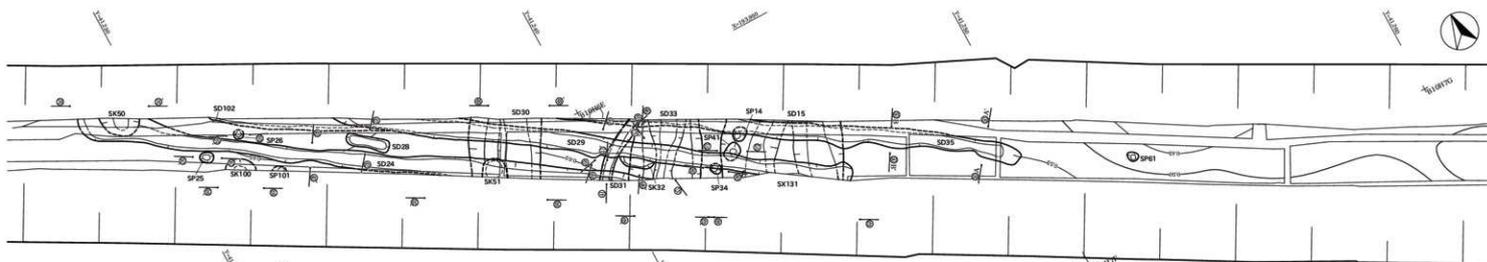


1区 中層上面 部分図 (3)

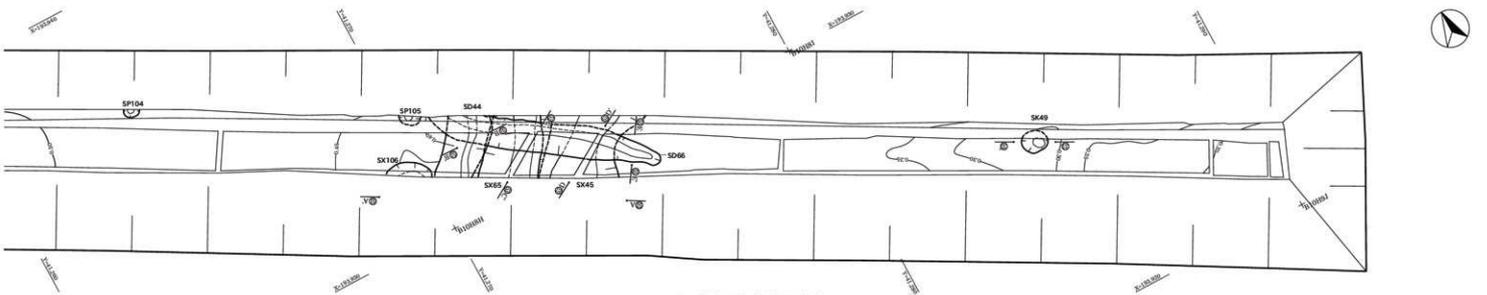




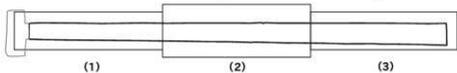
1区 中層下面 部分図 (1)

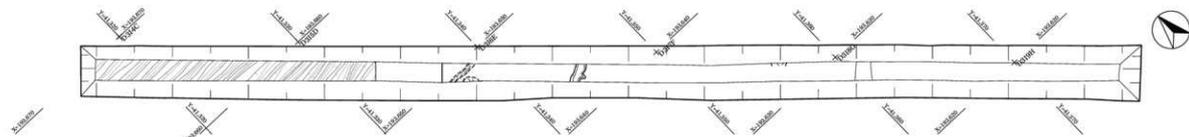


1区 中層下面 部分図 (2)

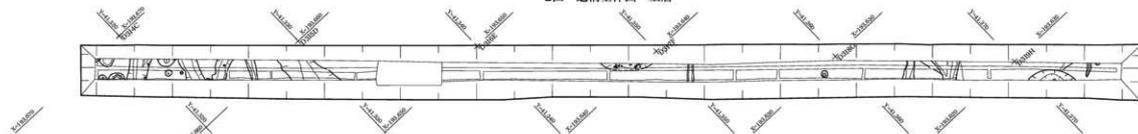


1区 中層下面 部分図 (3)

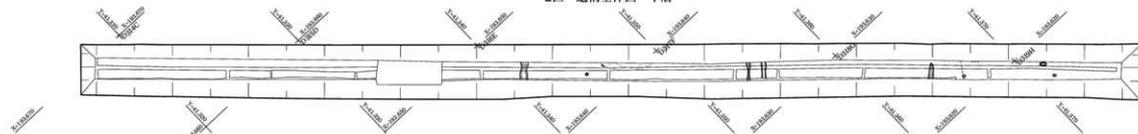




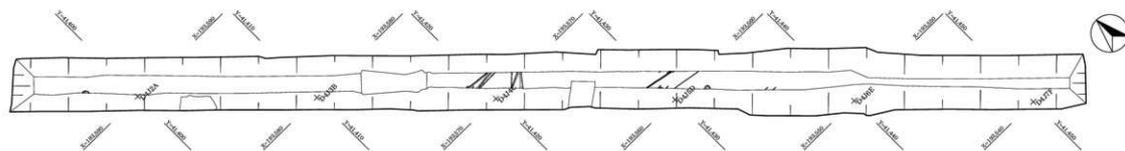
2区 遺構全体図 上層



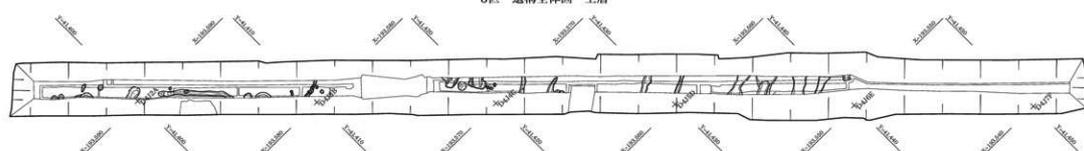
2区 遺構全体図 中層



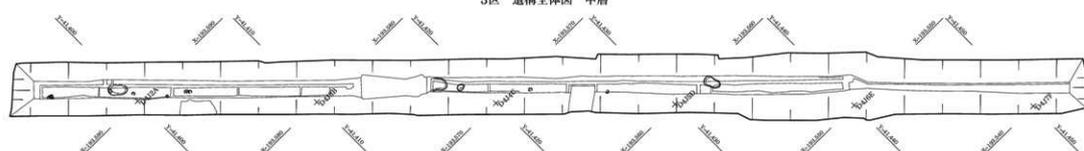
2区 遺構全体図 下層



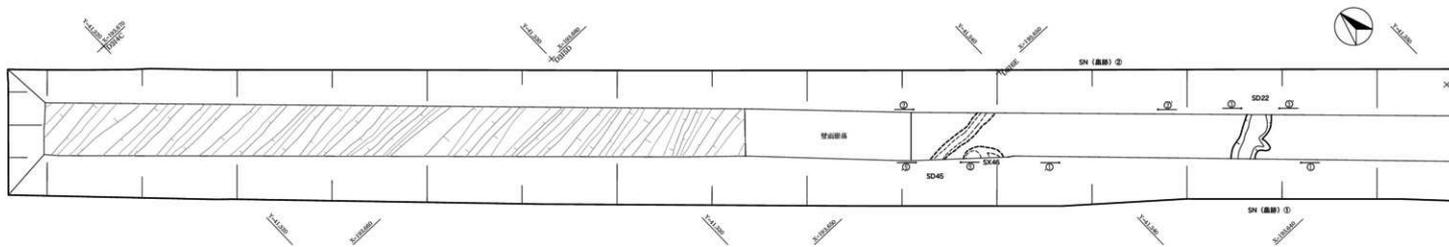
3区 遺構全体図 上層



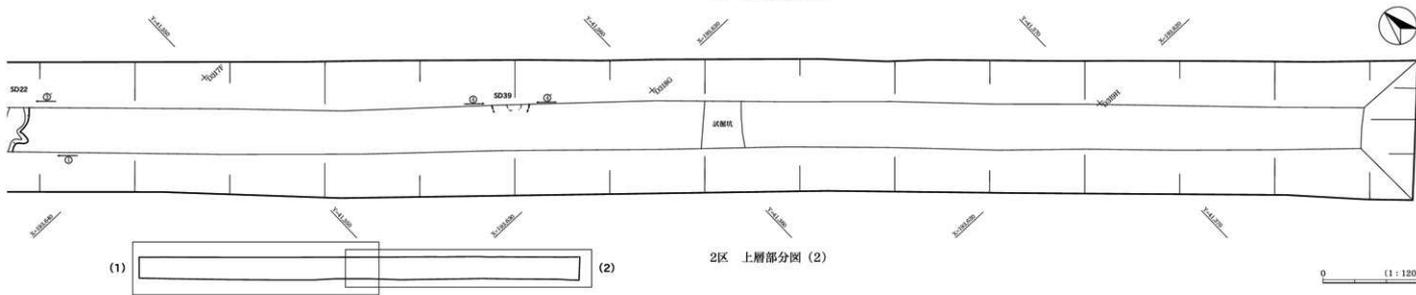
3区 遺構全体図 中層



3区 遺構全体図 下層

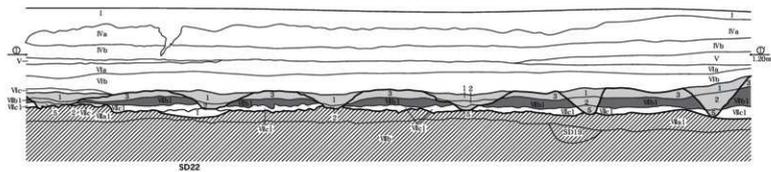


2区 上層部分図 (1)

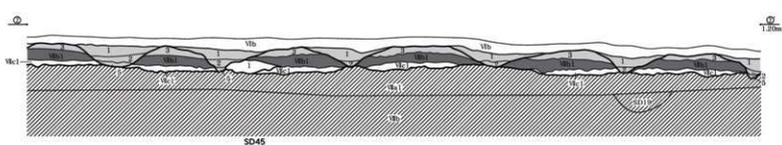


2区 上層部分図 (2)

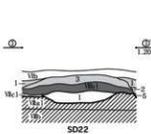
SN (遺跡) ①



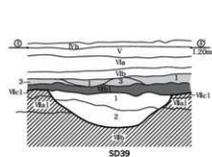
SN (遺跡) ②



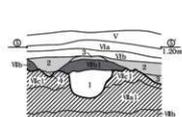
SD22



SD39



SD45



SN

1 黒灰黄色土質 (2.0Y4/2) 粘状土質にあり、しりりなし。高へ行くほど黒色化する。

2 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

3 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

4 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

5 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

6 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

7 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

8 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

9 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

10 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

11 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

12 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

13 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

14 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

15 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

16 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

17 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

18 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

19 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

20 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

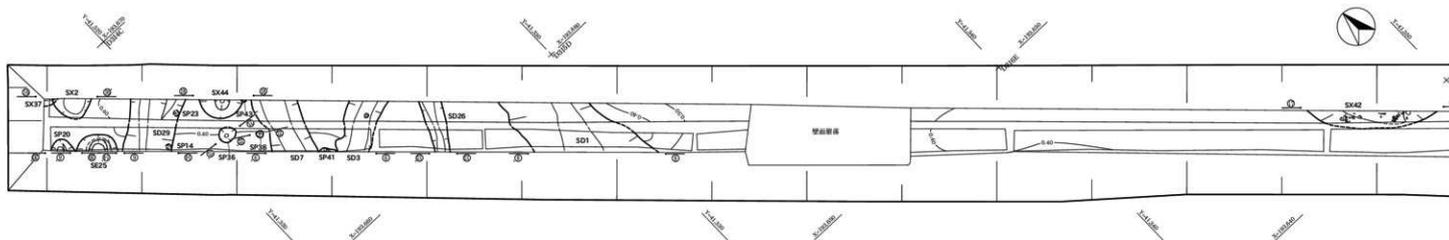
21 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

22 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

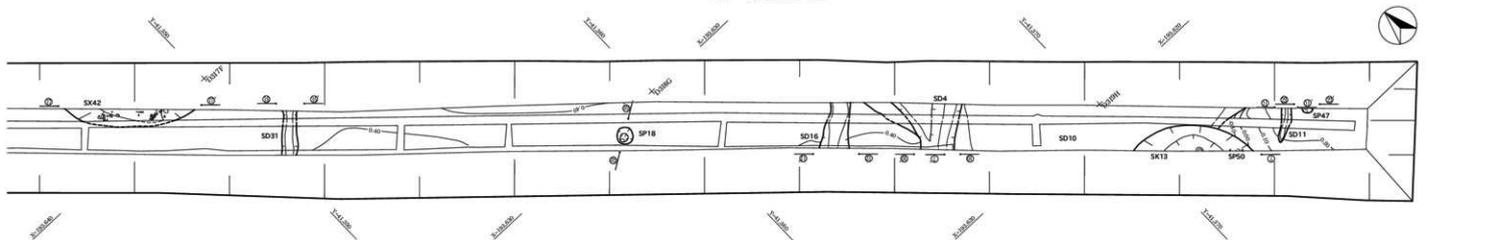
23 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

24 黒色粘状土 (N1.5/0) 粘状土質にあり、しりりあり。高へ行くほど黒色化する。

0 (1:40) 2m

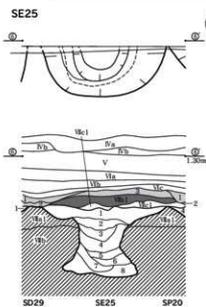


2区 中層部分図(1)

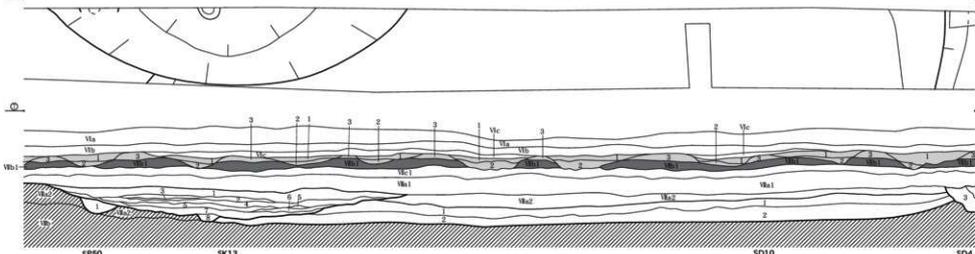


2区 中層部分図(2)

0 (1:120) 5m



SK13・SD10・SP50



SE25

- 1 赤褐色土質粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~5mmを散在、炭粉層粘り土を散在に含む。
- 2 赤褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~5mmを散在、炭粉層粘り土を散在に含む。
- 3 赤褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 5mmを散在、炭粉層粘り土を散在に含む。
- 4 赤褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 5mmを散在、炭粉層粘り土を散在に含む。
- 5 赤褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 5mmを散在、炭粉層粘り土を散在に含む。
- 6 赤褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 5mmを散在、炭粉層粘り土を散在に含む。
- 7 赤褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 5mmを散在、炭粉層粘り土を散在に含む。
- 8 赤褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 5mmを散在、炭粉層粘り土を散在に含む。

SK13

- 1 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りなし、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~3mmを中散在。
- 2 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘り中中多あり、炭化物 ϕ 1~3mmを中散在。
- 3 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りなし、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~3mmを中散在。
- 4 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りなし、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~3mmを中散在。
- 5 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りなし、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~3mmを中散在。
- 6 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りなし、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~3mmを中散在。
- 7 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りなし、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~3mmを中散在。
- 8 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りなし、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~3mmを中散在。

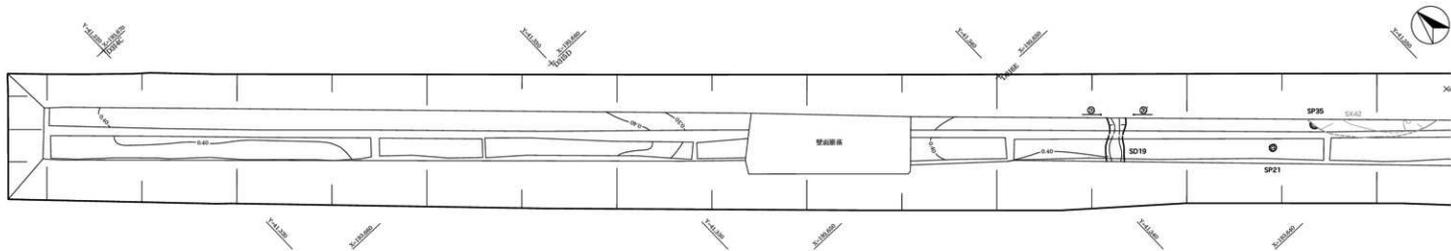
SD10

- 1 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~2mmを多散在、炭粉層粘り土を散在に含む。
- 2 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘り中中多あり、炭化物 ϕ 1~2mmを多散在、炭粉層粘り土を散在に含む。

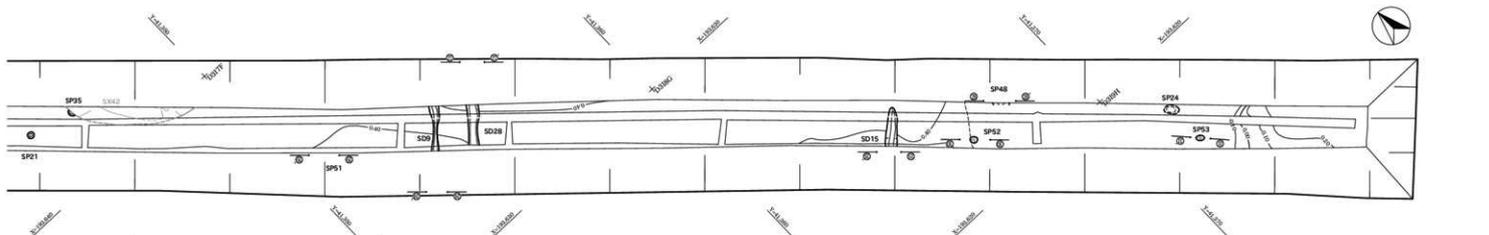
SP50

- 1 黒褐色粘り少土 (10YR4/1) 粘りあり、土量中中多あり、炭化物 ϕ 1~2mmを多散在、炭粉層粘り土を散在に含む。

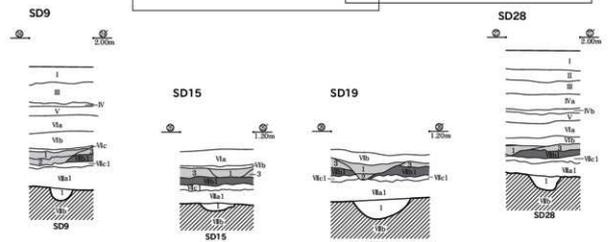
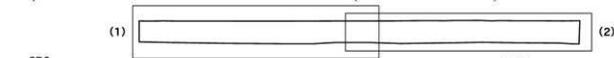
0 (1:40) 2m



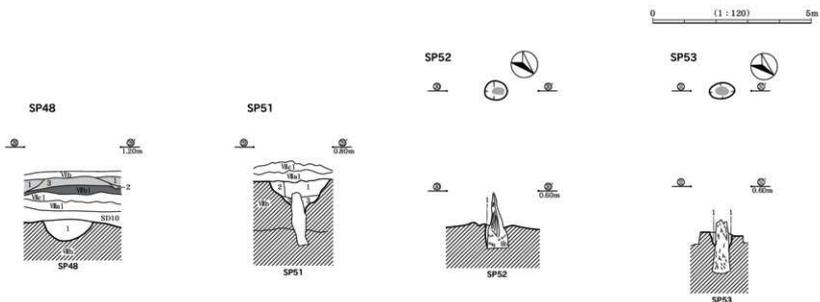
2区 下層部分図 (1)



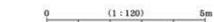
2区 下層部分図 (2)

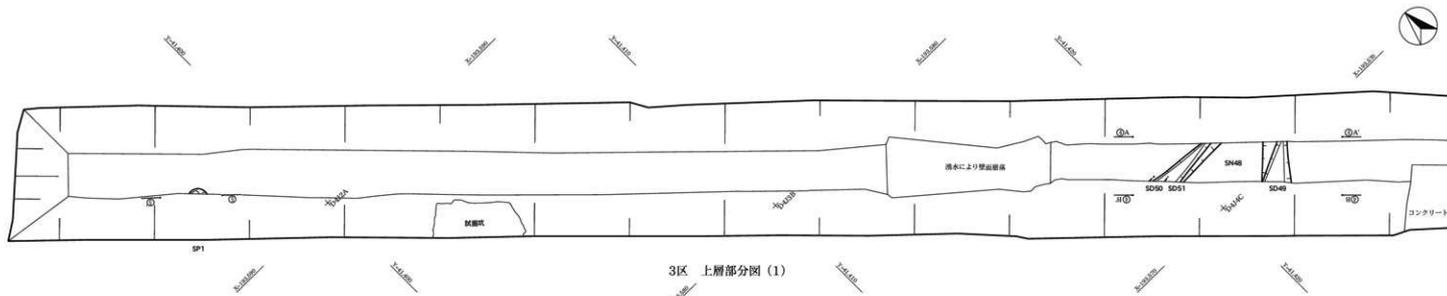


- SD9
1 黄灰色シルト (Z.2/S.1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを少量含む、堆山を含む。
- SD15
1 黄灰色粘土 (10YR4/1) 粘粒非常にあり、しまりややあり、炭化物φ3~2mmを少量含む、未分解腐植物を中量含む。
- SD19
1 黄灰色シルト (5Y5/1) 粘粒ややあり、しまりあり。
- SD28
1 黄灰色粘土 (Z.2/S.1) 粘粒ややあり、しまりややあり。
- SP48
1 黄灰色シルト (5Y4/1) 粘粒ややあり、しまりあり、未分解腐植物を微量含む。

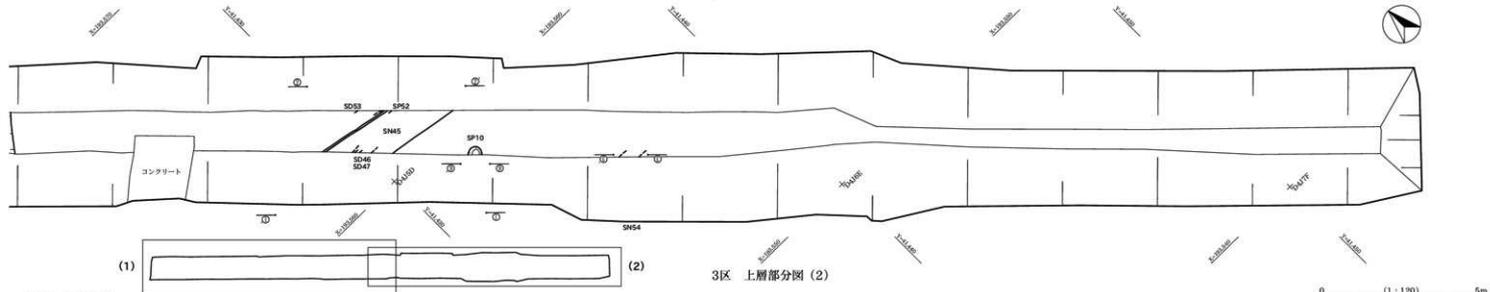


- SP51
1 黄灰色粘土 (5YR5/1) 粘粒ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。
2 黄灰色シルト (Z.2/S.1) 粘粒ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを少量含む、未分解腐植物を少量含む、堆山を含む。
3 黄灰色シルト (Z.2/S.1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物φ1~2mmを含む、未分解腐植物を少量含む、堆山を含む。
- SP52
1 黄灰色シルト (Z.2/S.1) 粘粒ややあり、しまりあり、炭化物φ5~10mmを少量含む、未分解腐植物を微量含む。
- SP53
1 濃褐色粘質土 (10YR2/1) 粘粒ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~15mmを少量含む、未分解腐植物を微量含む。



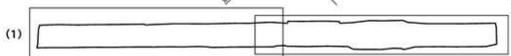


3区 上層部分図 (1)



3区 上層部分図 (2)

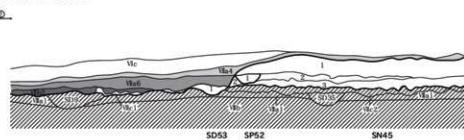
SN45・SD46・47



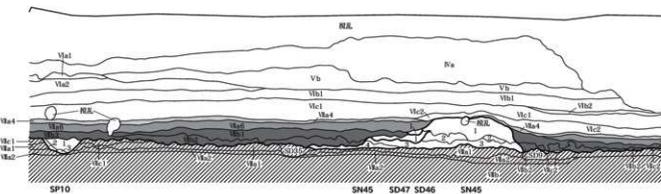
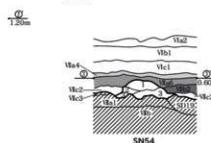
0 (1:120) 5m

0 2.5m

SN45・SD53・SP52



SN54

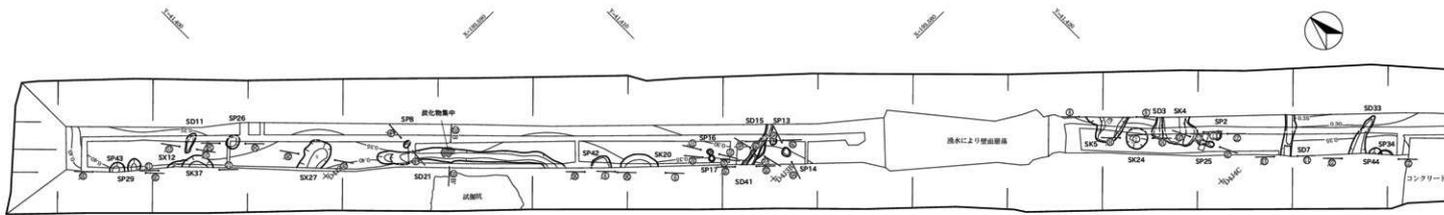


- SD46
1 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物0.3~5mmを中層含む、未分解腐植物を多数含む。
- SD47
1 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性非常にあり、しまりあり、炭化物0.3~5mmを中層含む、未分解腐植物を多数含む。
- SD53
1 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物0.3~5mmを中層含む、未分解腐植物を多数含む。
- SP52
1 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物0.3~5mmを中層含む、未分解腐植物を多数含む。

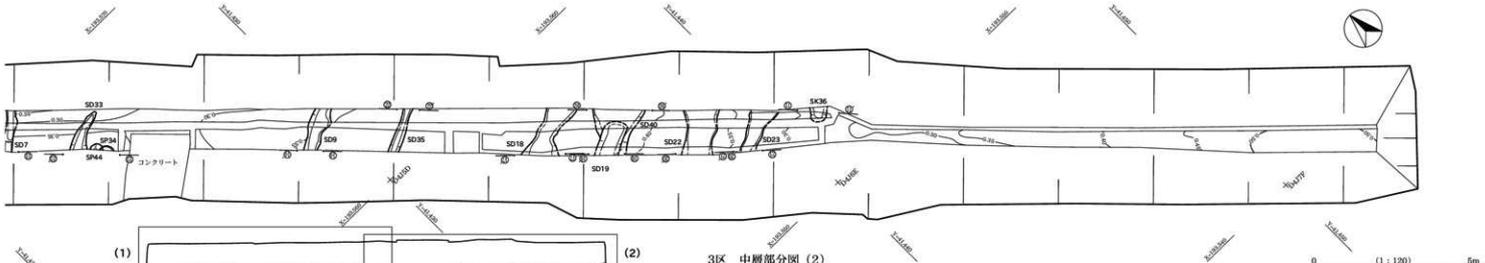
- SN45
1 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性あり、しまり非常にあり、炭化物0.3~20mmを多数含む、未分解腐植物を多数含む、M扉をブロック状に多数含む。
2 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物0.3~5mmを中層含む、未分解腐植物を多数含む。
3 灰色粘質土 (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物0.3~5mmを中層含む、未分解腐植物を多数含む。
4 灰色粘質土 (2.SY2/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物0.3~5mmを中層含む、未分解腐植物を多数含む。

- SN54
1 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物0.3~20mmを多数含む、未分解腐植物を多数含む、M扉をブロック状に多数含む。
2 黒色粘質土 (2.SY2/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物0.3~5mmを中層含む、未分解腐植物を多数含む。
3 灰色粘質土 (2.SY4/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物0.3~5mmを中層含む、未分解腐植物を多数含む。

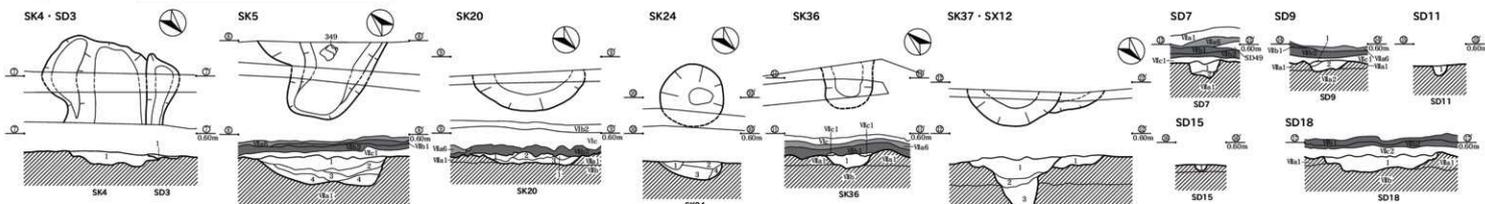
0 (1:40) 2m



3区 中層部分図 (1)



3区 中層部分図 (2)



SK4

1 褐色粘質シルト (10YR4/1) 粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が1~1.5mmを多数含む。

SD3

1 褐色シルト (2.5Y4/1) 粘粒なし、しまり非常にあり、炭化物が10mmを多数含む、黒褐色シルト層状に含む。

SK5

1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘粒なし、しまり中であり、炭化物が1~20mmを多数含む。

2 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が1~5mmを多数含む。褐色シルトをラミナ状に少量含む。本分解離層物を少量含む。

3 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘粒あり、しまり中であり、炭化物が1~5mmを多数含む。褐色シルトをラミナ状に少量含む。

4 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘粒なし、しまりあり、炭化物が1~20mmを多数含む。本分解離層物を少量含む。

SK20

1 褐色土 (10YR5/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物が1~3mmを少量含む。

2 褐色土 (2.5Y5/1) 粘粒なし、しまり中であり、炭化物が1mmを多数含む。

3 褐色土 (10YR5/1) 粘粒中であり、しまりあり、炭化物が1mmを多数含む。

SK24

1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物が1.5~3mmを多数含む。褐色シルトを層状に含む。

2 黒褐色粘土 (10YR4/1) 粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が10mm~20mmを多数含む。本分解離層物を多数含む。

3 褐色粘土 (10YR4/1) 粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が1~5mmを少量含む。本分解離層物を少量含む。

4 褐色粘土 (10YR5/1) 粘粒あり、しまり中であり、炭化物が1~2mmを多数含む。本分解離層物を多数含む。

SK36

1 灰色粘土 (5Y5/1) 粘粒あり、しまりあり、炭化物が1~5mmを少量含む。

SK37

1 褐色粘土 (10YR5/1) 粘粒あり、しまり中であり、炭化物が1~5mmを少量含む。本分解離層物を中量含む。

2 褐色粘土 (5Y5/1) 粘粒あり、しまり中であり、本分解離層物を少量含む。

3 褐色粘土 (10YR4/1) 粘粒中であり、しまり中であり、本分解離層物を少量含む。

SK12

1 褐色粘質シルト (5Y5/1) 粘粒中であり、しまりあり、炭化物が1mmを多数含む。本分解離層物を多数含む。

SD7

1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘粒中であり、しまりあり、炭化物が1~5mmを少量含む。褐色粘質シルトをラミナ状に含む。

2 オリーブ褐色シルト (7.5Y3/1) 粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が1mmを少量含む。

SD9

1 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) 粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が1~3mmを少量含む。褐色粘質シルトをラミナ状に含む。

2 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘粒中であり、しまりなし、炭化物が1~3mmを少量含む。褐色粘質シルトをラミナ状に含む。

SD11

1 オリーブ褐色粘質シルト (7.5Y3/1) 粘粒非常にあり、しまりなし、炭化物が5mmを少量含む。炭化をラミナ状に含む。

SD15

1 褐色粘土 (2.5Y4/1) 粘粒あり、しまり中であり、炭化物が1mm以下を多数含む。本分解離層物を多数含む。

SD18

1 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘粒非常にあり、しまりなし、炭化物が1~3mmを多数含む。本分解離層物を少量含む。

SD19

1 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘粒あり、しまりなし、炭化物が1mmを多数含む。本分解離層物を中量含む。

SD21

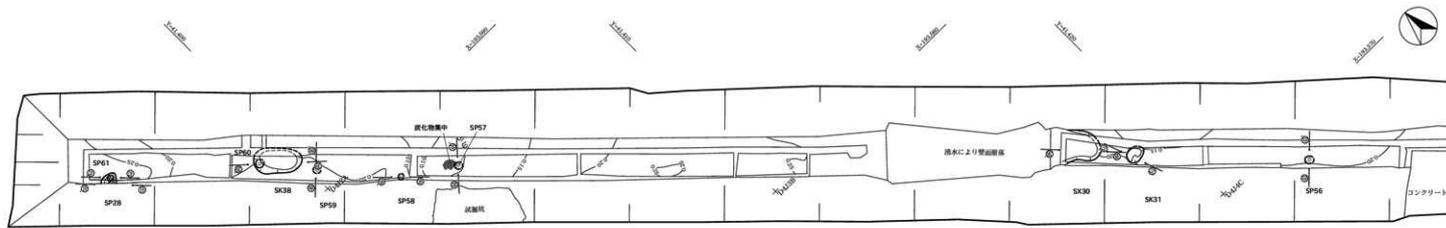
1 粘ターフ褐色シルト (2.5Y4/1) 粘粒中であり、しまりあり、炭化物が1~5mmを多数含む。

2 粘質シルト (5Y4/1) 粘粒中であり、しまり中であり、炭化物が1~5mmを少量含む。褐色粘質シルトをラミナ状に少量含む。

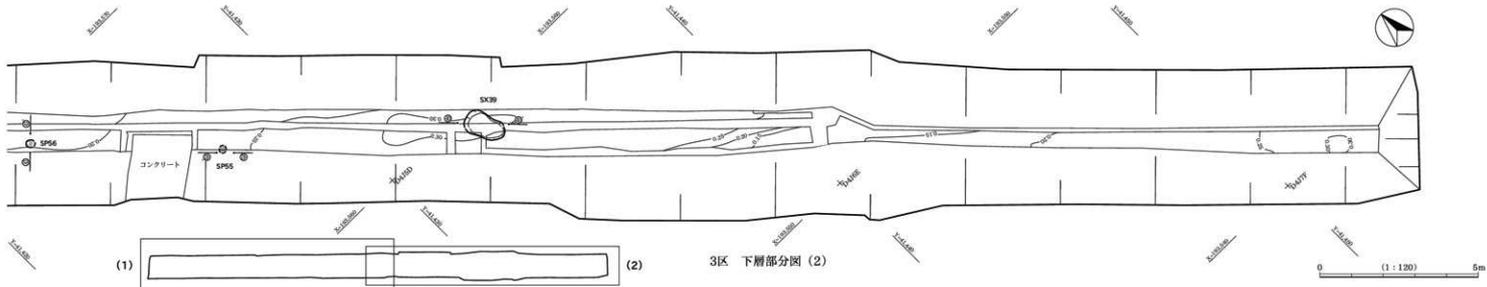
3 オリーブ褐色シルト (2.5Y5/1) 粘粒あり、しまり中であり、炭化物が1mmを少量含む。褐色粘質シルトをラミナ状に少量含む。

0

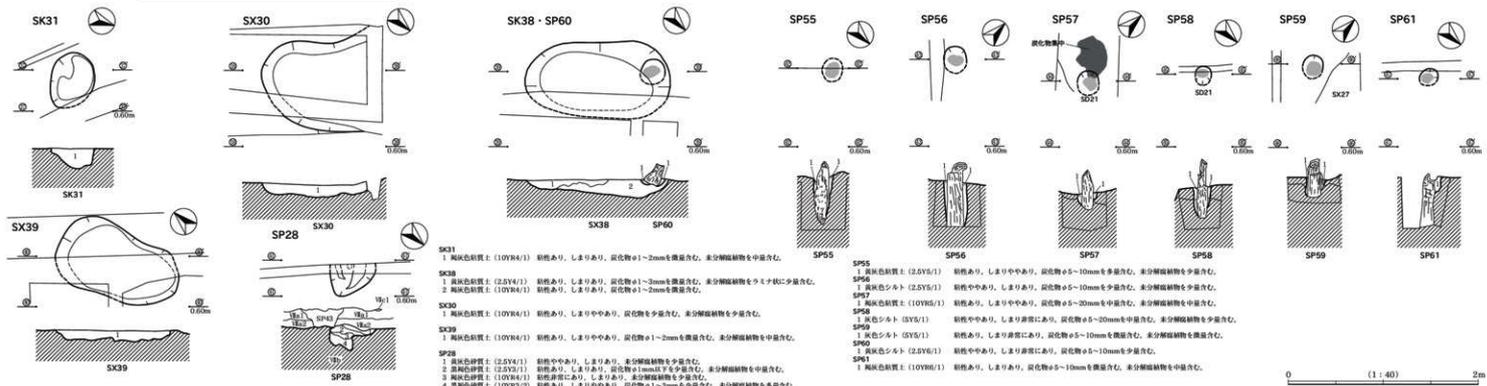
(1 : 40) 2m



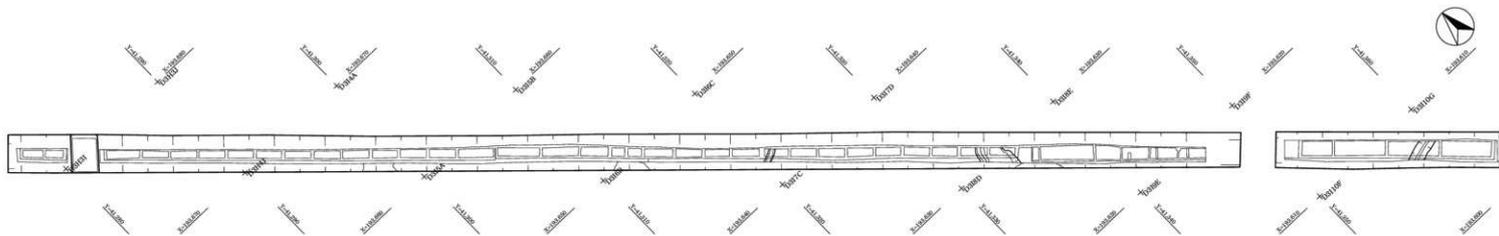
3区 下層部分図 (1)



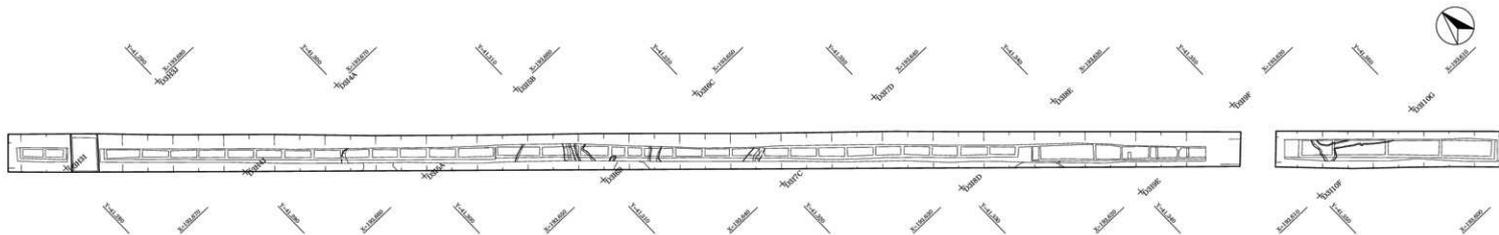
3区 下層部分図 (2)



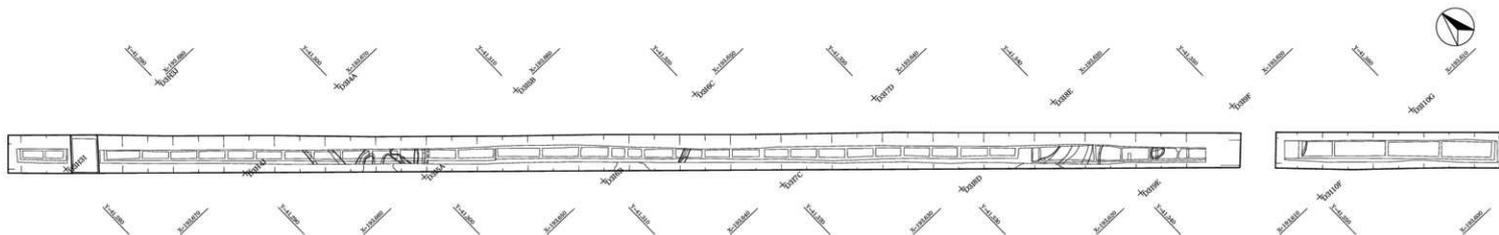
- SK31 1 褐色土 (10YR4/1) 粘りあり、しまりあり、炭化物φ1~2mmを散見含む。未分解磁鉄物を中量含む。
- SK38 1 褐色土 (2.5Y4/1) 粘りあり、しまりあり、炭化物φ1~2mmを散見含む。未分解磁鉄物を少量含む。
- 2 褐色土 (10YR4/1) 粘りあり、しまりあり、炭化物φ1~2mmを散見含む。
- SK39 1 褐色土 (10YR4/1) 粘りあり、しまり中やあり、炭化物を少量含む。未分解磁鉄物を少量含む。
- 2 褐色土 (10YR4/1) 粘りあり、しまり中やあり、炭化物φ1~2mmを散見含む。未分解磁鉄物を中量含む。
- SP28 1 褐色土 (2.5Y4/1) 粘り中やあり、しまりあり、未分解磁鉄物を少量含む。
- 2 褐色土 (2.5Y2/1) 粘りあり、しまりあり、炭化物1mm以下を少量含む。未分解磁鉄物を中量含む。
- 3 褐色土 (10YR4/1) 粘り中やあり、しまりあり、未分解磁鉄物を少量含む。
- 4 褐色土 (10YR5/2) 粘りあり、しまり中やあり、炭化物φ1~2mmを少量含む。未分解磁鉄物を多量含む。
- SP55 1 褐色土 (2.5Y5/1) 粘り中やあり、しまり中やあり、炭化物φ5~10mmを多量含む。未分解磁鉄物を少量含む。
- SP56 1 褐色シルト (2.5Y5/1) 粘り中やあり、しまり中やあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。未分解磁鉄物を少量含む。
- 2 褐色土 (10YR5/1) 粘り中やあり、しまり中やあり、炭化物φ5~20mmを中量含む。未分解磁鉄物を中量含む。
- SP57 1 褐色シルト (5Y5/1) 粘り中やあり、しまり中やあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。未分解磁鉄物を少量含む。
- 2 褐色シルト (5Y5/1) 粘り中やあり、しまり中やあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。未分解磁鉄物を少量含む。
- SP58 1 褐色土 (2.5Y6/1) 粘り中やあり、しまり中やあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。
- 2 褐色土 (10YR6/1) 粘り中やあり、しまり中やあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。未分解磁鉄物を中量含む。
- SP59 1 褐色土 (10YR6/1) 粘り中やあり、しまり中やあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。未分解磁鉄物を少量含む。
- SP61 1 褐色土 (10YR6/1) 粘り中やあり、しまり中やあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。未分解磁鉄物を少量含む。



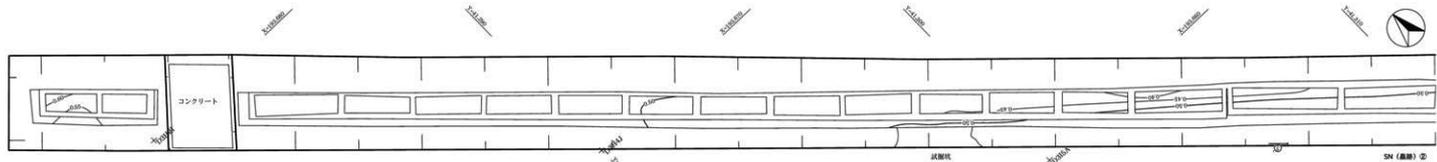
遺構全体図 上層



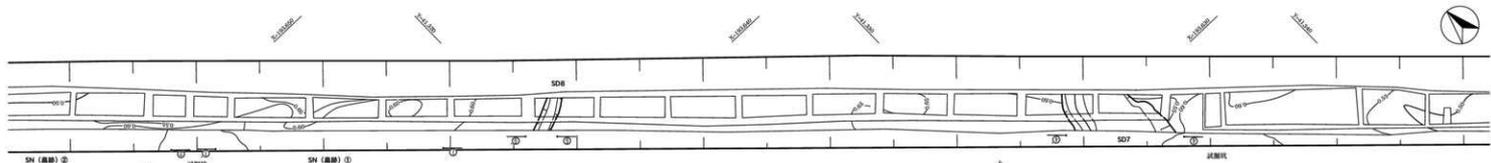
遺構全体図 中層



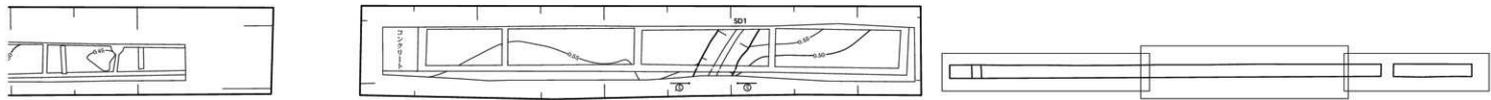
遺構全体図 下層



第6次調査区 上層部分図 (1)

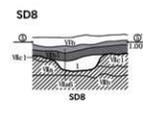
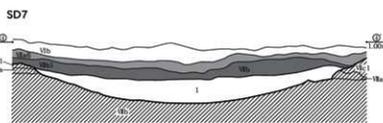
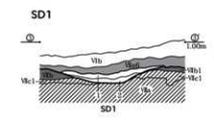
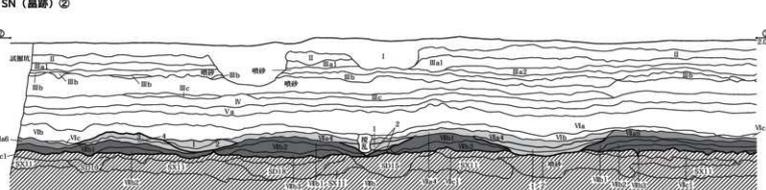
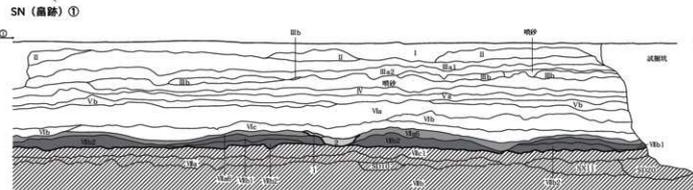


第6次調査区 上層部分図 (2)



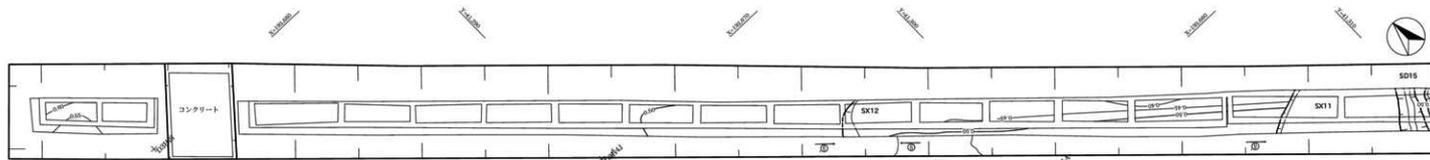
第6次調査区 上層部分図 (3)

0 (1 : 120) 5m

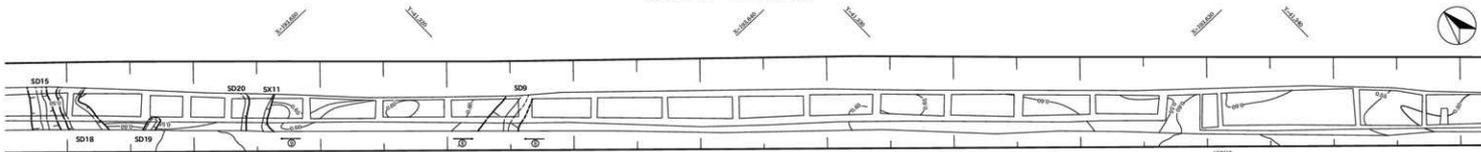


- SN
- 1 オリーブ褐色粘質シルト (SCV5/1) 粘性非常にあり、しりりあり、V層由来の多量解離物を含む。
 - 2 黒色シルト (SCV6/1) 粘性非常にあり、しりりあり、多量解離物を含む。赤褐色を帯びて粒に、マンガンも多量含む。
 - 3 暗緑灰色粘質シルト (SCV4/1) 粘性非常にあり、しりりあり、多量解離物を含む。
 - 4 黒色粘質シルト (N1.3/0) 粘性あり、しりりやあり、多量解離物を多量含む。
- SD1
- 1 灰色粘質シルト (109/1/1) 粘性非常にあり、しりりあり、多量解離物を多量含む。
 - 2 灰白色粘土 (17.2/1/1) 粘性ややあり、しりりややあり。
- SD7
- 1 オリーブ褐色粘質シルト (SCV6/1) 粘性ややあり、しりりあり、赤褐色を帯びて粒に、多量解離物を多量含む。
- SD8
- 1 黒色粘質シルト (109/1/1) 粘性あり、しりりあり、炭化物を含む。V層が粒状に混じり、多量解離物を含む。

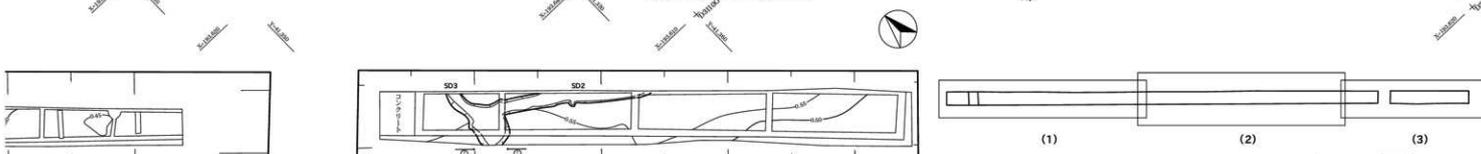
0 (1 : 40) 2m



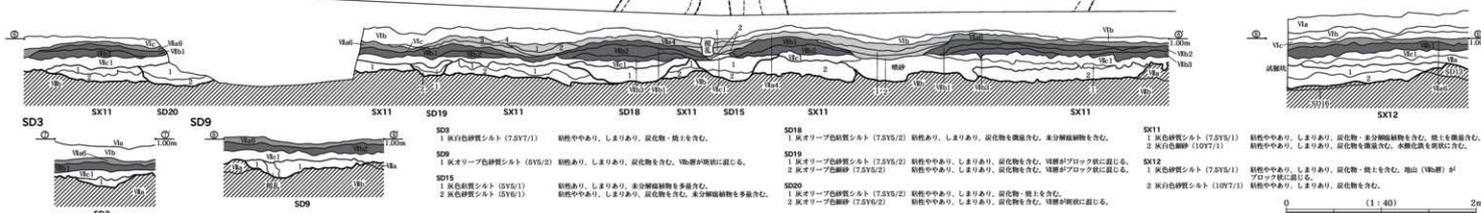
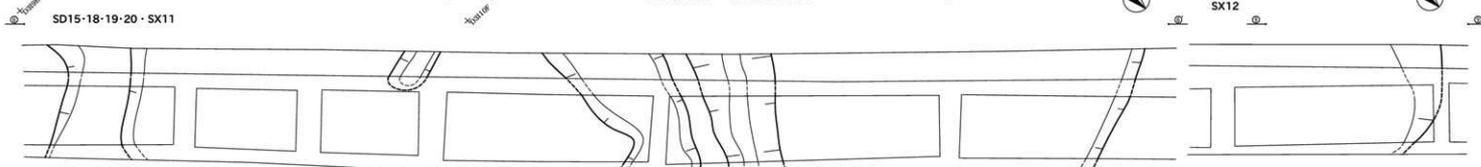
第6次調査区 中層部分図 (1)



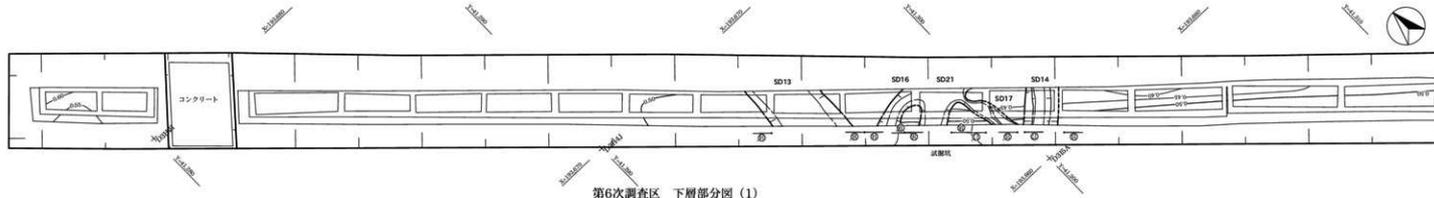
第6次調査区 中層部分図 (2)



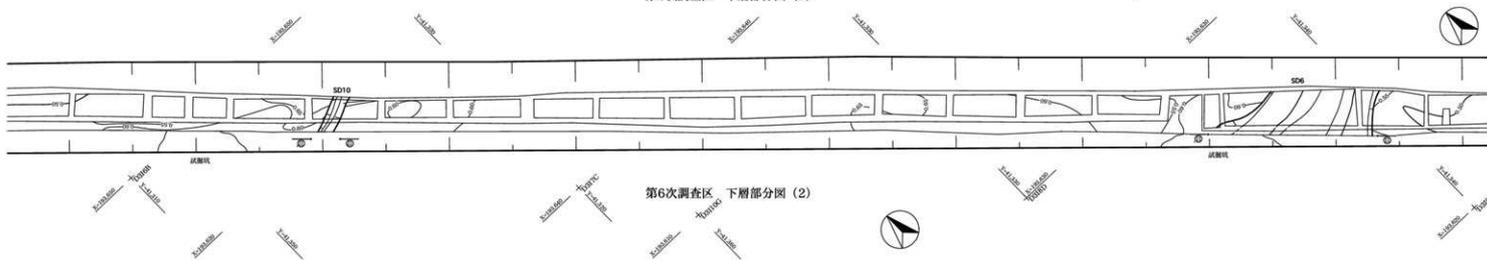
第6次調査区 中層部分図 (3)



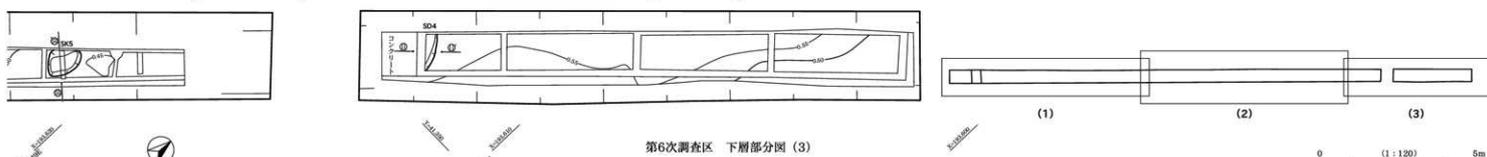
- | | |
|---|--|
| <p>SD3</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y7/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物・焼土を含む。</p> <p>SD9</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y5/2) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物を含む、焼土層が明確に認められる。</p> <p>SD15</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物を含む、未分解磁器物を多量含む。</p> <p>SD18</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y5/2) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物を豊富含む、未分解磁器物を含む。</p> <p>SD19</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y5/2) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物を含む、焼土層がブロック状に認められる。</p> <p>SD20</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y5/2) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物を含む、焼土層が明確に認められる。</p> <p>SD21</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y5/2) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物を含む、焼土層が明確に認められる。</p> | <p>SX11</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物・未分解磁器物を含む、焼土を豊富含む、粘粒中やあり、しまりあり、炭化物を豊富含む、水酸化鉄を豊富含む。</p> <p>SX12</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y5/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物・焼土を含む、焼土を豊富含む、粘粒中やあり、しまりあり、炭化物を含む、焼土層が明確に認められる。</p> <p>2 灰白色砂質シルト (10Y7/1) 粘粒中やあり、しまりあり、炭化物を含む。</p> |
|---|--|



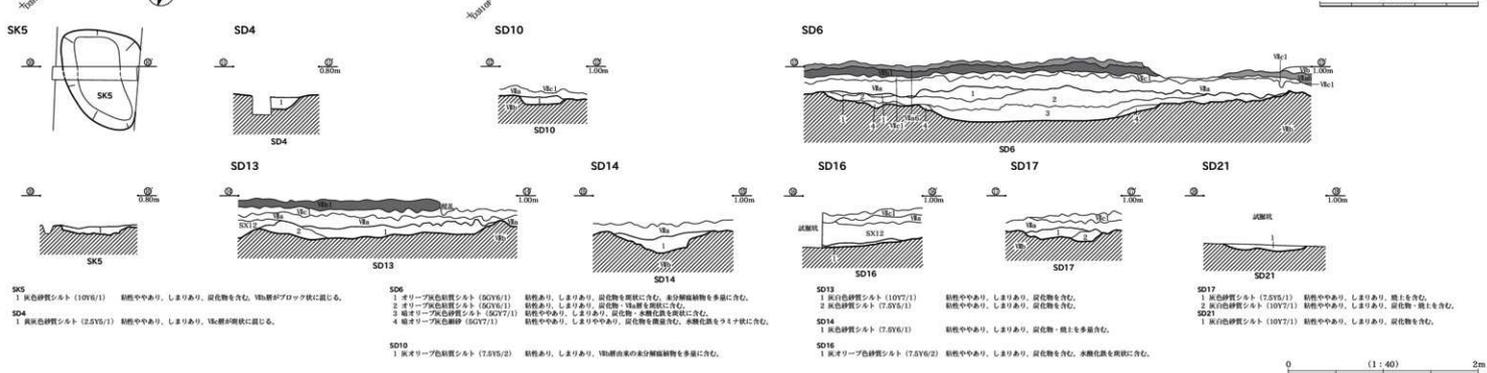
第6次調査区 下層部分図 (1)

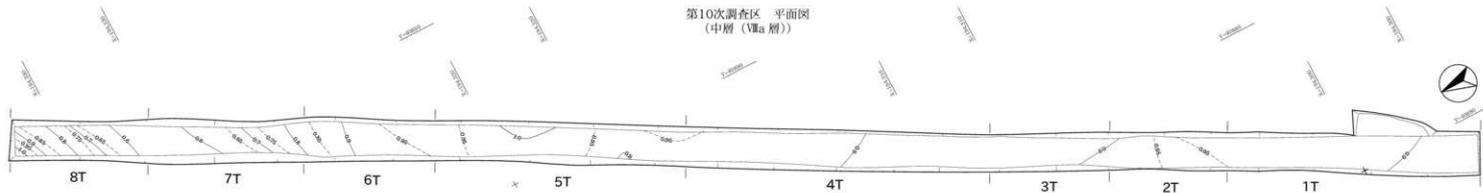
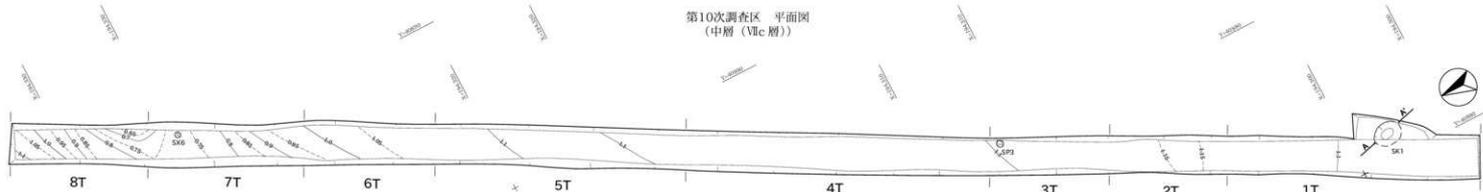
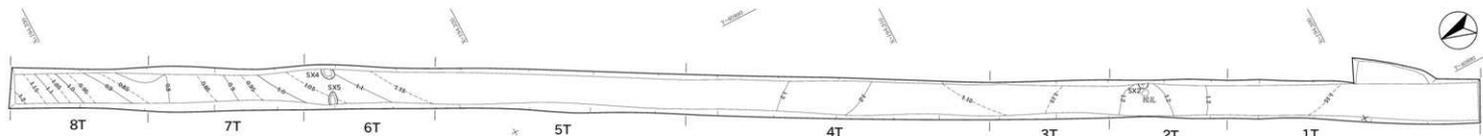


第6次調査区 下層部分図 (2)

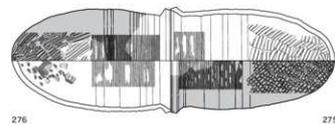
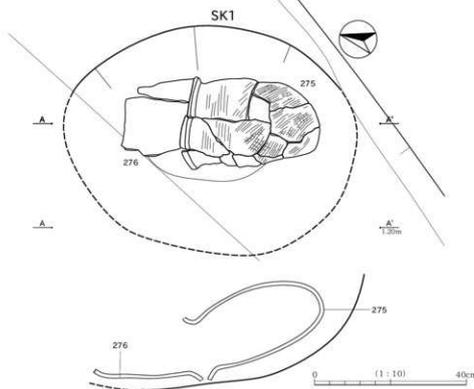
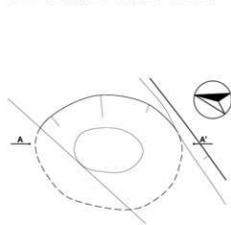


第6次調査区 下層部分図 (3)





SK1 (土器棺墓) 微細図・断面図



土器棺墓 復原図

0 (1:8) 20cm

0 (1:100) 4m



土器棺墓 検出状況 (西から)

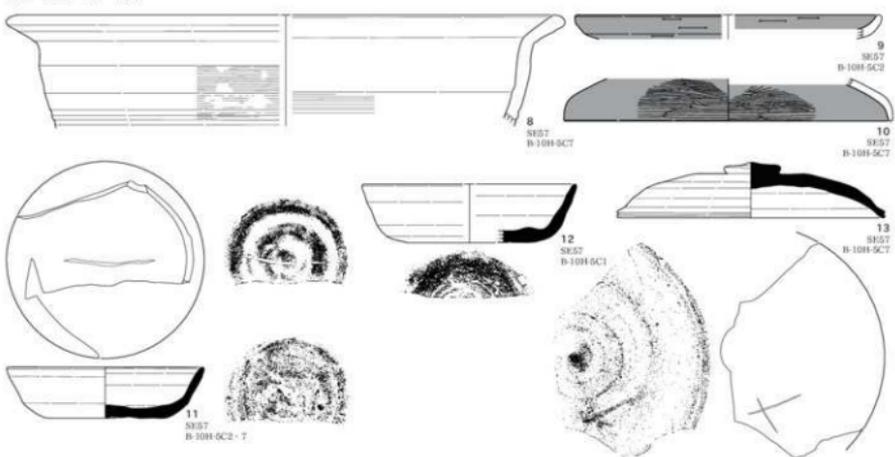
1区 SD1 (1~4)



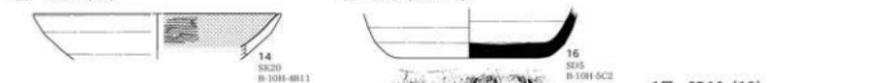
1区 SD54 (7)



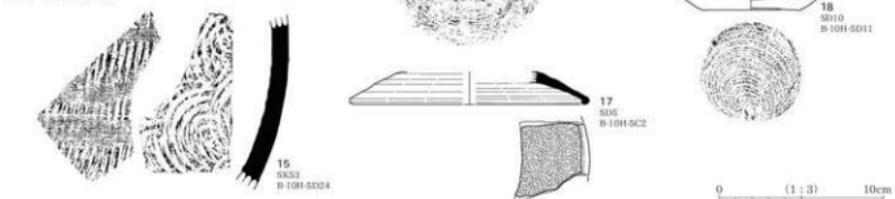
1区 SE57 (8~13)



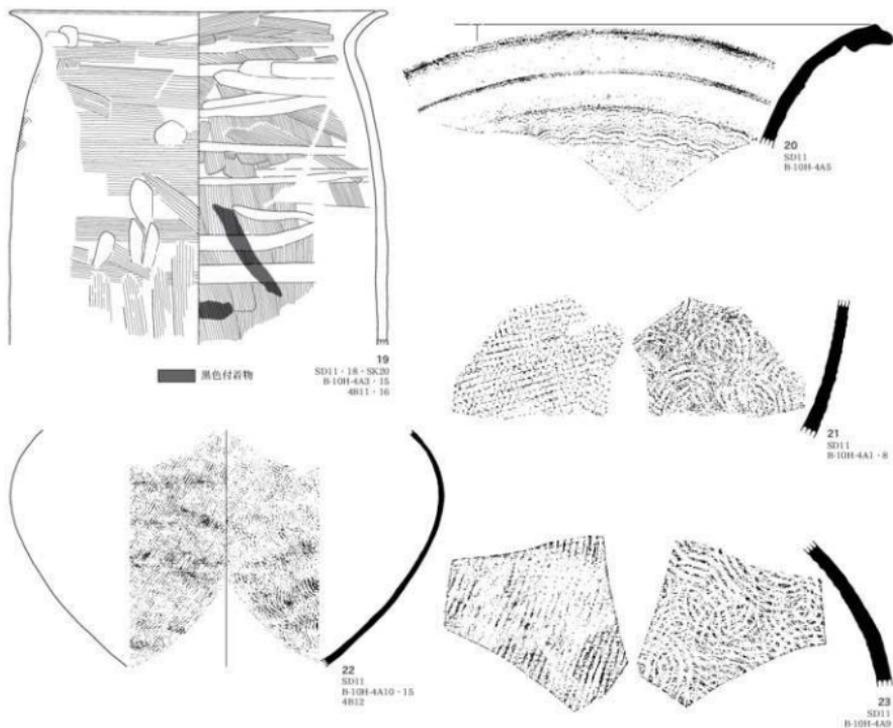
1区 SK20 (14)



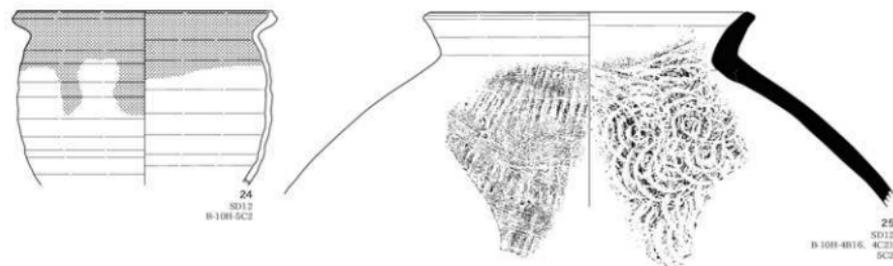
1区 SK53 (15)



1区 SD11 (19~23)



1区 SD12 (24・25)



1区 SD15 (26・27)



1区 SD18 (28)

28
SD18
B-10H-4811-16

1区 SD24 (29)

29
SD24
B-10H-5017-18-22

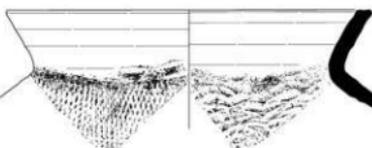
1区 SD29 (30)

30
SD29
B-10H-5124

1区 SD33 (31 · 34 · 35)

31
SD33
B-10H-68134
SD33
B-10H-681-6

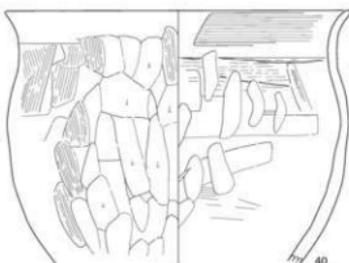
1区 SD30 (32 · 33 · 36)

32
SD30
B-10H-512433
SD30
B-10H-512435
SD33
B-10H-68636
SD30
B-10H-5124

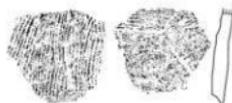
1区 SD35 (37)

37
SD35-39
B-10H-6830
6F22

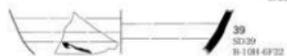
1区 SD42 (40 · 41)

40
SD42
B-10H-7613

1区 SX65 (43 · 44)

43
SX65
B-10H-782244
SX65
B-10H-7822

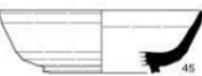
1区 SD39 (38 · 39)

38
SD39-15
B-10H-681-2-7-11-13
6F2239
SD39
B-10H-4922

1区 SX45 (42)

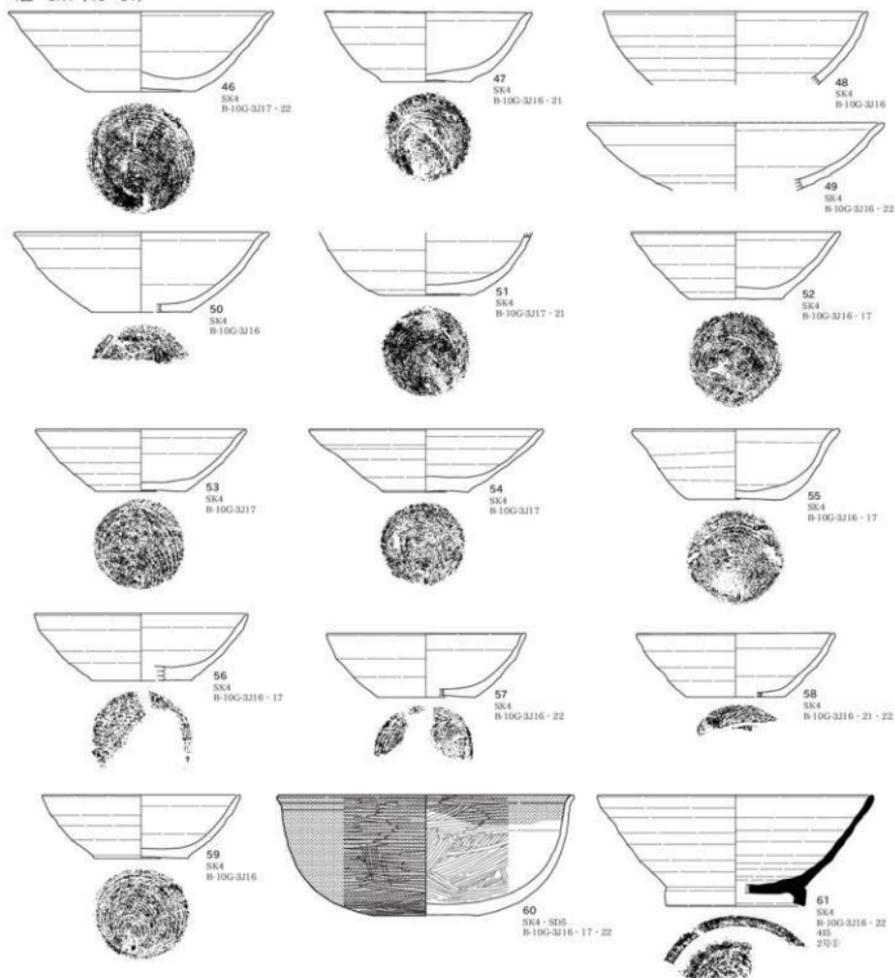
42
SX45
B-10H-7823

1区 SD4 (45)

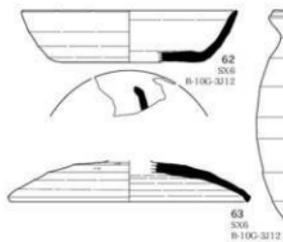
45
SD4
B-10H-4819-4C21

0 (1:3) 10cm

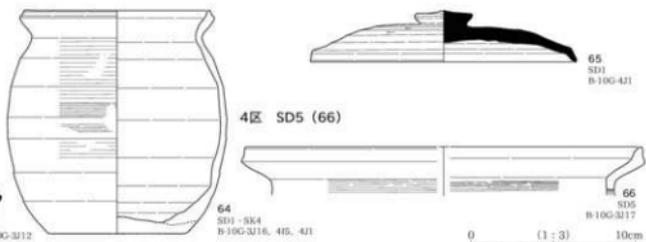
4区 SK4 (46~61)



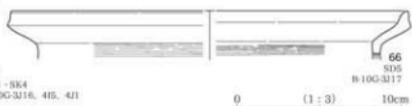
4区 SX6 (62・63)



4区 SD1 (64・65)

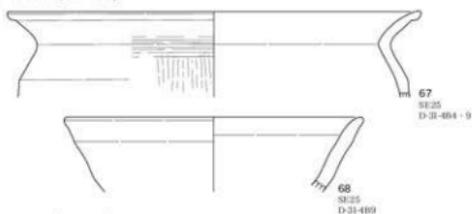


4区 SD5 (66)

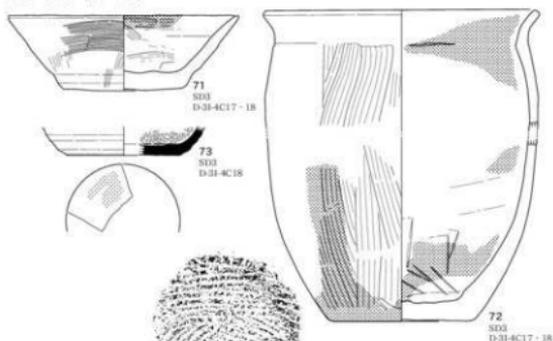


0 (1:3) 10cm

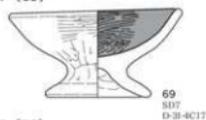
2区 SE25 (67・68)



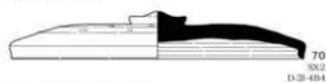
2区 SD3 (71~73)



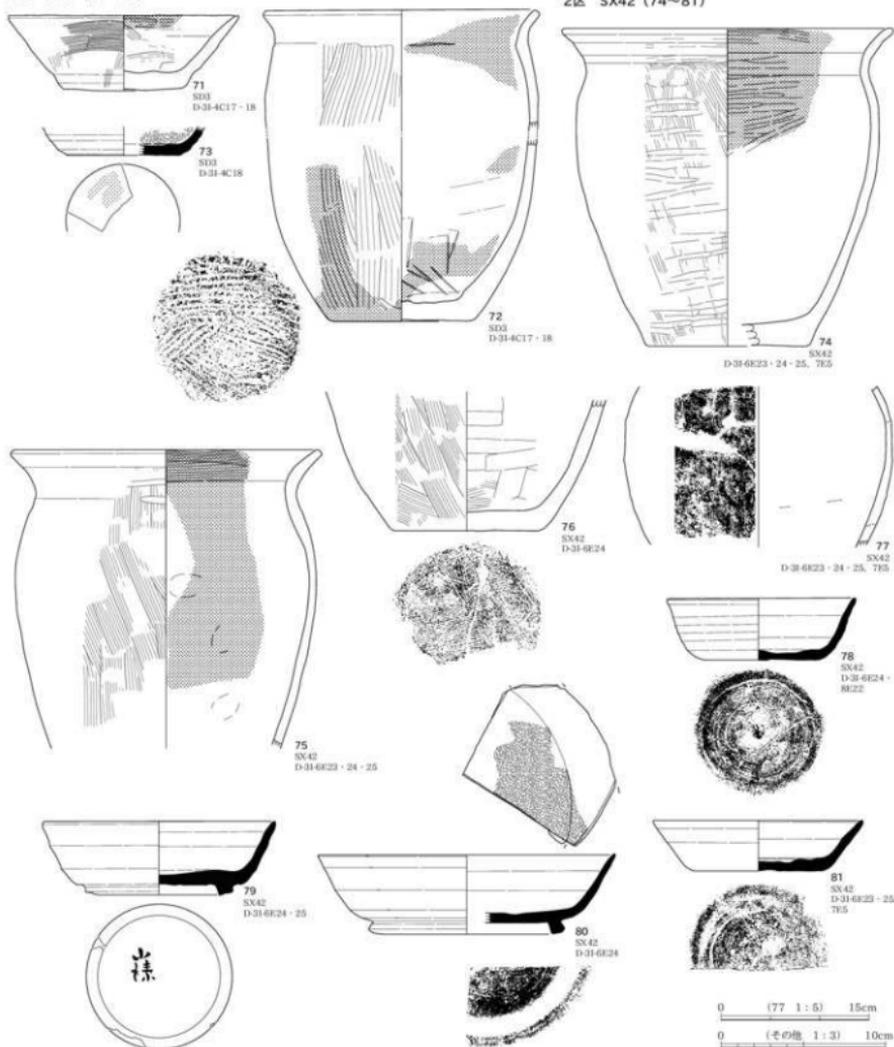
2区 SD7 (69)



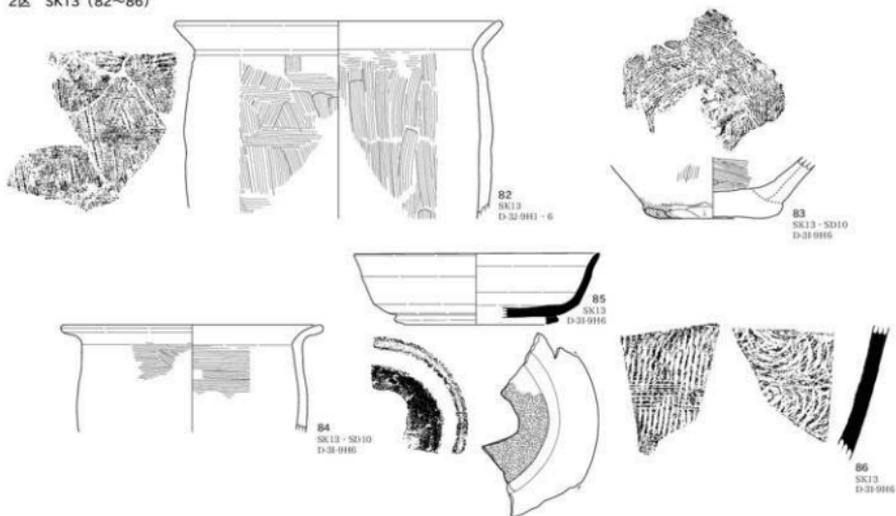
2区 SX2 (70)



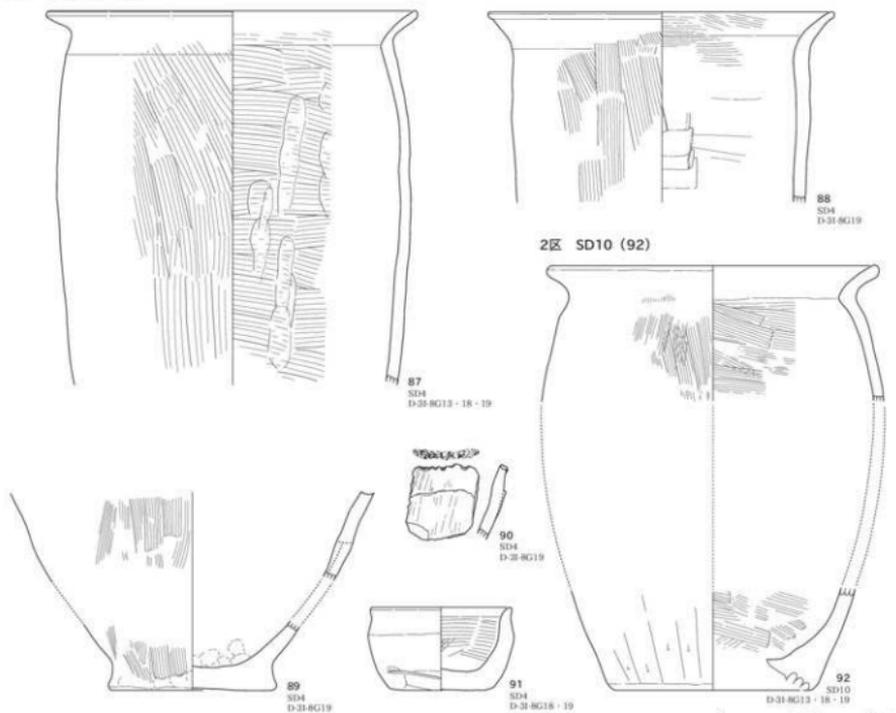
2区 SX42 (74~81)



2区 SK13 (82~86)

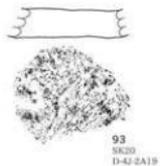


2区 SD4 (87~91)

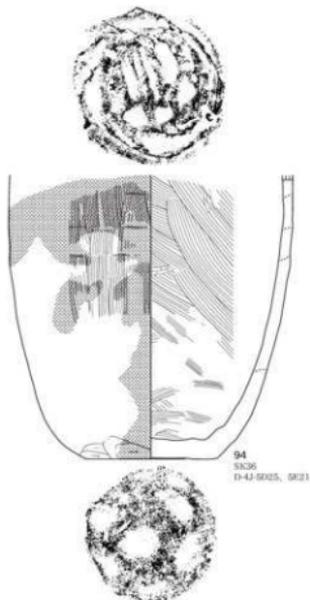


2区 SD10 (92)

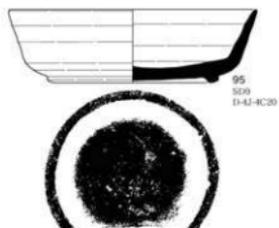
3区 SK20 (93)



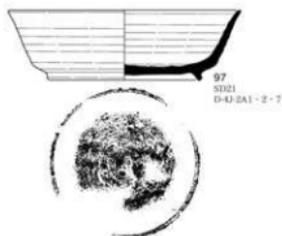
3区 SK36 (94)



3区 SD9 (95)



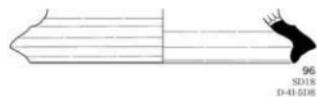
3区 SD21 (97)



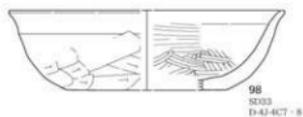
3区 SD35 (100)



3区 SD18 (96)



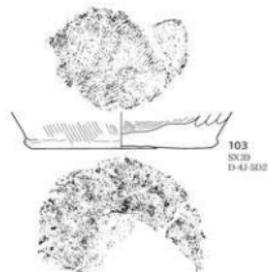
3区 SD33 (98)



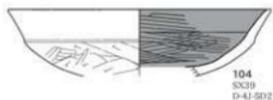
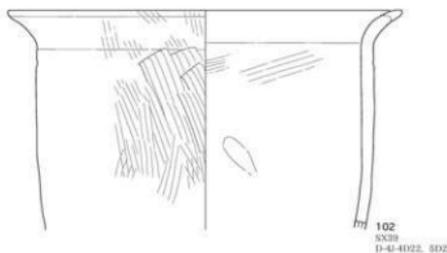
3区 SD40 (99)



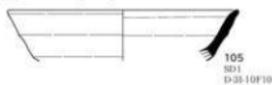
3区 SX30 (101)



3区 SX39 (102~104)



第6次調査区 SD1 (105)

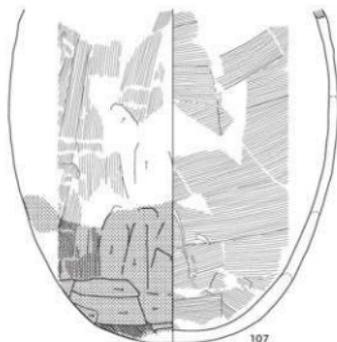


105
SD1
D-31-10F10

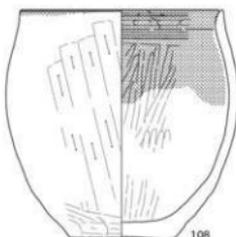
第6次調査区 SX11 (106~114)



106
SX11
D-31-6R23, 6R2-3



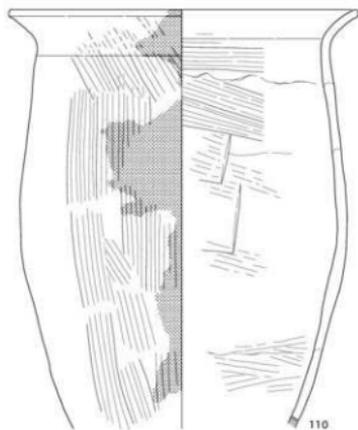
107
SX11
D-31-6R2



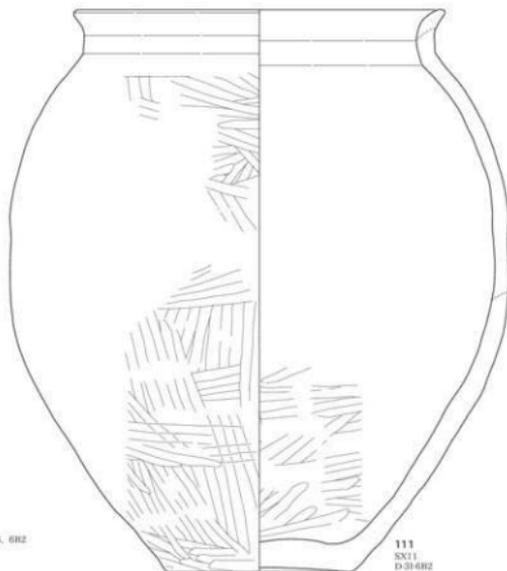
108
SX11
D-31-6R2



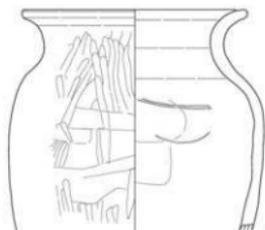
109
SX11
D-31-6R2



110
SX11
D-31-5A15, 5R16, 6R2



111
SX11
D-31-6R2



112
SX11
D-31-6R22, 6R2



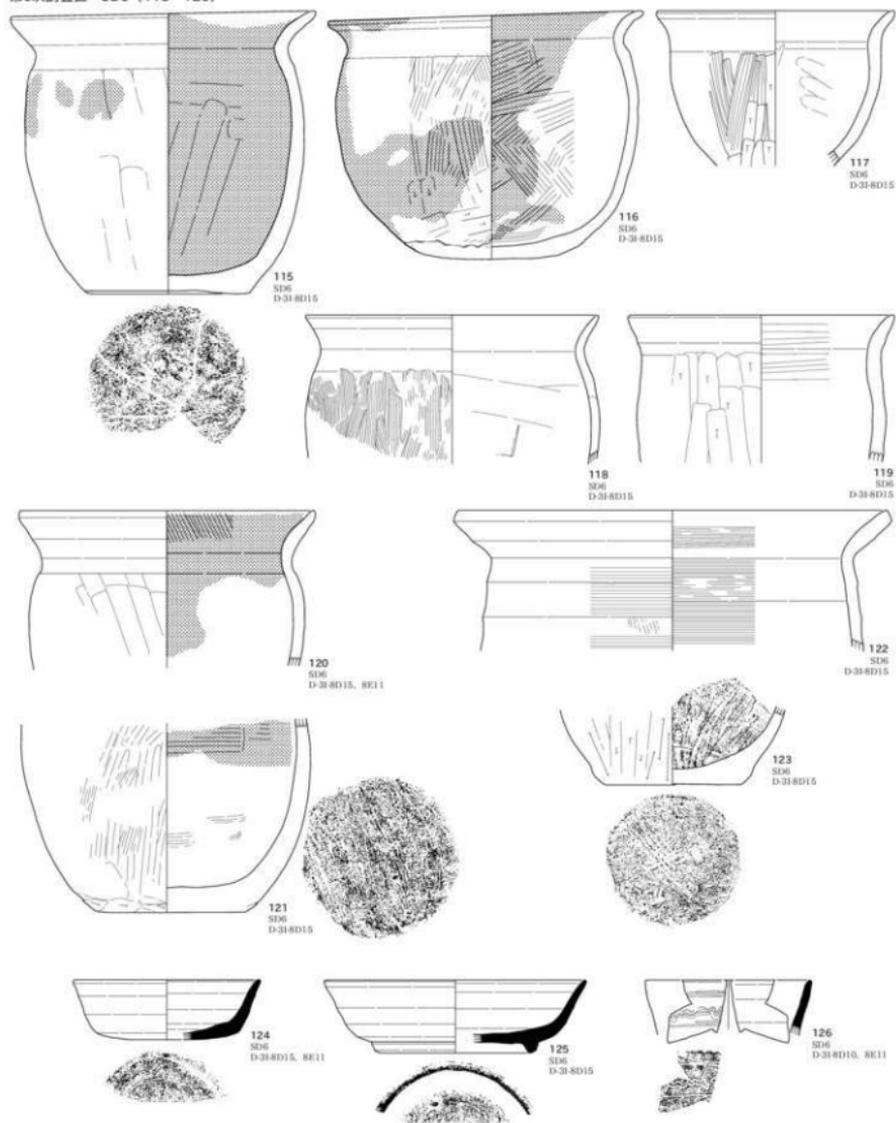
113
SX11
D-31-6R2



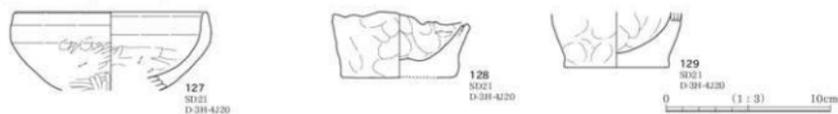
114
SX11
D-31-6R21



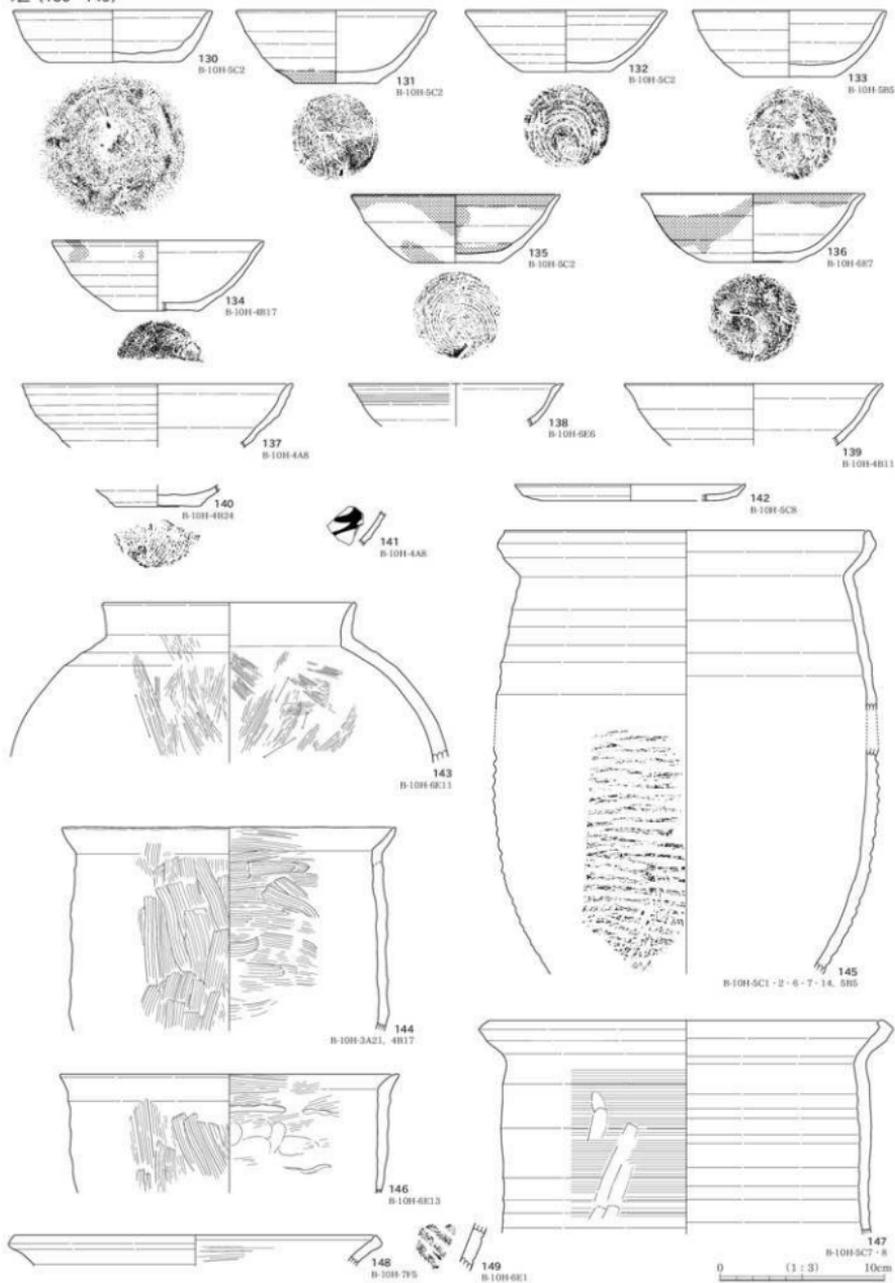
第6次調査区 SD6 (115~126)



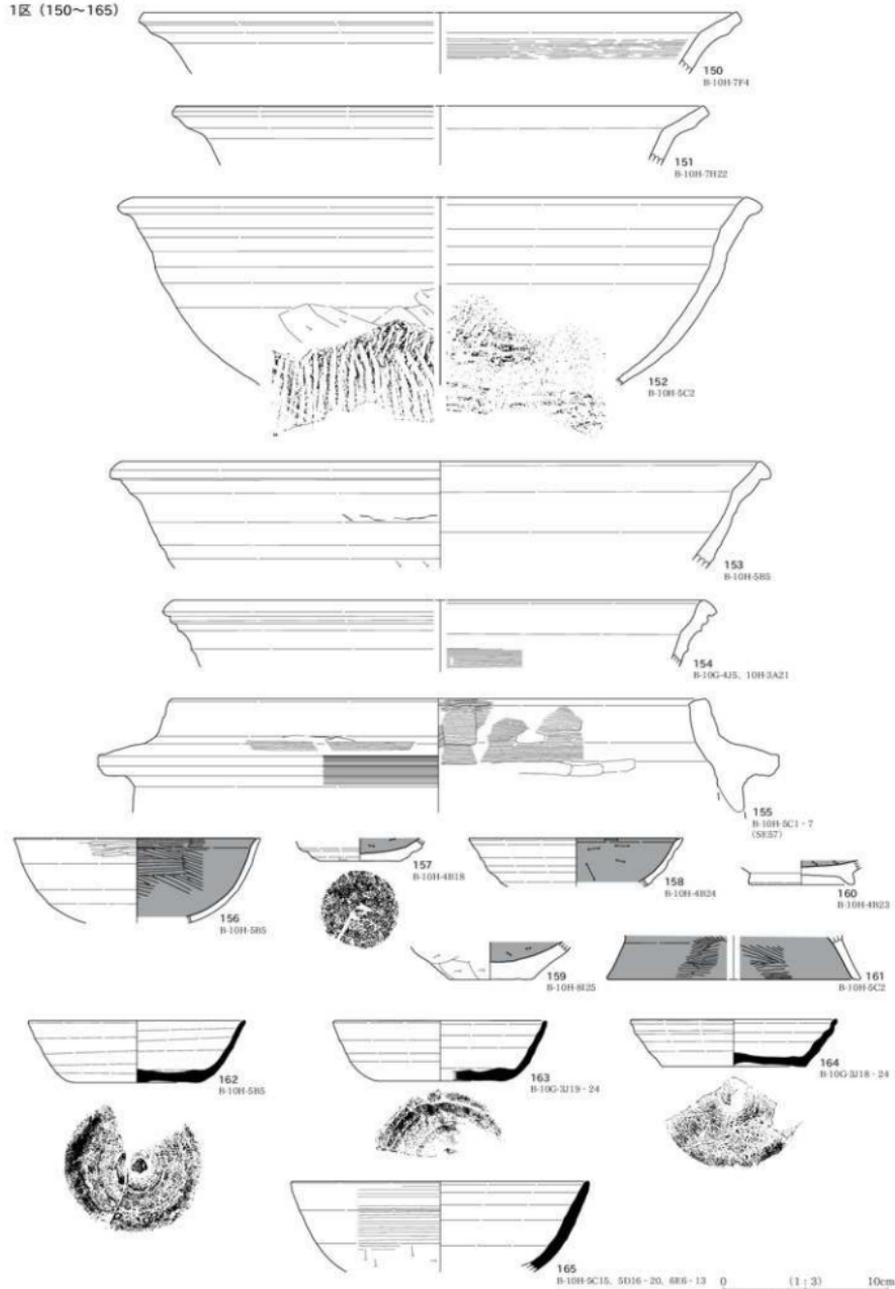
第6次調査区 SD21 (127~129)



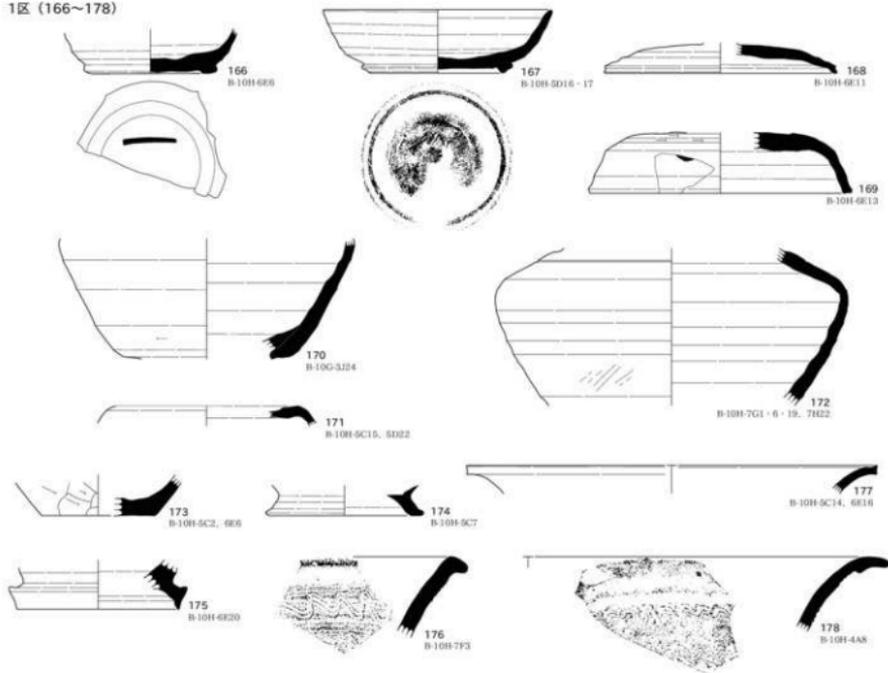
1区 (130~149)



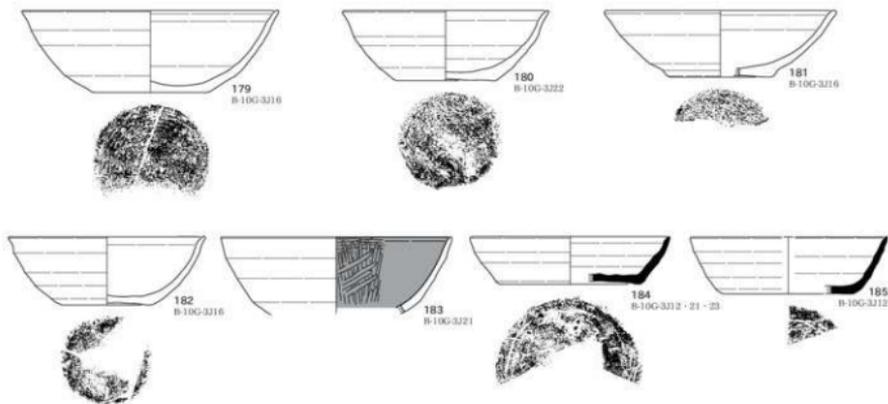
1区 (150~165)



1区 (166~178)



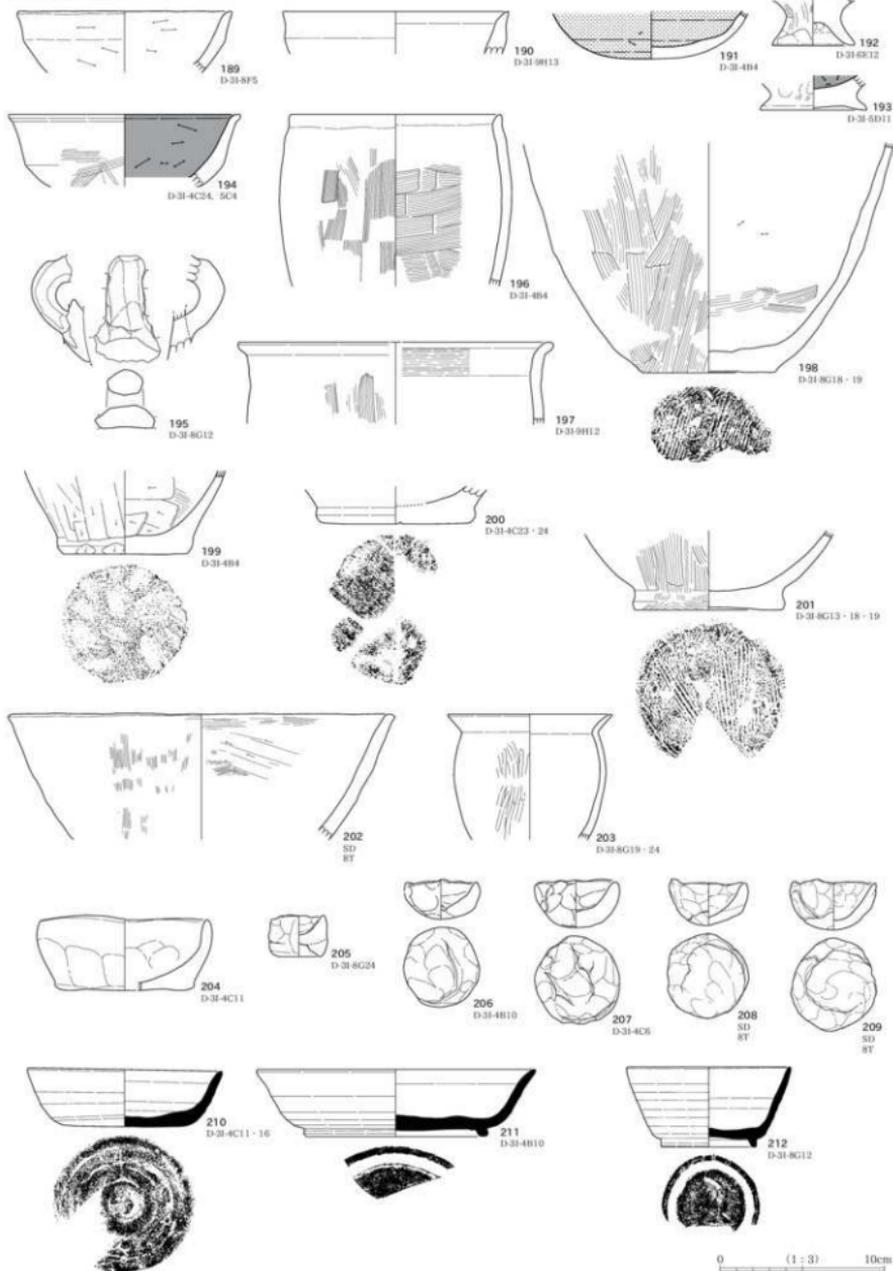
4区 (179~185)



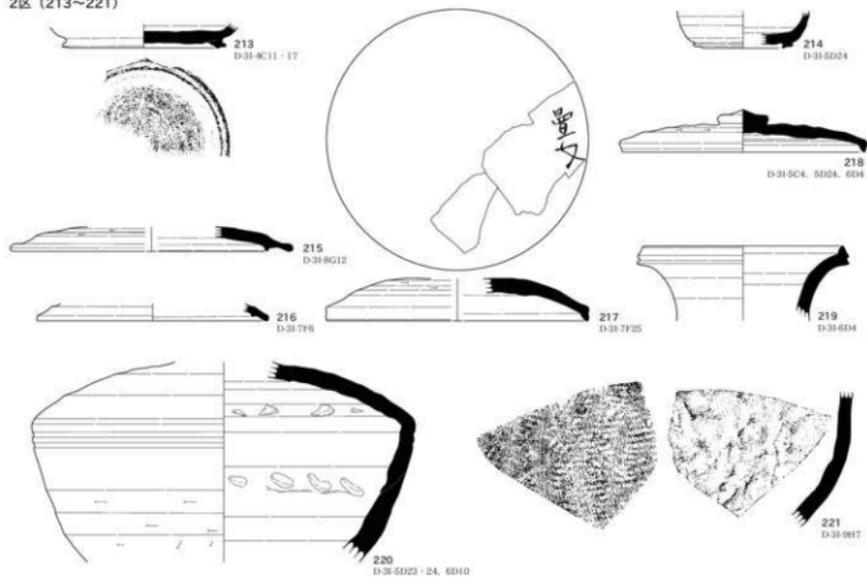
5区 (186~188)



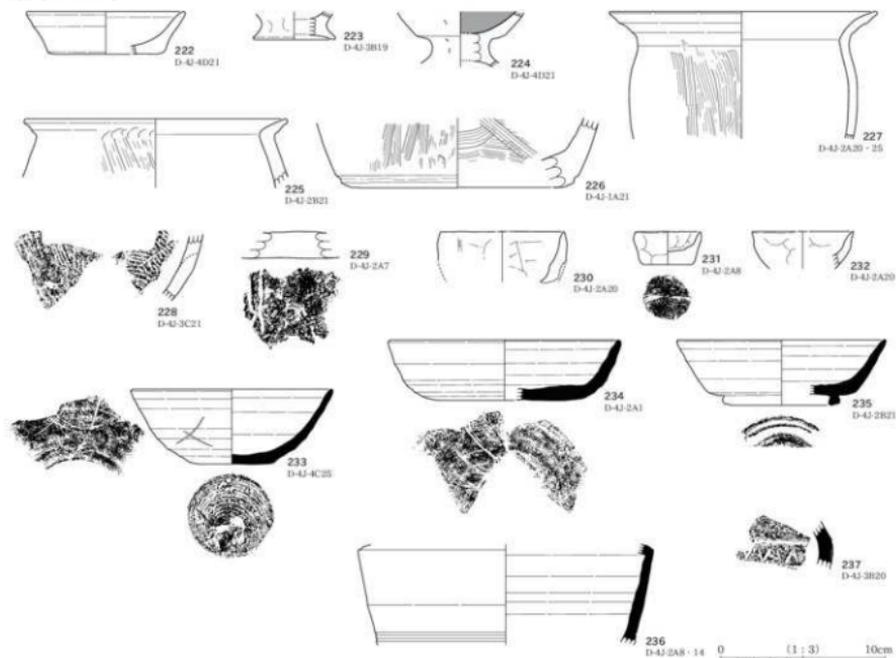
2区 (189~212)



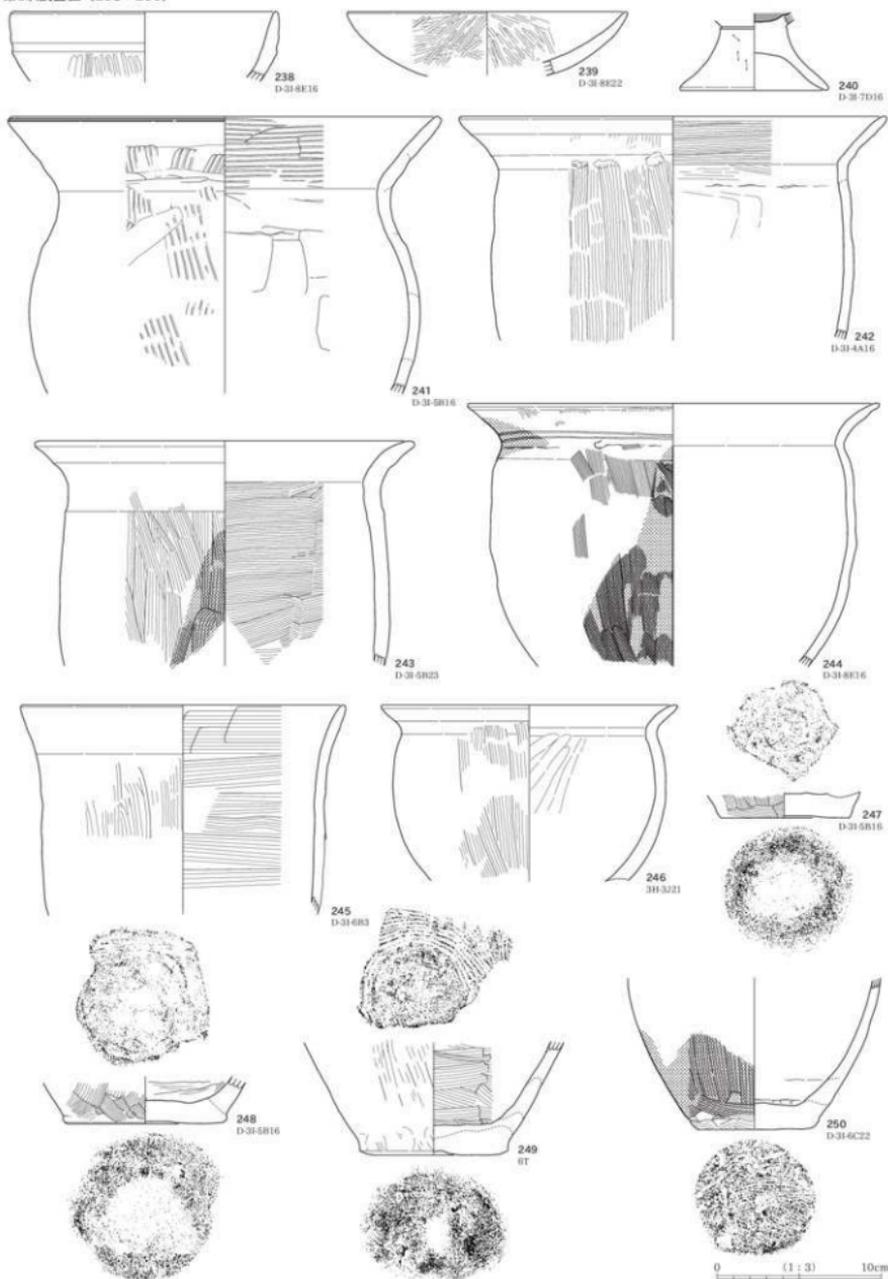
2区 (213~221)



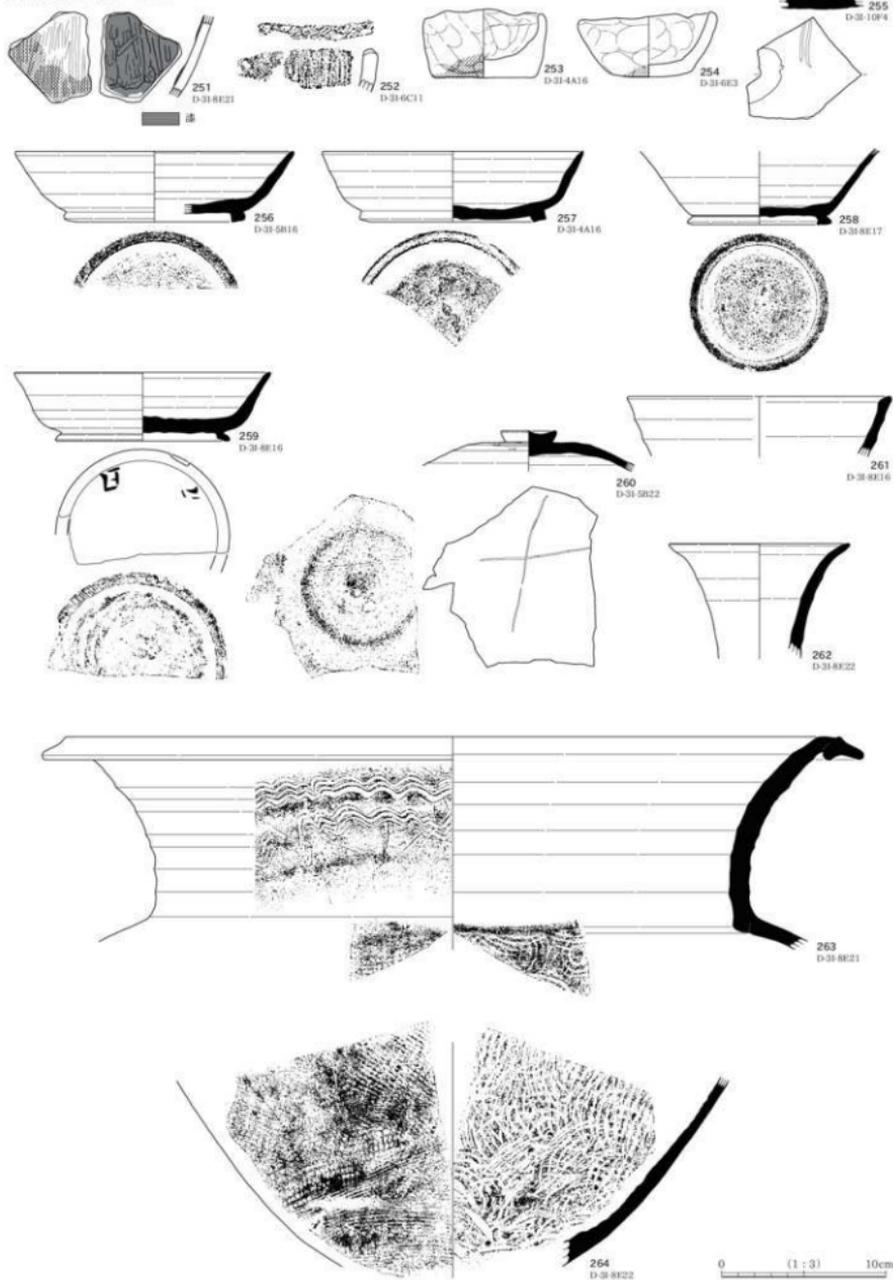
3区 (222~237)



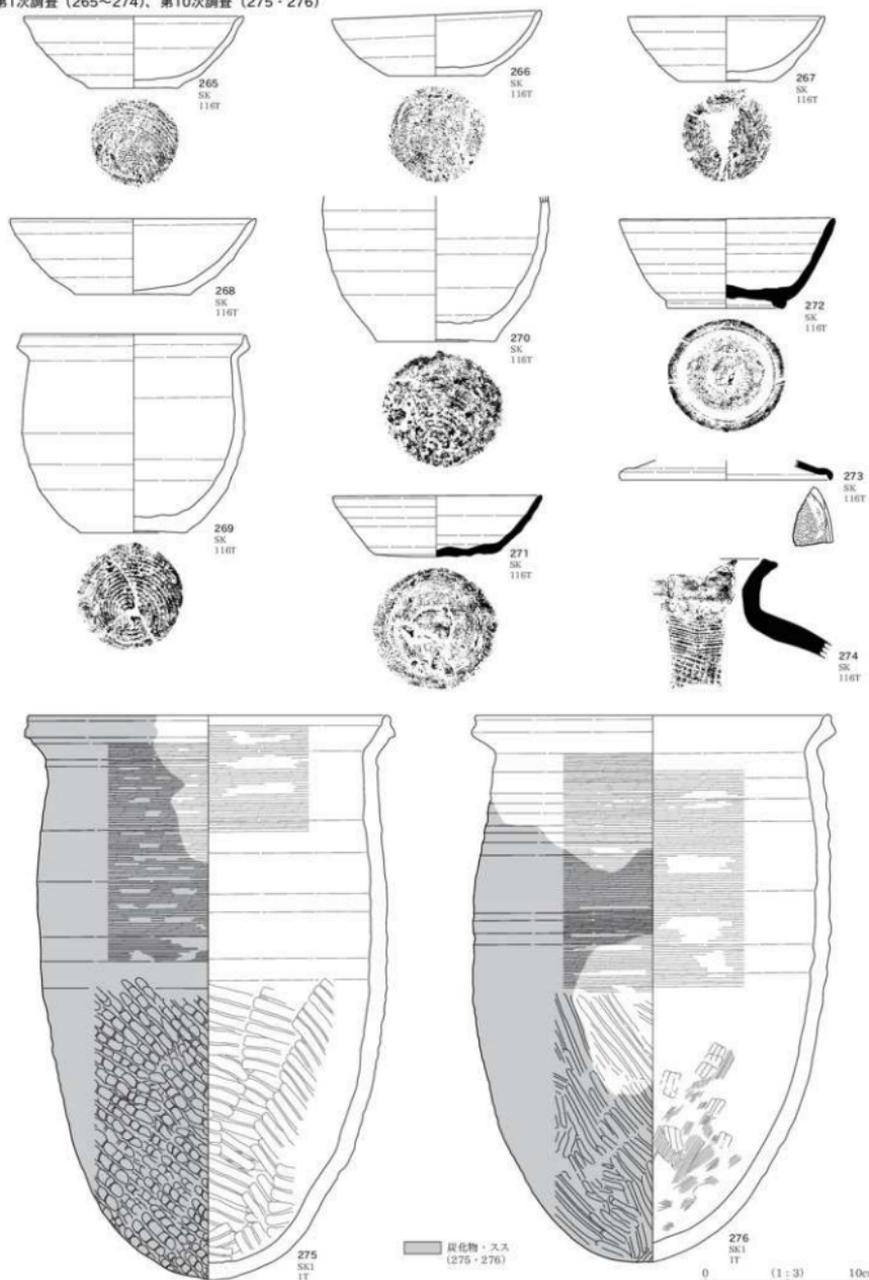
第6次調査区 (238~250)



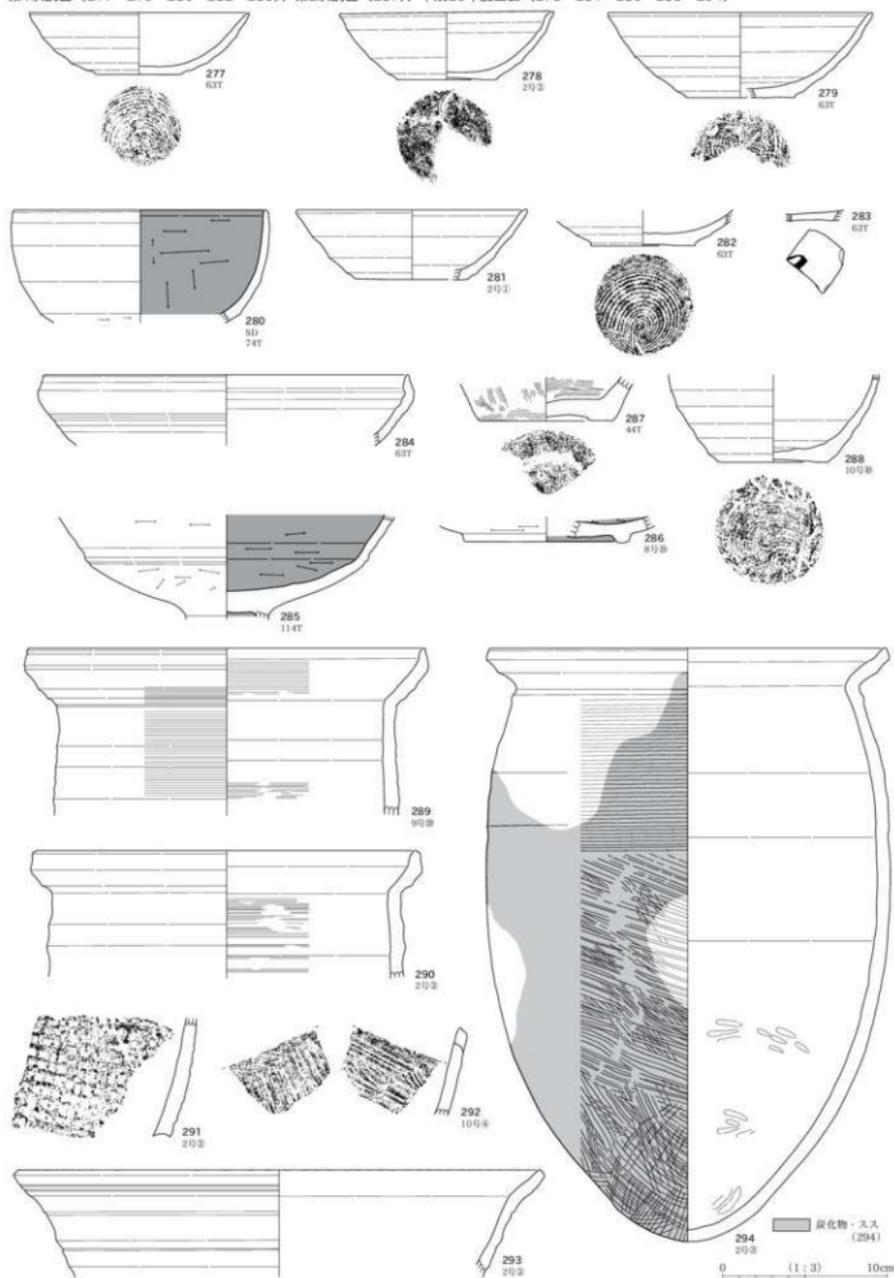
第 6 次調査区 (251~264)



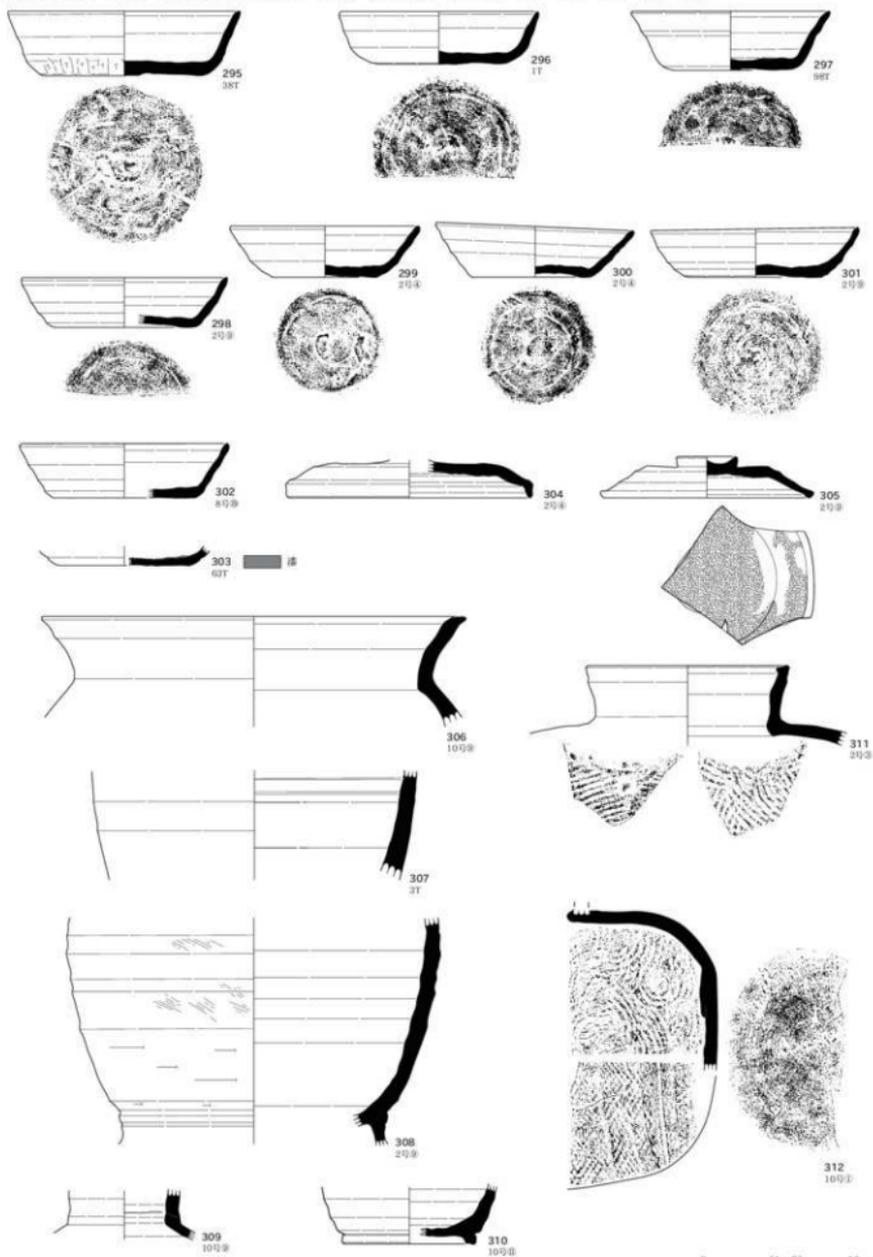
第1次調査 (265~274)、第10次調査 (275 - 276)



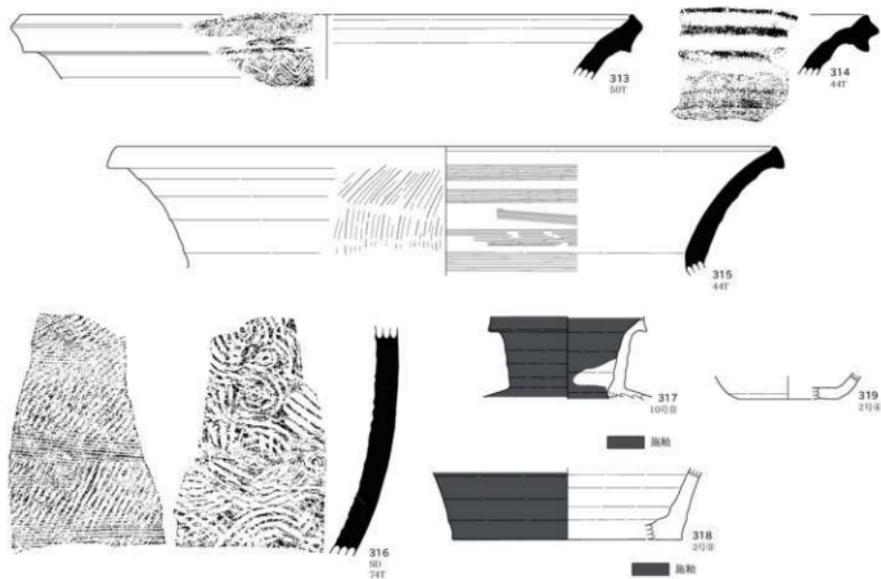
第1次調査 (277・279・280・282~285)、第2次調査 (287)、平成25年度立会 (278・281・286・288~294)



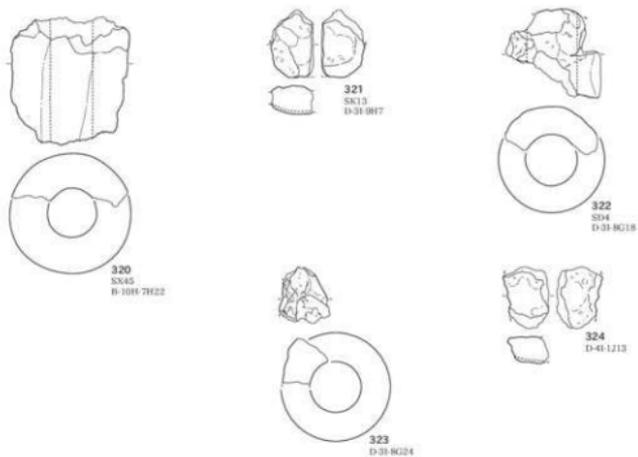
第1次調査(297・303)、第2次調査(295・296・307)、平成25年度立会(298~302・304~306・308~312)



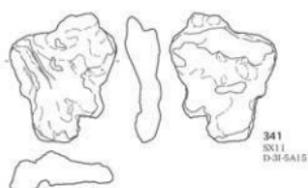
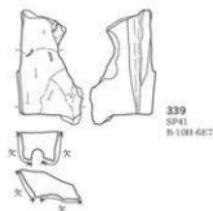
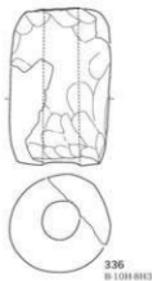
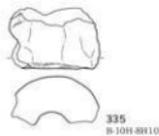
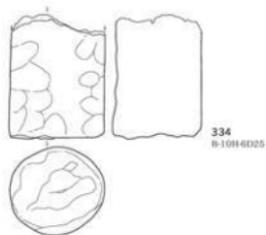
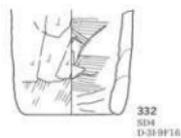
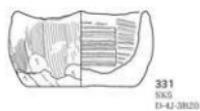
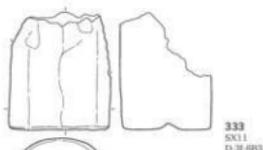
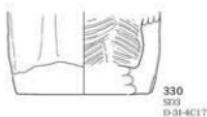
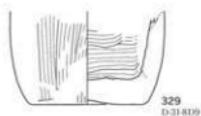
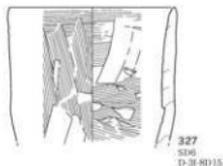
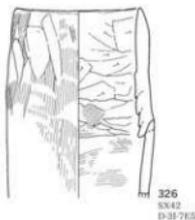
第1次調査（314～316）、第2次調査（313）、平成25年度立会（317～319）



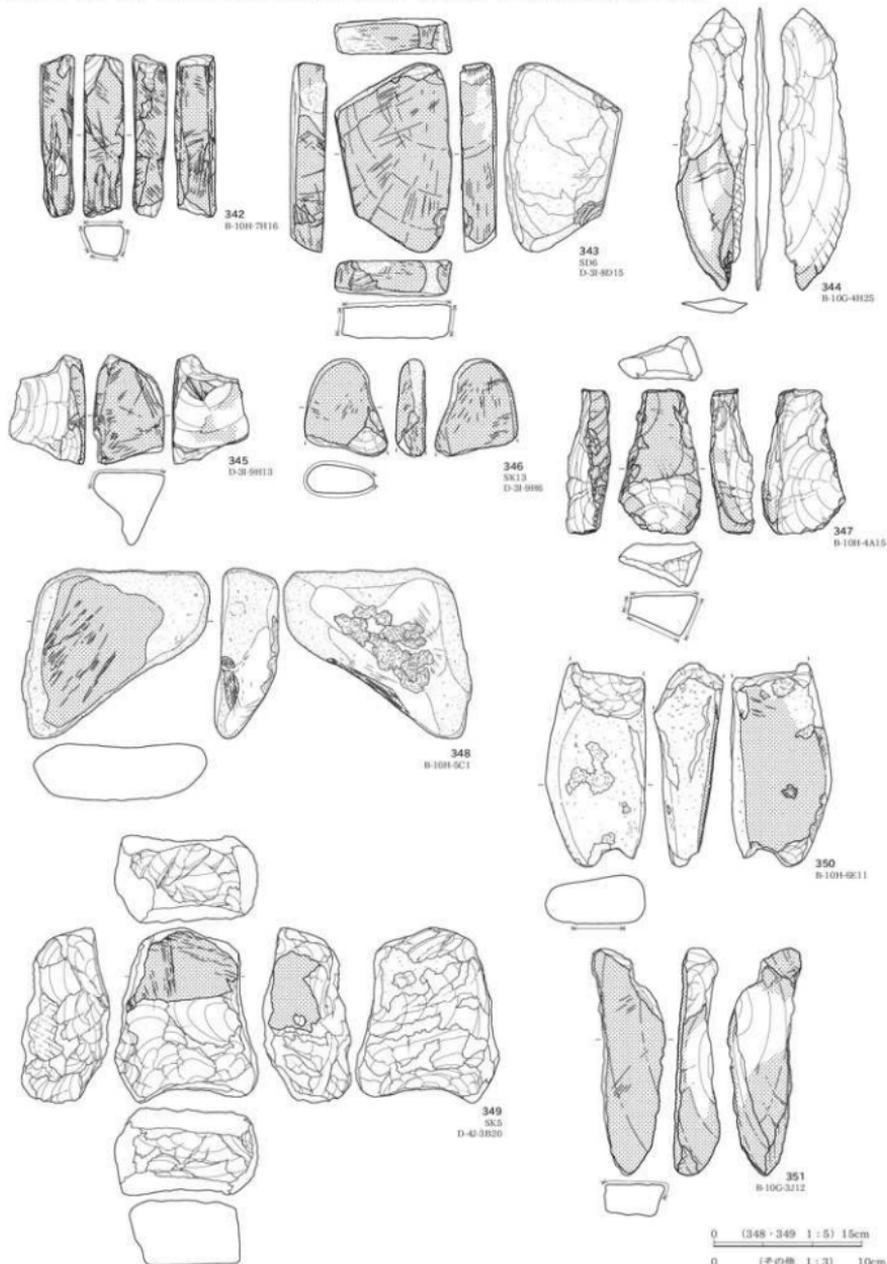
鍛冶関連遺物 1区（320）、2区（321～323）、3区（324）



1区 (325・334~336・339・340)、2区 (326・330・338)、3区 (328・331・337)、第6次調査区 (327・329・332・333・341)

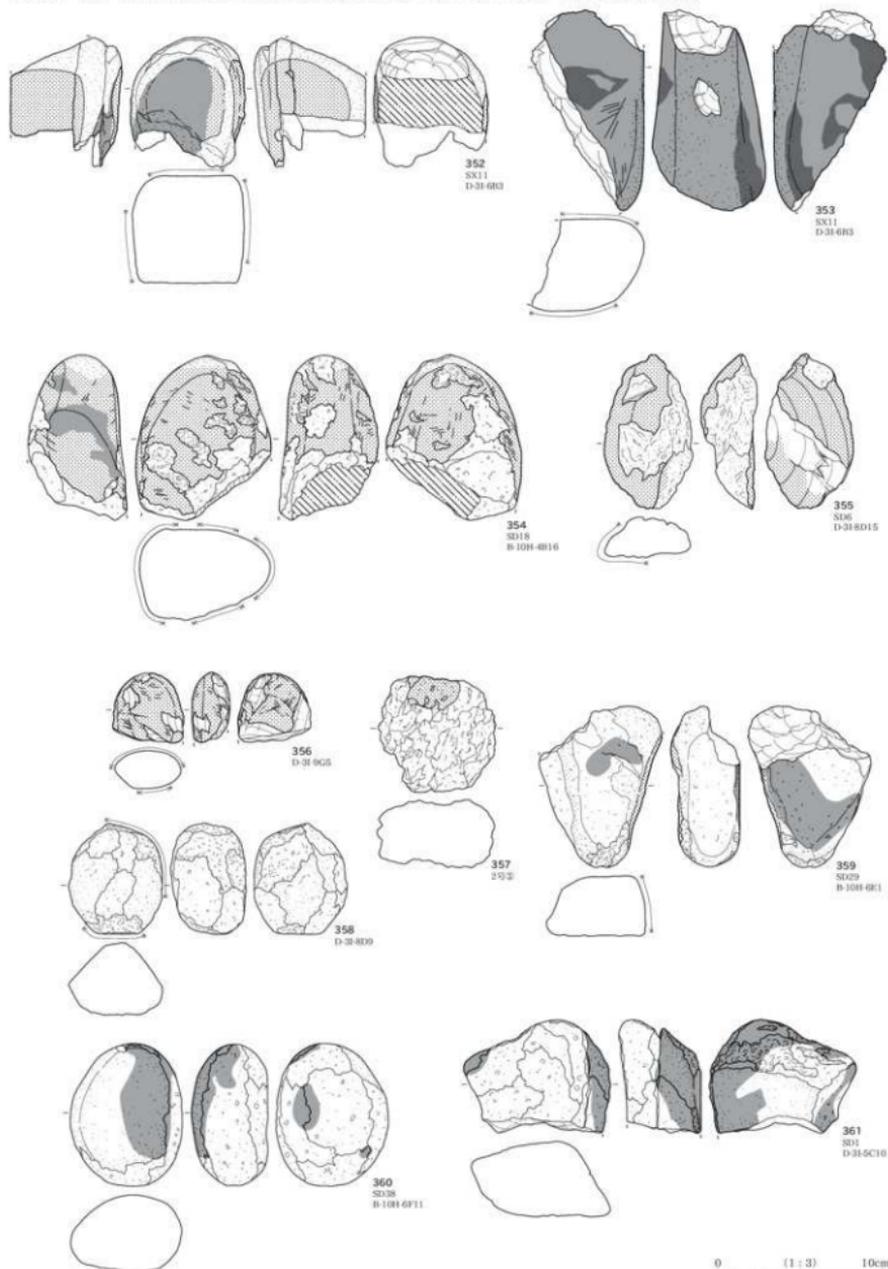


1区 (342・347・348・350)、2区 (345・346)、3区 (349)、4区 (351)、5区 (344)、第6次調査区 (343)

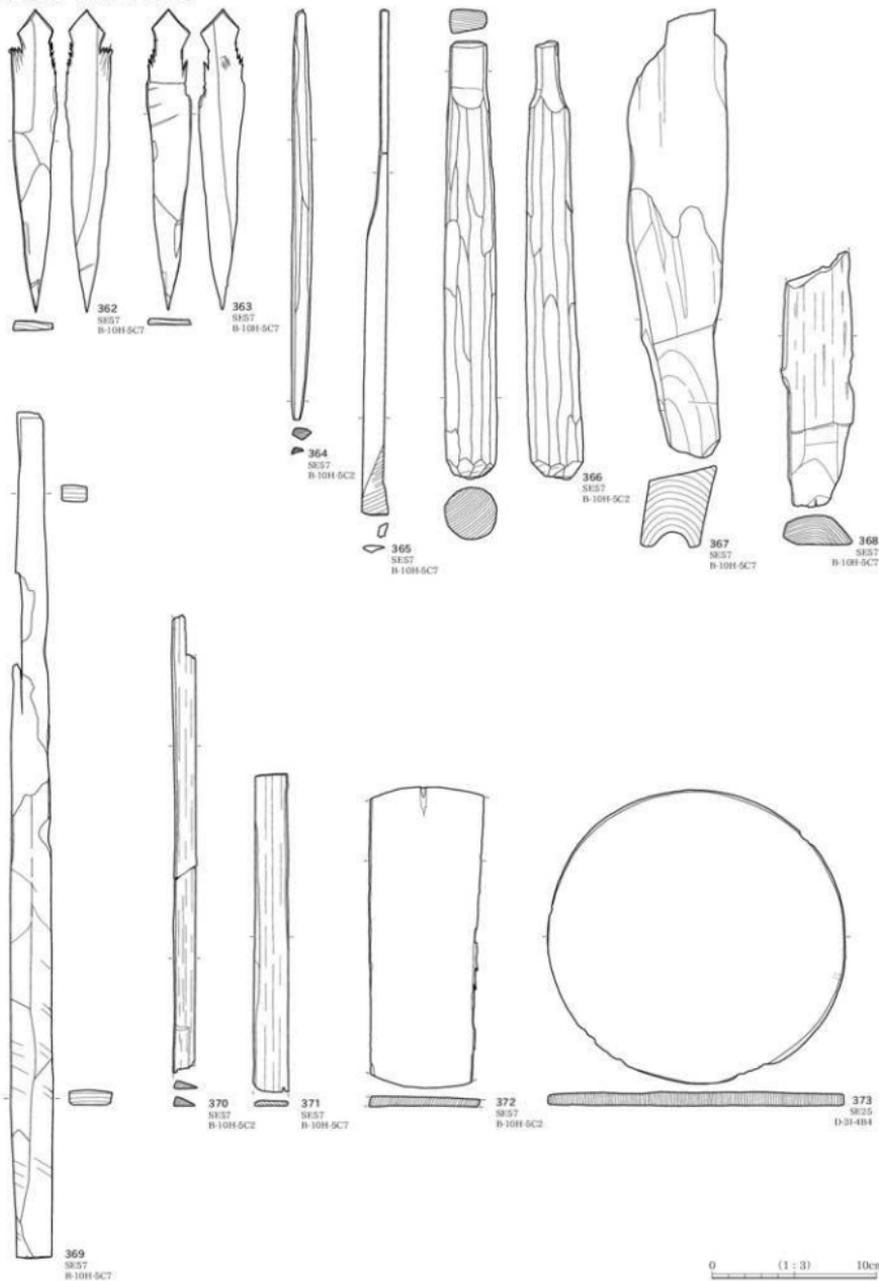


0 (348・349 1:5) 15cm
0 (その他 1:3) 10cm

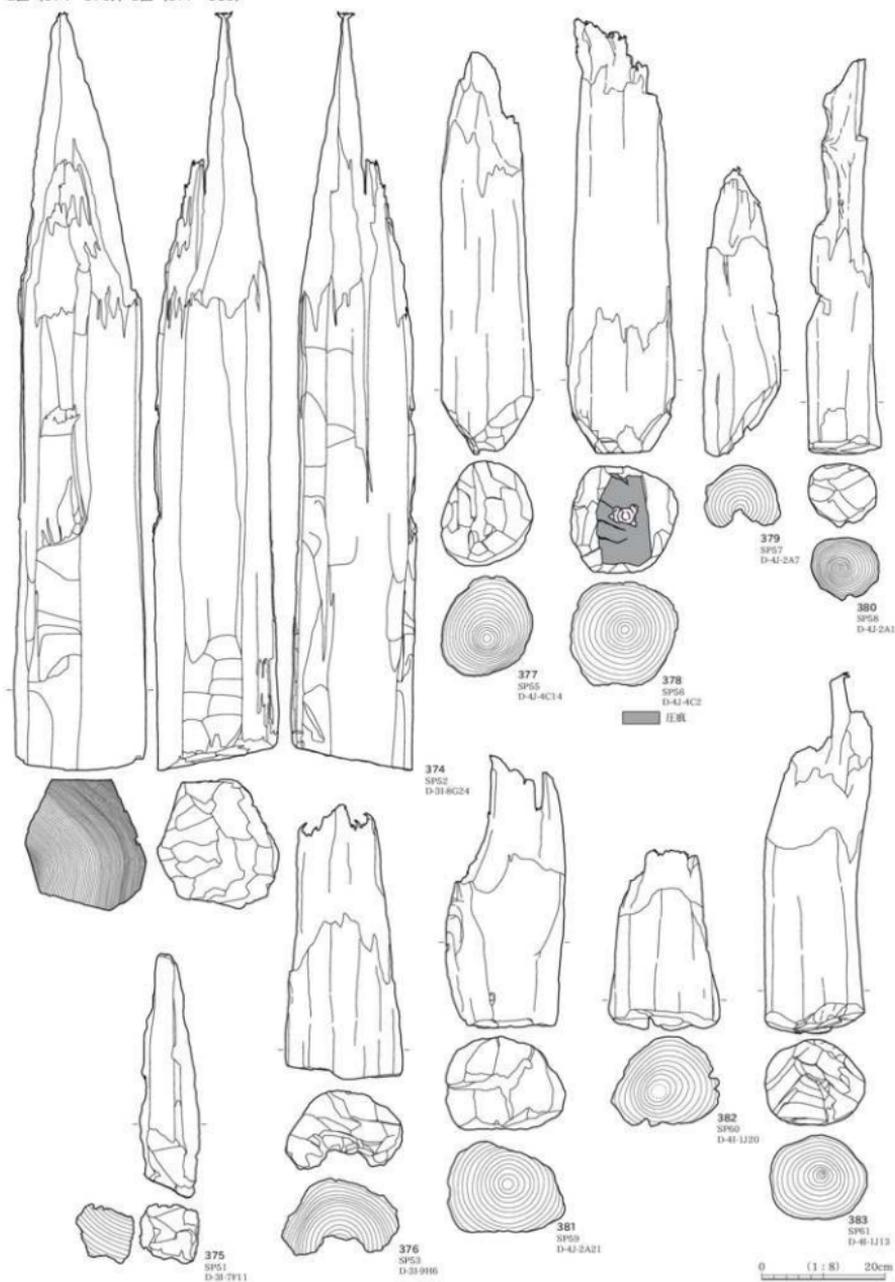
1区 (354・359・360)、2区 (356・361)、第6次調査区 (352・353・355・358)、平成25年度立会 (357)



1区 (362~372)、2区 (373)



2区 (374~376)、3区 (377~383)





下新田遺跡周辺空中写真 1

[米軍撮影 1947・1948年]



下新田遺跡周辺空中写真 2

[国土地理院撮影 2004年]



調査前風景 全景 (北から)



1区 調査前風景 (北西から)



2・3区 調査前風景 (南東から)



第6次調査区 調査前風景 (南東から)



完備状況（東から）



完備状況（北から）



1区 中層上面 完掘状況（北西から）



1区 中層下面 完掘状況（北から）



1区 SN118・SD56 土層断面・完掘（北東から）



1区 SN119 土層断面（北東から）



1区 SN120 土層断面（北東から）



1区 SN120周辺 土層断面・完掘（北から）



1区 SN（跡）土層断面（北から）



1区 SN（跡）①(B-10H-6E12～20) 土層断面（北東から）



1区 SN（跡）②(B-10H-4B23～5C6) 土層断面（北東から）



1区 SN（跡）③(B-10H-5C13～5D21) 土層断面（北東から）



1区 SN(跡)④(B-10H-6D4 ~ 6E6) 土層断面(北東から)



1区 SD1 土層断面(北東から)



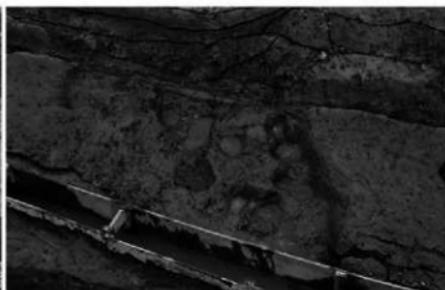
1区 SD1 土層断面・完掘(北から)



1区 SD2 土層断面・完掘(北東から)



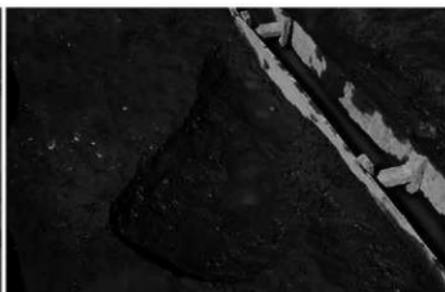
1区 SD6 土層断面・完掘(北東から)



1区 SD54 土層断面・完掘(北から)



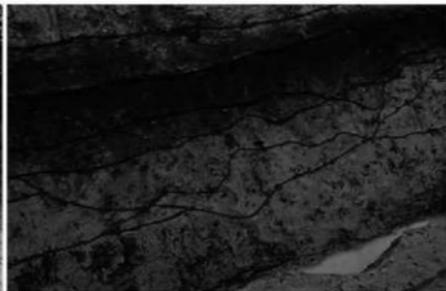
1区 SD55 土層断面(南から)



1区 SD55 完掘(北から)



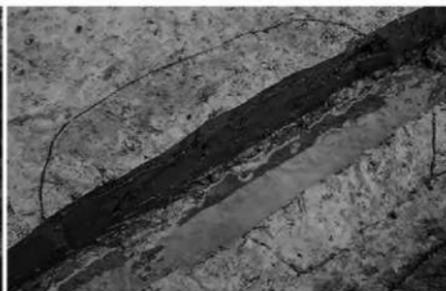
1区 SK19 土層断面・完掘（北東から）



1区 SK59 土層断面・完掘（西から）



1区 SK48 土層断面 A-A'・完掘（南から）



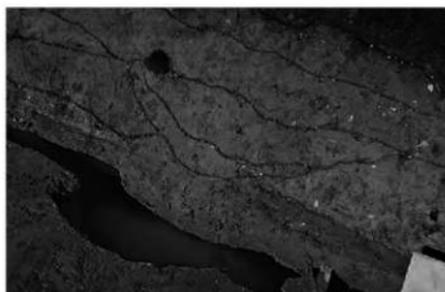
1区 SK48 土層断面 B-B'（東から）



1区 SK20・81・93 土層断面（南西から）



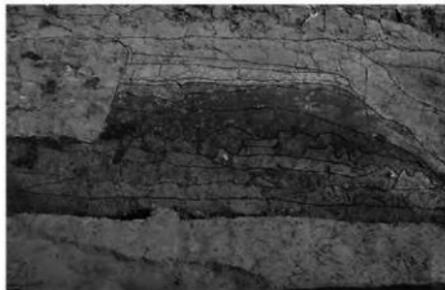
1区 SK60・SD40 土層断面（西から）



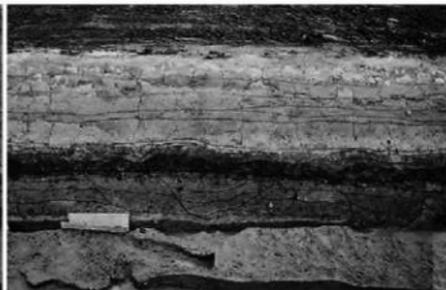
1区 SK58 土層断面・完掘（南から）



1区 SK52・53 土層断面・完掘（西から）



1区 SK79 土層断面 (南西から)



1区 SK103 土層断面 (南西から)



1区 SD11 遺物出土状況 (北から)



1区 SD11・82 土層断面・完掘 (北から)



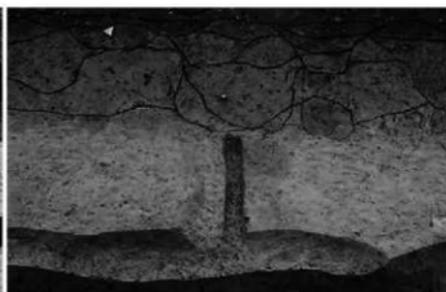
1区 SD3・4 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD10 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD9・8・7 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD21 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD16・40 土層断面 A-A'・完掘（北東から）



1区 SD16 土層断面 B-B'（北西から）



1区 SD16 完掘（北西から）



1区 SD40 土層断面 B-B'（北東から）



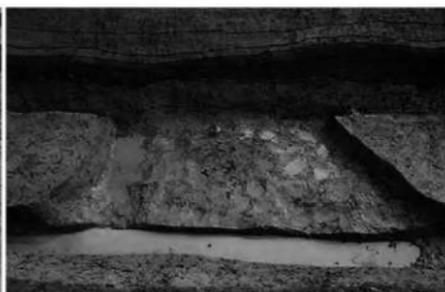
1区 SD38 土層断面・完掘（南西から）



1区 SD39・110 遺物出土状況（北東から）



1区 SD39・110 完掘（北東から）



1区 SD42 土層断面・完掘（北東から）



1区 SD43 土層断面・完掘（東から）



1区 SD63・75 土層断面・完掘（北から）



1区 SE57 土層断面（北東から）



1区 SE57 完掘（北から）



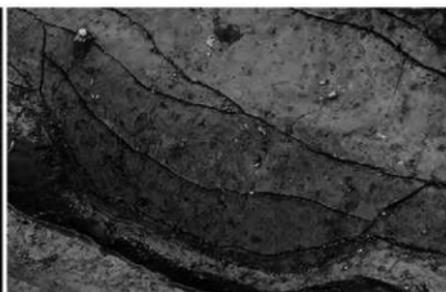
1区 SE57 完掘（北東から）



1区 SK49 土層断面（北東から）



1区 SK49 完掘（西から）



1区 SK50 土層断面・完掘（南から）



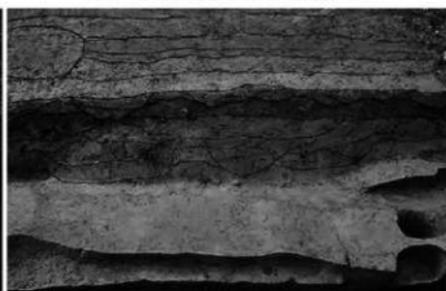
1区 SD18 土層断面 A-A' (北西から)



1区 SD18 土層断面 B-B' (北西から)



1区 SD18 完掘 (北から)



1区 SD15 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD24 土層断面 A-A' (北西から)



1区 SD24・31 土層断面 B-B' (南東から)



1区 SD28 土層断面 (北西から)



1区 SD28 完掘 (北から)



1区 SD29 土層断面 A-A' (北西から)



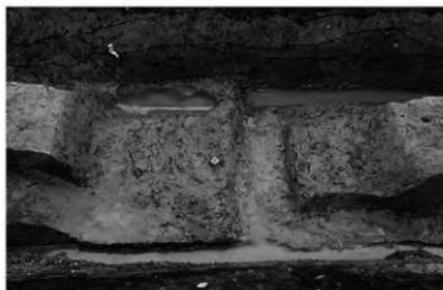
1区 SD29・31 土層断面 B-B' (北西から)



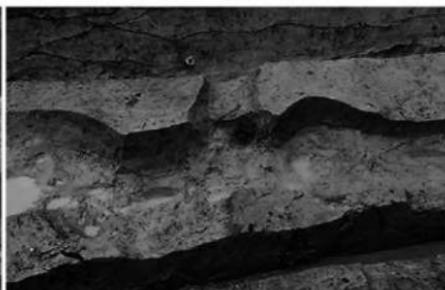
1区 SD31・29・SK32 土層断面 C-C' (北西から)



1区 SD29・33 土層断面 D-D' (東から)



1区 SD30・SK51 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD31 完掘 (北東から)



1区 SD33 土層断面・完掘、SK32 完掘 (北東から)



1区 SD35 土層断面 A-A' (南東から)



1区 SD35 土層断面 B-B' (北西から)



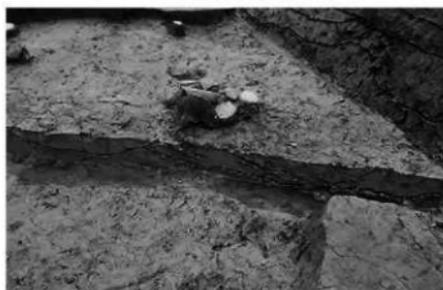
1区 SD24・29・35 完掘 (北から)



1区 SD75 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD66・44 土層断面 B-B' (北から)



1区 SD66・SX65 土層断面 C-C' (北西から)



1区 SX45・SD66 土層断面 D-D' (南東から)



1区 SD66 土層断面 E-E' (北西から)



1区 SX45・65・SD44・66 完掘 (北から)



4区 中層下面 完掘状況 (北から)



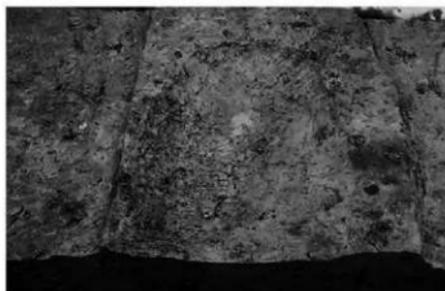
4区 SN35・SD5・8・9・10・SP28・29 土層断面 (南から)



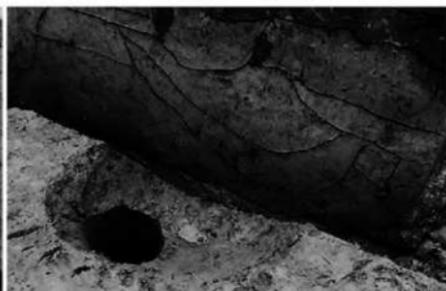
4区 SK4 土層断面 (南から)



4区 SK4 遺物出土状況 (南東から)



4区 SK4 完掘 (南東から)



4区 SK24 土層断面・完掘 (北から)



4区 SK30・SD26・SX6・SP31 土層断面・完掘 (東から)



4区 SD1・2・3・5・7 土層断面 (南東から)



4区 SD1・2・3・7 完掘 (南東から)



4区 SD5・7・8・9 完掘 (南東から)



4区 SD10 完掘 (南から)



4区 下層 完掘状況 (北から)



5区 完掘状況 (北から)



5区 SX1 土層断面 A-A' (北西から)



5区 SX1 土層断面 B-B' (北西から)



5区 SX1 完掘 (東から)



2区 完掘状況



2区 (D-3I-9H18 ~ 8G13) 完掘 (南東から)



2区 (D-3I-7F12 ~ 8F4) 完掘 (南東から)



2区 (D-3I-6E6 ~ 7F6) 完掘 (南東から)



2区 (D-3I-4B4 ~ 5C4) 完掘 (北西から)



2区 (東側) 完掘 (南から)



2区 (西側) 完掘 (東から)



2区 基本層序A (北東から)



2区 基本層序B、SP51 土層断面 (北東から)



2区 SN(畠跡)①(D-3I-6D10 ~ 6E23) 土層断面(北東から)



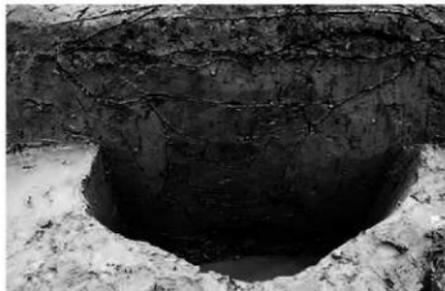
2区 SN (畠跡) (D-3I-5D16) 土層断面 (東から)



2区 SD45 土層断面 (北東から)



2区 SD39 土層断面 (南西から)



2区 SE25 土層断面・完掘（北東から）



2区 SK13・SP50 土層断面（北東から）



2区 SD1 土層断面（北東から）



2区 SD1 完掘（北から）



2区 SD3 土層断面（北東から）



2区 SD3 完掘（北東から）



2区 SD4 土層断面・完掘（北東から）



2区 SD10 土層断面・完掘（北から）



2区 SD7 土層断面 (北東から)



2区 SD7 完掘 (北東から)



2区 SD11 土層断面・完掘 (南西から)



2区 SD16 土層断面・完掘 (北東から)



2区 SD26 土層断面 (北東から)



2区 SD26 完掘 (北東から)



2区 SD29 土層断面 (北東から)



2区 SX2・37 土層断面 (南西から)



2区 SX42 遺物出土状況 (南西から)



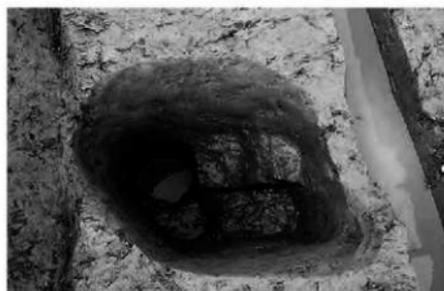
2区 SX42 土層断面・完掘 (南西から)



2区 SX44・SP43 土層断面・完掘 (南西から)



2区 SP18 土層断面 (南東から)



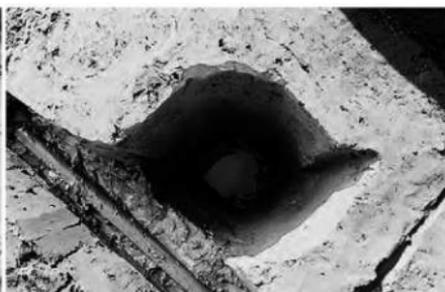
2区 SP18 完掘 (南東から)



2区 SP20 土層断面・完掘 (北東から)



2区 SP36 土層断面 (北から)



2区 SP36 完掘 (北から)



2区 SP38 土層断面 (北東から)



2区 SP38 完掘 (北東から)



2区 SP41 土層断面・完掘 (北東から)



2区 SD9・28 土層断面・完掘 (南西から)



2区 SD15 土層断面・完掘 (北東から)



2区 SD4・15・16 完掘 (北から)



2区 SP52 土層断面 (北東から)



2区 SP53 土層断面 (北東から)



3区 中層 完掘状況（北東から）



3区 下層 完掘状況（北東から）



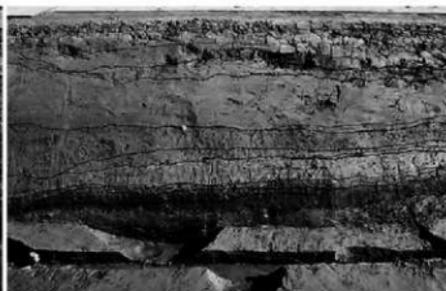
3区 中層 (D-4J-5E21 ~ 7F2) 完掘 (南東から)



3区 下層 (D-4J-5E21 ~ 7F2) 完掘 (南東から)



3区 基本層序A (南西から)



3区 基本層序B (南西から)



3区 基本層序C (北東から)



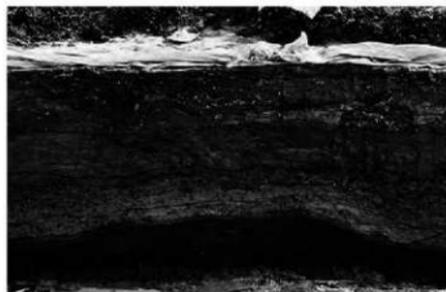
3区 基本層序D (北東から)



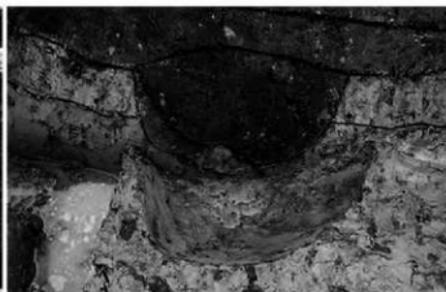
3区 SN45・SD46・47 土層断面 (北東から)



3区 SN45・SD53・SP52 土層断面 (南西から)



3区 SN48 土層断面 (北東から)



3区 SP10 土層断面・完掘 (北東から)



3区 SK5 遺物出土状況 (南西から)



3区 SK5 土層断面・完掘 (南西から)



3区 SK24 土層断面 (北東から)



3区 SK24 完掘 (北東から)



3区 SD7 土層断面 (北東から)



3区 SD7 完掘 (北東から)



3区 SD15 土層断面 (北東から)



3区 SD15・SP13 完掘 (北東から)



3区 SD18 土層断面 (北東から)



3区 SD18 完掘 (北東から)



3区 SD21 土層断面 A-A' (南東から)



3区 SD21 土層断面 B-B' (北西から)



3区 SD21 完掘 (北西から)



3区 SD33・SP44 土層断面 (北東から)



3区 SP34 土層断面・完掘、SD33・SP44 完掘（北東から）



3区 SD35 土層断面・完掘（南西から）



3区 SD40 土層断面（南西から）



3区 SD40 完掘（南西から）



3区 SD41 土層断面・完掘、SP13 完掘（北東から）



3区 SX30 土層断面（北東から）



3区 SX30 完掘（北西から）



3区 SX39 土層断面（南西から）



3区 SX39 完掘 (南西から)



3区 SP55 土層断面 (北東から)



3区 SP56 土層断面 (南東から)



3区 SP57 土層断面 (南東から)



3区 SP58 土層断面 (北東から)



3区 SP59 土層断面 (南東から)



3区 SK38・SP60 土層断面 (北東から)



3区 SP61 土層断面 (北東から)



第6次調査区 完掘状況（東から）



第6次調査区 (D-3I-9F6 ~ 10G17) 完掘 (南東から)



第6次調査区 (D-3I-8D3 ~ 9E3) 完掘 (南東から)



第6次調査区 (D-3I-7C3 ~ 8D3) 完掘 (南東から)



第6次調査区 (D-3I-6B9 ~ 6C21) 完掘 (南東から)



第6次調査区 (D-3I-5B22 ~ 6B15) 完掘 (南東から)



第6次調査区 (D-3I-4J2 ~ 5A8) 完掘 (南東から)



第6次調査区 基本順序A（北東から）



第6次調査区 基本層序 B (北東から)



第6次調査区 SN (島跡) ① (D-3I-6B14 ~ 6B2) 土層断面 (北東から)



第6次調査区 SN (島跡) ① (D-3I-6B2 ~ 6B14) 土層断面 (北東から)



第6次調査区 SN (島跡) ② (D-3I-5A8 ~ 6B2) 土層断面 (北から)



第6次調査区 SD1 土層断面 (北東から)



第6次調査区 SD1 完掘 (東から)



第6次調査区 SD7 土層断面 (北東から)



第6次調査区 SD7 完掘 (南東から)



第6次調査区 SD8 土層断面 (北東から)



第6次調査区 SD8 完掘 (北西から)



第6次調査区 SD3 土層断面 (北東から)



第6次調査区 SD2 完掘 (西から)



第6次調査区 SD3 完掘 (南から)



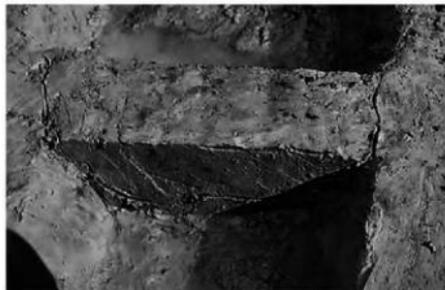
第6次調査区 SD15・18・19・SX11 完掘 (南から)



第6次調査区 SK5 土層断面 (南東から)



第6次調査区 SK5 完掘 (南東から)



第6次調査区 SD4 土層断面 (南西から)



第6次調査区 SD4 完掘 (南西から)



第6次調査区 SD6 土層断面 (北東から)



第6次調査区 SD6 遺物出土状況 (北から)



第6次調査区 SD6 完掘 (南東から)



第6次調査区 SD9 土層断面・完掘 (南西から)



第6次調査区 SD13 土層断面・完掘 (北東から)



第6次調査区 SD14・17 土層断面・完掘 (北東から)



4区 SK4 出土土器



平安時代の土器



奈良時代の土器



手づくね・ミニチュア土器





121
(第 6 次調査区 SD6)



199
(2 区物倉庫)



231
(3 区物倉庫)



123
(第 6 次調査区 SD6)



200
(2 区物倉庫)



247
(第 6 次調査区物倉庫)



198
(2 区物倉庫)



201
(2 区物倉庫)



248
(第 6 次調査区物倉庫)



196
(2 区物倉庫)

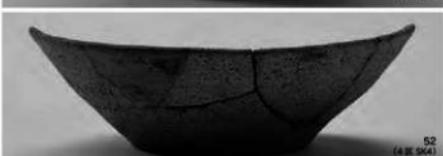
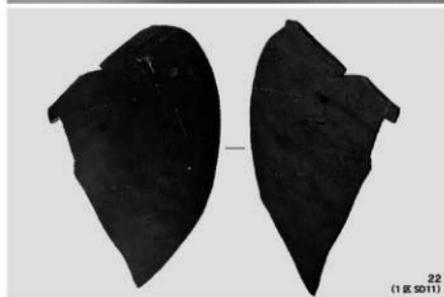


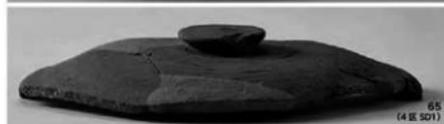
229
(3 区物倉庫)

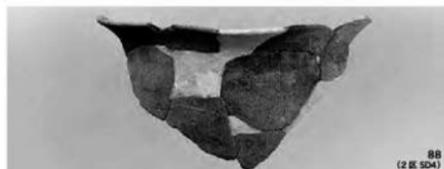


248
(第 6 次調査区物倉庫)

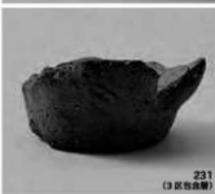
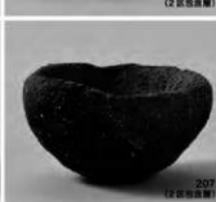
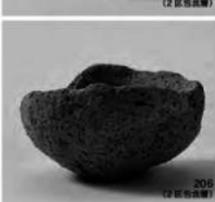


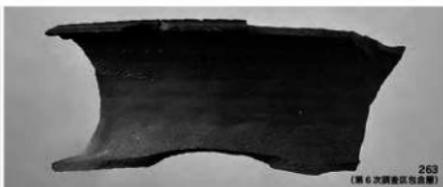
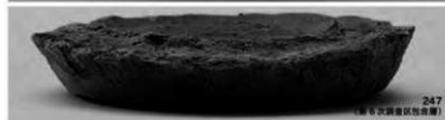


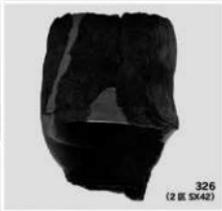
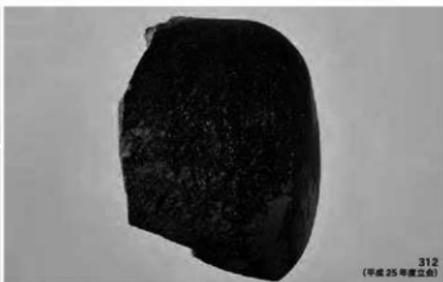


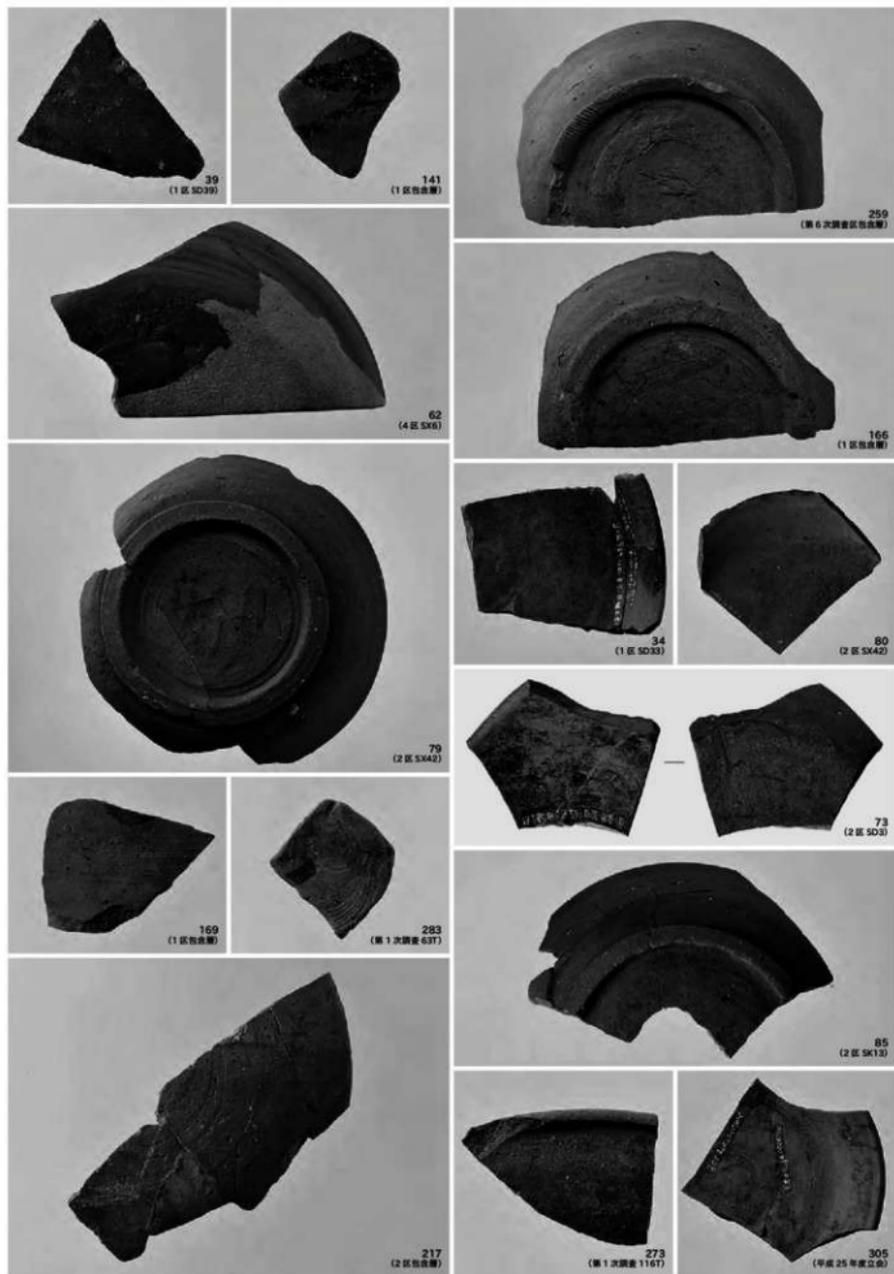


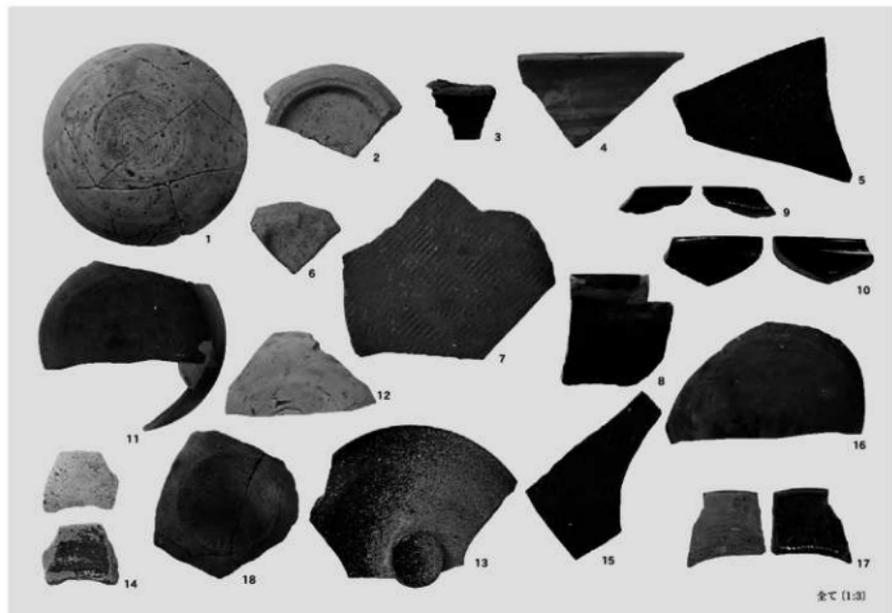






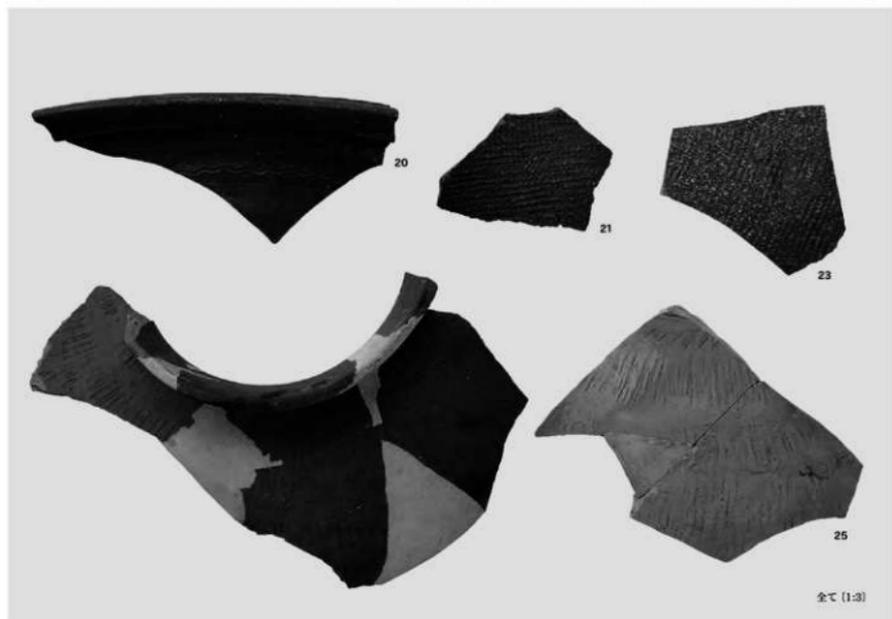






全て (1:3)

1区 SD1 (1~4) SD2 (5) SD5 (16・17) SD6 (6) SD10 (18) SD54 (7) SE57 (8~13) SK20 (14) SK53 (15)

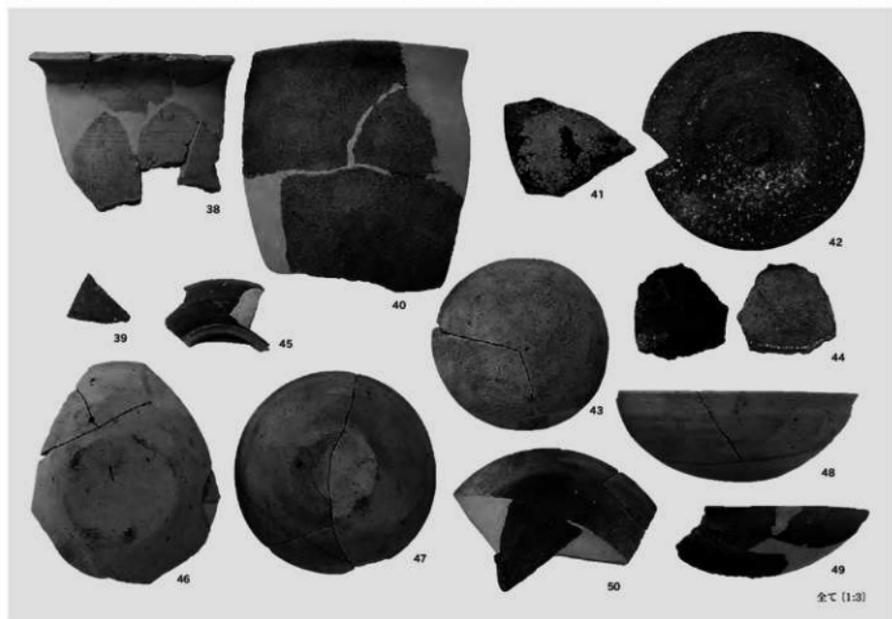


全て (1:3)

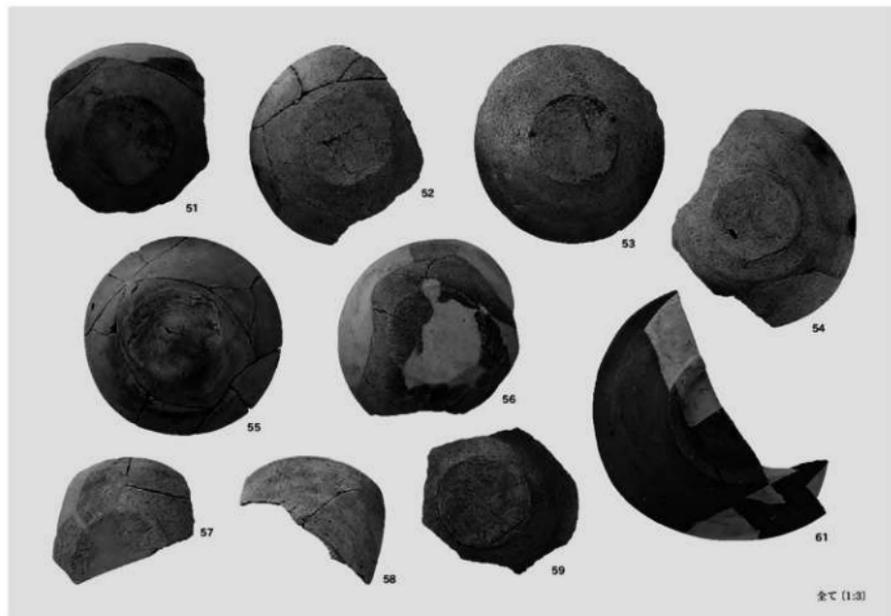
1区 SD11 (20・21・23) SD12 (25)



1区 SD12 (24) SD15 (26-27) SD18 (28) SD24 (29) SD29 (30) SD30 (32-33-36) SD33 (31・34-35) SD35 (37)



1区 SD4 (45) SD39 (38・39) SD42 (40・41) SX45 (42) SX65 (43・44), 4区 SK4 (46～50)



全て (1:3)

4区 SK4 (51 ~ 59・61)

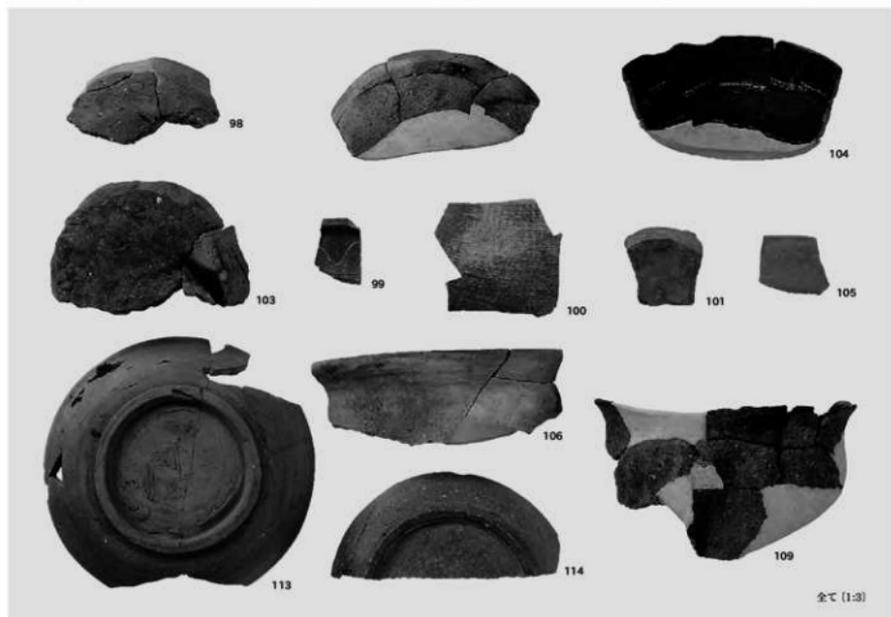


全て (1:3)

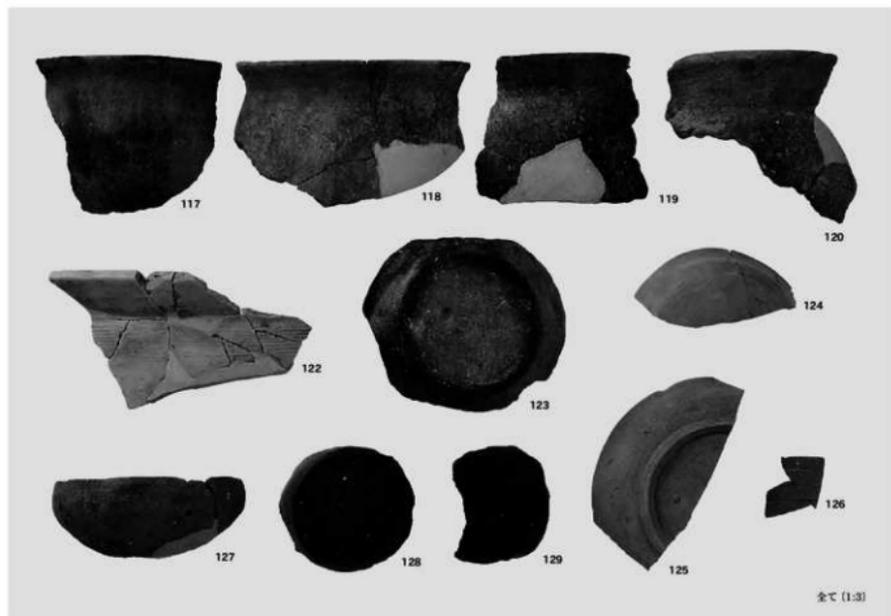
4区 SD1 (65) SD5 (66) SX6 (62・63)、2区 SE25 (67・68) SD3 (71・73) SX2 (70) SX42 (75 ~ 77)



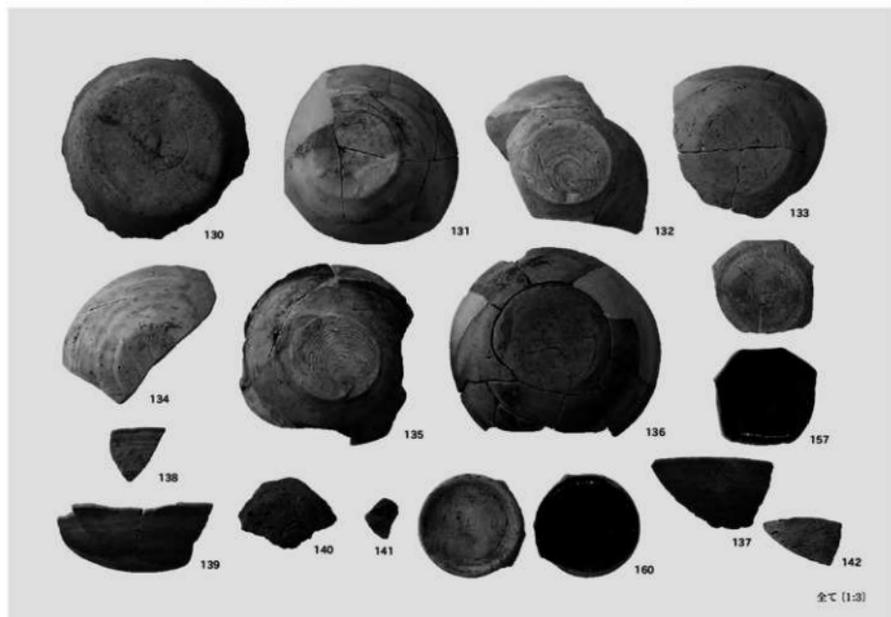
2区 SK13 (82~86) SD4 (90) SX42 (78~81), 3区 SK20 (93) SD9 (95) SD18 (96) SD21 (97)



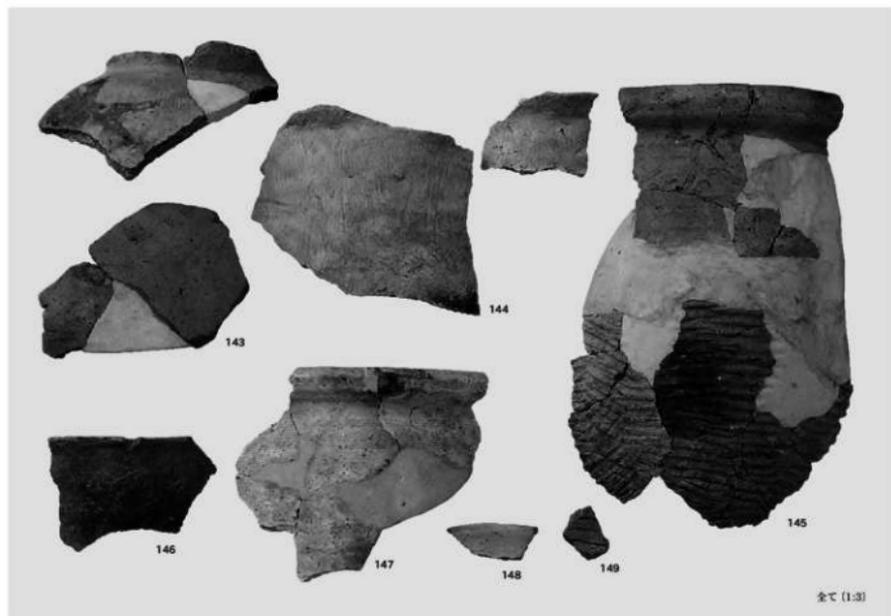
3区 SD33 (98) SD35 (100) SD40 (99) SX30 (101) SX39 (103-104), 第6次調査区 SD1 (105) SX11 (106-109-113-114)



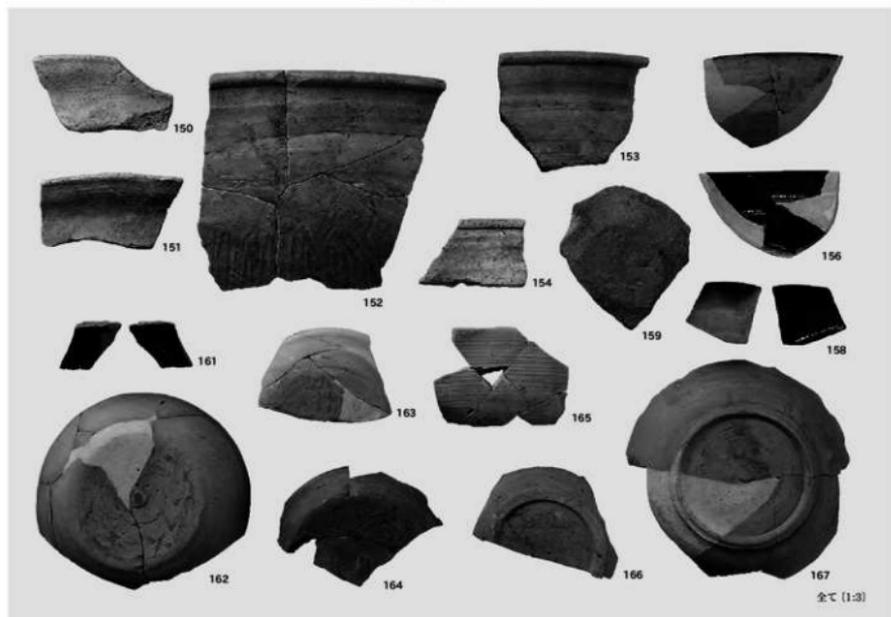
第6次調査区 SD6 (117 ~ 120 · 122 ~ 126) SD21 (127 ~ 129)



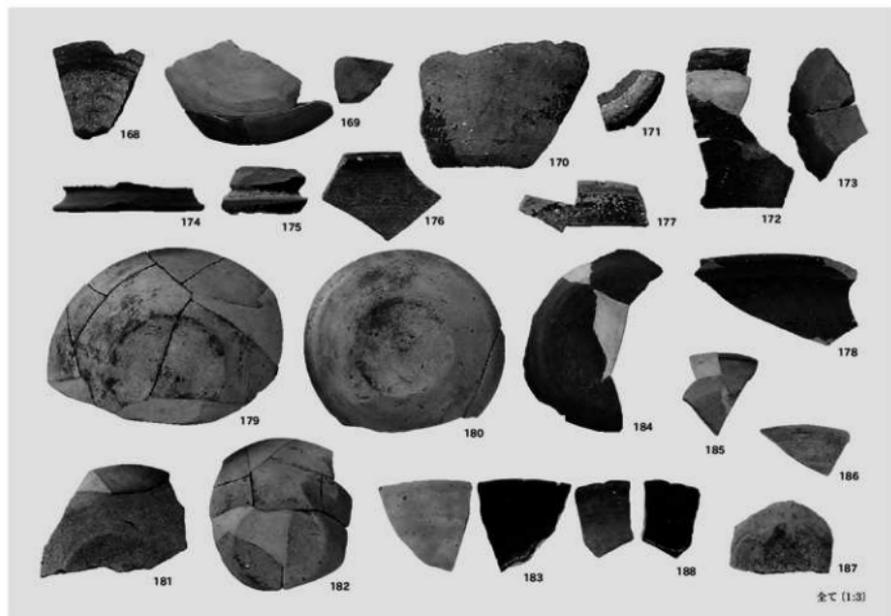
1区 包含層 (130 ~ 142 · 157 · 160)



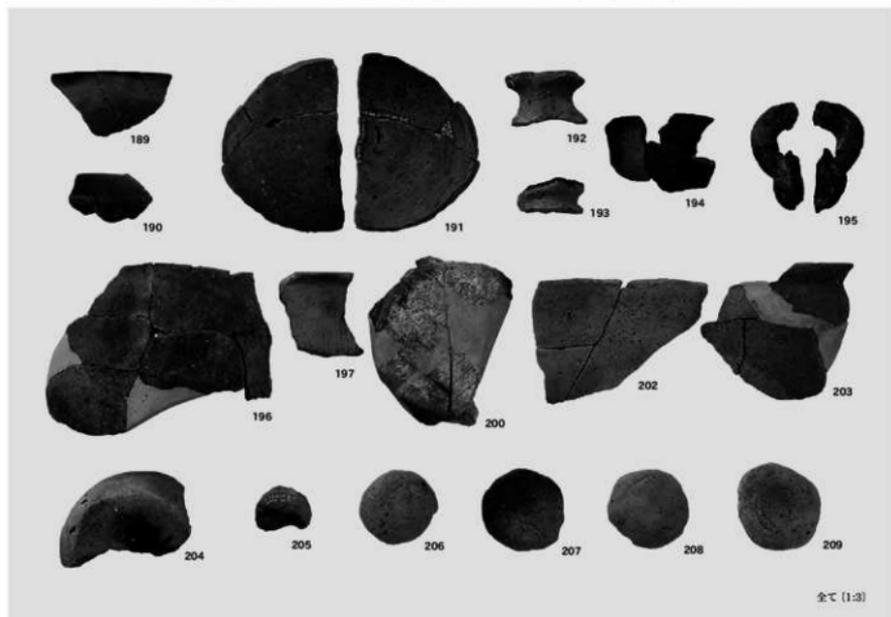
1区 包含層 (143 ~ 149)



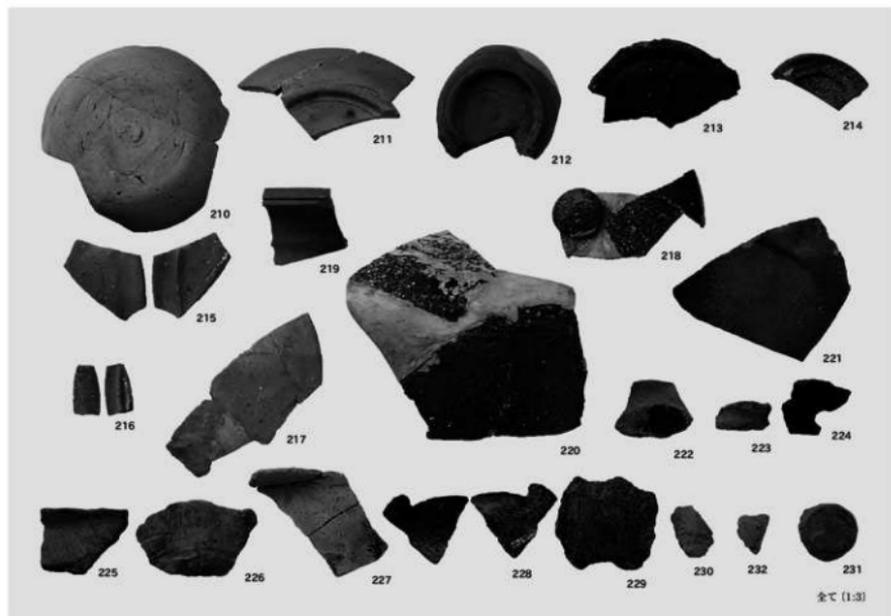
1区 包含層 (150 ~ 154 · 156 · 158 · 159 · 161 ~ 167)



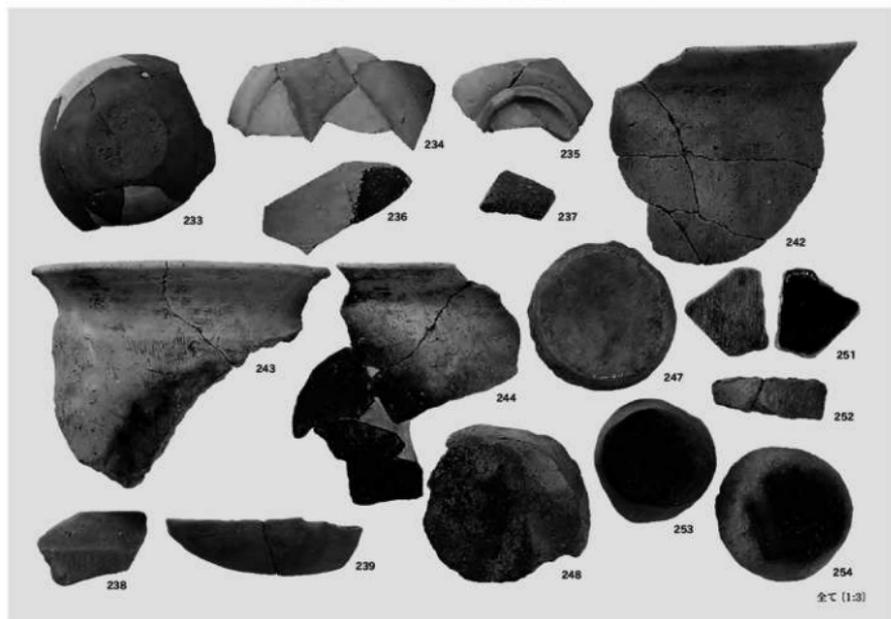
1区 包含層 (168 ~ 178)、4区 包含層 (179 ~ 185)、5区 包含層 (186 ~ 188)



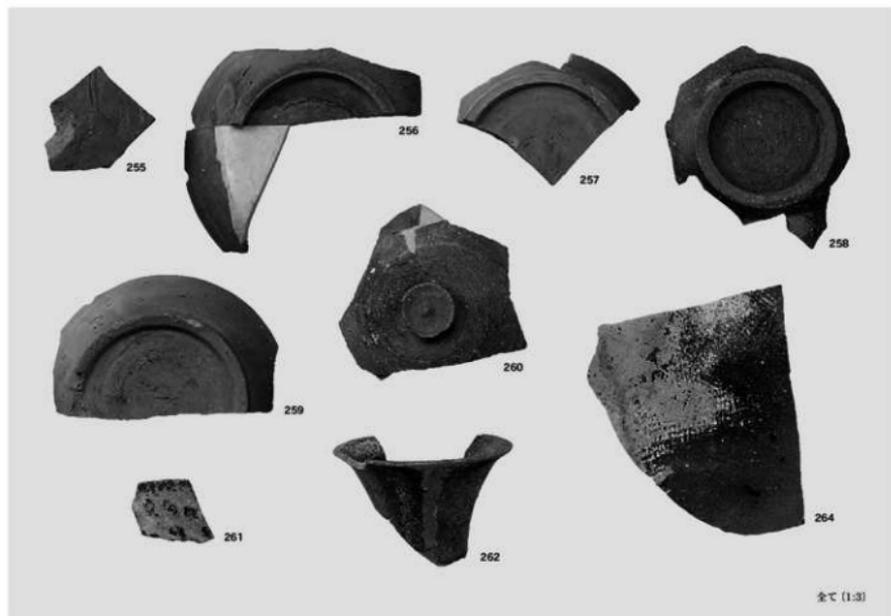
2区 包含層 (189 ~ 197・200・202 ~ 209)



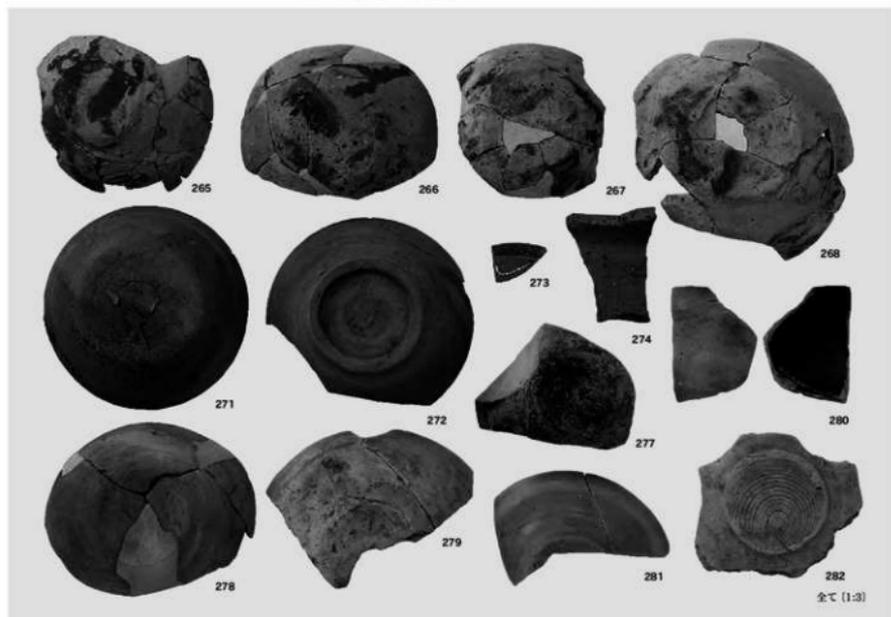
2区 包含層 (210 ~ 221)、3区 包含層 (222 ~ 232)



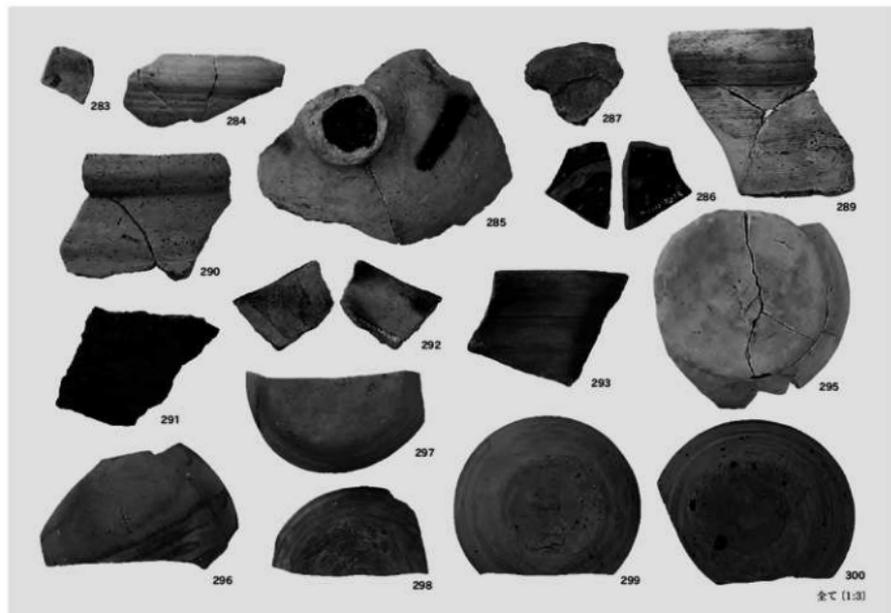
3区 包含層 (233 ~ 237)、第6次調査区 包含層 (238・239・242 ~ 244・247・248・251 ~ 254)



第6次調査区 包含層 (255～262・264)

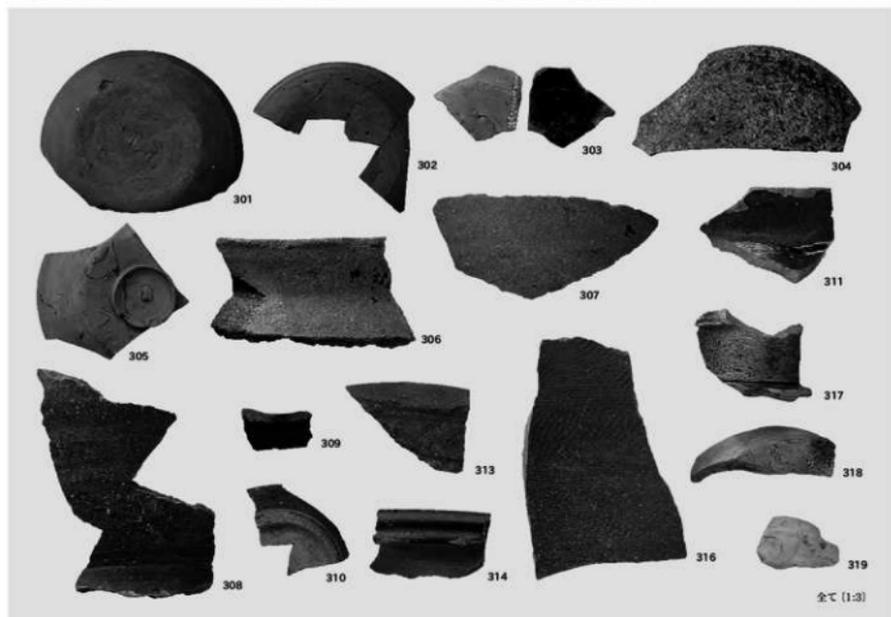


第1次調査 (265～268・271～274・277・279・280・282)、平成25年度立会 (278・281)



全て (1:3)

第1次調査(283～285・297)、第2次調査(287・295・296)、平成25年度立会(286・289～293・298～300)



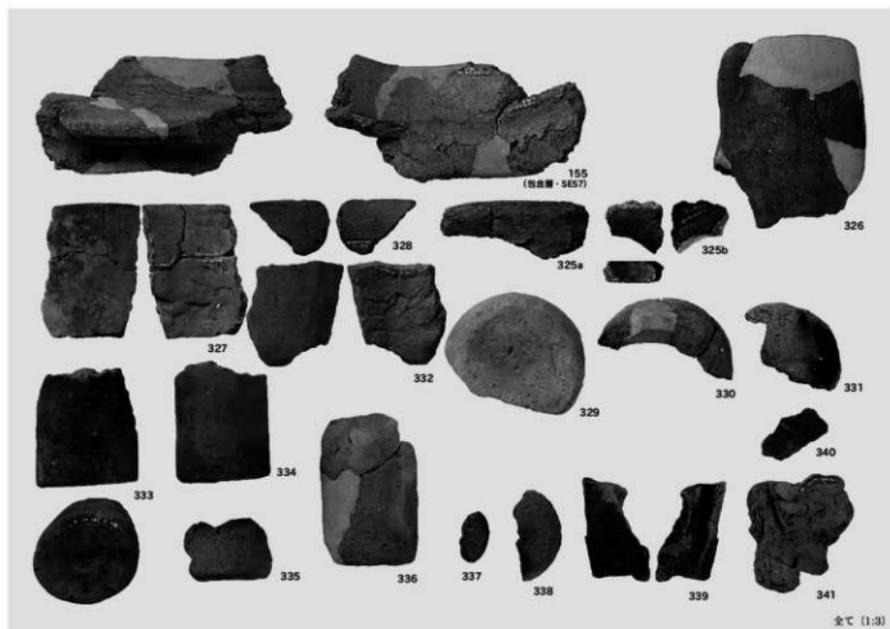
全て (1:3)

第1次調査(303・314・316)、第2次調査(307・313)、平成25年度立会(301・302・304～306・308～311・317～319)



全て (1:3)

鍛冶関連遺物



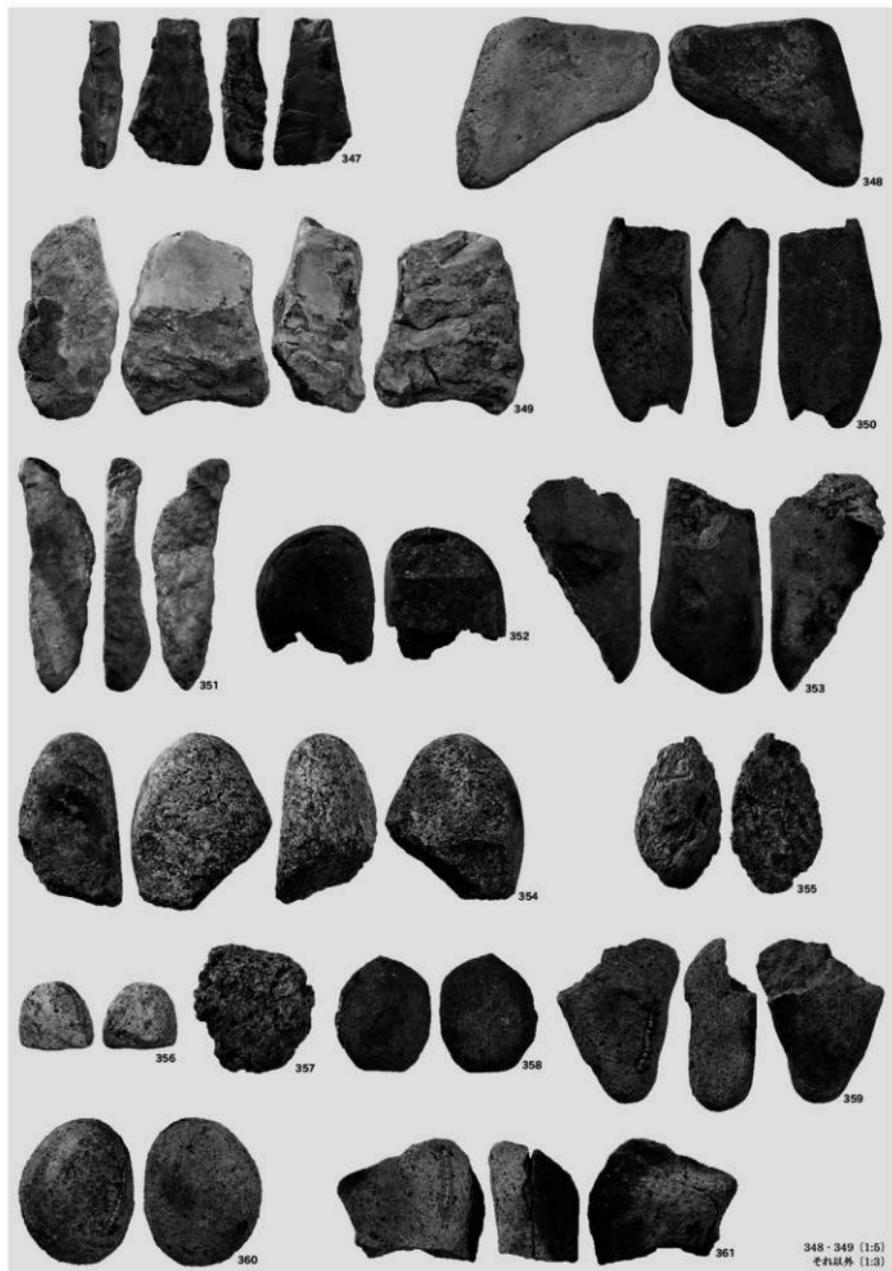
全て (1:3)

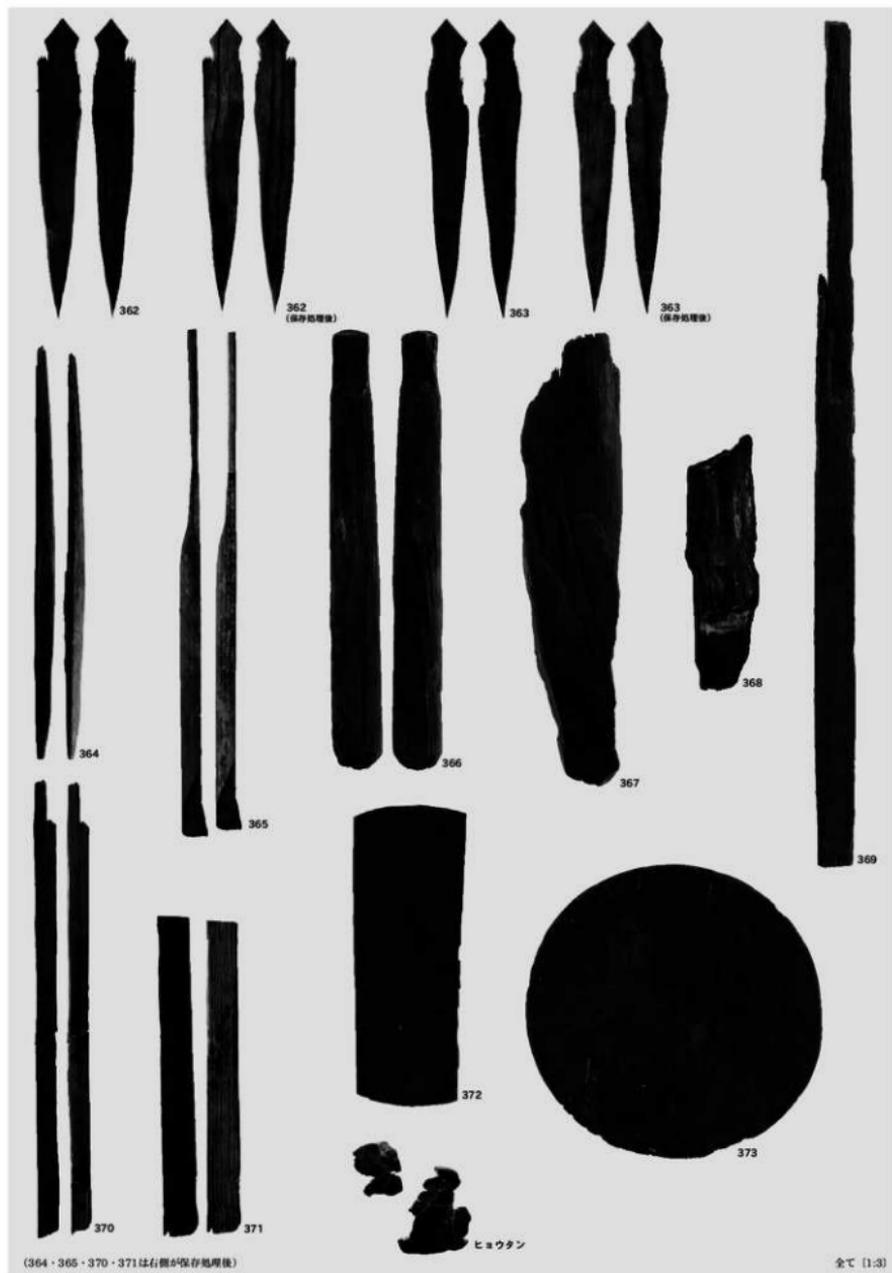
土器・土製品 2



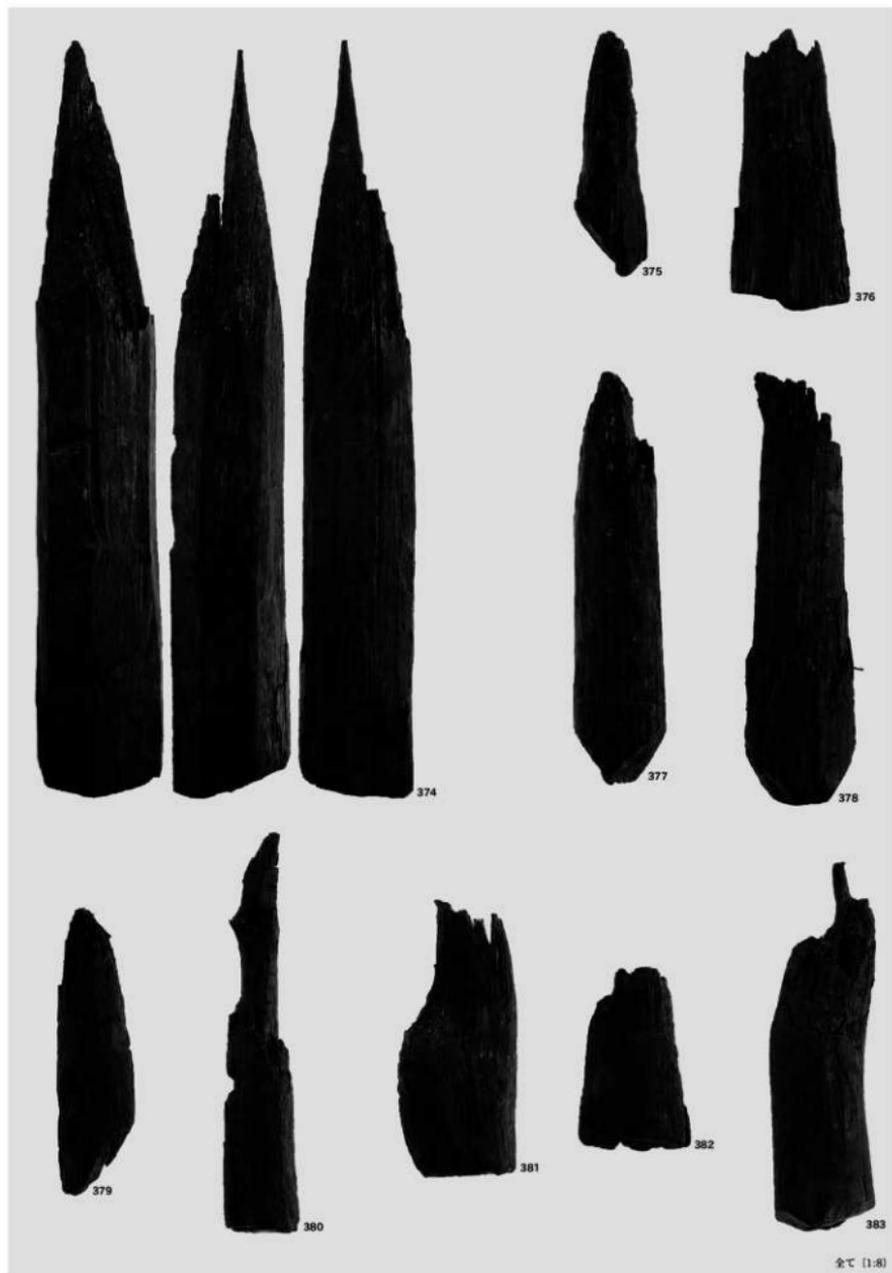
全て (1:3)

石製品 1





木製品 1 1区 SE57 (362 ~ 372・ヒョウタン)、2区 SE25 (373)



全て 1:8

木製品 2 2区 SP51 (375) SP52 (374) SP53 (376)、3区 SP55 (377) SP56 (378) SP57 (379) SP58 (380)
 SP59 (381) SP60 (382) SP61 (383)

報告書抄録

ふりがな	しもしんでいせき だい6・8・9じちようさ						
書名	下新田遺跡 第6・8・9次調査						
副書名	県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道土地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号							
編著者名	龍田優子、長澤眞生、相澤 央、早田 勉（火山灰考古学研究所）、黒沼保子・佐々木由香・バンダリ・スタルシャン・森 将志・米田恭子（パレオ・ラボ）、千葉博俊・金井慎司・斉藤崇人・馬場健司（パリオ・サーヴェイ）						
編集機関	新潟市文化スポーツ部 文化財センター						
所在地	〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1 TEL.025-378-0480						
発行年月日	西暦2015年12月25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 緯度	東経 経度	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
下新田遺跡	新潟県新潟市西区 道土字下新田5244 番地ほか	15108 573	37° 45' 20"	138° 56' 53"	20121105～20121214(第6次) 20130806～20131218(第8次) 20131111～20131211(第9次)	348㎡ 1,875㎡ 120㎡	県営ほ場 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
下新田遺跡	集落跡	奈良・平安時代 (8世紀前半・9 世紀後半)	上層:水田跡・高跡 中層・下層:井戸・土坑・ 溝状遺構・ピット・性 格不明遺構・土器棺墓		土師器・須恵器・中世土師器・灰 軸陶器・土製品(カマド形土製品・ 円筒形土製品)・石製品(砥石)・ 鍛冶関連遺物・木製品(柱根)	耕作関連遺構(水田・ 畠)、カマド形土製 品、「日置」墨書土器、 土器棺墓	
要 約	<p>下新田遺跡は、中ノ口川左岸の自然堤防上に立地し、現標高は概ね1.7～2.5mである。上・中・下層に分かれ、ほぼ全ての調査区上層で高跡や水田跡が明瞭に確認された。また、遺跡の南東側ほど奈良時代の遺物が主体的に出土する下層で検出される遺構が多く、井戸・柱穴・溝状遺構などが確認された。土器は、奈良時代(8世紀前半)を主体に平安時代(9世紀後半)の食器類・貯蔵具・煮炊具が出土しており、北西方向へ場所を移動するものの、断片的に居住地として利用されていた集落跡と考える。また、2区で「日置」と書かれた墨書土器が出土し、郷名とすれば遺跡を含むこの地域が『和名類聚抄』に記載されている日置郷の一部である可能性が示唆される。さらに、自然科学分析の結果、奈良時代の土器底面に認められる木炭痕が湿地で生育するカラハンノキと推定され、遺跡内で土器作りが行われていた可能性も考えられる。また、第10次調査で確認された土器棺墓は、県内でも類例が少なく古代の埋葬を考える上で貴重な資料といえる。</p>						

下新田遺跡 第6・8・9次調査

— 県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道土地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書 —

2015年12月24日印刷
2015年12月25日発行

編集 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL.025(378)0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL.025(228)1000

印刷・製本 株式会社ハイングラフ
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL.025(233)0321